2025 COMMANDER | 取扱説明書





Jeep

車両の画像は一例です。実際に販売される製品は異なる場合があります。

目次

1 はじめに 7
2 車両の概要 15
3 インストルメント・パネルについて 59
4 始動と運転 82
5 マルチメディア 136
6 安全について 156
7 緊急時 200
8 整備およびお手入れ 215
9 技術仕様 248
10 カスタマ・サポート 253
11 さく引 254

はじめに

ようこそ 7
重要なお知らせ 8
記号説明 8
横転に関する警告 8
車両の改造／変更 9
記号用語集 9

車両の概要

キー 15
　キー・フォブ 15
セントリー・キー 17
イグニッション・スイッチ 17
　Keyless Enter -N Go™イグニッション 17
　電子式ステアリング・ホイール・ロック - タイプ別装備 18
車両セキュリティ・システム タイプ別装備 18
　システムのセット方法 18
　システムの解除方法 19
　システムの再設定方法 19
　セキュリティ・システムの手動操作 19
ドア 19
　手動ドア・ロック 19
　パワー ドア・ロック 20
　Keyless Enter-N-Go™ - パッシブ・エントリ 20
　降車時オート・ドア・アンロック 22
　デッド・ロック装置 - タイプ別装備 22
　チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システム – リヤ・ドア 22
ステアリング・ホイール 23
　チルト／テレスコピック・ステアリング・コラム 23
　ヒーテッド・ステアリング・ホイール - タイプ別装備 23
UCONNECT 音声認識 – タイプ別装備 24
　Uconnect の概要 24
　基本的ボイス・コマンド 24
　音声認識の開始 24
　補足情報 24
運転席メモリ設定 - タイプ別装備 24
　メモリ機能のプログラム 25
　リモート・キーレス・エントリ・キー・フォブとメモリ間のリンク結合と解除の機能 25
　メモリ位置の呼び出し 25
シート 26
　マニュアル調整（フロント・シート） タイプ別装備 26
　マニュアル調整（リヤ・シート） 27
　電動調整（フロント・シート） タイプ別装備 30
　フロント・シート・ヒータ – タイプ別装備 31
　ヘッド・レスト 31
ミラー 33
　ルーム・ミラー 33
　照明バニティ・ミラー – タイプ別装備 34
　ドア・ミラー 34
　方向指示器およびアプローチ照明付きドア・ミラー – タイプ別装備 34
　格納式ミラー - タイプ別装備 35
　電動調整式ミラー 35
　オート格納式ミラー タイプ別装備 35
　ヒーテッド・ドア・ミラー - タイプ別装備 36
車外灯 36
　マルチファンクション・レバー 36
　ヘッドライト・スイッチ 36
　デイタイム・ランニング・ランプ（DRL）- タイプ別装備 36
　ハイ・ビーム／ロー・ビーム・スイッチ 36
　オート・ハイ・ビーム・ヘッドライト制御 - タイプ別装備 37
　パッシング 37
　オート・ヘッドライト - タイプ別装備 37
　ヘッドライト消灯遅延 37
　ライト消し忘れ警告アラーム - タイプ別装備 37
　フロント・フォグ・ランプとリヤ・フォグ・ランプ - タイプ別装備 37
　方向指示灯 38
　車線変更補助 38
　ヘッドライト・レベリング・システム - タイプ別装備 38
　バッテリ節電機能 38
室内灯 38
　室内灯 38
　イルミネーテッド・エントリ - タイプ別装備 39
フロントウィンドウ・ワイパおよびウォッシャ 39
　フロントウィンドウ・ワイパの作動 40
　雨量感知機能ワイパ - タイプ別装備 40
　リヤ・ウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ 41
ヒータ／エアコン 41
　オート・ヒータ／エアコンの説明および機能 41

リヤ・エアコン・コントロール – タイプ別装備 43
自動温度コントロール..... 44
エアコン・ボイス・コマンド..... 44
操作のヒント 44
室内収納および機器..... 45
ストレージ..... 45
USB コントロール..... 46
電源アウトレット - タイプ別装備..... 47
パワー・インバータ – タイプ別装備..... 48
ワイヤレス・チャージング・パッド タイプ別装備 49
ウインドウ 50
パワー・ウィンドウ・コントロール..... 50
オート・ウィンドウ機能 50
オート・アップ機能のリセット..... 51
ウィンドウ・ロックアウト・スイッチ..... 51
ウインド・バフェッティング 51
パワー・シェード付きパワー・サンルーフ - タイプ別装備..... 51
サンルーフの開閉..... 52
サンルーフから換気する..... 52
パワー・サンシェードの開閉..... 52
ピンチ保護機能..... 53
サンルーフのメンテナンス..... 53
イグニッション・オフ操作 – タイプ別装備..... 53
ボンネット 53
ボンネットを開ける..... 53
ボンネットを閉じる..... 53
リフトゲート..... 54
リフトゲートの解錠／リフトゲートを開ける .. 54
リフトゲートの施錠／閉鎖..... 54
パワー・リフトゲート - タイプ別装備..... 54
ハンズ・フリー・リフトゲート - タイプ別装備 56
高さ調整可能パワー・リフトゲート..... 57
カーゴ・エリア機能..... 57
ルーフ・ラゲージ・ラック - タイプ別装備..... 58

インストルメント・パネルについて

プレミアム・インストルメント・パネル..... 59
インストルメント・パネルの説明..... 60
インストルメント・パネル・ディスプレイ..... 60
インストルメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ 60
オイル交換のリセット..... 62
ディスプレイおよびメッセージ - タイプ別装備 62
ギヤ・シフト・インジケータ（GSI） – タイプ別装備..... 63
インストルメント・パネル・ディスプレイのメニュー項目 63
ディーゼル・ディスプレイ..... 69
ディーゼル排出微粒子フィルタ（DPF）のメッセージ 70
バッテリ・セーバ・オン／バッテリ・セーバ・モード・メッセージ – 電力負荷低減機能 – タイプ別装備..... 71
警告灯およびメッセージ..... 72
赤色警告灯..... 72
黄色警告灯..... 74
黄色表示灯..... 77
緑色表示灯..... 79
白色表示灯..... 80
青色表示灯..... 80
灰色表示灯..... 80
オンボード故障診断システム – OBD II 81
オンボード故障診断システム（OBD II）サイバーセキュリティ..... 81

始動と運転

エンジン始動手順..... 82
通常の始動手順..... 82
長期間の駐車後のエンジン始動..... 84
始動後 – エンジンの暖機..... 84
エンジンの停止..... 84
エンジンの慣らし運転について..... 84
エレクトロニック・パーキング・ブレーキ（EPB）..... 85
Auto Park Brake（自動パーキング・ブレーキ）..... 86
セーフホールド..... 86
オート・ブレーキ・ホールド - タイプ別装備..... 87
ブレーキ整備モード..... 87
オートマチック・トランスミッション 87
イグニッション・パーキング・インターロック..... 88
ブレーキ／トランスミッション・シフト・インターロック（BTSI）システム..... 88
6 速または 9 速オートマチック・トランスミッション..... 89
4WD 走行 – タイプ別装備..... 92
Jeep®アクティブ・ドライブ..... 92
セレクテレイン – タイプ別装備..... 93
モードの選択方法..... 93
パワー・ステアリング..... 93
START&STOP システム タイプ別装備..... 94

作動モード....94
エンジンが自動停止しないときの考えられる理由....94
自動停止モード時にエンジンを始動する....95
手動による作動／解除....95
アクティブ・スピード・リミッタ - タイプ別装備....95
作動....96
設定速度の超過....97
無効化....97
インテリジェント・スピード・アシスト（ISA） – タイプ別装備....97
作動....97
設定速度の超過....97
無効化....97
クルーズ・コントロール・システム – タイプ別装備....98
クルーズ・コントロール....98
アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）....99
トラフィック・サイン・アシスト・システム – タイプ別装備....106
作動／解除....107
トラフィック・サイン・アシスト・モード....107
ディスプレイの表示....107
ハイウェイ・アシスト・システム – タイプ別装備....108
操作....108
ハイウェイ・アシストのオン／オフの切り替え....109
ディスプレイの表示....110
System Status（システムの状態）....111
システムの作動／制限....111
PARKSENSE フロント／リヤ・パーク・アシスト・システム - タイプ別装備....111
ParkSense センサ....112
ParkSense 警告画面....112
ParkSense ディスプレイ....112
ParkSense の有効化と無効化....115
ParkSense パーク・アシスト・システムの整備....115
ParkSense システムの清掃....115
ParkSense システム使用上の注意事項....115
側方距離警告システム....116
PARKSENSE アクティブ・パーク・アシスト・システム - タイプ別装備....118
ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムの有効化と無効化....118
縦列／並列駐車スペース・アシストの操作119
駐車スペースからの退出....121
アクティブ・レーン・マネジメント・システム - タイプ別装備....122
アクティブ・レーン・マネジメントの動作....122
アクティブ・レーン・マネジメントのオン／オフの切り替え....123
アクティブ・レーン・マネジメント警告メッセージ....123
アクティブ・レーン・マネジメント・システムの状態の変更....124
PARKVIEW リヤ・ビュー・カメラ - タイプ別装備....125
サラウンド・ビュー・カメラ・システム タイプ別装備....126
Zoom View（ズーム表示）....128
車両への給油....128
ADBLUE®（UREA：尿素） – タイプ別装備....129
AdBlue®（UREA：尿素）の保管....129
AdBlue®（UREA：尿素）の補充....129
車両積載量....131
重量ラベル....131
レクリエーションけん引（モータホームによるけん引）....131
他の車での車両けん引....132
キャンピング・カーなどによるけん引– 前輪駆動車（FWD）モデル....132
レクリエーションけん引 – 4X4 モデル....133
運転のアドバイス....133
オン・ロード走行について....133
オフ・ロード走行について....133

マルチメディア

UCONNECT システム....136
サイバーセキュリティ....136
UCONNECT の設定....136
ユーザー選択機能....136
ステアリング・ホイール・オーディオ・コントロール....155
ラジオの操作....155
メディア・モード....155
ラジオ操作と携帯電話....155

安全について

安全装置....156
アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）....156

リヤ・シート警告アラーム（RSRA）– タイプ別装備 156
Drowsy Driver Detection (DDD)（運転者居眠り検知）–タイプ別装備 157
エレクトロニック・ブレーキ・コントロール（EBC）システム 157
ドライビング・アシスト・システム 162
ブラインド・スポット・モニタ（BSM）- タイプ別装備 162
軽減動作を伴う前面衝突警報（FCW）- タイプ別装備 165
Tire Pressure Monitoring System（タイヤ空気圧モニタ・システム）（TPMS） 167
乗員保護拘束装置 170
乗員保護拘束装置の機能 170
安全に関する重要な注意事項 170
シートベルト・システム 171
補助拘束装置（SRS） 176
チャイルド・シート – お子さまを安全に乗せるために 188
安全のヒント 196
乗員を乗せる場合 196
ペットを乗せる場合 197
コネクテッド・カー 197
車内の安全点検 197
定期的な車外の安全点検 198
排気ガス 198
一酸化炭素に関する警告 199

緊急時

非常点滅表示灯 200
ジャッキ・アップとタイヤ交換 200
ジャッキ作業の準備 200
ジャッキと工具の位置 - 5 シート車両 201
ジャッキと工具の位置 - 7 シート車両 201
スペア・ホイールの収納 202
スペア・タイヤの取り外し 202
ジャッキ作業の手順 203
ジャンプ・スタート 206
ジャンプ・スタートの準備 206
ジャンプ・スタートの手順 207
緊急時の給油 208
エンジンがオーバーヒートした場合 208
ギヤ・セレクタ・オーバーライド 209
スタックからの脱出 210
走行不能車両のけん引 210
イグニッション・キー・フォブがない場合 211
前輪駆動車（FWD）モデル - キー・フォブ付き 211
4X4 モデル 211
けん引フックの使用法 212
高度事故時反応システム（EARS） 214
事象データ・レコーダ（EDR） 214
緊急装備 – タイプ別装備 214

整備およびお手入れ

エンジン・ルーム 215
2.0L ディーゼル・エンジン 215
オイル・レベルの点検 216
ウォッシャ液の補給 216
メンテナンス・フリー 216
高圧洗浄 217
車両のメンテナンス 217
エンジン・オイル 217
エンジン・オイル・フィルタ 217
エンジン・エア・クリーナフィルタ 218
エアコンのお手入れ 218
ボディ系の潤滑 218
ワイパ・ブレード 218
排気装置 220
冷却装置 221
ブレーキ・システム 223
オートマチック・トランスミッション – タイプ別装備 223
ヒューズ 224
電球（バルブ）の交換 234
タイヤ 237
タイヤの安全情報 237
タイヤ - 一般情報 238
タイヤの種類 241
スペア・タイヤ - タイプ別装備 242
スノー・トラクション装置 242
タイヤのローテーションの推奨 244
車両の保管 244
ボディワーク 244
大気中の作用物質からの保護 244
ボディおよびボディ下部のメンテナンス 245
塗装状態の維持 246
インテリア 246
シートおよびファブリック部品 246
シートベルトのメンテナンス 246
プラスチック製およびコーティング部品 247
革製表面 247
ガラスの表面 247

技術仕様

車両識別番号（VIN）..... 248
ブレーキ・システム..... 248
ホイールとタイヤの規定トルク 249
　規定トルク..... 249
燃料要件..... 249
　2.0L ディーゼル・エンジン..... 249
フルード容量..... 250
エンジン・フルードおよび潤滑剤..... 251
シャーシ・フルードおよび潤滑剤..... 251

カスタマ・サポート

アシスタンスが必要な場合 253

はじめに

ようこそ

お客様

このたびは、Jeep®車をご購入いただき、誠にありがとうございます。高度な技術、特徴あるスタイル、高品質にご満足いただけるものと確信しております。

お客様に車の運転および点検整備の方法などをご理解いただくために、この取扱説明書は専門の整備士およびエンジニアの協力のもとに作成されております。お客様向けの案内文書もお車に積まれております。この情報には、FCA International Operations LLC（FCAIO）がお客様に提供するサービスの説明およびその有効性を維持するための詳細な条件が記載されています。これらの説明書をよくお読みください。本書には、車を安全かつ快適に運転していただくための手引きや注意事項が記載されています。

本書では、この車両のすべてのモデルについて説明しています。特定の市場またはモデルに固有のオプションおよび装備は本文中に明記されていません。したがって、ご購入いただいたグレード、エンジン、およびモデルに関連する情報のみを考慮してください。オーナー用情報の内容は、お客様の車両に適用される場合と適用されない場合がありますが、「タイプ別装備」という用語で識別されています。本書記載のすべてのデータは、最良の方法で車両を使用いただくことを目的としております。FCAIO は技術的または商業的な理由で、記載されているモデルを変更する権利を保有しています。詳細については、正規ディーラーにお問い合わせください。

整備に関してお客様の Jeep®車を最も良く知っているのは正規ディーラーです。正規ディーラーは、訓練された技術者および Mopar®純正部品を用意し、お客様に満足していただけるよう常に細心の注意を払っています。

重要なお知らせ

本書の記載内容は出版時点での最新情報です。当社は、事前の予告なしに本書に訂正を加える権利を有するものとします。

本書には、標準仕様の装備と特別仕様の装備についての説明が記載されております。したがって、本書記載の装備およびアクセサリには、お客様の車に装備されていないものもあります。

メモ:
初めて車を運転する前および部品・アクセサリ類を装着・設置する前、またはその他の変更をする前に必ず本書をお読みください。

交換部品やアクセサリ類が数多く市販されていますが、これらの部品を取り付けた場合のお車の安全性については、FCAIO は保証いたしかねます。また、そうした交換部品が公認されている場合（一般的に使用されている部品や公認の設計に基づいて製造された部品など）、あるいは交換取り付け後に個別に使用が許可された場合も、後で取り付けた部品によりお車の安全性が損なわれないという保証はありません。したがって、専門整備士や正規ディーラーであっても責任を負えないことがあります。FCAIO は、FCAIO 純正部品、または FCA で推奨した部品が、正規ディーラーで取り付けられた場合にのみ保証するものとします。これは、ご購入いただいた後で FCAIO の車両に何らかの改造を行った場合も同様です。

FCAIO が供給する部品以外は保証の対象にはなりません。また、当社以外から供給された部品、構成部品、装備、材料、または添加剤の取り付けおよび使用が原因で必要となった修理および調整の費用は、保証の対象外となります。さらに、FCAIO の仕様に適合しない改造が原因で生じた損傷、または状態の修理費用も保証の対象外です。

FCAIO は、以前に生産された車について何ら義務を負うことなく、設計および仕様を変更し、製品への追加・改良を行う権利を有するものとします。

記号説明

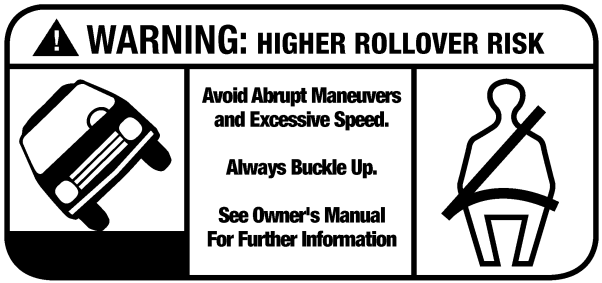
警告!	この記載は、衝突事故やけが、死亡につながる恐れのある運転操作などに適用されます。
注意！	この記載は、車に損傷を与える恐れのある操作などに適用されます。
メモ:	取り付け、操作、信頼性を改善するための提案です。これに従わないと、損傷が発生することがあります。
ヒント:	製品や機能をより使いやすくするための一般的なアイデア／解決策／提案です。
 **ページ参照矢印**	これを参照すると、特別な機能についての詳細な情報が得られます。
 **脚注**	その項目に付随する補足／該当情報です。

重要な情報を見逃すことのないよう、本書をよくお読みください。注意および警告には必ず従ってください。

横転に関する警告

多目的車は、他の車種より横転する確率が非常に高くなります。この車両は、他の多くの乗用車に比べて車高と重心位置が高くなっています。これにより、各種オフ・ロード用途で高い性能を発揮します。しかし、どのような車であっても、安全性を無視した運転をすれば制御不能に陥る恐れがあります。特にこの車は重心位置が高いため、制御不能になると他の車が横転しないケースでも、横転する恐れがあります。

急にカーブを曲がったり、不意な操縦を試みたりといった無謀な運転は、車が制御不能になる恐れがありますのでおやめください。安全運転を怠ると、衝突事故、車の横転、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。慎重な運転を心がけてください。



80bfe0f0

横転警告ラベル

シートベルトを着用していないと、重傷または死亡につながる恐れがあります。横転事故において、シートベルトを着用していない場合は、着用している場合と比べ、死亡率が非常に高くなります。必ずバックルを締めてください。

車両の改造／変更

警告!
この車両を改造または変更した場合、その走行性能と安全性が大きな影響を受け、重傷や死亡につながる衝突事故を引き起こす恐れがあります。

記号用語集

車両構成部品の一部には、この構成部品を使用する際に遵守すべき注意事項を示す色付きのラベルが貼付されているものがあります。車両運転の際は、すべての警告に従うことが重要です。各記号の定義については以下を参照してください ⇨ ページ 72。

メモ：

装備オプションやその時点の車両の状態によっては、警告灯や表示灯が異なることがあります。一部の表示灯はオプションであり、表示されないことがあります。

赤色警告灯	
	エアバッグ警告灯 ⇨ ページ 72
	ブレーキ警告灯 ⇨ ページ 72
	バッテリ充電警告灯 ⇨ ページ 72
	ドア・オープン警告灯 ⇨ ページ 73
	居眠り検知警告 ⇨ ページ 73
	電動パワー・ステアリング（EPS）故障警告灯 ⇨ ページ 73

赤色警告灯	
	エレクトロニック・スロットル・コントロール（ETC）警告灯 ⇨ ページ 73
	エンジン 温度警告灯 ⇨ ページ 73
	ボンネット・オープン警告灯 ⇨ ページ 73
	リフトゲート・オープン警告灯 ⇨ ページ 73
	油圧警告灯 ⇨ ページ 73
	オイル温度警告灯 ⇨ ページ 74
	シートベルト・リマインダ警告灯 ⇨ ページ 74
	速度警告システム警告灯 ⇨ ページ 74

赤色警告灯	
	速度警告システム警告灯 ⇨ ページ 74
	トランスミッション異常警告灯 ⇨ ページ 74
	トランスミッション温度警告灯 ⇨ ページ 74
	車両セキュリティ警告灯 ⇨ ページ 74

黄色警告灯	
	アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）警告灯 ⇨ ページ 74
	エレクトロニック・パーキング・ブレーキ警告灯 ⇨ ページ 74
	エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）作動警告灯 ⇨ ページ 75

黄色警告灯	
	エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）OFF 警告灯 ⇨ ページ 75
	燃料カットオフ警告灯 ⇨ ページ 75
	アクティブ・レーン・マネジメント警告灯 ⇨ ページ 75
	アクティブ・レーン・マネジメント整備警告灯 ⇨ ページ 75
	クーラント・レベル低下警告灯 ⇨ ページ 75
	残燃料警告灯 ⇨ ページ 75
	ウォッシャ液不足警告灯 ⇨ ページ 75
	エンジン点検／警告灯（MIL） ⇨ ページ 75

黄色警告灯	
	AdBlue®（UREA）インジェクション・システム異常警告灯 ⇨ ページ 76
	アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）整備警告灯 ⇨ ページ 76
	4WD 整備警告灯 ⇨ ページ 76
	前面衝突警報（FCW）整備警告灯 ⇨ ページ 76
	START&STOP システム整備警告灯 ⇨ ページ 76
	タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム（TPMS）警告灯 ⇨ ページ 76
	けん引フック故障警告灯 ⇨ ページ 77

黄色表示灯	
	「4WD LOW」表示灯 ⇨ ページ 77
	4WD ロック表示灯 ⇨ ページ 77
	アクティブ・スピード・リミッタ故障表示灯 ⇨ ページ 77
	オート・ブレーキ・ホールド故障表示灯 ⇨ ページ 77
	前面衝突警報（FCW）表示灯 ⇨ ページ 77
	前面衝突警報（FCW）OFF 表示灯 ⇨ ページ 77
	燃料カットオフ故障灯 ⇨ ページ 77
	イモビライザ故障／VPS 電気アラーム表示灯 ⇨ ページ 78

黄色表示灯	
	ディーゼル微粒子フィルタ（DPF）清掃進行中表示灯 - DPF 搭載ディーゼル・バージョンのみ ⇨ ページ 78
	ディーゼル排気液添加剤 AdBlue®（UREA）残量少表示灯 ⇨ ページ 78
	リヤ・フォグ・ランプ表示灯 ⇨ ページ 78
	燃料内水混入表示灯 ⇨ ページ 78
	始動待機表示灯 ⇨ ページ 78

緑色表示灯	
	アクティブ・スピード・リミッタ SET 表示灯 ⇨ ページ 79
	先行車を検知していないときのアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）設定表示灯 ⇨ ページ 79

緑色表示灯

	先行車を検知しているときのアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）設定表示灯 ⇨ ページ 79
	アクティブ・レーン・マネジメント表示灯 ⇨ ページ 79
	オート・ブレーキ・ホールド表示灯 ⇨ ページ 79
	駐車灯／ヘッドライト表示灯 ⇨ ページ 79
	フロント・フォグ表示灯 ⇨ ページ 79
	方向指示灯表示灯 ⇨ ページ 79
	クルーズ・コントロール SET 表示灯 ⇨ ページ 79
	START&STOP システム作動表示灯 ⇨ ページ 79

白色表示灯

	アクティブ・スピード・リミッタ SET 表示灯 ⇨ ページ 80
	アクティブ・レーン・マネジメント表示灯 ⇨ ページ 80
	ヒル・ディセント・コントロール（HDC）表示灯 ⇨ ページ 80
	クルーズ・コントロール SET 表示灯 ⇨ ページ 80
	速度警告システム表示灯 ⇨ ページ 80
	インテリジェント・スピード・アシスト（ISA）作動可能 ⇨ ページ 80

青色表示灯

	ハイ・ビーム表示灯 ⇨ ページ 80

灰色表示灯	
	クルーズ・コントロール作動可能表示灯 ⇨ ページ 80

灰色表示灯	
	アクティブ・スピード・リミッタ・レディ表示灯 ⇨ ページ 80

車両の概要

キー

キー・フォブ

車両には、キーレス・イグニッション・キー・フォブが装備されています。

キーレス・イグニッション・キー・フォブは、パッシブ・エントリ、リモート・キーレス・エントリ（RKE）、Keyless Enter-N Go™（タイプ別装備）、およびリモート・パワー・リフトゲート操作に対応しています。キーレス・イグニッション・キー・フォブは、START/STOP（START&STOP）」イグニッション・ボタンを装備する車両をサポートします。キーレス・イグニッション・キー・フォブにはエマージェンシ・キーも付属しており、キー・フォブの裏側に収納されています。

キー・フォブを使用して、約 20m（66 フィート）以内の距離から、ドア、リフトゲート、およびフューエル・リッドを施錠または解錠できます。システムを作動させる場合、キー・フォブを車の方向に向ける必要はありません。

メモ：

- キー・フォブの無線信号は、キー・フォブが携帯電話、ノート・パソコン、またはその他の電子機器のそばに置かれていると、それと干渉することがあります。この場合は性能が低下することになります。
- イグニッション・オンで車両が 2 mph (4 km/h)で走行すると、RKE の作動はすべて OFF になります。



キーレス・イグニッションのキー・フォブ

1 - 「Unlock（ロック解除）」ボタン
2 - 「Liftgate（リフトゲート）」ボタン（タイプ別装備）
3 – エマージェンシ・キー
4 - 「Lock（ロック）」ボタン

メモ：

ボタンを押してもイグニッション・スイッチが切り替わらない場合は、キー・フォブの電池残量が少ないか切れています。キー・フォブの電池残量が少ないことを確認するには、インストルメント・パネルを見ると、従うべき指示が表示されます。

ドアおよびリフトゲートの解錠／施錠方法

キー・フォブのロック解除ボタンを 1 回押して放して運転席ドアを解錠するか、5 秒以内に 2 回押して放してすべてのドア、リフトゲート、およびフューエル・リッドを解錠します。すべてのドア、リフトゲート、およびフューエル・リッドを施錠するには、「Lock（ロック）」ボタンを 1 回押します。

ドアが施錠されると、方向指示器が点滅し、イルミネーテッド・エントリ・システムが作動します。ドアが施錠されると、方向指示器が点滅します。

ロック解除ボタンの 1 回目の押下でドアをすべて解錠するように、Uconnect 設定でプログラムできます ⇨ ページ 136。

キー・フォブ内のバッテリの交換

電池の交換用には、CR2032 バッテリを使用します。

メモ：

- Mopar®が供給するバッテリの使用をお勧めします。市販のコイン・バッテリの寸法は OEM のコイン・バッテリの寸法に合わないことがあります。
- 過塩素酸塩物質 – 特別な取り扱いが必要です。
- トランスミッタのバック・ハウジングまたはプリント基板上の電池の端子には触れないでください。

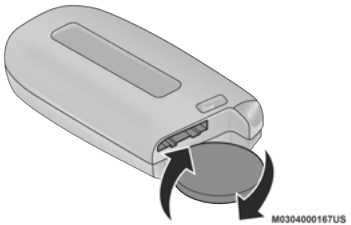
1. キー・フォブの裏側のエマージェンシ・キー・リリースをスライドさせ、もう一方の手でエマージェンシ・キーを引き出して取り外します。



エマージェンシ・キーの取り外し

1 – エマージェンシ・キー・リリース・ボタン
2 - エマージェンシ・キー

2. マイナス・ドライバの先端、または硬貨を使用して、キー・フォブを半分に開き、キー・フォブをゆっくりとこじ開けて分離します。このとき、シールを傷つけないように注意してください。



コインでケースを開く



キー・フォブの電池交換

3. 裏側のカバーを取り外して電池を交換します。電池を交換する際には、電池の(+)記号と、裏カバーに付いている電池クリップ内部の(+)記号を合わせてください。新しい電池に指で触れないようにしてください。皮脂で電池が劣化する恐れがあります。電池に触れた場合は、消毒用アルコールできれいに拭いてください。
4. キー・フォブ・ケースを組み立てるには、2 つの部品を組み合わせて、カチッと音がするまで固定します。

警告!

- 一体型キー・フォブにはコイン型電池が内蔵されています。電池を飲み込まないようにしてください。化学やけどの危険性があります。コイン型電池を飲み込むと、わずか 2 時間で体内に深刻なやけどが引き起こされるおそれがあり、死に至る場合もあります。

(続き)

警告!

- 電池を飲み込んだり、電池が体内のどこかに入った可能性がある場合は、直ちに医療機関を受診してください。
- 新品および使用済みの電池はお子さまの手が届かない場所に保管してください。電池カバーがしっかりと閉まらない場合は、キー・フォブの使用を中止して、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

追加キー・フォブのプログラムおよび要求

キー・フォブのプログラムは正規ディーラーで行うことができます。

メモ:

- すでに車両にプログラムされたキー・フォブは、他の車両用に再利用および再プログラムすることはできません。
- 車両の電子装置に合わせてプログラムされたキー・フォブ以外のものでは、車両を始動および走行させることができません。すでに車両にプログラムされたキー・フォブは、他の車両用に再プログラムすることはできません。

警告!

- 車を離れるときは必ず車両からキー・フォブを抜き、すべてのドアをロックしてください。
- Keyless Enter-N-Go™イグニッション搭載車では、必ずイグニッションを「OFF(オフ)」位置にしてください。

キー・フォブの複製は正規ディーラーで行うことができます。この作業では車の電子装置に合わせて未使用のキー・フォブをプログラムします。未使用のキー・フォブとは、プログラムされていないキー・フォブのことを言います。

メモ：

- セントリー・キー盗難防止装置を整備に出すときは、すべての車両キーを正規ディーラーにお渡しください。
- キーは、車両のロックに合わせて正しくキーを作るよう注文する必要があります。

セントリー・キー

セントリー・キー盗難防止装置とは、エンジンを始動できないようにすることで車の不正使用を防止するシステムです。このシステムは、セットしたり起動させる必要はありません。車両が施錠または解錠されたときに自動的に作動します。

このシステムは、キー・フォブ、キーレス・プッシュ・ボタン・イグニッション、高周波（RF）レシーバを使用して車の不正使用を防止します。そのため、車両に合わせてプログラムされたキー・フォブ以外では車両を始動および走行させることはできません。無効なキー・フォブを使ってエンジンを始動すると、2 秒後にシステムによってエンジンが停止します。

通常作動時（エンジンが 10 秒以上作動している）に車両セキュリティ表示灯が点灯したときは、電子装置に問題があります。正規ディーラーで速やかに車両の整備を受けてください。

新車に付属しているキー・フォブはすべて、車両の電子装置に合わせてプログラムされています。

メモ：

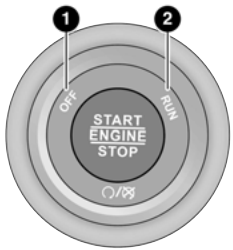
プログラムされていないキー・フォブも無効なキーと見なされます。

イグニッション・スイッチ

KEYLESS ENTER -N GO™イグニッション

この機能により、キー・フォブが車内にあれば、運転者はボタンを押してイグニッションを操作できます。

「START/STOP（START&STOP）」イグニッション・ボタンには 3 種類の操作モードがあります。3 つのモードはそれぞれ「OFF（オフ）」、「ON/RUN（オン／走行）」、「START（始動）」です。



A0205000029US

「START/STOP（START&STOP）」イグニッション・ボタン

1 – OFF
2 – ON/RUN（オン／走行）

プッシュ・ボタン・イグニッションは次のモードにできます。

「OFF（オフ）」

- エンジンが停止します。
- 一部の電気装置（パワー・ロックやアラームなど）は利用できます。

「ON/RUN（オン／走行）」

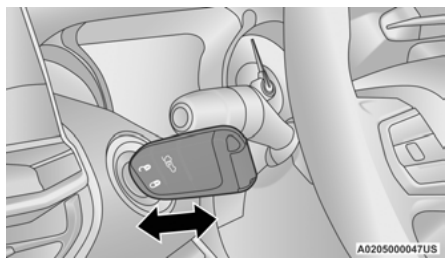
- 走行中のモードです。
- 電気装置はすべて利用可能（ヒータ／エアコン、シート・ヒータなど）。

「START（スタート）」

- エンジンが始動します。

メモ：

ボタンを押してもイグニッションの状態／モードが変わらない場合は、キー・フォブの電池残量が少ないか切れています。この場合は、別の方法でイグニッション・スイッチを操作できます。キー・フォブのノーズ側（エマージェンシ・キーの反対側）を「START/STOP（START&STOP）」イグニッション・ボタンに当てて押し、イグニッションを操作します。


A0205000047US

キー・フォブの電池が消耗した場合のエンジン始動

2

警告!

- 車両から離れる前に、必ず完全に停車してからオートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」に入れ、パーキング・ブレーキをかけてからエンジンを停止して、キー・フォブを車両から持ち出して、車両をロックしてください。Keyless Enter-N-Go™搭載車では、必ずキーレス・イグニッションを「OFF（オフ）」位置にし、キー・フォブを車両から持ち出して、車両をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。
- お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内または車の近く、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。また、Keyless Enter-N-Go™イグニッション搭載車では、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置のままにして車から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

ロックしていない車は、盗難にあうおそれが高くなります。車両を離れるときは必ずキー・フォブを車両から持ち出して、すべてのドアをロックしてください。

メモ：

- 通常始動については、⇨ ページ 82 を参照してください。
- イグニッションが「ON/RUN（オン／走行）」位置のときに運転席ドアを開けると（エンジンを始動していない場合）、チャイムが鳴り、イグニッションを「OFF（オフ）」位置にするように通知されます。チャイムに加え、車両が始動しているという内容のメッセージもインストルメント・パネルに表示されます。

電子式ステアリング・ホイール・ロック - タイプ別装備

車両によっては電子式パッシブ・ステアリング・ホイール・ロックが装備されています。このロックにより、イグニッションが OFF の状態では車両を操縦できないようになります。ステアリング・ホイール・ロックは、イグニッションを ON にすると解除されます。ロックが解除されず車両が始動しない場合は、ホイールを左右に回してロックを解除してください。

車両セキュリティ・システム タイプ別装備

車両セキュリティ・システムは、車両のドア、ボンネットおよびリフトゲートが不正に開けられたり、Keyless Enter-N-Go™イグニッションが不正に操作されたりしていないかどうかを監視します。車両セキュリティ・システムの作動中は、ドア・ロックおよびリフトゲート・リリース用の車内のスイッチは無効になります。何らかの原因でシステムが作動した場合、車両セキュリティ・システムは以下のような音と光で警告を発します。

- ホーンが鳴ります
- 方向指示器が点滅します
- インストルメント・パネルにある車両セキュリティ・ライトが点滅します

メモ：

- 車両セキュリティ・システムは、各国の基準に合わせて工場で調整されています。
- 車両セキュリティ・システムは、車両盗難の発生を妨げ、破壊行為を防止するために開発された補助的なセキュリティ・システムです。このシステムは、車両盗難を防止するものではなく、抑止手段です。
- 車両セキュリティ・システムは、ガラスの破損または車内の物や人の動きを監視するものではありません。またこのアラームは、車両駐車時にその傾きが変動したときでも作動しません。

システムのセット方法

車両セキュリティ・システムは以下の手順でセットします。

1. 車両のイグニッションを必ず「OFF（オフ）」位置に切り替えてください。
   - キーレス Enter'N Go 装備車の場合、車両のキーレス・イグニッション・システムが OFF であることを確認します。
2. 車両をロックするには、以下のいずれかの方法を実施します。
   - 運転席ドアまたは助手席ドアが開いている間に、車内のパワー・ドア・ロック・スイッチのロック・ボタンを押します。
   - 有効なキー・フォブを同一の車外ゾーンで使用できる状態で、車外のパッシブ・エントリ・ドア・ハン

ドルの「Lock（ロック）」ボタンを押します ⇨ ページ 20。

- キー・フォブの「ロック」ボタンを押します。

3. 開いているドアを閉じます。

車両セキュリティ・システムを作動させると、車両セキュリティ・ライト（インストルメント・パネル・ディスプレイの左下の位置にあります）が 1 秒ごとに点滅し始め、解除すると止まります。

メモ：
車内ドア・パネルにある「Lock（ロック）」ボタンを押してシステムを作動させた場合、ドアを閉めると車両セキュリティ・ライトがおよそ 15 秒間速く点滅し、その後に遅くなって 1 秒ごとになります。

注意!
車内のパワー・ドア・ロック・スイッチのロック・ボタンを押して車両を施錠するときは、キー・フォブが車内に残されていないことを必ず確認してください。ドアが確実に閉まらない（半ドアになっている）場合、アラームが作動したり、ドアが外から開かなくなったりすることがあります。

システムの解除方法

車両セキュリティ・システムは、以下のいずれかの方法で解除できます。

- キー・フォブの「ロック解除」ボタンを押します。
- パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルをつかみ、ドアのロックを解除します ⇨ ページ 20。
- イグニッションを「OFF（オフ）」位置から回してシステムを解除します。

メモ：
- 運転席側のドア・キー・シリンダやキー・フォブの「リフトゲート」ボタンでは、車両セキュリティ・システムの作動または解除はできません。
- パワー・リフトゲートを開閉しても、車両セキュリティ・システムは作動したままになります。「リフトゲート」ボタンを押しても車両セキュリティ・システムは解除されません。誰かが開いているリフトゲートから車内に侵入し、いずれかのドアを開けるとアラームが鳴ります。
- 車両セキュリティ・システムの作動中は、内部のパワー・ドア・ロック・スイッチでドアを解錠することはできません。

車両セキュリティ・システムは車両を保護するように設計されていますが、システムが誤ってアラームを鳴らすことがあります。前述の手順のいずれかで車両セキュリティ・システムをセットした場合、乗員が車内にいるかどうかにかかわらずアラームはセットされます。乗員が車内にいてドアを開けた場合、アラームが鳴ります。この場合、車両セキュリティ・システムを解除してください。

車両セキュリティ・システムがセットされた状態で、バッテリの接続を外しても、再度バッテリを接続すれば車両セキュリティ・システムはセットされた状態を維持します。このとき外部照明が点滅します。この場合、車両セキュリティ・システムを解除してください。

システムの再設定方法

アラームが起動した後に解除するための措置が何も取られなかった場合、車両セキュリティ・アラームは約 90 秒後にホーンを止め、その後、車両セキュリティ・アラームは自動的に再設定されます。

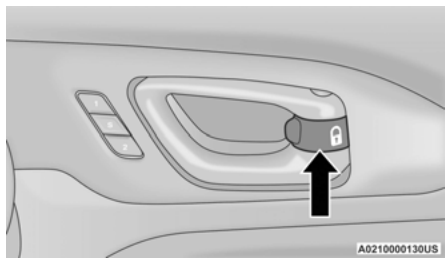
セキュリティ・システムの手動操作

手動ドア・ロックを使用してドアを施錠した場合、車両セキュリティ・システムは作動しません。

ドア

手動ドア・ロック

ドア・ロックは、ドア・ロック・ノブを使用して、車内から手動でロックすることができます。



手動ドア・ロック・ノブ

各ドアを施錠するには、各ドア・トリム・パネルのドア・ロック・ノブをロック表示が見えるまで前方に回転させます。フロント・ドアを解錠するには、車内ドア・ハンドルを最初の停止位置まで引くか、ドア・ロック・ボタンをロック表示が見えなくなるまで回転させます。リヤ・ドアを解錠するには、ドア・ロック・ボタンをロック表示が見えなくなるまで回転させます。ドアを閉めるときにドア・ロック・ボタンがロックされている（ロック表示が見えている）と、ドアはロックされたままになります。そのため、ドアを閉める前に

キー・フォブが車内に残されていないことを確認してください。

メモ:

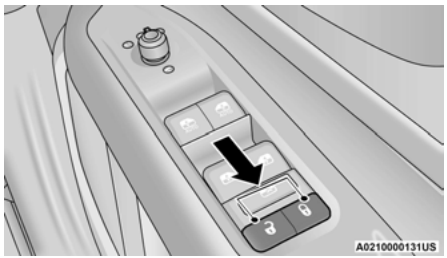
- 車両を手動で施錠すると、車両セキュリティ・アラームは作動しません。
- 手動ドア・ロックでリフトゲートの施錠や解錠を行うことはできません。

警告!

- 駐車して車両から離れるときに加え、乗員の防犯と衝突時の安全を確保するために、走行前にも車両のドアを施錠してください。
- 車を出るときは、必ずキー・フォブを携帯して、車をロックしてください。必ず Keyless Enter 'n Go™イグニッションを「OFF(オフ)」位置にし、車両からキー・フォブを抜き、車両をロックしてください。大人がいない状況で、お子さまが車の装備に触れると、大けがや死亡事故につながる恐れがあります。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内や車両周辺(またはお子さまの手が届く場所)に置いたまま車から離れないでください。また、Keyless Enter-N-Go™イグニッションを「ON/RUN(オン／走行)」位置にしたまま車両から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。

パワー ドア・ロック

パワー・ドア・ロック・スイッチは、各フロント・ドアのトリム・パネルにあります。このスイッチを使用して、ドア、リフトゲート、およびフューエル・リッドを施錠または解錠します。



パワー・ドア・ロック・スイッチ

イグニッションが「ON/RUN(オン／走行)」位置のときにドアまたはリフトゲートが開いていると、パワー・ドア・ロック・スイッチを押してもパワー・ロックは作動しません。これにより、誤って車内にキー・フォブを残したまま施錠することが防止されます。イグニッション・スイッチを「OFF」位置に戻すか、ドアおよびリフトゲートを閉じると、ロックが作動します。運転席ドアが開いている状態で、イグニッションが「ON/RUN(オン／走行)」位置にある場合、チャイムが鳴り、キー・フォブの抜き忘れを警告します。

KEYLESS ENTER-N-GO™ - パッシブ・エントリ

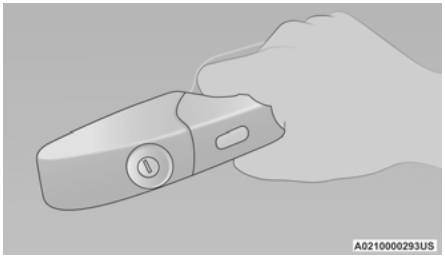
パッシブ・エントリ・システムは、車のリモート・キーレス・エントリ・システムと Keyless Enter-N-Go™ - パッシブ・エントリの機能を拡張したシステムです。この機能により、キー・フォブの「ロック」または「ロック解除」ボタンを押さなくても、車両のドアやフューエル・リッドの解錠/施錠操作を行えます。

メモ:

- パッシブ・エントリは、Uconnect 設定によりオン／オフに設定することが可能です ⇨ ページ 136。
- キー・フォブが携帯電話、ノート・パソコン、またはその他の電子機器のそばに置かれていると、パッシブ・エントリ・システムによって検知されないことがあります。こうした機器はキー・フォブの無線信号を妨害するため、パッシブ・エントリ・システムが車両を施錠／解錠できなくなります。
- 手袋をしている場合、降雨／降雪の場合、またはパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルに塩分／泥が被っている場合は、解錠の感度に影響があり、応答時間が遅くなることがあります。
- キー・フォブがハンドルから 1.5m(5 フィート)以内の車両外側にある場合、パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルに水しぶきがかかると、ドアが解錠される場合があります。
- パッシブ・エントリを使用して車両を解錠し、60 秒以内にドアを開かなかった場合、車両は再度施錠され、装備されている場合は車両セキュリティ・システムが設定されます。

運転席／助手席ドアでの解錠

どちらかのドア・ハンドルから 1.5m(5 フィート)以内に有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブがある場合、ドア・ハンドルをつかむと、車両が自動的に解錠されます。



ドア・ハンドルをつかんでの解錠

- 運転席ドアのドア・ハンドルをつかんだときに、運転席ドアのみが解錠されるか、すべてのドアが解錠されるかは、Uconnect システムで選択した設定により異なります ⇨ ページ 136。
- 運転席ドアの解錠設定に関係なく、フロントの助手席ドア・ハンドルをつかむと、すべてのドアとリフトゲートが解錠されます。

Frequency Operated Button Integrated Key (FOBIK-Safe)（頻繁に操作するボタン、内蔵キー）

車内にパッシブ・エントリ・キー・フォブがあるときに予期せず施錠される可能性を極力減らすために、パッシブ・エントリ・システムには、イグニッション・スイッチが「OFF（オフ）」位置の場合に機能する自動ドア解錠機能が備えられています。

パッシブ・エントリ車両で FOBIK セーフ・サーチが開始される状況は 3 つあります。

- ドアが開いているときに有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブによって施錠が要求される場合。
- ドアが開いているときにパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルによって施錠が要求される場合。
- ドアが開いているときにドア・パネルにあるスイッチによって施錠が要求される場合。

これらのうちのいずれかの状況になったときに、開いているドアをすべて閉じると、FOBIK セーフ・サーチが作動します。パッシブ・エントリ・キー・フォブが車内で検知され、車外で検知されない場合、車両は解錠され、顧客に警告が出されます。

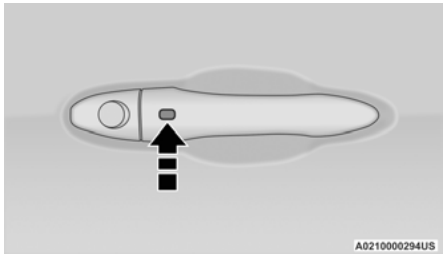
メモ：

有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブが車内で検知されたときは、車両はドアの解錠のみを行います。次のいずれかの条件に当てはまる場合、車のドアは解錠されません。

- ドア・ロック・ノブを使用して手動でドアを施錠した。
- ドア・パネル・スイッチを使用してドアの施錠を 3 回試み、その後ドアを閉めた。
- 有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブが車外にあり、いずれかのパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルの 1.5m（5 フィート）以内にある。

ドアおよびリフトゲートの施錠

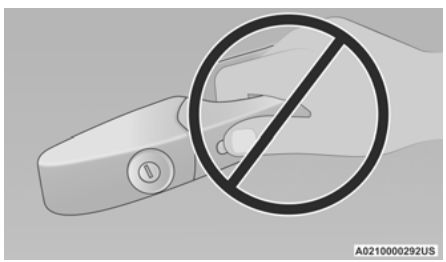
いずれかのフロント・ドア・ハンドルの 1.5m（5 フィート）以内に、車両のパッシブ・エントリ・キー・フォブのいずれかがある状態で、車外のドア・ハンドルにあるパッシブ・エントリ・ロック・ボタンを押すと、車両のドアとリフトゲートが施錠されます。



ドア・ハンドル・ロック・ボタンを押しての施錠

メモ：

ドア・ハンドル・ロック・ボタンを押しているときは、ドア・ハンドルをつかまないでください。これにより、ドアが解錠されることがあります。



施錠中はドア・ハンドルをつかまないでください

メモ：

- ドア・ハンドルのパッシブ・エントリ・ボタンを押して施錠した後、約 2 秒間はドア・ハンドルでの車両の解錠ができなくなります。これにより、車の応答を解錠した

りすることなく、ドア・ハンドルを引いて車がロックされているかどうか確認できます。

- Uconnect 設定を使用してパッシブ・エントリを解除した場合は、「Frequency Operated Button Integrated Key (FOBIK-Safe)（頻繁に操作するボタン、内蔵キー）」に記載のキー・フォブ保護が作動／機能し続けます。
- キー・フォブの電池が消耗している場合、パッシブ・エントリ・システムは作動しません。

降車時オート・ドア・アンロック

パワー・ドア・ロック装備車で以下を行なった場合、ドアは自動的に解錠されます。

1. Uconnect 設定内で降車時オート・ドア・アンロック機能を有効にする ⇨ ページ 136。
2. すべてのドアが閉まっている。
3. ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」に入れておらず、その後「P（パーキング）」に入れたとき。
4. いずれかのドアを開いたとき。

デッド・ロック装置 - タイプ別装備

デッド・ロック装置は、車内ドア・ハンドルとパワー・ドア・ロック・スイッチを使用できないようにする安全装置です。この装置により、車内からドアを開けることができなくなります。すべてのドアで作動します。

装置の作動

- この装置は、キー・フォブの「Lock（ロック）」ボタンを 2 回押すと作動します
- パッシブ・エントリ装備車の場合、運転席または助手席の車外ドア・ハンドルの「Lock（ロック）」ボタンを押して装置を作動させることもできます

方向指示器は 3 回点滅することで、装置が作動したことを示します。

メモ：

1 つ以上のドアが正しく閉じていない場合、装置は作動しません。

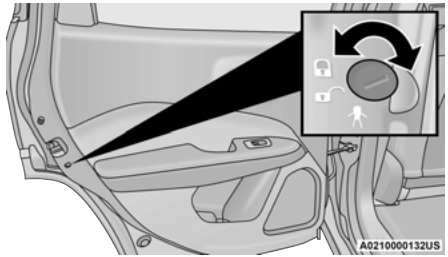
装置の解除

- この装置は、キー・フォブの「Unlock（ロック解除）」ボタンを押すと自動的に解除します
- イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にします
- パッシブ・エントリ装備車の場合、運転席または助手席のパッシブ・エントリ・ドア・ハンドルを使用してドアをロック解除して開けることで、装置を解除することもできます

チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システム – リヤ・ドア

リヤ・シートの小さなお子さまの安全のために、リヤ・ドアにはチャイルド・セーフティ・リヤ・ドア・ロックが備えられています。

このシステムを利用するには、各リヤ・ドアを開けて、マイナス・ドライバ（またはエマージェンシ・キー）を使用してダイヤルを施錠または解錠の位置に回します。ドアのこのシステムが作動中は、車内のドア・ロックが解錠の位置にあっても車外のドア・ハンドルでしかドアを開けることができません。



チャイルド・セーフティ・リヤ・ドア・ロックの設定

メモ：

- チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システムの作動中は、内側のドア・ロックが解錠の位置にあっても外側のドア・ハンドルでしかドアを開けることができません。
- チャイルド・セーフティ・リヤ・ドア・ロックを解除した後、システムが作動していないことを確認するために、車内のドア・ハンドルを操作するとドアが開くことを確かめてください。
- チャイルド・セーフティ・リヤ・ドア・ロック・システムを設定した後、システムが作動していることを確認するために、車内のドア・ハンドルを操作してもドアが開かないことを確かめてください。
- システムが作動した状態で緊急脱出する場合、ロック表示が見えなくなるまで（解錠位置）ドア・ロック・ボタンを回し、ウィンドウを下げて、車外のドア・ハンドルでドアを開けます。

警告!

衝突の際に、車内に乗員が取り残されることがないよう注意してください。チャイルド・プロテクション・ロックが作動している(ロックされている)場合は、車外からしかリヤ・ドアを開けることができません。

メモ:

- お子さまを連れているときは、必ずこの装置を使用してください。両方のリヤ・ドアでチャイルド・ロックを作動させた後は、車外のドア・ハンドルでドアを開けようとしてみて、ロックが有効であることを確認してください。チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システムが作動すると、車内からドアを開けることはできません。車両から離れるときは、車内にだれも残っていないことを確認してください。
- タクシーとして使用する車両や現地の地方自治体の条例に従って黄色のライセンス・プレートで使用する場合、チャイルド・プロテクション・ドア・ロック・システムを無効にする必要があります。

ステアリング・ホイール

チルト/テレスコピック・ステアリング・コラム

この機能により、ステアリング・コラムを上下に傾けることができます。また、ステアリング・コラムの長さを調整することができます。チルト/テレスコピック・レバーは、ステアリング・コラムの端、ステアリング・ホイールの下にあります。



チルト/テレスコピック・レバー

ステアリング・コラムのロックを解除するには、コントロール・ハンドルを下側に(フロア方向に)押します。ステアリング・コラムを傾けるには、ステアリング・ホイールを上下させお好みの角度に調節してください。ステアリング・コラムの長さを調整するには、ステアリング・ホイールを手前に引いて長くするか、下へ押して短くします。ステアリング・コラムを所定位置にロックするには、コントロール・ハンドルをいっぱいまで引き上げて固定してください。

警告!

運転しながらステアリング・コラムの調整を行わないでください。運転中にステアリング・コラムを調整すると、車を制御できなくなることがあります。ここに示す警告内容に従わないと、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

ヒーテッド・ステアリング・ホイール - タイプ別装備



ステアリング・ホイールには電熱線が入っており、低温時に手を暖かく保つことができます。ヒーテッド・ステアリング・ホイールの温度設定は固定されています。ヒーテッド・ステアリング・ホイールをオンにすると、オペレータがオフにするまでオンのままです。すでに暖かい場合は、ヒーテッド・ステアリング・ホイールはオンにならないことがあります。

ヒーテッド・ステアリング・ホイールのボタンは、タッチスクリーンのエアコンまたはコントロール・スクリーンにあります。

- ヒーテッド・ステアリング・ホイール・ボタンを 1 回押すと、ヒータがオンになります。
- ヒーテッド・ステアリング・ホイール・ボタンをさらに押す(2 回目)と、ヒータがオフになります。

メモ:

ヒーテッド・ステアリング・ホイールを作動させるには、エンジンが作動している必要があります。

警告!

- 高齢、慢性疾患、糖尿病、脊髄損傷、薬物治療、アルコールの摂取、疲労、またはその他の身体状態により、皮膚に痛みを感じることができない方は、ヒーテッド・ステアリング・ホイールを使用する場合に注意が必要です。特に長時間使用した場合、低温でもやけどを起こす恐れがあります。

(続き)

警告!
● 種類や素材を問わず、毛布やステアリング・ホイール・カバーなど、断熱効果のあるものをステアリング・ホイールの上に置かないでください。ヒーテッド・ステアリング・ホイールが過熱する恐れがあります。

UCONNECT 音声認識 – タイプ別装備

UCONNECT の概要

Uconnect の VR（音声認識）の使用開始時には、このクイック・ヒントが役立ちます。重要なボイス・コマンドと、お使いの車両の音声認識（VR）システムのコントロールのために知っておくべきヒントが記載されています。

基本的ボイス・コマンド

下記の基本的ボイス・コマンドは、Uconnect システムの使用中いつでも使用できます。

ステアリング・ホイールの「VR（音声認識）」ボタンを押します。ビープ音の後で、

- 「**Help（ヘルプ）**」と発声すると、推奨ボイス・コマンドのリストが聞こえます
- 「**Repeat（リピート）**」と発声すると、システムの指示が再度聞こえます
- 「**Cancel（キャンセル）**」と発声すると、現在のボイス・セッションが中止されます

音声認識システムの状態を知らせるインジケーターに注意してください。インジケーターはタッチスクリーンに表示されます。

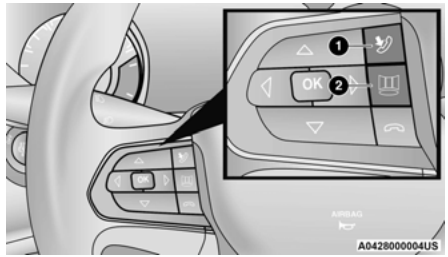
音声認識の開始

音声による Uconnect システムの操作は、ステアリング・ホイールのスイッチを押すだけで可能になります。

音声認識の使用に役立つヒント:

- 背景の雑音を少なくしてください。たとえば、風の音や他の乗員の会話が認識に影響することがあります。
- まっすぐ前方を向いて、通常の速さと声量ではっきりと話してください。
- ボイス・コマンドを出す場合は毎回、まず「VR（音声認識）」ボタンを押して、ビープ音が鳴った後、ボイス・コマンドを発声してください。車両に対し、「Wake Up（起動）」を意味する単語を発声し、コマンドを使用することもできます ⇨ ページ 136。
- 乗員がラジオのステータス・バーにある VR ボタン・ショートカットを押して、コマンドを使用することもできます。
- 「VR（音声認識）」ボタンを押して、現在のカテゴリのボイス・コマンドを発声することで、ヘルプ・メッセージまたはシステム・プロンプトを中断できます。

メモ：
音声認識機能が搭載されていない車両でも、音声認識ボタンがある場合があります。これらのボタンは、Siri または Google アシスタントの音声認識セッションを開始することで、Android Auto™および Apple CarPlay®と連動します。お使いのデバイスによっては、音声認識セッションを開始するために VR ボタンを 1 秒間長押しする必要があります。



Uconnect のボイス・コマンド・ボタン

1 – 「Voice Recognition（音声認識）」ボタンを押して、ラジオ、メディア、ナビゲーション、エアコン、通話の開始または応答、テキストの送受信を行います
2 - 押すと、インストルメント・パネル・ディスプレイにホーム画面が表示されます

補足情報

© 2025 FCAIO.All rights reserved.Mopar および Uconnect は登録商標であり、Mopar Owner Connect は FCAIO の商標です。

運転席メモリ設定 - タイプ別装備

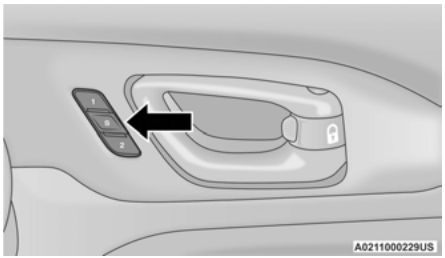
この機能を使うことによって、運転者はメモリ・プロファイルを 2 つまで保存し、メモリ・スイッチで簡単に呼び出すことができます。各メモリ・プロファイルは希望の運転席位置設定を保存します。

メモ：
車両にはキー・フォブが 2 個装備されているので、各キー・フォブをメモリ位置 1 または 2 のいずれかにリンクさせることができます。

メモリ設定スイッチは、運転席側のドア・トリム・パネルにあります。スイッチは以下の 3 つのボタンで構成されています。

- 「SET（セット（S））ボタンは、メモリ保存機能をオンにするために使用します。
- （1）ボタンと（2）ボタンは、保存済みのメモリ・プロファイルのいずれかを呼び出すために使用します。

メモ：
メモリ・スイッチ（1）はプロファイル「Driver 1」に、メモリ・スイッチ（2）はプロファイル「Driver 2」に保存されます。これらは初期設定のプロファイルで、メモリ・スイッチによって呼び出されるプロファイルは、Uconnect システムの「Personal Settings（個人設定）」で変更できます。



「Memory Settings（メモリ設定）」スイッチ

メモリ機能のプログラム

新しいメモリ・プロファイルは以下の手順で保存します。

メモ：
新しいメモリ・プロファイルを 1 つ保存すると、メモリから既存のプロファイルが 1 つ消去されます。

1. 車両のイグニッションを「ON（オン）」位置にします。
2. すべてのメモリ・プロファイル設定をお好みの設定に調整します。プロファイル設定とは、シートのプリセットなどです。
3. メモリ・スイッチの「S（セット）」ボタンを押し、続いて 5 秒以内に希望のメモリ・ボタン（1 または 2）を押します。インストルメント・パネル・ディスプレイには、どのメモリが設定されているかが表示されます。

メモ：
メモリ・プロファイルは、シフト・レバーが「P（パーキング）」レンジに入っていなくても設定できますが、メモリ・プロファイルを呼び出すには、シフト・レバーが「P（パーキング）」レンジに入っていなければなりません。

リモート・キーレス・エントリ・キー・フォブとメモリ間のリンク結合と解除の機能

リモート・キーレス・エントリ・キー・フォブをプログラムして、保存した 2 つのメモリ・プロファイルの 1 つを呼び出すことができます。

メモ：
キー・フォブをプログラムする前に、Uconnect 設定から「Memory Linked To FOB（メモリをフォブにリンク）」機能を選択しなければなりません ⇨ ページ 136。

キー・フォブをプログラムするには、次の手順に従います。

1. 車両のイグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にします。
2. リンクさせたいほうのメモリ・プロファイル（1）または（2）を、あらかじめ決めておきます。
3. メモリ・スイッチの「S」（セット）ボタンを押して放します。続いて、5 秒以内にメモリ・スイッチの（1）または（2）と表示されている側を押して放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに「Memory Profile Set（メモリ・プロファイル設定）」（「1」または「2」）と表示されます。
4. 10 秒以内にキー・フォブのロック・ボタンを押して放します。

メモ：
キー・フォブとメモリ設定とのリンクを解除できません。メモリ設定を変更するには、リンクの手順を繰り返して、キー・フォブに設定されたメモリ設定を上書きします。

メモリ位置の呼び出し

メモ：
メモリ位置への復元を行うには、シフト・レバーを「P（パーキング）」レンジに入れておく必要があります。ギヤを「P（パーキング）」に入れずに復元動作を行おうとすると、インストルメント・パネル・ディスプレイにメッセージが表示されます。

運転者 1 または運転者 2 のメモリ設定を呼び出すには、希望のメモリ・ボタン番号（1 または 2）を押すか、希望のメモリ位置にリンクさせたキー・フォブのロック解除ボタンを押します。

呼び出し中に、メモリ・スイッチのいずれかのボタン（「S」、「1」、「2」）を押すと、呼び出しは取り消されます。呼び出し動作は取り消され、運転席の移動は停止します。次の選択ができるようになるまで約 1 秒かかります。

シート

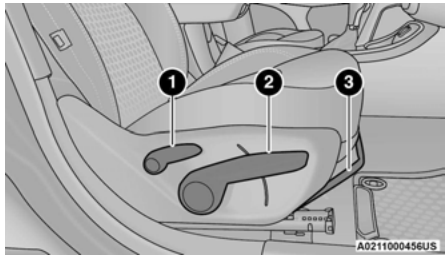
シートは車両の乗員保護拘束装置の一部です。

警告!

- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。

マニュアル調整（フロント・シート）タイプ別装備

一部のモデルには、運転席および助手席の手動シートが装備されています。前後調節バーが、座席の前部、フロア付近にあります。高さ（運転席のみ）レバーおよびリクライニング・レバーは、シートのドア側にあります。



手動シート調節

1 - リクライニング・レバー
2 - 高さ調整レバー（運転席）
3 - 前後調節バー

警告!

- 走行中にシートを調節することは危険です。突然シートが動き、運転の妨げになります。また、シートベルトがずれ、負傷する恐れがあります。シートの調節は、車が停止しているときに行ってください。
- シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時にシートベルトから身体が滑り抜け、重傷を負ったり死亡したりする恐れがあります。リクライニング機能は、駐車中のみご使用ください。

フロント・シートの前後手動調整

手動フロント・シートを装着したモデルでは、シートは、シート・クッションの前のフロア近くにあるバーを使用して前後の位置を調整できます。

シートに座って、バーを上に持ち上げてシートを前後に動かします。希望の位置に達したら、バーを放します。次に、体重を利用してシートを前後に動かし、シートのアジャスタが固定されていることを確認してください。

警告!

- 運転中のシートの調整は危険です。運転中にシートを動かすと、操作を誤り、衝突して重大なけがや死亡事故につながる恐れがあります。
- シートは、シートベルトを着用する前に車を停車した状態で調整する必要があります。シートベルトの調整が不適切な場合、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。
- 運転席の下に物を置かないでください。こうした物があると、シートが意図せず動き、車の制御が失われるおそれがあります。

シートの高さの手動調節 – タイプ別装備

運転席の高さは、シートのドア側にあるレバーを使用して上下に動かせます。シートを高くするにはレバーを引き上げ、低くするにはレバーを押し下げます。

フロント・シートのリクライニングの手動調整

シート・バックを調節するには、シート外側のレバーを引き上げ、後ろにもたれながら希望の位置でレバーを放します。シート・バックを戻すには、レバーを引き上げて、前にかがみながらレバーを放します。

警告!

シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時、シートベルトの下で体が滑り、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

前方可倒式助手席シート - タイプ別装備

メモ:

この機能は、荷室のスペースを広げるため、車両に助手席用手動シート調節機能が備わっている場合のみ利用できます。

シートを折りたたむと、ロード・フロア面が広がります(これにより、最大でリヤ・ハッチからインストルメント・パネルまでの長さと同じ長さの積み荷を載せることができます)。前方可倒式助手席シートのシート・バック表面は柔らかくなっており、停車中にシートを前方に折りたたんでいるときに、作業面として使用できます。

シートを折りたたんだり元の位置に戻したりするには、リクライニング・レバーを上側に引きます。

メモ:

シートを折りたたんだ状態で長期間放置すると、シート・ベルト・バックルによってシート・クッションが変形することがあります。これは異常ではなく、シートを展開して垂直位置にすると、シート・クッションは徐々に通常の形状に戻っていきます。

警告!

走行中にシートを調節することは危険です。突然シートが動き、運転の妨げになります。シートの調節は、必ず車が駐車状態にあるときに行ってください。

マニュアル調整(リヤ・シート)

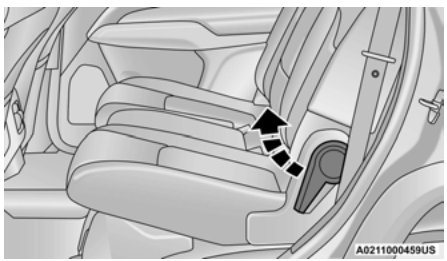
警告!

荷物や積荷はシート・バックより高く積み上げないでください。視界を悪くし、突然の停止や衝突の際に前方に投げ出されて危険です。

リヤ・シート・リクライニング調整

2 列目の 6:4 分割可倒式回転シートのシート・バックは、リクライニングさせ、さらに乗員の快適性を確保できます。

シート・バックを調節するには、シート外側のリクライニング・レバーを引き上げ、後ろにもたれながら希望の位置でレバーを放します。シート・バックを戻すには、レバーを引き上げて、前にかがみながら希望の位置になったらレバーを放します。



リクライニング・レバー

メモ:

リクライニング・レバーは、シートに乗員がいる場合、シート・バックのリクライニングのみに使用できます。

警告!

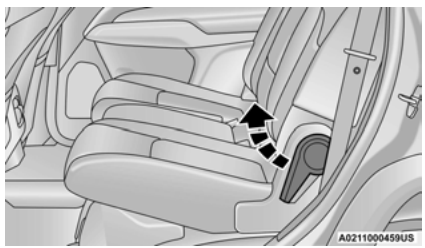
シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時、シートベルトの下で体が滑り、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

容易な 3 列目の乗降

2 列目の 6:4 分割可倒式シートの片側を前方に倒し、乗員が 3 列目シートに簡単に乗り込むことができるようにします。

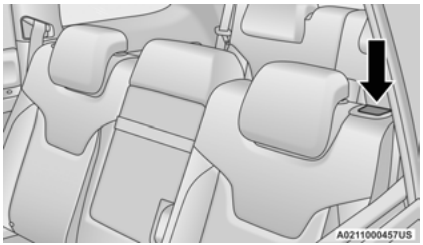
2 列目シートには、次のいずれかの方法で操作できるワンタッチ回転機能が備わっています。

- リクライニング・レバーを上いっぱいまで引いてから放します。シートは自動的に折りたたまれ、フロント・シートに対して前方に倒れます。

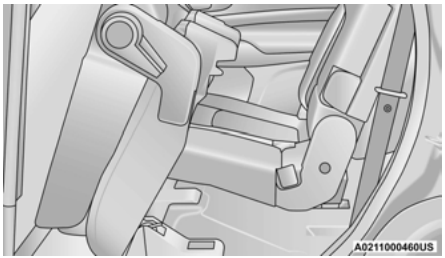


リクライニング・レバー

- 2 列目シートの上部外側にあるイージー・エントリ・レバーを引いて、放します。シートは自動的に折りたたまれ、フロント・シートに対して前方に倒れます。



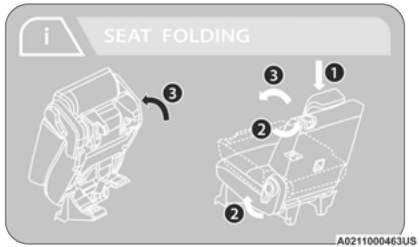
イージー・エントリ・レバー



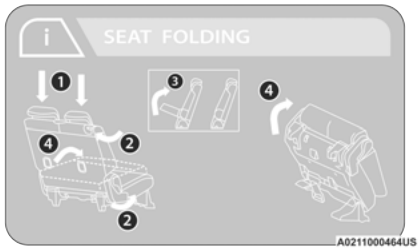
倒れた位置のシート

メモ :

- シートを倒す前に 2 列目シートのすべてのヘッド・レストが下げた位置にあることを確認します。
- リヤ・シートを折りたたむ前に、フロント・シートをレールの中央位置に調節しておく必要がある場合もあります。また、フロント・シートが完全に垂直位置になっており、前方に移動していることを確認します。こうすると、リヤ・シートを簡単に折りたたむことができます。



シート回転ラベル（左側）



シート回転ラベル（右側）

警告!

2 列目シートを回転させたままで、車両を運転しないでください。2 列目シートは、3 列目シートに乗り降りする際にのみ倒すよう設計されています。これらの警告を無視した場合、負傷する恐れがあります。

リヤ・シートを元に戻す方法

倒したシートを折りたたみ位置へと後方へ展開し、所定の位置にロックします。次にシート・バックを上げ、所定の位置にロックされるまでヘッド・レストを上げます。

警告!

- シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていることを確認してください。シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていないと、そのシートにチャイルド・シートを確実に取り付けることや、乗員が安定して座ることができません。シートが適切に固定されていない場合、重傷につながる恐れがあります。
- 2 列目シートを倒している場合、2 列目シートを元の位置に置き換えているとき、3 列目シートの乗員は手や足をフロア内のストライカから離しておく必要があります。手や足が 2 列目シートのラッチの邪魔になっていると怪我をするおおそれがあります。



3 列目シート乗員警告ラベル

2 列目可倒式フラット・シート

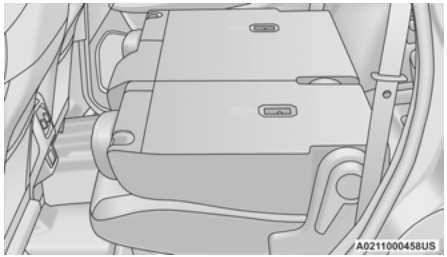
2 列目シートは、フラットに折りたたんで荷物を積めます。

メモ：

リヤ・シートを折りたたむ前に、フロント・シートをレールの中央位置に調節しておく必要がある場合もあります。また、フロント・シートが完全に垂直位置になっており、前方に移動していることを確認します。こうすると、リヤ・シートを簡単に折りたたむことができます。

シートを折りたたみ位置にするには、シートのドア側にあるリクライニング・レバー、またはシート・バックの上部外側にあるイージー・エントリ・レバーを引いて、前述の回転手順を行います。

倒した位置にしたら、シート・バックを倒して平らにした状態で所定の位置にロックされるまで倒したシートを展開します。



倒して平らにした 2 列目シート

メモ：

シートを折りたたんだ状態で長期間放置すると、シート・ベルト・バックルによってシート・クッションが変形することがあります。これは異常ではなく、シートを展開して垂直位置にすると、シート・クッションは徐々に通常の形状に戻っていきます。

シート・バックを上げるには、シート・バックが所定の位置にロックされるまで持ち上げます。

警告!

- シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていることを確認してください。シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていないと、そのシートにチャイルド・シートを確実に取り付けることや、乗員が安定して座ることができません。シートが適切に固定されていない場合、重傷につながる恐れがあります。
- 2 列目シートを倒している場合、2 列目シートを元の位置に置き換えているとき、3 列目シートの乗員は手や足をフロア内のストライカから離しておく必要があります。手や足が 2 列目シートのラッチの邪魔になっていると怪我をするおおそれがあります。

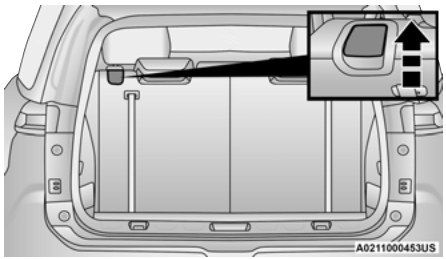
(続き)

手動可倒式 3 列目シート

どちらの 3 列目シートも、前方に倒してカーゴ・エリアを拡大できます。片方のシートを下げるには、シートの上部外側にあるリリース・ハンドルを引いて、シート・バックを前方、車両の前に向かって押します。

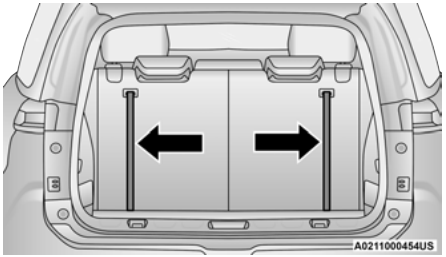
メモ：

3 列目シートを折りたたむときは、2 列目シートを完全な直立位置にするか、折りたたんでフラットにする必要があります。



リリース・ハンドル

シートを起こすには、シートの背部にあるストラップを使用してシートを手前に引きます。



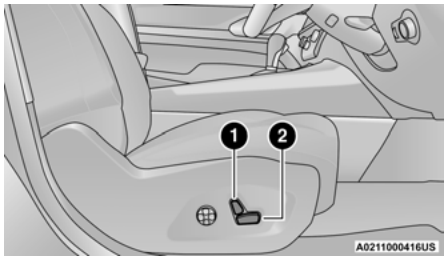
プル・ストラップ

警告!

- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は非常に危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。
- シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていることを確認してください。シート・バックが所定の位置にしっかりと固定されていないと、そのシートにチャイルド・シートを確実に取り付けることや、乗員が安定して座ることができません。シートが適切に固定されていない場合、重傷につながる恐れがあります。

電動調整(フロント・シート) タイプ別装備

一部のモデルには、運転席と助手席(装備されない場合もあります)にパワー・シートが装備されています。パワー・シート・スイッチおよびパワー・シート・リクライニング・スイッチは、シートのドア側、フロア付近にあります。パワー・シート・スイッチを使用して、シートの高さ、角度、または前後位置を調節します。パワー・シート・リクライニング・スイッチを使用して、シート・バックの角度を調節します。



パワー・シート・スイッチ

1 - パワー・リクライニング・スイッチ
2 - パワー・シート・スイッチ

フロント・シートの前後調整

シートは前後位置を調整できます。シート・スイッチを前方または後方に押すと、シートはスイッチの方向に移動します。必要な位置に達したら、スイッチを放します。

高さ調整

シートの高さを上下に調整できます。シート・スイッチを上に引く、または下に押すと、シートはスイッチの方向に移動します。必要な位置に達したら、スイッチを放します。

チルト調整

シート・クッションの角度は上下に調整できます。シート・スイッチの前部を上に引いたり、下に押したりすると、シート・クッションの前部がスイッチの方向に動きます。

シート・バックの前後のリクライニング

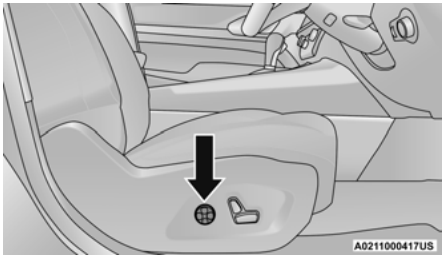
シート・バックは前後両方にリクライニングさせることができます。シート・リクライニング・スイッチを前または後ろに押します。シート・バックがスイッチの方向に移動します。必要な位置に達したら、スイッチを放します。

警告!

シート・バックを倒し、ショルダ・ベルトが胸部から離れた状態で車を運転しないでください。衝突時、シートベルトの下で体が滑り、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

パワー・ランバ・サポート - タイプ別装備

運転席パワー・シートまたは助手席パワー・シートを装備している車両は、パワー・ランバ・サポートも装備している場合があります。パワー・ランバ・サポート・スイッチは、パワー・シートのドア側にあります。ランバ・サポートを強くするには、スイッチの前方を押します。ランバ・サポートを弱くするには、スイッチの後方を押します。スイッチを上方へ押すとサポートが上昇し、下方へ押すとサポートが下降します。



パワー・ランバ・サポート・スイッチ

フロント・シート・ヒータ – タイプ別装備

フロント・シート・ヒータのコントロール・ボタンは、Uconnect システムの中にあります。コントロール・ボタンには、ヒータ／エアコン画面またはコントロール画面からアクセスできます。

- 「HEATED SEAT（シート・ヒータ）」ボタンを 1 回押すと「HI（高温）」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT（シート・ヒータ）」ボタンをさらに押す（2 回目）と、「LO（低温）」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT（シート・ヒータ）」ボタンをさらに押す（3 回目）と、ヒータが OFF になります。

車両に「Medium（中）」ヒータ設定が装備されている場合：

- 「HEATED SEAT（シート・ヒータ）」ボタンを 1 回押すと「HI（高温）」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT（シート・ヒータ）」ボタンをさらに押す（2 回目）と、「MED（中温）」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT（シート・ヒータ）」ボタンをさらに押す（3 回目）と、「LO（低温）」設定が ON になります。
- 「HEATED SEAT（シート・ヒータ）」ボタンをさらに押す（4 回目）と、ヒータが OFF になります。

車両に自動温度コントロールと一体型センタ・スタックが装備されている場合、または温度コントロールが手動制御の場合、ラジオ画面の下のスイッチ・バンクにシート・ヒータ・スイッチがあります。

「HI（高温）」を選択した場合、約 60 分継続して高温を保つと、自動的に「LO（低温）」に切り替わります。このとき、ディスプレイが「HI（高温）」から「LO（低温）」に変わり、切り替わったことがわかります。「LO（低温）」の場合は、約 45 分経過すると自動的にヒータが停止します。

メモ：
シート・ヒータを作動させるには、エンジンが作動している必要があります。

警告!

- 高齢、慢性疾患、糖尿病、脊髄損傷、薬物治療、アルコールの摂取、疲労、またはその他の生理的状態により、皮膚に痛みを感じることができない方は、シート・ヒータを使用する場合に注意が必要です。特に長時間使用した場合、低温やけどを起こす恐れがあります。
- 毛布やクッションなど、断熱効果のあるものを座席の上またはシート・バック表面に置かないでください。シート・ヒータが過熱する恐れがあります。過熱状態のシートに座り続けると、シートの表面温度が上昇して、重度のやけどを負う恐れがあります。

ヘッド・レスト

ヘッド・レストは、後方から追突されたときに頭部の動きを制限して負傷の危険性を低減します。ヘッド・レストは、ヘッド・レストの上端が耳の上端より上になるように調整してください。

警告!

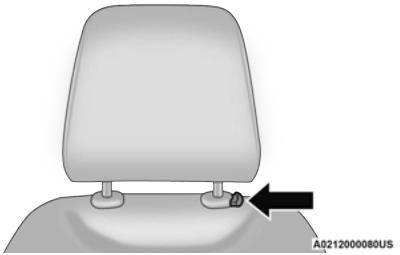
- 運転者を含むすべての乗員は、衝突時に首を損傷する危険性を最小限に抑えるために、ヘッド・レストを正しい位置に調節してから、車両を運転したり着座したりしてください。
- 車が動いているときには、ヘッド・レストを調整しないでください。ヘッド・レストの調整が不適切な状態で運転したり、取り外した状態で運転したりすると、衝突時に傷害や死亡事故につながる恐れがあります。

メモ：
頭部後方の空間を広げるために、ヘッド・レストの向きを前後逆にする（ヘッド・レストの後面を前方に向ける）ことはおやめください。

フロント・ヘッド・レストの調節

この車両には、運転席と助手席にフロント 2 ウェイ・ヘッド・レストが装備されています。

ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上に引きます。ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押します。



ヘッド・レスト調節ボタン

警告!

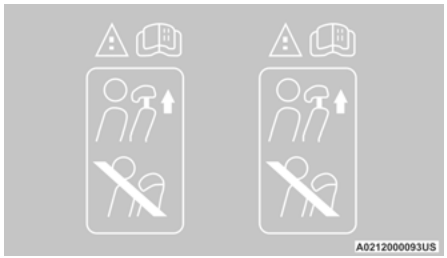
- 運転者を含むすべての乗員は、衝突時に首を損傷する危険性を最小限に抑えるために、ヘッド・レストを正しい位置に調節してから、車両を運転したり着座したりしてください。
- 車が動いているときには、ヘッド・レストを調整しないでください。ヘッド・レストの調整が不適切な状態で運転したり、取り外した状態で運転したりすると、衝突時に傷害や死亡事故につながる恐れがあります。

メモ :

ヘッド・レストの取り外しは、資格を持った整備士が整備目的でのみ行います。いずれかのヘッド・レストを取り外す必要がある場合は、ジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

2 列目シート・ヘッド・レスト

2 列目シート・ヘッド・レストには、上と下の 2 つの位置があります。センタ・シートに乗員が座っているときは、ヘッド・レストを上げた位置にする必要があります。センタ・シートに乗員が座っていないときは、ヘッド・レストを下げて運転者の視界をよくすることができます。

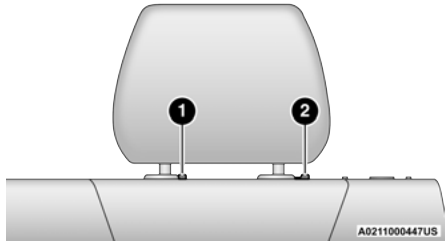


センタ乗員ヘッド・レスト警告ラベル

ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上に引きます。ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押します。

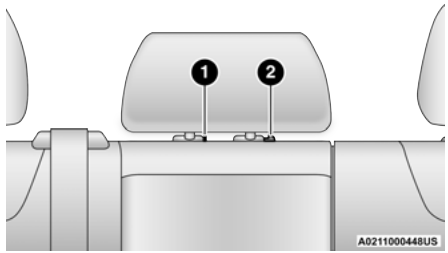
メモ :

- リヤ・ヘッド・レストを取り外すには、ヘッド・レストを上限まで引き上げます。そのまま上に引きながら、各ロッドのベース部にあるリリース・ボタンと調整ボタンを押します。ヘッド・レストを元のとおりに取り付けるには、ヘッド・レストのロッドを穴に差し込み、ヘッド・レストを下向きに押し込みます。次に、ヘッド・レストを適切な高さに調整します。
- ドア側ヘッド・レストを完全に取り外すには、シート・バックをリクライニングさせる必要がある場合があります。



2 列目シート・ドア側ヘッド・レスト

1 - リリース・ボタン
2 – 調整ボタン



2 列目シート・センタ・ヘッド・レスト

1 - リリース・ボタン
2 – 調整ボタン

警告!

取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおりに車両に取り付ける必要があります。

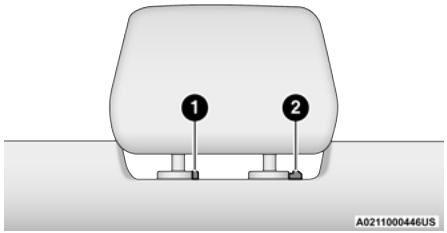
3 列目シート・ヘッド・レスト

3 列目シート・ヘッド・レストには、上と下の 2 つの位置があります。

ヘッド・レストを上げるには、ヘッド・レストを上に引きます。ヘッド・レストを下げるには、ヘッド・レストのベース部にある調整ボタンを押してからヘッド・レストを下に押します。

メモ :

- ヘッド・レストを取り外すには、ヘッド・レストを上限まで引き上げます。そのまま上に引きながら、各ロッドのベース部にあるリリース・ボタンと調整ボタンを押します。ヘッド・レストを元のとおりに取り付けるには、ヘッド・レストのロッドを穴に差し込み、ヘッド・レストを下向きに押し込みます。次に、ヘッド・レストを適切な高さに調整します。
- ドア側ヘッド・レストを完全に取り外すには、シート・バックをリクライニングさせる必要がある場合があります。



3 列目シート・ヘッド・レスト

1 - リリース・ボタン
2 – 調整ボタン

警告!

取り外したヘッド・レストは、乗員保護のため、すべてを必ず元のとおりに車両に取り付ける必要があります。

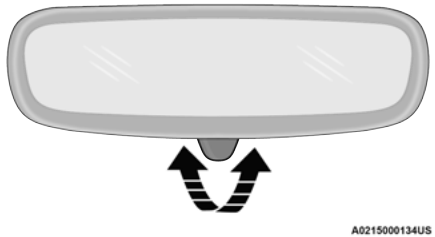
ミラー

ルーム・ミラー

手動ルーム・ミラー - タイプ別装備

このミラーは、反時計回りに回してフロントウィンドウに固定することができる、単一ボール・ジョイント式のミラーです。取り付けに必要な工具はありません。このルーム・ミラーは、上下左右に調節することができます。リヤ・ウインドウを通して見る後ろの視界を基準にして、中央にくるようにミラーを調節します。

後続車のヘッドライトがまぶしいときは、ミラーの下にある小さなレバーを「夜間」位置（手前）に動かすとヘッドライトの反射を軽減することができます。ミラーの調節は、「昼間」位置に設定されているとき（レバーがフロントウィンドウ寄りにあるとき）に行ってください。



ルーム・ミラーの防眩を切り替える

自動防眩式ルーム・ミラー

このミラーは、反時計回りに回してフロントウィンドウの固定部に取り付けることができる、シングル・ボール・ジョイント式のミラーです。取り付けに必要な工具はありません。このルーム・ミラーは、上下左右に調節することができます。リヤ・ウインドウを通して見る後ろの視界を基準にして、中央にくるようにミラーを調節します。

このミラーは、自動的に後続車のヘッドライトの反射を調節します。

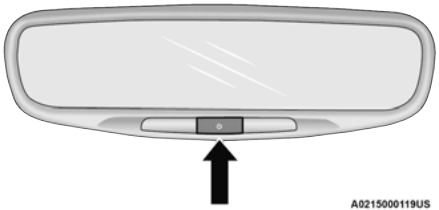
メモ :

車両を「R（リバース）」にすると、後方を十分に確認できるように自動防眩式ルーム・ミラー機能は作動しなくなります。車両にミラーの「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンが装備されている場合、ミラーはデフォルトでオンに設定さ

2

れ、タッチスクリーンで ON/OFF を切り替えることができます。

ミラーの底部にあるボタンを押して、自動防眩式ルーム・ミラー機能の ON/OFF を切り替えることができます。車両に「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンが装備されていない場合、自動防眩機能は常にオンであり、タッチスクリーンで ON/OFF を切り替えることができます。

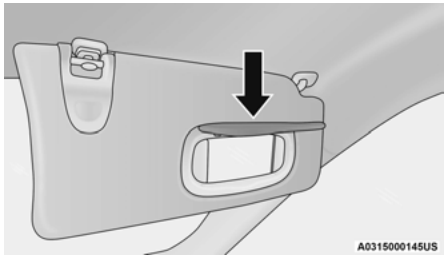


自動防眩ボタン

注意!
清掃中にミラーを傷つけないために、ガラス・クリーナをミラーに直接スプレーしないでください。清潔な布にガラス・クリーナをつけミラーを拭きます。

照明バニティ・ミラー – タイプ別装備

照明バニティ・ミラーを使用するには、いずれかのバイザを引き下げ、ミラー・カバーを上げます。



照明バニティ・ミラーのカバー

サンバイザ・スライド・アウト機能 タイプ別装備

サンバイザのスライド・アウト機能を使用すると、より柔軟にサンバイザの位置を調整できるようになり、日差しを効果的に避けることができます。

1. サンバイザを下げます。
2. バイザをセンタ・クリップから外します。
3. サンバイザをドアガラスに向かって旋回させます。
4. さらに日よけ効果を高めるために、サンバイザを伸ばします。

メモ：

また、車両のフロント越しの日よけ効果を高めるために、サンバイザがフロントウィンドウに向かい合っている間はサンバイザを伸ばすことができます。

ドア・ミラー

最適な視界を得るには、隣の車線の車両がミラーの中央に映るように調整します。

メモ：

助手席側の凸状のドア・ミラーにより、隣の車線を含めた広い後方視界が得られます。

警告!
助手席側の凸状のドア・ミラーに映る他の車や物体は、実物よりも小さくまた遠くにあるように見えます。そのため助手席側のドア・ミラーに頼りすぎると、他の車両や物体に衝突する危険性があります。助手席側のドア・ミラーに映る車両との距離やその大きさを判断するには、ルーム・ミラーを使用してください。

方向指示器およびアプローチ照明付きドア・ミラー – タイプ別装備

方向指示器およびアプローチ照明付きの運転席・助手席ドア・ミラーには、4 つの LED があります。これらの LED は各ミラーの下外隅にあります。

3 つの LED は方向指示器表示灯で、車両のフロントおよびリヤの対応する方向指示器と一緒に点滅します。非常点滅表示灯を点灯させた場合もこれらの LED が作動します。

4 つ目の LED はイルミネーテッド・エントリ照明として機能し、キー・フォブを使用してドアを解錠すると、両方のミラーで約 5 秒間点灯します。この照明は、フロント・ドアが開いても点灯し続けます。

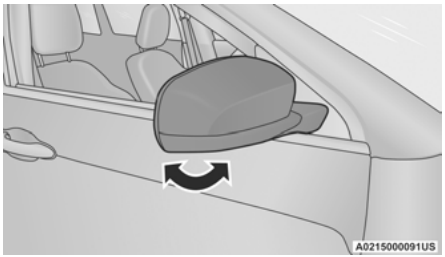
この LED は、車外のフロント・ドア・ハンドルとリヤ・ドア・ハンドルを明るく照らします。また、ドア下方の前方部分も明るく照らします。

イルミネーテッド・エントリ照明は約 30 秒後、またはイグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置に入れた直後に消灯します。

メモ：
アプローチ照明は、ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」位置から動かすと機能しなくなります。

格納式ミラー - タイプ別装備

ドア・ミラーにはヒンジ（蝶番）が付いており、接触しても破損しないように前方または後方に動かせます。ミラーには停止位置が３つ（最前部、標準、最後部）あります。

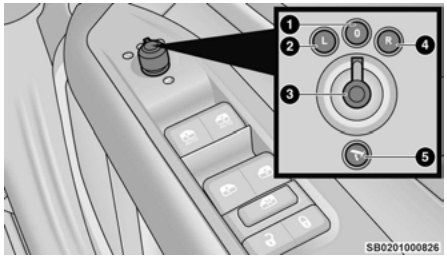


格納式ドア・ミラー

電動調整式ミラー

パワー・ドア・ミラー・コントロール・スイッチは、運転席側のドア・トリム・パネルにあります。

ミラーを調節するには、ミラーを「L」（左）または「R」（右）のいずれか調整したい方向にコントロール・スイッチを回します。その状態で、ミラーを動かす方向にスイッチを押します。



パワー・ドア・ミラー・スイッチ

1 – 中立位置
2 – 左ミラー
3 – コントロール・スイッチ
4 – 右ミラー
5 – 電動格納位置（タイプ別装備）

メモ：
調整後、予期せず動き出さないようにノブを中立位置に回してください。

電動格納機能 - タイプ別装備

電動格納式ミラー機能を使用してミラーを折りたたむには、コントロール・スイッチを回転させて、電動格納位置にします。コントロールを左、右、または中立位置にすると、ミラーが走行位置に戻ります。

ドア・ミラー折りたたみ動作中にパワー・ドア・ミラー・コントロール・スイッチを再度動かすと（閉位置から開位置およびその反対）、動作方向が逆転します。

車両の仕様上、パワー・ドア・ミラーの位置を運転席メモリ設定（タイプ別装備）の一部として保存することはできません。

オート格納式ミラー タイプ別装備

Uconnect 設定 ⇨ ページ 136 内でドア・ミラーを有効化していると、車両のイグニッションを「OFF（オフ）」位置にし、ドアをロックして閉じると、ドア・ミラーが自動的に折りたたまれます。

イグニッションを「OFF（オフ）」位置にしたら、ドア・ミラーは次の状況で自動的に折りたたまれます。

- ドアを開ける前にドア・パネルのロック・ボタンが押されている。

  メモ：
  ドアがすでにロックされている場合は、もう一度ロック・ボタンを押します。
- ドアを開け、ドア・パネルのロック・ボタンを押してからドアを閉めます。
- 車から出たら、ドアを閉め、キー・フォブのロック・ボタンを押します。
- 車から出たら、ドアを閉め、パッシブ・エントリ・ドア・ハンドルのロック・アイコンに触れます。

自動で折りたたまれたドア・ミラーは、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にすると展開します。

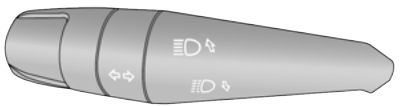
メモ：
ミラーを手動で折りたたんだ場合、運転席側ドア・パネルにある電動格納式ミラー・スイッチを使用しても、自動的に展開されません。

ヒーテッド・ドア・ミラー - タイプ別装備

このミラーには霜や氷を溶かすためのヒータが付いています。この機能はリヤ・ウインドウ・デフロスタを ON にすると同時に作動します（タイプ別装備） ⇨ ページ 41。

車外灯

マルチファンクション・レバー



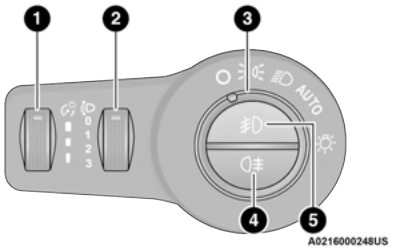
A0216000048US

マルチファンクション・レバー

マルチファンクション・レバーは、方向指示器の操作、ヘッドライト・ビームの選択およびパッシング・ライトを制御します。マルチファンクション・レバーは、ステアリング・コラムの左側にあります。

ヘッドライト・スイッチ

ヘッドライト・スイッチは、インストルメント・パネルの右側にあります。このスイッチは、ヘッドライト、デイタイム・ランニング・ライト、駐車灯、ロー・ビーム・ライト、オート・ヘッドライト、フロントおよびリヤ・フォグ・ライト（タイプ別装備）、ヘッドライトレベリング、およびインストルメント・パネルのイルミネーション操作を制御します。



A0216000248US

ヘッドライト・スイッチ

1 - インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロール
2 - ヘッドライト・レベリング・コントロール
3 - 回転式ヘッドライト・コントロール
4 - リヤ・フォグ・ライト・スイッチ
5 - フロント・フォグ・ライト・スイッチ

駐車灯やインストルメント・パネルの照明を点灯するには、ヘッドライト・スイッチを「O」（OFF）位置から最初のディテントまで時計回りに回します。ヘッドライト、駐車灯、インストルメント・パネルの照明を操作するには、ヘッドライト・スイッチを 2 番目のディテントまで回します。

ヘッドライトを点灯するとインストルメント・パネルと、インストルメント・パネルにあるコントロールの照明が点灯します。

デイタイム・ランニング・ランプ（DRL）- タイプ別装備

デイタイム・ランニング・ランプは、以下の条件を満たすと点灯します。

- イグニッション・スイッチが「ON/RUN（オン／走行）」位置になっているか、エンジンが回転している。
- サイド・ライトとヘッドライトが消灯している。
- エレクトロニック・パーキング・ブレーキがかかっていない。

デイタイム・ランニング・ランプが点灯し、ヘッドライトを点灯させるかイグニッションを「OFF（オフ）」位置にするまで点灯し続けます。

メモ：

- 車を購入した国の法規で認められている場合は、Uconnect システムを使用してデイタイム・ランニング・ランプを ON または OFF にできます ⇨ ページ 136。
- 一部の車両では、車両の一方の側（方向指示器の作動時）、または車両の両方の側（ハザード警告灯作動時）のデイタイム・ランニング・ランプが消灯したり、減光したりします。

ハイ・ビーム／ロー・ビーム・スイッチ

ハイ・ビーム・ヘッドライトを作動させるには、マルチファンクション・レバーを前方（車両前方側）に押すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示灯が点灯します。ハイ・ビーム・ヘッドライトの作動を解除するには、マルチファンクション・レバーを後方（車両後方側）に引きます。

メモ：

ハイ・ビームを作動させるには、ヘッドライト・スイッチをロー・ビーム位置にする必要があります。

オート・ハイ・ビーム・ヘッドライト制御 - タイプ別装備

オート・ハイ・ビーム・ヘッドライト制御システムは、フロントウィンドウに搭載されているデジタル・カメラによってハイ・ビームの切り替えを自動的に制御し、夜間の優れた前方照射性を実現します。このカメラは、車両特有の光を検知し、接近している車両が視界から消えるまでハイ・ビームをロー・ビームに自動的に切り替えます。

メモ：

- オート・ハイ・ビームを作動させるには、マルチファンクション・レバーをハイ・ビーム位置にする必要があります。オート・ハイ・ビーム・ヘッドライト制御のオン／オフは、Uconnect 設定で行えます ⇨ ページ 136。
- 視界にある他の車両のヘッドライトやテールランプが破損していたり、汚れていたり、異物で覆われていると、切り替わるタイミングが遅くなることがあります（切り替わる際の車間距離が短くなります）。また、フロントウィンドウやカメラのレンズが汚れていたり、膜が付いていたり、その他の異物があると、システムが正しく機能しません。

パッシング

マルチファンクション・レバーを軽く手前に引くと、周囲の車両にヘッドライトで合図することができます。レバーを放すまでハイ・ビーム・ヘッドライトが点灯し続けます。

オート・ヘッドライト - タイプ別装備

このシステムは、車外の明るさに応じてヘッドライトを自動的に点灯／消灯します。システムを ON にするには、ヘッドライト・スイッチをオート・ヘッドライトが作動する最後の停止位置まで時計回りに回します。オート・ヘッドライト・システムを ON にすると、ヘッドライトの消灯遅延機能も ON になります。つまり、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にしてから、最大 90 秒間ヘッドライトが点灯したままになります。オート・ヘッドライト・システムを OFF にするには、ヘッドライト・スイッチを「AUTO」位置から他の位置へ回します。

メモ：

オート・モードでヘッドライトが点灯するには、エンジンが作動している必要があります。

ヘッドライト消灯遅延

これは、暗い場所に駐車して車から離れるとき、安全のために最長 90 秒間ヘッドライトを点灯させておく機能です。ヘッドライト消灯遅延は、「Uconnect Settings（Uconnect 設定）」⇨ ページ 136 内で 0、30、60、90 秒間の中から設定できます。

消灯遅延機能を作動させるには、ヘッドライトを点灯させたまま、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にします。遅延消灯間隔は、ヘッドライト・スイッチがロー・ビーム位置から OFF になっている場合に開始します。ヘッドライト・スイッチが「AUTO（自動）」にあり、イグニッション・スイッチを OFF にする前にヘッドライトが点灯していた場合、遅延消灯間隔は自動的に開始します。

この機能はヘッドライトまたは駐車灯を点灯するか、イグニッションを「RUN（走行）」位置にすることで、無効になります。イグニッション・スイッチを ON にする前にライトを消灯すると、通常通り消灯します。

メモ：

この機能を作動させるには、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にして 45 秒以内にヘッドライトを消灯させる必要があります。イグニッションを「OFF（オフ）」位置にする前にヘッドライト・スイッチが「AUTO（オート）」位置になっていると、ヘッドライト・スイッチを OFF にしなくてもヘッドライト消灯遅延機能が作動します。

ライト消し忘れ警告アラーム - タイプ別装備

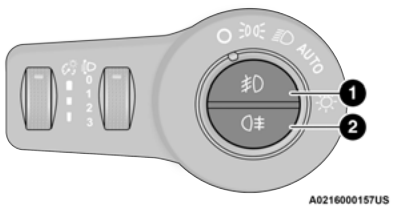
イグニッション・スイッチを「OFF」位置にした後も、ヘッドライトや駐車灯が点灯している場合、運転席ドアを開いたときにチャイムを鳴らして運転者に警告します。

メモ：

イグニッションが「OFF（オフ）」位置になった後で、ヘッドライトまたは駐車灯をつけたままにしておくと（車両がライト消し忘れ警告アラーム機能を非装備の場合）、車両バッテリが放電することがあります。

フロント・フォグ・ランプとリヤ・フォグ・ランプ - タイプ別装備

フォグ・ランプのスイッチは、ヘッドライト・スイッチに組み込まれています。



フォグ・ランプ・スイッチ

1 - フロント・フォグ・ランプ・スイッチ
2 - リヤ・フォグ・ランプ・スイッチ

フロント・フォグ・ランプを点灯するには、ヘッドライト・スイッチの上半分を押します。フロント・フォグ・ランプを消灯するには、ヘッドライト・スイッチの上半分をもう一度押します。

メモ：

フロント・フォグ・ランプを点灯させるには、あらかじめ駐車灯またはロー・ビーム・ヘッドライトを点灯しておく必要があります。

リヤ・フォグ・ランプを点灯するには、ヘッドライト・スイッチの下半分を押します。リヤ・フォグ・ランプを消灯するには、ヘッドライト・スイッチの下半分をもう一度押します。

メモ：

リヤ・フォグ・ランプを点灯させるには、あらかじめロー・ビーム・ヘッドライトまたはフロント・フォグ・ランプを点灯しておく必要があります。車両がリヤ・フォグ・ランプのみを装備している場合、ヘッドライト・スイッチの中央の位置で利用できるボタンは 1 つしかありません。1 回押すとリヤ・フォグ・ランプは点灯し、もう 1 回押すとリヤ・フォグ・ランプは消灯します。

フォグ・ランプを点灯すると、インストルメント・パネル内の表示灯が点灯します。

方向指示灯

マルチファンクション・レバーを上または下に動かすと、方向指示器が作動します。インストルメント・パネル・ディスプレイの両側にある矢印が点滅すれば、正常に動作しています。

メモ：

- 矢印の表示灯が点灯したままで点滅しない場合、または点滅の間隔が短くなった場合は、方向指示灯の電球に不具合がないか確認してください。
- どちらかの方向指示器が ON の状態で 1.6km（1 マイル）以上走行すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Turn Signal On（方向指示器 ON）」のメッセージが表示され、チャイムが鳴り続けます。

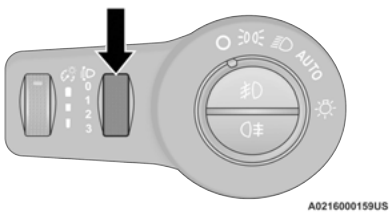
車線変更補助

マルチファンクション・レバーを、停止位置を越えることなく上または下に押すと、方向指示器が 5 回点滅し、自動的に消灯します。

ヘッドライト・レベリング・システム - タイプ別装備

このシステムにより、車の積載量に関係なく前照灯のヘッドライト照射位置を路面の適切な位置に保つことができます。

このコントロール・スイッチは、インストルメント・パネル上のイルミネーション・コントロールの隣に位置しています。



ヘッドライト・レベリング・スイッチ

操作する場合、次表の積載条件に合わせて番号を選び、コントロール・スイッチを回して合わせます。

レベル	荷重
0/1	運転席のみ、または運転席と助手席に乗員がいる。
2	すべての座席に乗員がおり、さらにラゲッジ・ルームに均一に荷物が置かれている。乗員と荷物の合計重量が車の最大積載量を超えていない。
3	運転者がいて、ラゲッジ・ルームに均一に荷物が置かれている。運転者と荷物の合計重量が車の最大積載量を超えていない。

バッテリ節電機能

バッテリを保護するために、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にしてから 15 分後に室内灯は自動的に消灯します。このように室内灯が自動的に消灯するのは、手動で点灯した場合やドアが開いているために点灯した場合です。

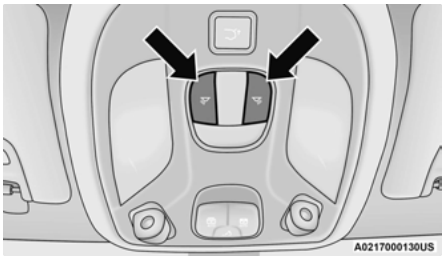
室内灯

室内灯

室内灯は、フロント・ドアを開けたとき、またはイルミネーション・コントロールを上端の停止位置まで回したときに点灯します。

メモ：
- 室内灯機能は「Uconnect Settings（Uconnect 設定）」 ⇨ ページ 136 から作動または解除できます。
- 機能が作動しているときにドアを開くと、5 秒間延長して点灯します。
- 車両が施錠されているか、イグニッションが「ON/RUN（オン／走行）」に配置されている場合、機能は解除されます。

フロント・マップ・ランプ／読書灯は、オーバーヘッド・コンソールの中央にあるスイッチで点灯します。



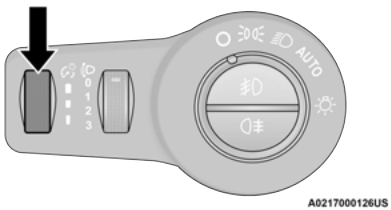
オーバーヘッド・ライト・スイッチ

バッテリを保護するために、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置に回してから 15 分後に室内灯は自動的に消灯します。このように室内灯が自動的に消灯するのは、手動で点灯させた場合やドアが開いているために点灯した場合です。室内灯にはグローブ・ボックス・ライトおよびカーゴ・エリア・ライトも含まれます。室内灯を再度点灯させるには、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にするか、ライトのスイッチを押してオンにしてからオフに戻します。

インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロール

インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロールはヘッドライト・スイッチの一部で、インストルメント・パネルの運転席側にあります。

駐車灯またはヘッドライトが点灯している場合**のみ、かつ**内蔵インストルメント・パネル・ライト・センサが、バックライトを有効にする必要があるほど周囲の明るさが低下していると判断した場合**のみ**、インストルメント・パネルのイルミネーション・コントロールを上か下に回すと、インストルメント・パネルの照明の明るさを調整できます。



インストルメント・パネルのイルミネーション

アンビエント・ライト・コントロール–タイプ別装備

アンビエント・ライト設定は Uconnect 設定 ⇨ ページ 136 から変更でき、オーバーヘッド・コンソールにあるアンビエント・ライト、ドア・ハンドル・ライト、インストルメント・パネル下側の照明、ドア・マップ・ポケット・ライト、収納ボックス・ライトの明るさを調整します。

アンビエント・ライトは、ヘッドライト点灯時のみ有効になります。

イルミネーテッド・エントリ - タイプ別装備

イルミネーテッド・エントリ機能では、車両がキー・フォブまたはパッシブ・エントリ（タイプ別装備）を使用して解錠している場合、方向指示器灯、駐車灯を約 25 秒間点灯させることができます。

この機能は、Uconnect 設定の「Lights（照明）」メニュー、「Illuminated Entry（イルミネーテッド・エントリ）」メニューでオン／オフを切り替えることができます ⇨ ページ 136。

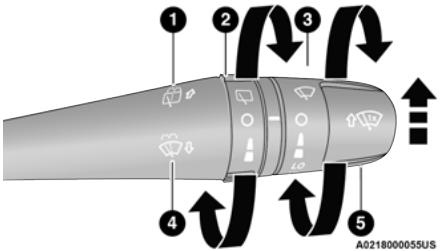
メモ：
- 車両が施錠されているか、イグニッションが「ON/RUN（オン／走行）」に配置されている場合、機能は解除されます。
- 機能が作動しているときにドアを開くと、5 秒間延長して点灯します。

フロントウィンドウ・ワイパおよびウォッシャ

フロントウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ・コントロールは、ステアリング・コラム右側のフロントウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ・レバーにあります。フロントウィンドウ・ワイパは、レバー端部にあるスイッチを回して操作します。リヤ・ワイパ／ウォッシャの詳細については、⇨ ページ 41。

フロントウィンドウ・ワイパの作動

レバーの先端を、最初にある間欠ワイパ設定の 2 つの停止位置のいずれかまで回します。1 つ目の間欠ワイパの間隔は 10 秒です。2 つ目の間欠ワイパの間隔は車速に応じて決まります。3 つ目の停止位置まで回すとワイパは低速で作動し、4 つ目の停止位置まで回すと高速で作動します。



フロントウィンドウ・ワイパの作動

1 - レバーを前方に押し続ける（リヤ・ウォッシャ）
2 - 回す（リヤ・ワイパの作動）
3 - 回す（フロント・ワイパの作動）
4 - レバーを手前に引き続ける（フロント・ウォッシャの作動）
5 - レバーを上に押す（ミスト）

注意!

積雪時にはフロントウィンドウ・ワイパ・ブレードが停止位置に戻るように、フロントウィンドウに積もった雪を必ず取り除いてください。フロントウィンドウ・ワイパ・ス

(続き)

注意!

イッチを OFF にしてもブレードが停止位置に戻らない場合、ワイパ・モータが損傷する恐れがあります。

フロントウィンドウ・ウォッシャの操作

レバーを手前に引くと、ウォッシャ液が噴射されます。間欠設定で作動しているときにレバーを引くと、レバーを放した後にワイパが数回作動し、以前に選択した間欠作動に戻ります。

ワイパが OFF の状態でレバーを引くと、ワイパが数回作動して停止します。

メモ :

ポンプ・モータ保護のため、スイッチを 20～30 秒以上保持した場合はポンプが停止します。レバーを放すと、ポンプは通常の作動に戻ります。

警告!

フロントウィンドウの視界不良は、衝突事故につながります。他車や障害物を認識できません。寒冷時にフロントウィンドウが突然氷結しないように、ウォッシャを使用する前にはデフロスタでフロントウィンドウを温めてください。

ミスト

レバーを「MIST（ミスト）」位置まで押し上げて放すと、ワイパが 1 回作動します。

メモ :

ミスト機能ではウォッシャ・ポンプは作動しないため、フロントウィンドウにウォッシャ液は噴射されません。フロントウィンドウにウォッシャ液を噴射するには、ウォッシュ機能を使用してください。

ワイパのお手入れと交換については、⇨ ページ 218 を参照してください。

雨量感知機能ワイパ - タイプ別装備

これはフロントウィンドウへの降雨や降雪の付着を感知して、自動的にワイパを作動させる機能です。マルチファンクション・レバーの端を 2 つのディテント位置のいずれかの位置まで回すと、この機能が作動します。

このシステムの感度は、マルチファンクション・レバーで調節することができます。ワイパ遅動位置 1 が最も感度が低く、ワイパ遅動位置 2 が最も感度が高くなります。ワイパを使用しない時には、ワイパ・スイッチを「0（OFF）」位置にしてください。

メモ :

- 雨量感知機能は、ワイパ・スイッチが「LOW（遅い）」または「HIGH（速い）」の速度位置にある場合は作動しません。
- 雨量感知機能は、氷または乾燥した塩水がフロントウィンドウに付着していると正常に作動しない場合があります。
- ワックスまたはシリコンを含有する製品を使用すると、雨量感知性能が低下する場合があります。
- 雨量感知機能は、Uconnect 設定によりオン／オフを切り替えることができます ⇨ ページ 136。

ワイパ・ブレードおよびワイパ・アームを保護するため、下記条件が当てはまる場合、雨量感知機能は作動しません。

- **イグニッション位置の変更** – 雨量感知モードを有効にしているときにイグニッションを「OFF（オフ）」から「ON（オン）」に回しても、車速が 5km/h（3mph）を上回る

か、ワイパ・スイッチを間欠作動以外の位置にしてから間欠作動位置に戻すまで、自動ワイパは作動しません。

- **トランスミッションが「N（ニュートラル）」位置にある** - 速度が 5km/h（3mph）以下の場合に「N（ニュートラル）」ギヤが選択されている場合、ワイパ・スイッチを動かすか、ギヤ・セレクタを「N（ニュートラル）」以外へ動かすまで、雨量感知システムは作動しません。

リヤ・ウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ

リヤ・ウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ・コントロールは、ステアリング・コラムの右側のフロントウィンドウ・ワイパ／ウォッシャ・レバーにあります。リヤ・ウインドウ・ワイパ／ウォッシャは、レバーの中央にあるスイッチを回して操作します。

リヤ・ワイパには作動モードがいくつかあります。

- 間欠モード
- 同期モード（フロントウィンドウ・ワイパが作動しているときは、フロントウィンドウ・ワイパの半分の速度）
- 連続モード
- 車両が「R（リバース）」のとき：フロント・ワイパが作動しているときに「R（リバース）」ギヤを選択すると、ワイパは 1 回だけ往復作動します。



レバーの中央部を上に回して最初の停止位置にするとリヤ・ウィンドウ・ワイパが間欠作動になり、2 番目の停止位置にすると連続作動になります。



ウォッシャを使用するには、噴射したいだけレバーを押し続けてください。ワイパが「OFF」の状態でレバーを押すと、ワイパが数回作動して停止します。

間欠設定で作動しているときにレバーの先端を押すと、ワイパが ON になり、レバーの端を放した後にワイパが数回作動し、以前に選択した間欠作動に戻ります。

メモ：
ポンプ・モータ保護のため、スイッチを 20～30 秒以上保持した場合はポンプが停止します。レバーを放すと、ポンプは通常の作動に戻ります。

ヒータ／エアコン

ヒータ／エアコン・システムにより、車内を循環している空気の温度、流れ、方向を調節できます。スイッチは、タッチスクリーンおよびインストルメント・パネルのラジオの下にあります。

オート・ヒータ／エアコンの説明および機能



Uconnect 5（10.1 インチ・ディスプレイ装備車）のオート・ヒータ／エアコン・コントロール

「MAX A/C（急速冷房）」ボタン



タッチスクリーンの「MAX A/C（急速冷房）」ボタンを押して放すと、送風温度が現在の設定から最も低温に変わります。「MAX A/C（急速冷房）」を「ON（オン）」にすると「MAX A/C（急速冷房）」インジケーターが点灯します。このボタンをもう一度押すと、「MAX A/C」の作動が終了します。他の設定を押すと、「MAX A/C（急速冷房）」が終了します。

「MAX A/C」は、最大の冷却性能を可能にする設定です。

メモ：
「MAX A/C（急速冷房）」ボタンは、タッチスクリーンでのみ使用できます。

「A/C（エアコン）」ボタン



現在の設定を変更するには、タッチスクリーンの「A/C（エアコン）」ボタンを押して放すか、フェイスプレートにあるボタンを押します。「A/C（エアコン）」を「ON（オン）」にすると「A/C（エアコン）」インジケーターが点灯します。

エアコン（A/C）ボタンを使用して、手動でエアコン・システムの作動または解除を行うことができます。エアコン・システムをオンにすると、除湿された空気が吹き出し口から車内に出てきます。

エアコンの性能が十分でないときは、ラジエータの前にあるエアコンのコンデンサの前面が、汚れや虫などで詰まっていないか点検してください。ラジエータの前からコンデンサへ適度な水圧で水をかけて清掃してください。問題が解決できない場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

内気循環ボタン



内気循環モードと外気モードの間でシステムを切り替えるには、タッチスクリーンのこのボタンを押して放す、またはフェイスプレートにあるボタンを押します。内気循環ボタンを押すと、「Recirculation（内気循環）」インジケーターと「A/C（エアコン）」インジケーターが点灯します。内気循環は、外部に煙、悪臭、または砂埃が立ち込めている、または高い湿度の時に使用できます。内気循環は、すべてのモードで使用できます。フロントウィンドウの内側が曇る状態になっている場合は、内気循環が使用できなくなっている可能性があります（タッチスクリーンのボタンがグレー表示になります）。モード・コントロールの選択に影響を与えずに、A/C システムの選択を手動で解除することができます。内気循環モードを連続使用すると、車内の空気がこもってウィンドウが曇ることがあります。このモードの長時間の使用は、避けてください。暖房、冷房、除湿など、お客様の体感を最適化するため、内気循環モードは自動的に調整される場合があります。

気温が低いときに内気循環モードを使うと、ウインドウが著しく曇ることがあります。フロントウィンドウの内側が曇る状態になっている場合は、内気循環機能が使用できなくなっている可能性があります。

メモ：
25 分間連続して使用すると、内気循環モードは自動的に 2 分間停止し、適切な酸素濃度を維持するために室内に外気を取り入れます。

「AUTO（オート）」ボタン



内気循環モードと外気モードの間でシステムを切り替えるには、タッチスクリーンのこのボタンを押して放す、またはフェイスプレートにあるボタンを押します。「AUTO（オート）」をオンにすると「AUTO（オート）」インジケーターが点灯します。この機能は送風口の選択と送風量を調節して、車内の温度を自動的に制御します。自動運転中は、性能向上のためエアコン（A/C）が作動する場合があります。この機能を切り替えると、システムが手動操作モードと自動モードの間で切り替わります ⇨ ページ 44。

「MAX Defrost（急速デフロスタ）」ボタン



「MAX Defrost（急速デフロスタ）」ボタンを押すと、現在の送風設定がデフロスタ・モードに変わります。この機能がオンのときはインジケーターが点灯します。この機能を使用すると、オート・ヒータ／エアコンが手動モードに切り替わります。「MAX Defrost（急速デフロスタ）」モードを選択すると、ファン・スピードが最高（すべての LED オン）になり、エアコンのコンプレッサがオン（LED オン）になり、運転席と助手席両方の温度コントロールが「HI（高）」に設定され、「Defrost（デフロスタ）」モードが選択され（LED オン）、リヤ・デフロスタがオンになり（LED オン）、内気循環がオフ（LED オフ）になります。「MAX Defrost（急速デフロスタ）」モードをオフにすると、ヒータ／エアコン・システムは前の設定に戻ります。

リヤ・デフロスタ・ボタン



リヤ・ウインドウ・デフロスタおよびヒーテッド・ドア・ミラー（タイプ別装備）を ON にするには、タッチスクリーンのボタンを押して放すか、フェイスプレートのボタンを押して放します。リヤ・ウインドウ・デフロスタがオンのとき、「Rear Defrost（リヤ・デフロスタ）」インジケーターが点灯します。リヤ・ウインドウ・デフロスタは 10 分作動した後自動的にオフになります。

メモ：
初めてタイムアウトした後にリヤ・デフロスタをオンにすると、5 分間作動した後自動的にオフになります。

注意!

これらの注意事項に従わないと、電熱線が損傷する恐れがあります。

- リヤ・ウインドウの内側を清掃する際は注意してください。リヤ・ウインドウの内側表面に研磨剤入りのウインドウ・クリーナを使用しないでください。柔らかい布と中性洗剤液を使用して、電熱線と平行に拭きます。ガラスの上のラベルは、お湯に浸すと剥がせます。
- リヤ・ウインドウの内側表面にスクレーパ、尖った工具、研磨剤入りのウインドウ・クリーナを使用しないでください。
- ウインドウの近くに物を置かないでください。

運転席側および助手席側温度コントロール・ボタン

これらのボタンにより、運転者および助手席の乗員が独立して温度を制御できます。上矢印を押すと温度が上がり、下矢印を押すと温度が下がります。

Sync（同期）ボタン



タッチスクリーンの「Sync（同期）」ボタンを押して、Sync 機能のオン／オフを切り替えます。「Sync（同期）」をオンにすると「Sync（同期）」インジケータが点灯します。Sync（同期）は助手席の温度設定を運転席の温度設定に同期させるために使用します。Sync（同期）中に助手席の温度設定を変更すると、この機能は自動的に終了します。

メモ：
「Sync（同期）」ボタンはタッチスクリーンでのみ利用できます。

ファン・スピード・スイッチ



ファン・スピード・コントロールは、ヒータ／エアコン・システムを通過する空気の量を調整するために使用します。ファン・スピードは 7 段階あります。ファン・スピードを調整すると、自動モードは手動操作に自動的に切り替わります。ファン・スピードは、フェイスプレートのファン・スピード・スイッチ・ノブまたはタッチスクリーンのボタンを使用して選択できます。

フェイスプレート

ファン・スピード・コントロール・ノブを最も遅いファン・スピード設定から時計回りに回すと、ファン・スピードが速くなります。ファン・スピード・スイッチ・ノブを反時計回りに回すと、ファン・スピードは遅くなります。

タッチスクリーン

ファン・スピードを遅くするには、小さいファン・アイコンを使用し、ファン・スピードを速くするには、大きいファン・アイコンを使用します。アイコンの間にあるファン・スピード・エリアを押してファン・スピードを選択することもできます。

モード・コントロール

モード・コントロールは送風量を調節します。インストルメント・パネル吹き出し口、フロア吹き出し口、デフロスタ吹き出し口、デミスタ吹き出し口から送風されるように風向きを調節できます。

フェイスプレート

「Modes（モード）」ボタンを回して風向きのモードを変更します。

タッチスクリーン

「MODE（モード）」ボタンの 1 つを押して、風向きのモードを変更します。

パネル・モード



風はインストルメント・パネルの吹き出し口から送られます。それぞれの吹き出し口でそれぞれ風の方向を調節することができます。中央吹き出し口と外側の吹き出し口の風向板を上下左右に動かして、風向きを調節することができます。風向板の下に送風遮断ホイールがあり、これを回して各吹き出し口からの送風を遮断したり、送風量を調節することができます。

バイレベル・モード



インストルメント・パネルの両方の吹き出し口、フロアの吹き出し口から送風されます。デフロスタおよびドアウィンドウ・デミスタ吹き出し口からも少量の送風があります。

メモ：

バイレベル・モードでは、快適な条件下でパネルの吹き出し口から冷気が、フロアの吹き出し口から暖気が吹き出るようになっています。

フロア・モード



フロアから送風されます。デフロスタ、ドアウィンドウ・デミスタ、およびパネルドア側の吹き出し口からもわずかに送風されます。

デフロスタ・モード



フロントウィンドウおよびドアガラス・デミスタ吹き出し口から送風されます。デフロスタを選択すると、ファン・スピードが増す場合があります。温度を最高に設定してこのモードを使用すると、フロントウィンドウとドアウィンドウの曇りや湿気が良く取れます。フロント・デフロスタ・モード・ボタンを切り替えると、ヒータ／エアコン・システムは直前の設定に戻ります。

ミックス・モード



フロア、デフロスタ、ドアウィンドウ・デミスタの吹き出し口から送風されます。この設定は、フロントウィンドウを温かくする必要がある寒い雪の降る天候時に最も効果的です。この設定はフロントウィンドウの水分を取り除いて、快適さを維持するのに適しています。パネルドア側の吹き出し口から少量の送風があります。

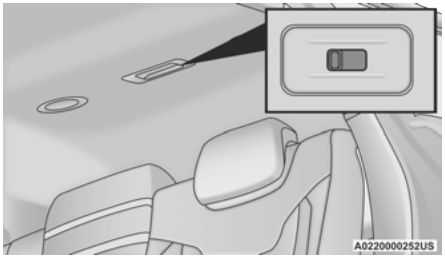
「エアコン OFF」ボタン

ヒータ／エアコンをオンまたはオフにするには、OFF ボタンを押して放します。

リヤ・エアコン・コントロール – タイプ別装備

リヤ・エアコン（A/C）コントロール・スイッチ（タイプ別装備）は、3 列目シートの上、シーリング・ベントの間にあります。

このコントロール・スイッチは、フロント・ヒータ／エアコンから A/C をオンにしたときにリヤ吹き出し口を通過する空気の量を調整します。



リヤ・エアコン・コントロール・スイッチ

ファン・スピードはファン・スピード 1（最低速度）から 3（最高速度）まで調節できます。コントロール・スイッチが「OFF（オフ）」位置にある場合、リヤ吹き出し口から空気は流れません。

メモ：
吹き出し口からの気流は、吹き出し口を手動で希望の位置に閉じるか、吹き出し口を回転させて気流を乗員に向けて調節することもできます。リヤ A/C は、フロント・ヒータ／エアコンから A/C をオンにしたときのみ冷気になります。

自動温度コントロール

オート操作

1. フェイスプレートの「AUTO（オート）」ボタンを押すか、自動温度コントロール・パネルのタッチスクリーンの「AUTO（オート）」ボタンを押します（タイプ別装備）。
2. 次に、温度コントロール・ボタンを調節して、維持したい温度に合わせます。希望の温度が表示されたら、システムは自動的にその車内温度に調節して維持します。
3. 希望の温度にシステムが設定されたら、設定を変更する必要はありません。システムが自動的に機能し、効率よく温度を調節することができます。

メモ：
- 車両の温度に応じて温度設定を操作する必要はありません。快適な状況をできるだけ早く提供するために、システムは自動的に温度、モードおよびファン・スピードを調整します。
- U.S.単位またはメートル法顧客別プログラム機能を選択して、温度を U.S.単位またはメートル法単位で表示できます。

自動モードでできるだけ快適な環境を実現するため、低温での始動時には、エンジンが暖まるまで送風ファンは低速のままになります。しだいにファンの回転が速くなり、AUTO モードに切り替わります。

手動操作オーバーライド

このシステムは、優先的に手動操作で作動させることができます。システムが手動モードで使用されている場合、フロントの自動温度コントロール・ディスプレイ内の AUTO 表示が消灯します。

エアコン・ボイス・コマンド

室内温度をハンズ・フリーで調整し、車内の全員が快適に過ごすことができます。

ステアリング・ホイールの「VR（音声認識）」ボタンを押します。ビープ音の後、以下のコマンドのいずれかを発声してください。

- 「Set the driver temperature to **[Desired Temperature]** degrees（運転席温度を[希望の温度]度に設定）」
- 「Set the passenger temperature to **[Desired Temperature]** degrees（助手席温度を[希望の温度]度に設定）」

エアコンのボイス・コマンドは、車両の室内温度の調整にのみ使用できます。ボイス・コマンドは、シート・ヒータまたはヒーテッド・ステアリング・ホイール（タイプ別装備）の温度調整には使用できません。

操作のヒント

異なる天候状況での推奨コントロール設定については、本セクションの最後にあるチャートを参照してください。

夏季の操作

エンジン冷却装置は、腐食やオーバーヒートを防ぐため、高品質の不凍液によって保護する必要があります。OAT クーラント（MS.90032 に準拠）をお勧めします。

冬季の操作

ヒータやデフロスタのパフォーマンスを最適に保つには、エンジン冷却装置が正常に動作していることと、使用されているクーラントの量、種類、濃度が適切であることを確認してください。冬季の内気循環モードの使用は避けてください。ウインドウガラスが曇りやすくなります。

長期間使用しない場合

長期間の保管時のエアコン・システムのメンテナンスについては、⇨ ページ 244 を参照してください。

ウィンドウ・ガラスの曇り

雨の日や湿度の高い日には、ウインドウの内側が曇りやすくなります。ウインドウ・ガラスの曇りを取るには、デフロスタ・モードまたはミックス・モードを選択し、フロントのファン・スピードを上げてください。エアコンを作動させ

ないまま内気循環モードを長時間使わないでください。ウインドウ・ガラスが曇りやすくなります。

外気取り入れ口

フロントウィンドウの正面にある外気取り入れ口が、落ち葉などでふさがれていないか確認してください。異物が送風ボックスにたまると通風量が減り、また中に入ると水の排出口をふさぐことがあります。冬季は外気取り入れ口の氷雪などを取り除いてからご使用ください。

室内エア・フィルタ

ヒータ／エアコン・システムは、空気中の埃および花粉をフィルタに通して除去します。室内エア・フィルタの整備を行うには、正規ディーラーにお問い合わせいただき、必要に応じて交換してください。

START&STOP システム – タイプ別装備

START&STOP システムが作動しているときは、ヒータ／エアコン・システムは自動的に風量を調節し、車内を快適に保ちます。エンジンを再度始動させた場合も、ユーザー設定は維持されます。

「操作のヒント」チャート

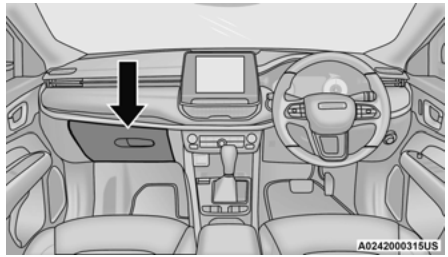
天候	コントロール設定
気温が高く、車内の温度も高い日	モード・コントロールを（パネル・モード）、A/C（エアコン）オン、ファン高速にします。少しの間ウインドウを開けて、熱い空気を逃がします。快適になるよう必要に応じてコントロールを調節します。
温かい日	A/C（エアコン）をオンに、モード・コントロールを（パネル・モード）にします。
晴天だが涼しい日	（バイレベル・モード）で作動させます。
涼しいが湿気が多い日	モード・コントロールを（ミックス・モード）にしてA/C（エアコン）をオンにし、窓ガラスが曇らないようにします。
寒冷地	モード・コントロールを（フロア・モード）にします。フロントウィンドウが曇るようであれば、モード・コントロールを（ミックス・モード）にします。

室内収納および機器

ストレージ

グローブ・ボックス

グローブ・ボックスは、インストルメント・パネルの助手席側にあります。



グローブ・ボックス

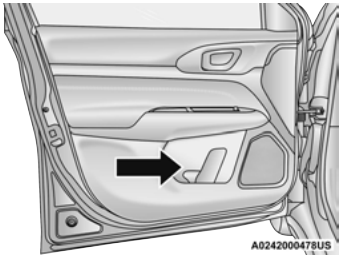
グローブ・ボックスを開くには、リリース・ハンドルを引きます。

警告!
グローブ・ボックスを開けたままで車両を運転しないでください。グローブ・ボックスを開いたままで車両を運転すると、衝突の際にけがをする恐れがあります。

ドアの小物入れ

フロント・ドアの小物入れ

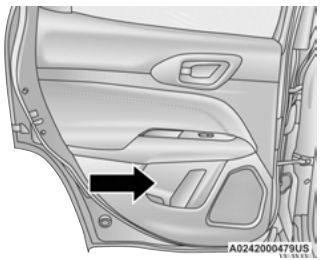
ドア・トリム・パネルにある収納場所です。



フロント・ドアの小物入れ

リヤ・ドアの小物入れ

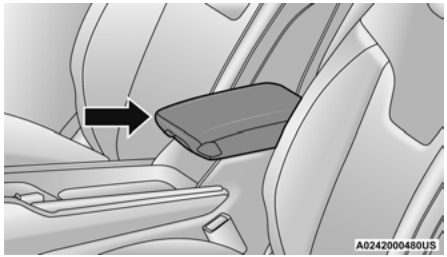
ドア・トリム・パネルにある収納場所です。



リヤ・ドアの小物入れ

コンソール・ストレージ・コンパートメント

開くには、ラッチを引き上げてカバーを持ち上げます。



センタ・コンソール

センタ・コンソールには、携帯電話、携帯情報端末などの小物を入れるためのストレージ・スペースがあります。センタ・コンソールは前後にスライドさせることができ、快適に使用できます。

警告!
コンソールの小物入れのカバーを開けたままで車両を運転しないでください。コンソールの小物入れのカバーを開いたままで車両を運転すると、衝突の際にけがをする恐れがあります。

Flip 'n Stow（フリップインストウ）助手席ストレージ – タイプ別装備

一部のモデルでは、助手席シート・クッションの下にストレージが装備されています。ストレージ・コンパートメントを開くには、シート・クッション・ループを上に引きます。

メモ：
シートを閉じるとき、収納スペース内の物がラッチの邪魔になっていないか確認してください。シート・クッションを閉じた後で下に向けて押して、しっかりとラッチを掛けてください。

警告!
シートを使用する前に、シート・クッションが所定の位置にしっかり固定されていることを確認してください。そうしない場合、乗員が安定して座ることができません。シート・クッションが適切に固定されていない場合、重傷につながる恐れがあります。

USB コントロール

センタ・コンソールには、USB タイプ A および USB タイプ C ポートがあります。この機能では、外部機器を USB タイプ A または USB タイプ C ポートに接続できます。接続ケーブルを使用して、外部 USB 機器を車両の USB タイプ A または USB タイプ C コネクタ・ポート（センタ・コンソールにあります）に接続します。

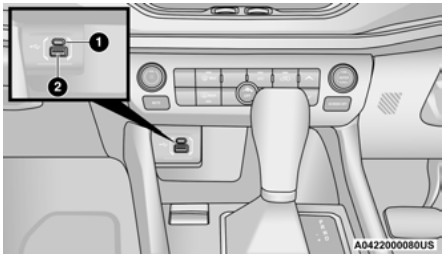
スマートフォン機器を USB ポートに接続すると、Apple CarPlay®機能（タイプ別装備）を作動できます。詳細については、Uconnect ラジオ取扱説明書の「Apple CarPlay®」を参照してください。

外部 USB 機器を使用して、USB タイプ A または USB タイプ C ポートに接続し、次のことができます。

- メタデータ（アーティスト、トラック・タイトル、アルバムなど）の情報をオーディオ・ディスプレイに表示させながら、オーディオ機器を車のサウンド・システムで再生できます。

  メモ：
  トラック設定によっては、トラック情報がオーディオ・ディスプレイにない場合があります。

- オーディオ・ボタンを使用すると、コンテンツの再生、閲覧、一覧表示などの操作ができます。
- オーディオ機器のバッテリは、USB コネクタに接続すると充電されます（オーディオ機器がサポートされている場合）。



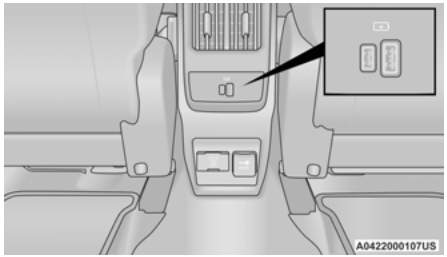
センタ・コンソールの USB/AUX ポート

1 – USB（タイプ C）ポート
2 – USB（タイプ A）ポート

メディア・ハブ上の USB ポートには、スマート・エレクトロニック電圧レギュレータ（スマート・チャージャ）機能が装備されています。この機能により、車両をオフにしてから最長 1 時間、機器を充電することができます。

メモ：
対応していない機器は、充電専用 USB ポートで充電します。対応していない機器がメディア USB ポートに接続されていると、システムが機器に対応していないというメッセージがタッチスクリーンに表示されます。

センタ・コンソールの後方に、タイプ A USB ポートとタイプ C USB ポートがもう 1 つある場合があります（タイプ別装備）。



充電専用 USB ポート

2 列目の USB タイプ A 充電ポートは、充電専用として使用できます。接続ケーブルを使用して、外部 USB 機器を車両の USB 充電ポート（フロント・センタ・コンソールの後部や 2 列目センタ・コンソールにあります）に接続します。

メモ：
詳細は、Uconnect ラジオ取扱説明書を参照してください。

電源アウトレット - タイプ別装備

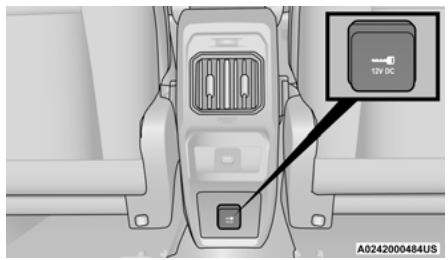
携帯電話、小型電子機器、およびその他の低消費電力のアクセサリ機器に電源を供給できる 12V（13A）の電源アウトレットを使用できます。電源アウトレットには電源供給方法を示す「キー」または「バッテリ」のマークが付いています。キーのマークが付いた電源アウトレットは、イグニッションが「ON/RUN（オン／走行）」位置にあるときに電源が供給され、バッテリのマークが付いたアウトレットはバッテリに直接接続されており、常時電源が供給されています。

メモ：
車両を使用しないときは、バッテリから電源が供給されるソケットに接続されているすべてのアクセサリ機器は取り外すか電源を切り、バッテリの放電を防ぐ必要があります。

注意!

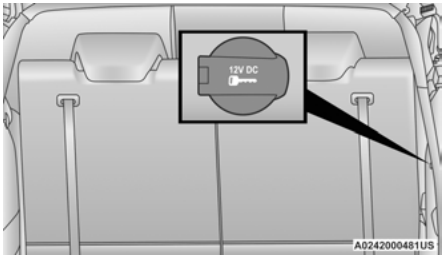
電源ソケットはアクセサリ・プラグ専用に設計されています。電源ソケットにはその他の物を挿入しないでください。ソケットを損傷し、ヒューズが飛ぶ場合があります。電源ソケットの使い方を誤ると新車保証の対象外の損傷を引き起こす恐れがあります。

フロント・センタ・コンソールの後ろ側に 12V 電源アウトレットがある場合があります。



センタ・コンソールの後ろ側電源アウトレット - タイプ別装備

右側のリヤ・カーゴ・エリアに 12V 電源アウトレットがある場合もあります。



リヤ・カーゴ・エリアの電源アウトレット - タイプ別装備

メモ：

リヤ・カーゴ・エリアの電源アウトレットは、イグニッションのみによる電源供給から、バッテリ電源にいつでも切り替えることができます（タイプ別装備）。詳細は、正規ディーラーにお問い合わせください。

警告!

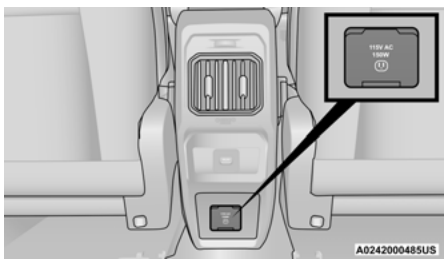
重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- 12V ソケットには、このタイプのソケット専用の機器のみを挿入してください。
- 濡れた手で触らないでください。
- 走行しているとき、および使用していないときは、キャップを閉めてください。
- ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

注意!

- プラグ接続タイプのほとんどのアクセサリ部品（携帯電話など）は、使用中以外もバッテリ電源を消費します。長時間プラグを差し込んだままにしておくと、車のバッテリが放電してバッテリの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
- 電力を大量消費するアクセサリ部品（クーラ、掃除機、ライトなど）は、バッテリの寿命をさらに縮めます。このようなアクセサリ部品は、注意を払って断続的に使用してください。
- 電力を大量消費するアクセサリ部品を使用した後や、電源プラグを差し込んだまま長期間エンジンを始動しなかった場合は、車両を十分な時間走行させ、バッテリを充電してください。

パワー・インバータ – タイプ別装備



パワー・インバータの位置

115 ボルト、150 ワットのインバータのコンセントがセンタ・コンソールの背面にあり、DC 電流を AC 電流に変換します。携帯電話、電子機器、およびその他の低消費電力の機器に最大 150 ワットまでの電力を供給することができます。大部分の電動工具に加え、一部のゲーム機はこの電力制限を超えてしまいます。

機器のプラグを差し込むだけで、パワー・インバータ・コンセントがオンになります。機器のプラグを抜くと、コンセントが自動的にオフになります。

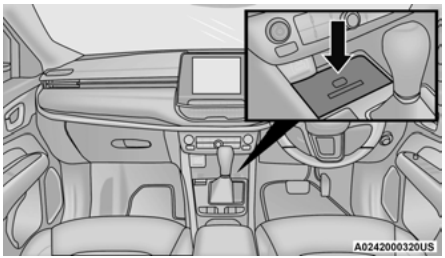
パワー・インバータは過負荷保護装置を内蔵した設計です。150 ワットの電力定格を超えると、パワー・インバータは自動的に停止します。電気装置をコンセントから外すと、インバータは自動的にリセットされます。回路の過負荷を避けるため、インバータを使用する前に電気装置の電力定格を確認してください。

警告!

重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- コンセントにいかなる異物も挿入しないでください。
- 濡れた手で触らないでください。
- 使用していないときは蓋を閉めてください。
- ソケットの扱いを誤ると、感電や心臓麻痺を起こす恐れがあります。

ワイヤレス・チャージング・パッド タイプ別装備



ワイヤレス・チャージング・パッド

車両によっては、センタ・コンソール下部の収納部に15W 3A の Qi®ワイヤレス・チャージング・パッドが装備されています。このチャージング・パッドは、お使いの Qi® 対応の携帯電話を無線で充電するためのものです。Qi® とは、ご使用の携帯電話の無線充電が可能になる規格です。

画像のように、マットで区切られた位置に機器を置きます。置く位置が正しくないと、携帯電話は充電されません。

LED 表示灯の状態:

- 消灯:チャージング・パッドがアイドル状態か、デバイスを検索しているか、デバイスが Qi®規格に対応していない可能性があります。
- 青色のライトが点灯:機器が検知され充電中です。
- 赤色のライトが点灯／点滅:内部エラーまたは異物が検出されています。
- 緑色のライトが点灯:機器のバッテリ充電が完了しています(この情報を送信する機能が機器に備わっている場合)。

車両のワイヤレス・チャージング・パッドに関する重要な注意事項:

- スマートフォンで近距離無線通信(NFC)機能が有効になっている場合、故障が通知されることがあります。
- 無線充電機器に NFC アンテナが搭載されている場合、iPhone®の「Apple Pay Wallet」機能が有効になることがあります。これによって支払い機能に影響が出たり、充電が中断されたりすることはありません。
- 携帯電話を充電するには、イグニッションを「ON/RUN(オン／走行)」位置にして、すべてのドアを閉じる必要があります。
- キー・フォブ検索との干渉を避けるため、車両が作動していても、ドアやリフトゲートが開かれるとワイヤレス・チャージング・パッドは充電を停止します。
- ワイヤレス・チャージング・パッドにモバイル機器を正しく(ディスプレイを上向きにし、携帯電話が LED を覆わないように)置いてください。
- 電話機がパッド上で動いて赤色のライトが点灯してしまったら、電話機を持ち上げてチャージング・パッドに置き直し、充電を再開させる必要があります。
- 無線充電は、電話を有線の充電器に接続している場合ほど速くはありません。
- 携帯電話の保護ケースによっては、充電に影響が出る場合があります。厚いケースや未認証のケースが原因で充電できない場合は、ワイヤレス・チャージング・パッドに置く前にケースを取り外すことをお勧めします。
- Magsafe®を搭載した iPhone®は、充電機能に影響を与えることや、携帯電話の温度上昇の原因になることがあります。
- 電話をワイヤレス・チャージング・パッドに置く際は、充電部分がシステムの充電コイルと接続するよう、必ずパッドに示されたアウトライン内に置く必要があります。充電中に電話を動かすと、充電されなくなったり、充電速度が遅くなる場合があります。
- 充電中に複数のアプリケーションを開いていると携帯電話が過熱することがあり、充電速度が低下し、アクティブに動作しているアプリケーション(Android Auto™ や Apple CarPlay®など)がシャット・ダウンすることもあります。
- 携帯電話の過熱を防ぐため、充電速度が遅くなったり、停止したりすることがあります。このような場合、ワイヤレス・チャージング・パッドに不具合があるというわけではありません。これは単に、損傷を防ぐために携帯電話が要求した保護措置である可能性があります。
- 複数のワイヤレス機能(ワイヤレス充電、Apple CarPlay®)を同時に使用すると、機器が過熱し、機能が制限されたり、電源が切れたりすることがあります。そのような場合は、USB ポートを使用してシステムを接続することをお勧めします。
- 携帯電話ケース内やワイヤレス・チャージング・パッドの近くに、キー・フォブやその他の金属／磁気を帯びた物体を置かないでください。
- 厚い携帯電話ケースや金属製／磁性体の携帯電話ケースは、充電器の不作動や携帯電話の過熱、充電の停止の原因になることがあります。

注意!

キー・フォブは、充電パッドの上や 15cm（6 インチ）以内に置いてはいけません。このような場所に置くと、フォブが過熱して損傷する恐れがあります。フォブを充電パッドの近くに置くと、車両がフォブを検出できなくなり、車両が始動しなくなります。

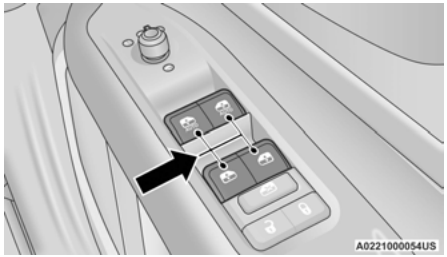
故障や火傷を防ぐため、次のことに注意してください。

- 充電中は、充電パッドと携帯電話の間に金属物や磁気を帯びた物（硬貨、鍵、金属のカード、ペーパー・クリップなど）やキー・カードを挟まないでください。
- 充電部を置く機器側に金属物や磁気を帯びた物（アルミ・シールなど）を貼らないでください。

ウインドウ

パワー・ウィンドウ・コントロール

運転席ドアにあるウインドウ・スイッチにより、すべてのドア・ウインドウが制御されています。



パワー・ウィンドウ・スイッチ

助手席ドア・ウィンドウも、助手席ドア・トリム・パネルにある単一のウィンドウ・スイッチを使用して操作できます。ウィンドウ・スイッチは、イグニッションが「ON/RUN（オン／走行）」位置のときにのみ作動します。

ウィンドウを途中まで開けるには、ウィンドウ・スイッチを短時間押し下げ、ウィンドウが停止させたい位置まで下降したら放します。

メモ：

イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」モードにしてから最長 10 分間は、パワー・ウィンドウ・スイッチを使用できます。いずれかのフロント・ドアを開けると、この機能は無効になります。

警告!

お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。キー・フォブを車内または車の近く、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。また、Keyless Enter 'n Go™搭載車では、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置のままにして車から離れないでください。お子さまを監視なしで車内に残すと、パワー・ウィンドウ・スイッチをいたずらし、誤って窓に挟まってしまうことがあります。このような事故は重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

（続き）

オート・ウィンドウ機能

オート・ダウン機能

運転席ドアおよび助手席ドア、リヤ・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチには、オート・ダウン機能がついています。短時間ウィンドウ・スイッチを押し下げてから放すと、自動的にウィンドウが下がります。

オート・ダウン操作でウィンドウを下げている最中に停止させる場合は、スイッチを軽く上げてください。

挟み込み防止機能付オート・アップ機能 - タイプ別装備

短時間、運転席または助手席のウィンドウ・スイッチを上げてから放すと、自動的にウィンドウが上がります。

「オート・アップ」操作でウィンドウを上げている最中に停止させる場合は、スイッチを軽く下げてください。

ウィンドウを途中まで閉めるには、ウィンドウ・スイッチを短時間上げ、ウィンドウが停止させたい位置まで上昇したら放します。

自動でウィンドウを上げている最中に、ウィンドウが障害物にぶつかった場合は、逆の方向に動いて下がります。障害物を取り除き、再びウィンドウ・スイッチを引いてウィンドウを閉じてください。

メモ：

でこぼこ道での走行による衝撃などでも、オート・アップ機能でウィンドウを上げている最中に不意にオート・リバース機能が作動してしまう場合があります。そのような場

合は、スイッチを軽く引いて保持して、ウィンドウを手動で閉じてください。

警告!

挟み込み防止機能は、ウインドウがほとんど閉じている状態では作動しません。けがをしないために、ウインドウを上げる前に腕、手、指などを窓から出さないようにしてください。

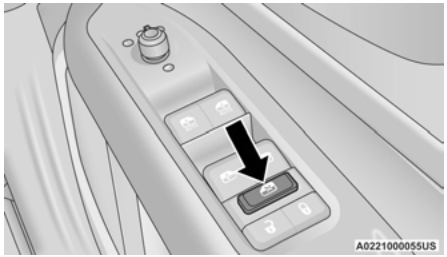
オート・アップ機能のリセット

オートアップ機能による作動が停止した場合は、ウインドウのリセットが必要な場合があります。以下の手順に従ってオート・アップ機能をリセットしてください。

1. ウィンドウ・スイッチを引き上げてウィンドウを完全に閉じて、そのまま 2 秒間スイッチを引いたままにします。
2. ウィンドウが完全に開くまで、ウィンドウ・スイッチをしっかりと押してウィンドウを開けて、そのまま 2 秒間スイッチを押したままにします。

ウィンドウ・ロックアウト・スイッチ

運転席ドアのトリム・パネルのウィンドウ・ロックアウト・スイッチを使うと、後部座席のドアのウィンドウ・コントロールの作動を無効にさせることができます。ウインドウ・コントロールを無効にするには、「Window Lockout（ウインドウ・ロックアウト）」スイッチを押し込んで放します（タイプ別装備、スイッチの表示灯が点灯します）。ウインドウ・コントロールを有効にするには、「Window Lockout（ウインドウ・ロックアウト）」スイッチを再度押して放します（スイッチの表示灯（タイプ別装備）が消灯します）。



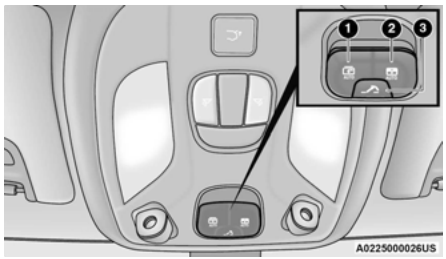
ウィンドウ・ロックアウト・スイッチ

ウインド・バフェッティング

ウインド・バフェッティングとは、耳に風圧を感じる、またはヘリコプターが出すような音がするなどのことをいいます。車両のウィンドウを開けた状態、またはサンルーフ/パワースライディング・トップ（タイプ別装備）が特定の位置まで開いている状態でウインド・バフェッティングが起こる場合があります。この状態は正常で、最小限に抑えることが可能です。リヤ・ウインドウが開いた状態でバフェッティングが起こる場合、フロントおよびリヤ・ウインドウをともに開けてバフェッティングを最小限に抑えてください。バフェッティングがサンルーフを開けている状態で起こる場合は、サンルーフまたはドアの開き具合を調整してバフェッティングを最小限に抑えるか、またはいずれかのウィンドウを開きます。

パワー・シェード付きパワー・サンルーフ - タイプ別装備

パワー・サンルーフ・スイッチは、サンバイザの間、オーバーヘッド・コンソールにあります。



パワー・サンルーフ・スイッチ

1 – パワー・シェード・スイッチ
2 – フロント・パネル開閉スイッチ
3 – フロント・パネル換気スイッチ

警告!

- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。キー・フォブを車内や車の周辺、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。Keyless Enter-N-Go™イグニッション装備車両のイグニッションを「ON/RUN（オン／走

（続き）

警告!

行）」位置のままにしないでください。お子さまだけを車内に残すと、パワー・サンルーフ・スイッチをいたずらし、誤ってサンルーフに挟まってしまうことがあります。このような事故は重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 衝突したときサンルーフが開いていると、そこから車外に投げ出される危険性が高くなり、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。常にシートベルトを正しく使用し、同乗者も正しくシートベルトを使用していることを確認してください。
- 小さなお子さまにサンルーフを操作させないようにしてください。指や身体の一部、またはどんな物もサンルーフ開口部から外に出さないようにしてください。けがをする恐れがあります。
- サポートする、またはつかむ目的で、サンルーフおよびその関連部品を使用しないでください。指や身体の一部に重傷を負ったり、サンルーフも損傷するおそれがあります。

サンルーフの開閉

サンルーフには、コンフォート・ストップ位置と全開位置という 2 種類のプログラミングされた開く位置があります。コンフォート・ストップ位置は、ドアガラスを閉じてサンルーフを開いた状態で走行中に、ウインド・バフェッティングを最小にするように最適化されています。開操作または換気を開始したときにサンシェードが閉位置にある場合、サンルーフが開く前に、サンシェードは自動的に半開位置に開きます。

エクスプレス・オープン／クローズ

スイッチを押して開き、0.5 秒以内に放すと、サンルーフはコンフォート・ストップ（途中まで開いた状態）位置まで開き、自動的に停止します。もう一度スイッチを押して放すと、サンルーフは全開位置まで開き、自動的に停止します。

閉じる場合はスイッチを引いて放すと（0.5 秒以内）、どの位置からでも自動でサンルーフが閉じます。

エクスプレス・オープンまたはエクスプレス・クローズの操作をしている間に、サンルーフ・スイッチを少しでも動かすと、サンルーフは止まります。

手動オープン／クローズ

スイッチを押し続けると開きます。サンルーフはコンフォート・ストップ（途中まで開いた状態）位置まで開き、自動的に停止します。もう一度スイッチを押し続けると、サンルーフは全開位置まで開き、自動的に停止します。

スイッチを引き続けると、どの位置からでもサンルーフは完全に閉じます。

開閉操作をしている間にスイッチを放すと、サンルーフが止まります。もう一度スイッチを操作して保持し続けるまで、サンルーフは部分的に開いた位置にとどまります。

サンルーフから換気する

「Vent（換気）」ボタンを押してから放すと（0.5 秒以内）、サンルーフが閉じた位置から換気位置まで動きます。この機能は、「エクスプレス・ベント」と呼ばれます。エクスプレス・ベントの作動が行なわれている間にサンルーフ・スイッチを操作すると、サンルーフは停止します。

メモ：

サンルーフが全開または半開位置のとき、エクスプレス・ベントを操作することはできません。「VENT（換気）」スイッチを押し続けて、スライド開位置から換気位置までサンルーフを操作する必要があります。サンルーフが換気位置に到達する前にスイッチを放すと、サンルーフの動きは停止します。

パワー・サンシェードの開閉

サンシェードには、半開位置と全開位置という 2 つのプログラムされた開位置があります。閉位置からサンシェードを開く場合、エクスプレスまたは手動操作にかかわらず、サンシェードは常に半開位置で停止します。全開位置まで開け続けるには、スイッチを再び押す必要があります。

エクスプレス・オープン／クローズ

サンシェード・スイッチを開ける方向に押して放すと（0.5 秒以内）、サンシェードは自動的に半開位置まで開き、自動的に停止します。もう一度スイッチを押して放すと、サンシェードは全開位置まで開き、自動的に停止します。

サンシェード・スイッチを閉じる方向に引いて 0.5 秒以内に放します。サンルーフが閉位置にある場合、サンシェードはどの位置からでも完全に自動的に閉じます。サンルーフが開いているか、換気している場合、サンシェードは半開位置を超えて閉じることはできません。サンシェードが半開位置にあるとき、サンシェード・スイッチを引くと、サンシェードが閉まる前に自動的にサンルーフが閉じます。

エクスプレス・オープンまたはエクスプレス・クローズの操作をしている間に、サンシェード・スイッチを少しでも動かすと、シェードは止まります。

手動オープン／クローズ

サンシェード・スイッチを押し続けると、サンシェードが開きます。サンシェードは半開位置まで開いて、自動的に停止します。もう一度そのスイッチを押し続けると、サンシェードは自動的に全開位置まで開きます。

閉じるには、サンシェード・スイッチを引き続けます。サンルーフが閉位置にあると、サンシェードはどの位置からでも完全に閉じます。サンルーフが開いているか換気状態の場合は、サンシェードが半開位置まで閉じて停止します。そのスイッチを再び引き続けると、サンルーフとサンシェード両方が完全に閉じます。

スイッチを放すとサンシェードが停止し、もう一度スイッチを押すまで部分的に開いた位置のままになります。

ピンチ保護機能

この機能は、エクスプレス・クローズの操作をしている間、サンルーフの開口部に障害物があるかどうかを検知するものです。サンルーフの開口部に障害物があると、サンルーフは自動的に引き込まれます。そのような場合は障害物を取り除いてください。その後、サンルーフのクローズ・スイッチを引いてから放し、エクスプレス・クローズを行います。

メモ：

ピンチ保護機能を繰り返しながら 3 回連続してサンルーフを閉じると、ピンチ保護が無効になり、サンルーフを手動モードで閉める必要があります。

サンルーフのメンテナンス

ガラス・パネルを清掃する場合、必ず研磨剤の入っていないクリーナと柔らかい布を使用してください。トラックに堆積物がたまっていないか定期的に点検し、あれば取り除きます。

イグニッション・オフ操作 – タイプ別装備

イグニッション・オフ・タイミング設定が装備されている場合、イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にした後、約 10 分間は、パワー・サンルーフ・スイッチを使用できます。どちらかのフロント・ドアを開けるとこの機能は解除されます。

メモ：

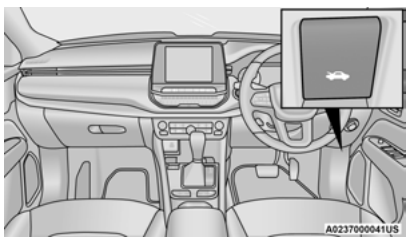
イグニッション・オフ時間は Uconnect システムを使用して設定できることもあります ⇨ ページ 136。

ボンネット

ボンネットを開ける

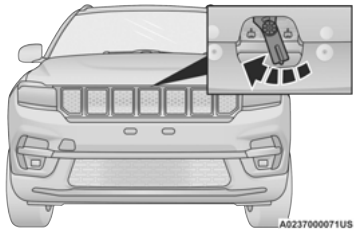
ボンネットを開けるには 2 つのラッチを外す必要があります。

1. インストルメント・パネルの運転席側の下にあるボンネット・リリース・レバーを引きます。



ボンネット・リリースの位置（インストルメント・パネルの下）

2. 車両の外へ移動します。安全ラッチ・リリース・レバーは、ボンネットの中央手前のボンネットの裏側にあります。手のひらを下向きにして、ボンネットの中央に手を入れます。安全ラッチ・リリース・レバーに触れたら、レバーを左側にいっぱいまで押して、ボンネットを完全に開きます。



ボンネット安全ラッチ・リリース・レバーの位置

メモ：

- 車両が静止し、ギヤ・セレクタが「P（パーキング）」に入っている必要があります。
- ボンネットを上げる前に、ワイパ・アームが作動状態ではなく、フロント・ウインドウから起こしていないことを確認してください。
- ボンネットを上げるときは、両手を使用してください。
- うまくいかない場合は、ボンネットを若干押し下げてから、安全ラッチを押してください。

ボンネットを閉じる

警告!
車両を運転する前に、ボンネットのラッチが完全にかかっていることを確認してください。ボンネットがラッチでしっかりと固定されていないと、走行中にボンネットが開き、視界を遮る恐れがあります。ここに示す警告

（続き）

警告!

内容に従わないと、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

ボンネットを乱暴に閉めないでください。ボンネットが損傷する恐れがあります。ボンネットは、約 30cm（12インチ）までゆっくり下ろしてから、手を放して閉めます。ボンネットが確実に閉まり、両方のラッチが固定されていることを確認してください。ボンネットが確実に閉まっておらず、両方のラッチが固定されていない状態では、絶対に車を運転しないでください。

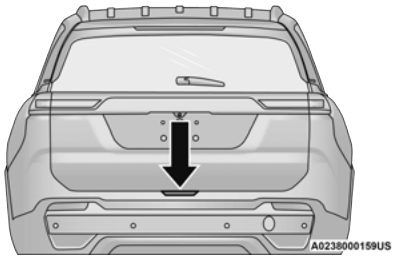
リフトゲート

リフトゲートの解錠／リフトゲートを開ける

リフトゲートは、次のいずれかの方法で開けることができます。

- キー・フォブで（パワー・リフトゲート装備車の場合）
- 車外のハンドルで
- オーバーヘッド・コンソールのボタンで（パワー・リフトゲート装備車の場合）
- ハンズ・フリー・リフトゲート（タイプ別装備）

オーバーヘッド・コンソールのスイッチおよびリフトゲート・キー・フォブ・ボタン（タイプ別装備）を使用する場合、リフトゲートの施錠／解錠状態にかかわらずリフトゲートを開けることができます。車外のハンドルを使用する場合、開ける前にリフトゲートが解錠されている必要があります。



リフトゲートの解錠

リフトゲートの解錠

リフトゲートの解錠には、キー・フォブまたは車内のドア・パネルにあるドア・ロック解除ボタンを使用してください。手動でドアを解錠しても、リフトゲートは解錠されません。

警告!

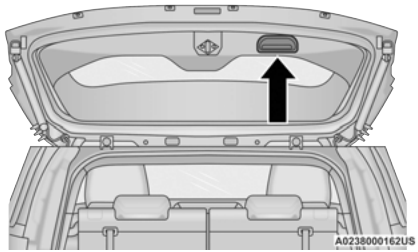
リフトゲートを開けたまま運転すると、有毒な排ガスが車内に侵入する恐れがあります。この排気ガスによって運転者や同乗者の健康が損なわれることがあります。走行中はリフトゲートを必ず閉めてください。

注意!

リフトゲートが開位置にあるときにリフトゲートを支えている左右ダンパに高圧ガスが封入されています。ダンパを分解したり、火中に入れたりしないでください。

リフトゲートの施錠／閉鎖

リフトゲートを手動で閉じるには、リフトゲート・クローズ・ハンドルを握り、下方に引くようにします。



リフトゲート・プル・ハンドル／リフトゲートを閉じる

メモ：

リフトゲートが施錠される可能性があるため、リフトゲートを閉じる前にキー・フォブを持っていることを確認してください。

リフトゲートの施錠

リフトゲートの施錠には、キー・フォブまたは車内のドア・パネルにあるドア・ロック・ボタンを使用してください。ドアの手動ドア・ロックではリフトゲートはロックされません。

パワー・リフトゲート - タイプ別装備

メモ：

パワー・リフトゲートは、ギヤ・セレクタが「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」位置のときにのみ開閉できます。



パワー・リフトゲートは、キー・フォブの「リフトゲート」ボタンを押して開閉することができます。パワー・リフトゲートを開閉するには、キー・フォブの「リフトゲート」ボタンを 5 秒以内に 2 回押します。リフトゲートは、電子リフトゲート・リリース・ハンドルを押して開けることもできます ⇨ ページ 20。

以下の場合にキー・フォブの「Liftgate（リフトゲート）」ボタンまたはリフトゲート・リリース・ハンドルを押します。

- リフトゲートが完全に閉じているときは、リフトゲートが開きます。
- リフトゲートが完全に開いているときは、リフトゲートが閉じます。
- リフトゲートが動いているときは、リフトゲートの動きが逆方向になります。

パワー・リフトゲートは、フロント・オーバーヘッド・コンソールの「リフトゲート」ボタンを押して開閉することもできます。リフトゲートが完全に開いた状態では、左側リヤ・トリム・パネルにある「リフトゲート」ボタンを押して、リフトゲートを閉めることができます。リフトゲートが動いている状態で、このボタンをもう一度押すと、リフトゲートは逆方向に動きます。

キー・フォブの「Liftgate（リフトゲート）」ボタンを 2 回押すと、方向指示器が 2 回点滅してリフトゲートの開閉動作を知らせ、チャイムが鳴ります。

キー・フォブおよびオーバーヘッド・コンソールのスイッチを使用すると、ロックされているリフトゲートを開くことができます。車外のハンドルを使用する場合、リフトゲートが解錠されている必要があります。車両にパッシブ・エントリが装備されており、有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブがリフトゲートの 1.5m（5 フィート）以内にある場合、車外のハンドルを引くと、リフトゲートが解錠されて開きます。

メモ：

- リフトゲートが施錠される可能性があるため、リフトゲートを閉じる前にキー・フォブを持っていることを確認してください。
- リフトゲートの施錠と解錠には、車内のドア・パネルまたはキー・フォブのドア・ロック／ロック解除ボタンを使用してください。ドアに付いている手動ドア・ロックや車外のドア・ロック・シリンダでは、リフトゲートの施錠や解錠はできません。
- リフトゲートは、Uconnect システムで選択した設定によって、車両のドアと一緒に解錠されるか、電子リフトゲート・リリースを押して解錠する必要があります ⇨ ページ 136。
- 車速が 0km/h（0mph）を超えているときは、パワー・リフトゲート・オープン・ボタンは操作できません。
- 温度が−30°C（−22°F）以下または 65°C（150°F）以上の場合、パワー・リフトゲートは作動しません。リフトゲートに雪や氷が付いているときは、パワー・リフトゲートのスイッチを押す前に必ず除去してください。
- パワー・リフトゲートの開閉中にリフトゲートが障害物に当たった場合、リフトゲートは自動的に閉じた位置または開いた位置に戻ります。1 回動作する間に複数の障害物に当たった後は、リフトゲートは自動的に停止するため、手動で開閉する必要があります。
- リフトゲート側面にはピンチ・センサが付いています。この部分に軽い圧力がかかると、リフトゲートは開いた位置に戻ります。
- リフトゲート開口部近くにある、左リヤ・トリムの「Rear Liftgate Close（リヤ・リフトゲート・クローズ）」ボタンを操作できるように、パワー・リフトゲートは完全に開いた位置にする必要があります。リフトゲートが完全に開いていない場合は、キー・フォブの「リフトゲート」ボタンを押してリフトゲートを完全に開き、再度ボタンを押して閉じます。
- パワー・リフトゲートが開く途中でエレクトロニック・リフトゲート・リリース・ハンドルをもう 1 回押すと、リフトゲート・モータが停止し手動で操作できるようになります。
- リフトゲートが閉じる途中でギヤを入れると、リフトゲートは閉動作を継続します。ただし、車両が動いていると、障害物があると検出される場合があります。
- リフトゲートの電動作動を妨げないでください。リフトゲートを手で押したり引いたりすると、リフトゲートの障害物検知機能が作動し、電動操作が停止したり、逆方向に作動することがあります。

警告!

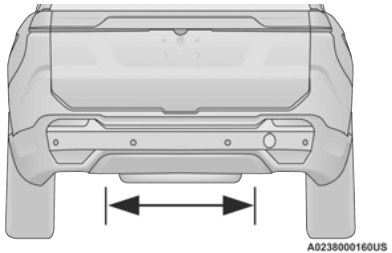
- リフトゲートを開けたまま運転すると、有毒な排ガスが車内に侵入する恐れがあります。この排気ガスによって運転者や同乗者の健康が損なわれることがあります。走行中はリフトゲートを必ず閉めてください。
- リフトゲートを開けて走行する時は、窓をすべて閉め、エアコンのファン・スピード調整スイッチが高速にセットされていることを確認してください。内気循環モードは使用しないでください。
- 自動作動時には、乗員がけがをしたり荷物が破損したりする恐れがあります。リフトゲートの開口部付近に障害物がないことを確認してください。運転前には、リフトゲートが閉じていてラッチがかかっていることを確認してください。
- 作動中のリフトゲートに挟まれると、怪我やカーゴの損傷につながるおそれがあります。リフトゲートを

(続き)

警告!

作動させる前に、リフトゲートの動作範囲に何もないことを確認してください。

ハンズ・フリー・リフトゲート - タイプ別装備



ハンズ・フリー・リフトゲートの作動ゾーン

ハンズ・フリー作動を使用してリフトゲートを開閉するには、リヤ・ライセンス・プレートの下にある車両作動ゾーンの下で、まっすぐに足を差し入れて引き出すキック動作をします。作動領域は左右に約 0.5m(1.8 ft)です。足を斜めに動かしたり、弧を描くような動きをしないでください。センサが動きを検知できない場合があります。

メモ:
作動ゾーンは、トレーラけん引パッケージ装備車両および非装備車両の場合でも同じです。

有効なキック動作が完了すると、リフトゲートのチャイムが鳴り、ハザード警告灯が点滅し、約 1 秒後にリフトゲートが開くか、または約 3 秒後にリフトゲートが閉じます。これらの設定は、Uconnect 設定から有効または無効にできます ⇨ ページ 136。

メモ:

- ハンズ・フリー・リフトゲートを開閉するには、有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブがドア・ハンドルから 1.5m(5 フィート)以内にあることが必要です。有効なパッシブ・エントリ・キー・フォブが 1.5m(5 フィート)以内にないと、リフトゲートはどのようなキック動作にも反応しません。
- ハンズ・フリー・リフトゲート機能は、Uconnect システムからオンまたはオフにできます ⇨ ページ 136。
- ジャッキ作業、タイヤ交換、手動による洗車、および車両整備のときは、ハンズ・フリー・リフトゲート機能はオフにしてください。
- ハンズ・フリー・リフトゲート機能は、金属ほうきを使った清掃など、リヤ・フェイシア/バンパの下に金属の物体をまっすぐに差し入れて引く動作をすることで作動することがあります。
- ハンズ・フリー・リフトゲートが作動するのは、トランスミッションが「P(パーキング)」にある場合のみです。
- ハンズ・フリー・リフトゲートの開閉中に障害物に当たり、その抵抗が十分に大きかった場合、リフトゲートは自動的に閉じた位置または開いた位置に戻ります。
- リフトゲート開口部にはピンチ・センサが付いています。この部分に軽い圧力がかかると、リフトゲートは開いた位置に戻ります。
- パワー・リフトゲートが 1 回の動作の最中に複数の障害物に当たった場合、システムは自動的に停止します。この場合、リフトゲートは手動で操作する必要があります。
- −24°C(−12°F)未満の温度では、パワー・リフトゲートのロックは解除されますが、自動的に開く作動は行われません。リフトゲートに雪や氷が付いているときは、リフトゲートを開く前に必ず除去してください。
- リフトゲートを長時間(約 1 時間)開いたままにした場合は、リフトゲートを手動で閉じて、パワー・リフトゲート機能をリセットしなければならないことがあります。

警告!

- リフトゲートを開けたまま運転すると、有毒な排ガスが車内に侵入する恐れがあります。この排気ガスによって運転者や同乗者の健康が損なわれることがあります。走行中はリフトゲートを必ず閉めてください。
- リフトゲートを開けて走行する時は、窓をすべて閉め、エアコンのファン・スピード調整スイッチが高速にセットされていることを確認してください。内気循環モードは使用しないでください。
- 自動作動時には、乗員がけがをしたり荷物が破損したりする恐れがあります。リフトゲートの開口部付近に障害物がないことを確認してください。運転前には、リフトゲートが閉じていてラッチがかかっていることを確認してください。
- 作動中のリフトゲートに挟まれると、怪我やカーゴの損傷につながるおそれがあります。リフトゲートを作動させる前に、リフトゲートの動作範囲に何もないことを確認してください。

ガス支柱(タイプ別装備)は、リフトゲートを開いた位置を保持するようになっています。しかし、気温によってストラット内のガスの圧力が下がるため、気温が低いときにはストラットを支えてリフトゲートを開く必要が生じる場合もあります。

メモ:
リフトゲートの電動作動を妨げないでください。リフトゲートを手で押したり引いたりすると、リフトゲートの障害物検知機能が作動し、電動操作が停止したり、逆方向に作動することがあります。

高さ調整可能パワー・リフトゲート

リフトゲートが希望の高さでのみ開くように、リフトゲートが開く最大高さを調整して保存できます。希望の高さを設定するには、次の手順に従ってください。

1. リフトゲートを完全に開き、手でリフトゲートを引き下げて希望の高さにします。
2. リフトゲートの下部にあるリフトゲート・クローズ・ボタンまたはロック・ボタンを 3 秒間押し続けます。方向指示器が 3 回点滅し、正常に作動したことを示します。これで、リフトゲートが設定位置まで開くように設定されました。

保存された高さ設定を 4 つのプリセット位置のいずれかに設定するには、Uconnect の設定で希望の設定を選択します ⇨ ページ 136。

パワー・リフトゲート不具合時の手順:

1. リフトゲートへの電源供給に不具合が生じた場合、ラッチのサービス・リリース機能にアクセスすることでリフトゲートを解除できます。これを行うには、直径 3mm のドライバを使用します。
2. ゲートの内側には、差し込み口が見えます。差し込み口にドライバを差し込みます。
3. ドライバの取っ手を回してレバーを作動させ、ラッチを解除します。
4. リフトゲートを長時間開いたままにした場合は、リフトゲートを手動で閉じて、パワー・リフトゲート機能をリセットしなければならないことがあります。

カーゴ・エリア機能

カーゴ・ロード・フロア – タイプ別装備

カーゴ・ロード・フロア・システムの積載量は 136kg (300lb)です。

ロード・フロアの持ち上げ

タイヤ・サービス・キットやスペア・タイヤ(タイプ別装備)を取り出すためにロード・フロアを持ち上げるには、ロード・フロア・ハンドルを引き上げます。

ストレージ・スペースを広げるために、各リヤ・シートを倒して平らにすることができます。これにより、リヤ・シートのスペースを確保したままで、荷室のスペースを広げることができます ⇨ ページ 26。

カーゴ・タイダウン・フックとループ

走行中は、カーゴ・エリア・フロアにあるタイダウン・フックやループを使用して荷物を安全に固定してください。

カーゴ・タイダウン・ループはトリム・パネルにあります。

警告!

- カーゴ・タイダウンは、チャイルド・シートのテザー・ストラップに使用するためのアンカではありません。車が急停止した時や事故の際には、タイダウンが緩んでチャイルド・シートが外れ、お子さまが重傷を負う恐れがあります。必ずチャイルド・シート用のアンカを使用してください。

(続き)

警告!

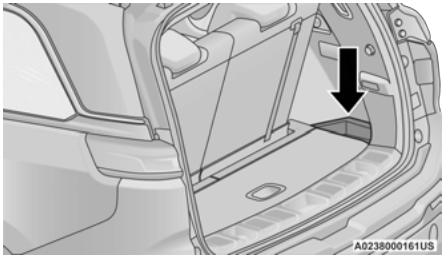
- 人身事故を防ぐため、乗員はリヤ・カーゴ・エリア内に乗らないでください。カーゴ・エリアは荷物の運搬専用に設計されており、乗員が乗るようには設計されていません。乗員は必ずシートに座り、シートベルトを着用してください。

荷物と乗員の重量や位置によって、車の重心と操作性が変化します。人身事故につながる制御不能を防ぐため、車に荷物を積み込む際には次の注意に従ってください。

- 左側ドアまたは左側ドアのセンタピラーに貼付されているラベルに記載された積載制限を超える荷物を搭載しないでください。
- 荷物は常にカーゴ・フロアに均等に置いてください。重い荷物はできるだけ前方の低い位置に置いてください。
- 荷物はできるだけリヤ・アクスルの位置より前に置いてください。リヤ・アクスルの上や後ろに過度な荷重がかかったり、荷物が適切に置かれていないと、車が左右に振られることがあります。
- 荷物や積荷はシート・バックより高く積み上げないでください。視界が悪くなり、急停止や事故の際に前方に飛び出して危険です。

リヤ小物入れ

ラゲッジルーム後方の左右には、リヤ小物入れが設けられています。



リヤ小物入れ

ルーフ・ラゲージ・ラック - タイプ別装備

ラゲージ・ラックを装着した場合、ルーフに積む荷物の荷重は、68kg（150lb）を超えないようにしてください。また、荷重がカーゴ・エリア全体に均等に分散されるようにしてください。

ルーフ・ラックに荷物を積んでいるときは、必ずクロスバーを使用してください。ストラップを頻繁に点検し、荷物がしっかりと固定されていることを確認してください。

メモ：

クロスバーは、正規ディーラーで Mopar®部品から購入できます。

ルーフ・ラックを装着しても、車の許容積載量は増えません。車内の乗員と荷物、およびルーフ・ラック上の荷物まで含めた全重量が、最大車両積載量を超えないようにしてください。

警告!

走行前に、荷物がしっかりと縛られていることを必ず確認してください。荷物の固定状態が不適切な場合、特に高速走行中に、荷物が車両から外れて飛んでしまい、人身事故または物損事故につながる恐れがあります。ルーフ・ラックに荷物を積んで運転する際には、ルーフ・ラックの注意事項に従ってください。

注意!

- ルーフ・ラックおよび車両に損傷を与えないためにも、ルーフ・ラックの最大積載量を超えないようにしてください。重い荷物はできるだけ均等に分散して、適切に固定してください。
- フロントウィンドウよりも前にはみ出る長い積荷は、車両の前後で固定してください。
- ルーフの表面と積荷の間にブランケットなどを挟んで保護してください。
- 大型の荷物または重い荷物をルーフ・ラックに積んで運ぶときは、常に低速で走行し、カーブも慎重に曲がってください。トラックの横を走行することや、自然現象が原因で、風が巻き起こり上方へ持ち上がることがあります。木製パネルやサーフボードなど、大きくて平らな積荷は運ばないことを推奨します。カーゴまたは車両が損傷する場合があります。
- 積載物は必ず最初にクロスバーに固定し、必要に応じてタイダウン・ループを使用し、固定ポイントを追加してください。タイ・ループは、補助的なタイダウン・ポイントとしてのみ使用してください。タイ・ループには、ラチェット機構を使用しないでください。ストラップを頻繁に点検し、荷物がしっかりと固定されていることを確認してください。

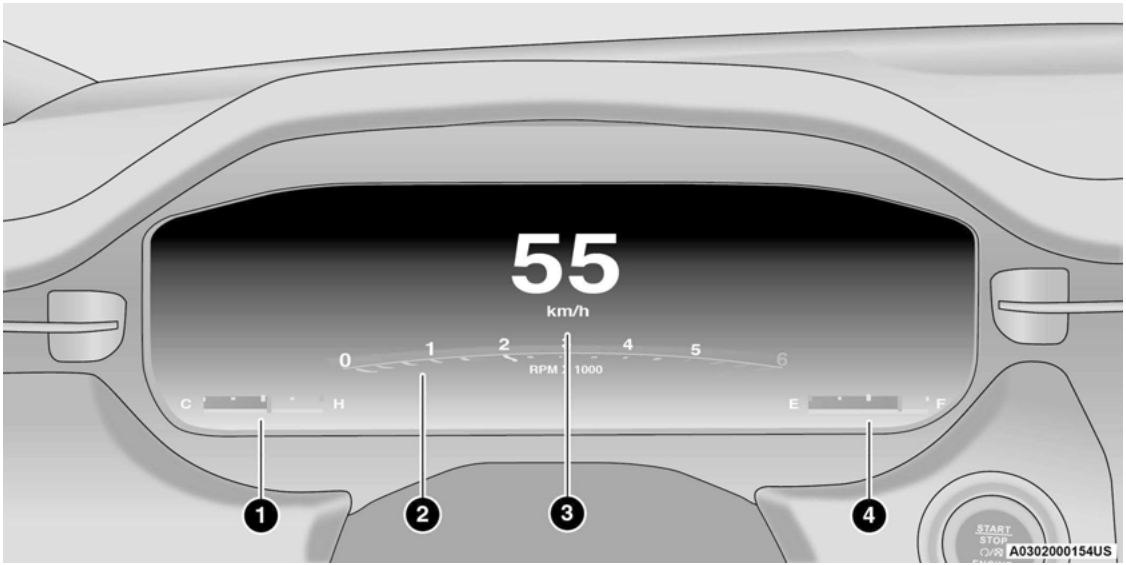
（続き）

注意!

- アクセサリとして支給されている場合、Mopar®ルーフ・ラゲージ・ラックのみ使用してください。

インストルメント・パネルについて

プレミアム・インストルメント・パネル



インストルメント・パネルの説明

1. 水温計
   - 水温計は、エンジン・クーラントの温度を示します。水温計が正常な範囲内を示していれば、エンジン冷却装置は正しく作動しています。
   - 気温が高い場所での走行、登坂走行、またはトレーラけん引をしている時などは、表示は高めになります。水温計の指針が通常作動範囲の上限を超えないように注意してください。

   警告!

   過熱したエンジン冷却装置は危険です。蒸気や沸騰しているクーラントで重度のやけどを負う恐れがあります。車がオーバーヒートしたら、正規ディーラーに連絡することをお勧めします ⇨ ページ 221。

   注意!

   エンジン冷却装置が過熱した状態で運転すると、車が損傷することがあります。水温計が「H」を示している場合は、車を路肩に停めてください。エア・コンディショナを切り、針が通常温度範囲に下がるまでアイドリングします。水温計の針が「H」から動かない場合は、直ちにエンジンを止めて、ジープ正規ディーラーに整備を依頼してください。
2. タコメータ
   - 1 分間あたりのエンジン回転数（RPM x 1000）を表示します。
3. スピードメータ
   - 車速を示します。
4. 燃料計
   - 燃料計は、キーレス・プッシュ・ボタン・イグニッションが「ON/RUN」位置のとき、燃料タンク内にある燃料の残量を示します。
   -  このフューエル・ポンプの矢印マークは、車両のフューエル・リッドがある側を示しています。

メモ：
イグニッションを最初にまわしたときは、電球確認のためインストルメント・パネルの警告灯が点灯します。

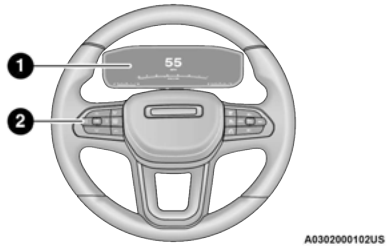
インストルメント・パネル・ディスプレイ

車両のトリム・レベルによって、機能とオプションが異なることがあります。

一部の車両には運転者に便利な情報を通知するインストルメント・パネル・ディスプレイが装備されています。イグニッションが「OFF（オフ）」モードの状態でドアを開閉するとディスプレイが起動し、オドメータに走行距離が表示されます。インストルメント・パネル・ディスプレイには車両システムと機能に関する重要な情報が表示されるようになっています。インストルメント・パネル・ディスプレイは、インストルメント・パネルにあるドライバ・インタラクティブ・ディスプレイを使用して、システムの機能状態を表示し、機能不良の場合に警告を表示します。ステアリング・ホイールに取り付けられたボタンにより、表示をスクロールしてメイン・メニューとサブ・メニューに入ることができます。必要な特定の情報にアクセスし、選択や調整を行うことができます。

インストルメント・パネル・ディスプレイの位置とスイッチ

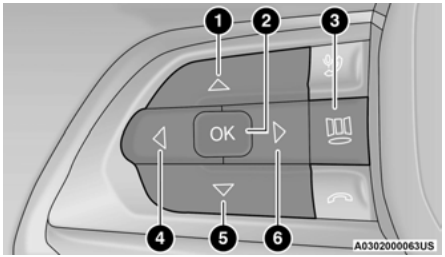
インストルメント・パネル・ディスプレイは、インストルメント・パネルにある運転者との対話式ディスプレイを備えています。



プレミアム・インストルメント・パネル・ディスプレイの位置

1 – インストルメント・パネル・ディスプレイの画面
2 – インストルメント・パネル・ディスプレイのコントロール類

情報を選択するには、ステアリング・ホイールに取り付けられた次のボタンを押します。



プレミアム・インストルメント・パネル・ディスプレイのコントロール・ボタン

1 – 上矢印ボタン
2 -「OK」ボタン
3 - MENU ボタン
4 – 左矢印ボタン
5 - 下矢印ボタン
6 – 右矢印ボタン

- **上矢印ボタン**

  メイン・メニューとサブメニューを上方向にスクロールするには、**上** △ 矢印ボタンを押して放します。

- **OK ボタン**

  メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面の項目を確定するためには、**OK** ボタンを押します。**OK** ボタンを 1 秒間押し続けると、表示または選択されているリセット可能な機能がリセットされます。

- **「MENU（メニュー）」ボタン** – タイプ別装備

  「HOME Screen（ホーム画面）」ディスプレイの情報画面またはサブメニュー画面にアクセスしたり選択したりするには、「**MENU（メニュー）**」ボタンを押します。編集モードに入るには、「**OK**」ボタンを押し続けます。

- **左矢印ボタン**

  メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**左** ◁ 矢印ボタンを押して放します。

- **下矢印ボタン**

  メイン・メニューとサブメニューを下方向にスクロールするには、**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。

- **右矢印ボタン**

  メイン・メニュー項目の情報画面またはサブメニュー画面にアクセスするには、**右** ▷ 矢印ボタンを押して放します。

インストルメント・パネル・ディスプレイはインストルメント・パネルの中央部にあり、次の複数の部分で構成されています。

- メイン画面 – ディスプレイ内側のリングは、正常な状態では灰色に、重大ではない警告では黄色に、重大な警告では赤色に、そしてオンデマンド情報では白色に点灯します。
- サブメニューのドット 利用可能なサブメニューがある場合は常に、サブメニュー内での位置がここに表示されます
- 設定変更可能な表示灯／情報
- ギヤ・セレクタの位置（PRND）
- ドライバ・インタラクティブ・ディスプレイ（コンパス、温度、走行可能距離、トリップ A、トリップ B、平均燃費、現在の燃費、時刻）
- エア・サスペンション・ステータス - タイプ別装備
- 4 輪駆動（4WD） – タイプ別装備

インストルメント・パネル・ディスプレイには通常、メイン・メニューまたはメイン・メニューで選択した機能の画面が表示されます。またメイン・ディスプレイ領域にはポップアップ・メッセージも表示されます。これらのポップアップ・メッセージには約 60 種類の警告メッセージや情報メッセージがあります。これらのポップアップ・メッセージは、以下のカテゴリに分類されます。

- **5 秒間保存されるメッセージ**

  該当する状態が発生すると、このタイプのメッセージがメイン・ディスプレイ領域に 5 秒間表示されてから、直前の画面に戻ります。（そのメッセージが表示される原因となった状態がアクティブである限り）このタイプのメッセージのほとんどが保存され、「Messages（メッセージ）」メイン・メニュー項目から再確認できます。このタイプのメッセージ例として、「Right Front Turn Signal Lamp Out（右フロント方向指示器ランプ切れ）」などがあります。

- **保存されないメッセージ**

  このメッセージ・タイプは無期限に表示されるか、メッセージが表示される原因となった状態が解消されるまで表示されます。このタイプのメッセージ例として、「Turn Signal On（方向指示器オン）」（方向指示器が点灯したままの場合）や、「Lights On（照明消し忘れ）」（運転者がライトをオンにしたまま車両を離れている場合）などがあります。

- **イグニッション・スイッチを「RUN（走行）」位置にするまで記憶されないメッセージ**

  これらのメッセージは、主にリモート始動機能に関するものです。このメッセージ・タイプは、イグニッション・スイッチが「RUN」状態になるまで表示されます。

- **5 秒間記憶されないメッセージ**

  該当する状態が発生すると、このタイプのメッセージがメイン・ディスプレイ領域に 5 秒間表示されてから、直前の画面に戻ります。このタイプのメッセージ例として、「Automatic High Beams On（オート・ハイ・ビーム ON）」などがあります。

オイル交換のリセット

- この車には、エンジン・オイル交換の警告システムが装備されています。チャイムが 1 回鳴った後に、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Oil Change Due（オイル交換時期）」というメッセージが 5 秒間表示され、次回の定期オイル交換の時期が示されます。エンジン・オイル交換の警告システムは法定整備のサイクルに基づいているため、エンジン・オイルの交換時期は運転状況によって変動する場合があります。
- リセットしないかぎり、このメッセージはイグニッションを「ON/RUN」位置にするたびに表示されます。

定期メンテナンス後にオイル交換の警告をリセットするには、次の手順に従ってください。

1. ブレーキ・ペダルを踏まずに、「ENGINE START/STOP（エンジン START&STOP）」ボタンを押してイグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にします（エンジンは始動しないでください）。
2. アクセル・ペダルを 10 秒以内に 3 回、ゆっくりと強く踏み込みます。
3. イグニッションを「OFF（オフ）」位置に切り替えます。

メモ：
車両を始動させたときに警告メッセージが表示された場合は、エンジン・オイル交換の警告システムがリセットされていません。必要に応じてこの手順を繰り返してください。

ディスプレイおよびメッセージ - タイプ別装備

以下のものが含まれますが、これらに限定されません。

フロント・シートベルト（前席のシートベルトが着用されていません）	Driver Seat Belt Unbuckled（運転席のシートベルトが着用されていません）	Passenger Seat Belt Unbuckled（助手席のシートベルトが着用されていません）
Traction Control Off（トラクション・コントロール OFF）	WASHER FLUID LOW（ウォッシャ液不足です）	Oil Pressure Low（油圧低下）
Oil Change Due（オイル交換時期）	Fuel Low（燃料不足です）	CRUISE OFF（クルーズ OFF）
Service Electronic Throttle Control（エレクトロニック・スロットル・コントロールの整備が必要です）	Service Power Steering（パワー・ステアリングの整備が必要です）	Service Anti-lock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システムの整備が必要です）
Cruise Ready（クルーズ - 準備完了）	ACC Override（ACC オーバーライド）	ドアが開いています
Cruise Set To XXX km/h（クルーズを XXXkm/h にセット）	Tire Pressure Screen With Low Tire(s)（低空気圧のタイヤを使用している場合の空気圧画面）	Service Tire Pressure System（タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システムの整備が必要です）
Park Brake Engaged（パーキング・ブレーキがかかっています）	Brake Fluid Low（ブレーキ・フルードが低下しています）	Engine Temperature Hot（エンジン温度が高いです）
Lights On（照明消し忘れ）	Right Front Turn Signal Light Out（右フロント方向指示器ランプ切れ）	Right Rear Turn Signal Light Out（右リヤ方向指示器ランプ切れ）
Left Front Turn Signal Light Out（左フロント方向指示器ランプ切れ）	Left Rear Turn Signal Light Out（左リヤ方向指示器ランプ切れ）	Ignition or Accessory On（イグニッションまたはアクセサリ ON）

Vehicle Not In Park（ギヤが「P（パーキング）」に入っていません）	Remote Start Active Push Start Button（リモート始動アクティブ -「Start」ボタンを押す）	Remote Start Canceled Fuel Low（リモート始動中止 - 燃料不足）
Remote Start Canceled Door Open（リモート始動中止 - 半ドア）	Remote Start Canceled Hood Open（リモート始動中止 - ボンネットが開いたまま）	Remote Start Canceled Liftgate Open（リモート始動中止 - リフトゲートが開いたまま）
Remote Start Canceled Time Expired（リモート始動中止 - 時間切れ）	Remote Start Disabled Start To Reset（リモート始動が無効 - リセットを開始）	Service Air Bag System（エアバッグ・システムの整備が必要です）
Service Air Bag Warning Light（エアバッグ警告灯の整備が必要です）	Service Transmission（トランスミッションの整備が必要です）	Service Shifter（シフタの整備が必要です）
リフトゲートが開いています	ボンネット・オープン	Shift Not Allowed（シフトできません）

Vehicle Speed Too High To Shift to D（車速が高すぎて D（ドライブ）にシフトできません）	Vehicle Speed Too High To Shift to R（車速が高すぎて R（リバース）にシフトできません）	Vehicle Speed Too High To Shift to P（車速が高すぎて P（パーキング）にシフトできません）

設定変更可能な表示灯セクションは、左側の白色または黄色の表示灯エリアと、右側の緑色または赤色の表示灯に分かれています。

ギヤ・シフト・インジケータ（GSI）– タイプ別装備

GSI システムは、マニュアル・トランスミッションの装備車両では、またはオートマチック・トランスミッション装備車両がマニュアル・シフト・モードのときにオンになります。GSI により、推奨されるギヤ・シフト・ポイントに達すると視覚的に示されます。この指示によって、運転者は、ギヤを変更して燃費を抑えることが可能になります。インストルメント・パネル・ディスプレイにシフト・アップの表示灯が表示された場合、GSI が運転者に対してギヤを上げるよう推奨していることを示します。ディスプレイにシフト・ダウンの表示灯が表示された場合、GSI が運転者に対してギヤを下げるよう推奨していることを示します。

GSI は、運転者がギヤを変更するか、燃費改善のためギヤ変更が不要な走行条件に戻るまで、点灯したままになります。

インストルメント・パネル・ディスプレイのメニュー項目

インストルメント・パネル・ディスプレイを使用すると、いくつかの機能のメイン・メニュー項目を表示できます。「**上**」△ および「**下**」矢印 ▽ ボタンで、目的のメニューが見つかるまでドライバ・インタラクティブ・ディスプレイ・メニュー・オプションをスクロールします。

メモ：
インストルメント・パネル・ディスプレイのメニュー項目は、インストルメント・パネルの中央に表示されます。メニュー項目は、車両の機能により異なる場合があります。

Home Screen（ホーム画面）- タイプ別装備

「**Menu**（メニュー）」ボタンを押すと、「Home Screen（ホーム画面）」が表示されます。

左 ◁ 矢印ボタンまたは**右** ▷ 矢印ボタンを押して放し、必要な項目を反転させます。「**OK**」ボタンを押してから放して選択します。**上** △ 矢印または**下** ▽ 矢印ボタンを押すと、選択したカテゴリ内で異なる画面が選択できます。この表示内で「**Menu**（メニュー）」ボタンを押すと、インストルメント・パネルが直前の画面に戻ります。

ホーム画面のオプション

- **ナビゲーション**
  - ルート・セット
  - Trip A（トリップ A）
  - Trip B（トリップ B）

3

- **Vehicle Info（車両情報）**
  - Coolant Temp（クーラント温度）
  - Trans Temp（トランスミッション温度）
  - Oil Temp（オイル温度）
  - Oil Pressure（油圧）
  - Battery Voltage（バッテリ電圧）
  - Oil Life（オイルの交換時期）
  - Tire Pressure（タイヤ空気圧）
  - 燃費
- **ドライブ**
  - 制限速度標識
  - Driver Assist（運転者アシスト）
- **Audio（オーディオ）**
  - Audio Info（オーディオ情報）
- **Off Road（オフ・ロード）**
  - セレクテレイン／エア・サスペンションの状態

運転情報 - タイプ別装備

スピードメータ

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Speedometer（スピードメータ）」メニュー・アイコンが表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**OK** ボタンを押して放し、デジタル・スピードメータの単位（km/h または mph）を切り替えます。スピードメータをアナログとデジタル間で切り替えるには、「**OK**」ボタンを押し続けます。

Driver Assist（運転者アシスト）

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Driver Assist（運転者アシスト）」メニュー・アイコンが表示されるまで、**上** △ 矢印または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。「**OK**」ボタンを押してから放して選択します。「Driver Assist（運転者アシスト）」画面には、ACC、アクティブ・レーン・マネジメント、ハイウェイ・アシスト／アシスト+／パイロットの現在の状況が表示されます。「Zoomed In（拡大）」表示と「Zoomed Out（縮小）」表示を変更するには、「**OK**」ボタンをもう一度押して放します（「Zoomed Out（縮小）」表示のときは「Press OK to Zoom In（拡大するに OK を押す）」が表示され、「Zoomed In（拡大）」表示のときは「Press OK to Zoom Out（縮小するには OK を押す）: が表示されます）。

スピードメータ

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Speedometer（スピードメータ）」メニュー項目が表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。スピードメータの目盛りを MPH から km/h に（またはその逆に）変更するには、**OK** ボタンを押して放します。

Vehicle Info（車両情報）

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Vehicle Info（車両情報）」メニュー項目が表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**左** ◁ または**右** ▷ 矢印ボタンを押して放すと、「Vehicle Info（車両情報）」のサブメニューを順に表示できます。必要に応じて各画面の指示に従います。

プレミアム・インストルメント・パネル装備車の場合

Gauge Summary（ゲージ概要）

- **Coolant Temperature（クーラント温度）— タイプ別装備**

  現在のクーラント温度を表示します。
- **Transmission Temperature（トランスミッション温度）:**

  実際のトランスミッション温度が表示されます。
- **Oil Temperature（オイル温度）**

  実際のオイル温度が表示されます。
- **Oil Pressure（油圧）**

  実際の油圧が表示されます。
- **Battery Voltage（バッテリ電圧）**

  現在のバッテリ電圧レベルを表示します。

Tire Pressure（タイヤ空気圧）

- すべてのタイヤの空気圧が**適正な**場合は、車のアイコンが表示され、アイコンの各コーナーにはタイヤ空気圧値が表示されます。
- 空気圧が低いタイヤがある場合は、車のアイコンとともに「Inflate Tire To XX（タイヤに XX まで空気を入れてください）」というメッセージが表示されます。アイコンの各コーナーには、タイヤの空気圧値が表示されますが、空気圧が低いタイヤの空気圧値は、それ以外のタイヤの空気圧値とは異なる色で表示されます。
- タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システムの整備が必要な場合は、「Service Tire Pressure System（タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システムの整備が必要です）」というメッセージが表示されます。

- タイヤ PSI は、情報を表示することのみを目的としており、リセットすることはできません ⇨ ページ 167。

ディーゼル排気液（DEF）

- DEF ゲージを表示します

START&STOP の状態 - タイプ別装備

- START&STOP システムの現在の状態を表示します。

Driver Assist（運転者アシスト）

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Driver Assist（運転者アシスト）」のメニュー・タイトルがハイライト表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。

インストルメント・パネル・ディスプレイに現在の ACC システム設定が表示されます。表示される情報は、ACC システムの状態に応じて異なります。

ステアリングホイールのアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の「ON/OFF（オン/オフ）」ボタンを押すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに以下のいずれかが表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF

ACC の作動を解除すると、「Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）オフ）」と表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール - 準備完了

ACC がオンになっているが、車速設定が選択されていない場合は、「Adaptive Cruise Control Ready（ACC 利用可）」と表示されます。

ステアリング・ホイール上にある「SET+」または「SET-」ボタンを押して放すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに以下のいずれかが表示されます。

ACC SET（ACC 設定）

ACC を設定すると、設定速度がインストルメント・パネルに表示されます。

ACC が起動されると、次のような ACC 画面が再表示される場合があります。

- 距離設定値の変更
- システムのキャンセル
- 運転者によるオーバーライド
- システム OFF
- ACC 接近警告
- ACC 利用不可警告

メモ：

ACC 表示の動きがなく 5 秒経過すると、インストルメント・パネル・ディスプレイは最後に選択された表示に戻ります ⇨ ページ 99。

インストルメント・パネル・ディスプレイには、現在のアクティブ・レーン・マネジメント・システムの設定が表示されます。表示される情報は、アクティブ・レーン・マネジメント・システムの状態と、満たすべき条件によって異なります ⇨ ページ 122。

燃費

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Fuel Economy（燃費）」メニューのタイトルが表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**OK** ボタンを押し続けると、平均燃費機能がリセットされます。

- Range（走行可能距離） – ディスプレイに、タンクに残っている燃料で走行可能な推定距離（キロメートルまたはマイル）が表示されます。走行可能距離値が 50km（30 マイル）未満の推定走行距離になると、走行可能距離表示は「LOW（減少）」というメッセージに変わります。燃料が十分給油されると「LOW（減少）」メッセージが消えて、新しい走行可能距離値が表示されます。**OK** ボタンを使用しても走行可能距離をリセットすることはできません。

  メモ：

  走行可能距離に表示された距離に関係なく、運転スタイルや車両積載量によって実際の走行距離は大きく変わります。

- Average（平均） – ディスプレイに、直近のリセット以降の平均燃費（L/100km、km/L、または MPG）が表示されます。
- Current（瞬間） – ディスプレイに、走行中の瞬間燃費（L/100km、km/L、または MPG）が表示されます。

Trip Info（トリップ情報）

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Trip（トリップ）」メニューのタイトルが表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**左** ◁ または**右** ▷ 矢印ボタンを押すと、「Trip A（トリップ A）」または「Trip B（トリップ B）」の表示が切り替わります。トリップ情報は以下のように表示されます。

- Distance（距離） 前回リセット時以降の「Trip A（トリップ A）」または「Trip B（トリップ B）」で走行した距離（kmまたはマイル）の合計を表示します。
- Average Fuel Economy（平均燃費） 前回リセット時以降の「Trip A（トリップ A）」または「Trip B（トリップ B）」の

平均燃費（MPG、L/100km または km/L）を表示します。

- Elapsed Time（経過時間） トリップ A およびトリップ B をリセットした以降の合計走行時間を表示します。

この機能の情報をリセットするには、**OK** ボタンを押し続けます。

ナビゲーション タイプ別装備

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Navigation display（ナビゲーション・ディスプレイ）」アイコン／タイトルがハイライト表示されるまで、**左** ◁ または**右** ▷ 矢印ボタンを押して放します。有効なルートが設定されていない場合、「Start Route（ルート開始）」が表示されます。有効なルートが設定されている場合、「Cancel Route（ルートのキャンセル）」が表示されます。

Off Road（オフロード）- タイプ別装備

「Off Road Menu(オフ・ロード・メニュー）」アイコン／タイトルがハイライト表示されるまで、**上** △ 矢印または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**左** ◁ 矢印ボタンまたは**右** ▷ 矢印ボタンを押し、サブメニューをスクロールします。

- **地形の状態**
  - セレクテレインの状態
  - エア・サスペンション・ステータス

START&STOP システム—タイプ別装備

インストルメント・パネル・ディスプレイに「START&STOP」メニューのタイトルが表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。

Audio（オーディオ）

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Audio（オーディオ）」メニュー・タイトルが表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。

Stored Messages（保存されているメッセージ）

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Messages（メッセージ）」メニュー・アイコンがハイライト表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。この機能を選択すると、保存された警告メッセージの数が表示されます。**左** ◁ 矢印または**右** ▷ 矢印ボタンを押すと、保存されたメッセージを順番に確認できます。

Screen Setup（画面設定）

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Screen Setup Menu（画面設定メニュー）」アイコン／タイトルがハイライト表示されるまで、**上** △ 矢印ボタンまたは**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。**OK** ボタンを押して放すと、サブメニューにアクセスできます。必要に応じて各画面の指示に従います。画面設定機能により、インストルメント・パネルに表示される情報およびその情報が表示される位置を変更できます。

運転者が選択できる画面設定項目

左上		
なし	Range to Empty（走行可能距離）	Date（日付）

左上		
Outside Temp（外気温）	Current Economy（現在の燃費）	Ignition State（イグニッションの状態）
Time（時刻）	Compass（コンパス）	Average Economy（平均燃費）

右上		
なし	Range to Empty（走行可能距離）	Date（日付）
Outside Temp（外気温）	Current Economy（現在の燃費）	Ignition State（イグニッションの状態）
Time（時刻）	Compass（コンパス）	Average Economy（平均燃費）

Restore Defaults (Restores All Settings To Default Settings)（出荷時の設定に戻す（すべての設定を工場出荷時の設定に戻します））

- 作動
- 非作動

Current Gear（現在のギヤ）- タイプ別装備

- On（オン）
- Off（オフ）

Vehicle Settings（車両設定）— タイプ別装備

インストルメント・パネル・ディスプレイで「Vehicle Setup（車両設定）」メニュー項目が表示されるまで、**上** △ または**下** ▽ 矢印ボタンを押して放します。このメニュー項目では、以下の設定を変更できます。

- スクリーン表示
- Units（単位）
- Clock and Date（日付＆時刻）
- Security（セキュリティ）
- Safety and Assistance（セーフティとアシスト）
- Lights（警告灯）
- Doors and Locks（ドアとロック）
- Compass（コンパス）（タイプ別装備）

メモ：
タッチスクリーン式ディスプレイが装備されている場合、ほとんどの車両設定はディスプレイで行なうようになります ⇨ ページ 136。

スクリーン表示

「Display（ディスプレイ）」を選択すると、以下の設定を選択できます。

- Language（言語）：情報／警告を表示する言語を選択します。
- Phone Repetition（電話表示）：電話モードに関する情報が表示されます。

Units（単位）

「Units（単位）」を選択すると、さまざまな値の表示に使用する測定単位を設定できます。以下のオプションがあります。

- US（米国）
- Metric（メートル単位）
- Custom（カスタム）：温度、距離、燃料消費、およびタイヤ空気圧について別々の単位を設定できます。

Clock And Date（日付＆時刻）

「Clock And Date（日付＆時刻）」を選択すると、時刻と日付を設定できます。以下のオプションがあります。

- Set Time（時刻設定）：時／分を調節します
- Set Format（表示形式の設定）：時刻の表示形式を「12h（12 時間）」と「24h（24 時間）」から選択します
- Set Date（日付設定）：日／月／年を調節します

Security（セキュリティ）

Passenger Air Bag Disable（助手席側エアバッグ無効）（PAD）：チャイルド・シートをフロント・シートに取り付けなければならない場合、「Passenger Air Bag Disable（助手席側エアバッグ無効）」の ON/OFF を選択できます。

Safety And Assistance（セーフティとアシスト）

「Safety And Assistance（セーフティとアシスト）」の項目を選択すると、以下の調節を行えます。

- ParkSense（タイプ別装備）：ParkSense から受け取る情報の種類を選択します
- Front ParkSense Volume（フロント ParkSense 音量）（タイプ別装備）：フロント ParkSense が鳴らすビープ音の音量を選択します
- Rear ParkSense Volume（リヤ ParkSense 音量）（タイプ別装備）：リヤ ParkSense が鳴らすビープ音の音量を選択します
- 前面衝突警報（FCW）（タイプ別装備）：前面衝突警報プラス・システムの動作モードを選択します
- FCW Sensitivity（FCW の感度）（タイプ別装備）：障害物までの距離に応じて前面衝突警報プラス・システムが介入する「準備状況」を選択します
- Rain Sensing Wipers（雨量感知機能ワイパ）（タイプ別装備）：降雨時のワイパの自動作動を有効／無効にします
- Active Lane Management Force（アクティブ・レーン・マネジメントの力）（タイプ別装備）：アクティブ・レーン・マネジメント・システムの作動時に、車両を車線に戻すために電気駆動システムがステアリング・ホイールに加える力を選択します
- Active Lane Management Warning（アクティブ・レーン・マネジメント警告）（タイプ別装備）：アクティブ・レーン・マネジメントの介入の「作動準備状態」を選択します
- Buzzer Volume（ブザー音量）：次の 4 つのオプションがあります。「Off（オフ）」、「Low（小）」、「Medium（中）」、「Loud（大）」
- Brake Service（ブレーキ整備）（タイプ別装備）：ブレーキ・システムのメンテナンス実施動作を有効にします
- Auto Park Brake（自動パーキング・ブレーキ）（タイプ別装備）：エレクトロニック・パーキング・ブレーキの自動作動を有効／無効にします
- Speed Warning（速度警告）：警告表示と警告音（ディスプレイ上でのメッセージと記号の表示）で運転者に伝えられる車速制限を設定します。速度警告を設定すると、運転者が速度警告をオフにするまでアイコン

（内側に設定速度が付いた円）が表示され続けます。設定速度を超えると、チャイムが 1 回鳴り、「Speed Warning Exceeded（速度警告を超過）」というポップアップ・メッセージが表示されます。この機能を使用しない場合、インストルメント・パネル・ディスプレイで「Speed Warning（速度警告）」を「OFF（オフ）」にすることもできます。機能をオフにするには、運転者はインストルメント・パネル・ディスプレイのボタンを使用して速度警告に移動し、**上** △ 矢印または**下** ▽ 矢印を、速度ではなく「OFF（オフ）」になるまで押します。

- Hill Start Assist（ヒル・スタート・アシスト）：ヒル・スタート・アシスト・システムを作動／解除します

Lights（照明）— タイプ別装備

「Lights（照明）」を選択すると、以下の調節を行えます。

- Ambient Lights（アンビエント・ライト）（タイプ別装備）：ドアとオーバーヘッド・コンソールのライトの照度を調節します
- Lights Off Delay（ライトの消灯遅延）：エンジンを停止してからヘッドライトが消灯するまでの遅延時間を設定します
- Headlight Sensitivity（ヘッドライトの感度）：ヘッドライトの明るさの感度を調節します
- Greeting Lights（グリーティング・ライト）：ドアを解錠したときに方向指示器を作動します
- Daytime Lights（デイタイム・ランプ）（タイプ別装備）：デイタイム・ランニング・ランプを作動／解除します
- Cornering Lights（コーナリング・ライト）（タイプ別装備）：コーナリング・ライトを作動／解除します
- Auto High Beam（オート・ハイ・ビーム）（タイプ別装備）：オート・ハイ・ビーム・ヘッドライトを作動／解除します

Doors And Locks（ドアとロック）

「Doors And Locks（ドアとロック）」を選択すると、以下の調節を行えます。

- Auto Unlock Doors（オート・ドア・アンロック）：車両から出るときに自動でドアが解錠されます
- Lights with Lock（施錠時に方向指示器を作動）：ドアの施錠時に方向指示器を作動します
- Horn With Remote Lock（リモート・ロックでホーンを鳴らす）：キーのロック・ボタンを押したときのホーンを作動／解除します。「Off（鳴らさない）」、「First Press（1 回目の押下）」、および「Second Press（2 回目の押下）」のオプションがあります
- Horn With Remote Start（リモート始動でホーンを鳴らす）（タイプ別装備）：キーを使ってエンジンをリモート始動したときのホーンを作動／解除します
- Door Unlock（ドアの解錠）：キーのロック解除ボタンを 1 回押したときにすべてのドアを解錠するか、運転席ドアだけを解錠するか選択できます
- Auto Driver Comfort（オート・ドライバ・コンフォート）（タイプ別装備）：車両の始動中のオート・ヒータ／エアコンを作動／解除します
- Key in Memory（キー・メモリ）（タイプ別装備）：キーにリンクされたメモリを有効／無効にします

Compass（コンパス）

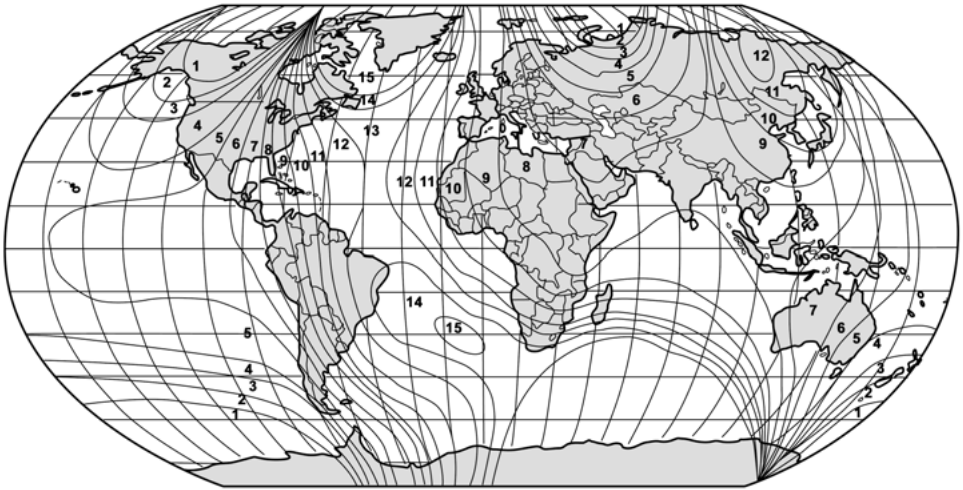
「Compass（コンパス）」を選択すると、以下の設定を変更できます。

Calibration（補正）（タイプ別装備）

このコンパスは自動補正式のため、手動で補正する必要はありません。新車の場合、コンパスが正常に表示されないことがあり、コンパスが補正されるまでインストルメント・パネルにダッシュ（- -）が表示されます。大きな金属や金属製のものがまったくない場所で、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示されているダッシュ（- -）が表示されなくなるまで車両を数回旋回させることで、コンパスを補正することもできます。その後、コンパスは正常に機能します。

Variance（バリアンス）（タイプ別装備）

コンパス・バリアンスとは、磁北と地理的北位との差です。差を補正するには、ゾーン・マップに従って、車両を運転する地域にバリアンスを設定する必要があります。正しく設定すると、コンパスは自動的に差を補正し、最も正確なコンパス表示が得られます。



コンパス・バリアンス・マップ

ディーゼル・ディスプレイ

該当する条件に応じて、インストルメント・パネル・ディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

- Exhaust Filter Nearing Full Safely Drive at Consistent Speeds to Clear（排気フィルタの堆積量がほぼ最大に達しています。除去するには一定速度で安全に走行してください）
- Exhaust Filter Full – Power Reduced See Dealer（排気フィルタの堆積量が最大に達しています - 動力が低下しました。ディーラーに連絡してください）
- Exhaust System Service Required – See Dealer（排気装置の整備が必要です - ディーラーに連絡してください）
- Exhaust System – Filter XX% Full Service Required See Dealer（排気装置 - フィルタの堆積量が XX%です。整備が必要です。ディーラーに連絡してください）
- Exhaust System Regeneration in Process Continue Driving（排気装置の再生中。走行を続けてください）
- Exhaust System – Regeneration Completed（排気装置 - 再生完了）

ディーゼル排出微粒子フィルタ（DPF）のメッセージ

このエンジンは、該当するディーゼル・エンジンの排出規制のすべてに合格しています。車両には、この規制に適合させるための最新のエンジンおよび排気装置が搭載されています。こうした装置は車両にシームレスに統合され、パワートレイン・コントロール・モジュール（PCM）により管理されています。PCM は、エンジンの燃焼を管理して、排気装置の触媒が排気微粒子（PM）汚染物質を捕集して焼却できるようにします。ドライバーの操作や干渉は一切必要ありません。

警告!

可燃物の上に駐車すると、排気装置が熱を持ち、火災が発生する恐れがあります。たとえば、草や葉などが車両の排気装置に接触すると火災の原因になります。そのような可燃物が排気装置に接触するような場所に車両を駐車したり、そのような場所で車両を整備しないでください。

注意!

警告灯が点灯していても、エンジンを切ることができます。再生処理によって繰り返し中断されると、エンジン・オイルの早期劣化を招くことがあります。このため、エンジンを切る前に記号が消灯するのを待ち、上記の指示に従うことを常にお勧めします。車両が停止しているときに、DPF 再生処理を実行しないでください。

車両には、車両またはエンジンに追加の保守整備が必要であることを通知する機能が備わっています。インストルメント・パネル・ディスプレイには、次のようなメッセージが表示されます。

- **「Exhaust Filter Nearing Full Safely Drive at Consistent Speeds to Clear（排気フィルタの堆積量がほぼ最大に達しています。除去するには一定速度で安全に走行してください）」**- 排気微粒子フィルタが最大容量の 80%になると、このメッセージが表示されます。走行距離が短く、低速で走行している場合は、ディーゼル・エンジンと排気後処理システムが、フィルタから堆積した PM を取り除くために必要な条件に達していない恐れがあります。その場合は、「Exhaust Filter XX% Full Safely Drive at Highway Speeds to Remedy（排気フィルタの堆積量が XX%です。高速道路での安全な高速走行で再生してください）」というメッセージが表示されます。このメッセージが表示されると、この状態に注意を促すためのチャイムも同時に鳴ります。高速道路で 20 分間走行するだけで、微粒子フィルタ・システムの状態は改善します。ディーゼル・エンジンおよび排気後処理システムのフィルターの清掃と、堆積した PM の除去が可能になり、システムを通常の動作状態に戻すことができます。
- **「Exhaust System Regeneration in Process Continue Driving（排気装置の再生中。走行を続けてください）」**- このメッセージは DPF が自己清掃していることを示します。再生終了まで、現在の走行条件を維持してください。
- **「Exhaust System — Regeneration Completed（排気装置 - 再生完了）」**- このメッセージは、DPF の自己清掃が完了したことを示しています。このメッセージが表示されると、この状態に注意を促すためのチャイムも同時に鳴ります。
- **「Exhaust System Service Required — See Dealer（排気装置の整備が必要です）」** - このメッセージは、システム故障のため再生が不能になったことを示しています。このとき、エンジンのパワートレイン・コントロール・モジュール（PCM）は故障コードを登録し、インストルメント・パネルにエンジン警告灯（MIL）が点灯します。

注意!

そのまま使用を続けると、早期に排気装置の破損が生じることがあるので、正規ディーラーに整備を依頼してください。

- **「Exhaust Filter Full — Power Reduced See Dealer（排気フィルタ満量 - 出力低下。ディーラーに連絡してください）」** - このメッセージは、排気後処理システムの恒久的な破損の恐れを回避するために、PCM がエンジンの出力レベルを下げたことを示しています。この状態が改善されず、ディーラーでの整備が実施されない場合、排気後処理システムに長期にわたる破損が発生することがあります。この状態を改善するには、正規ディーラーで車両の整備を行う必要があります。

メモ：

オイル交換表示灯に従わず、残り距離 0km（0 マイル）でオイルを交換した場合、ディーゼル排気微粒子フィルタは清掃ルーティンを実行できません。この場合、間もなくエンジン警告灯（MIL）が点灯し、エンジン出力が制限されます。この状態は、正規ディーラーでしか解除できません。

注意!

そのまま使用を続けると、早期に排気装置の破損が生じることがあるので、正規ディーラーに整備を依頼してください。

バッテリ・セーバ・オン／バッテリ・セーバ・モード・メッセージ – 電力負荷低減機能 – タイプ別装備

この車両には、インテリジェント・バッテリ・センサ（IBS）が装備されており、電気系統および車両バッテリの状態を監視します。

IBS が充電システム不具合、あるいは車両のバッテリ状態の悪化を検出すると、車両の走行時間および走行距離を伸ばすために、電力負荷の低減動作を実行します。この動作は、必要でない電力負荷に対する出力を下げるか、オフにすることによって行われます。

負荷低減機能はエンジン動作中にのみ有効になります。電源を供給できなくなるために車両が停止する、または現在の走行サイクル後に再始動しなくなる程度にまでバッテリが消耗する恐れがある場合には、メッセージが表示されます。

負荷低減機能の作動時には、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Battery Saver On（バッテリ・セーバ・オン）」または「Battery Saver Mode（バッテリ・セーバ・モード）」というメッセージが表示されます。

これらのメッセージは、車両バッテリの充電レベルが低下し、そのまま走行を続けると充電システムを維持できなくなる程度にまで電力が低下することを示しています。

メモ：

- 充電システムは負荷低減機能から独立して作動します。充電システムは、充電システムの診断を継続して実行します。
- バッテリ充電警告灯が点灯した場合、充電システムの問題を示していることがあります ⇨ ページ 72。

オフになる電力負荷（タイプ別装備）、および負荷低減により影響を受ける車両の機能は、以下のとおりです。

- シート・ヒータ/ベンチレーテッド・シート/ヒーテッド・ステアリング・ホイール
- 保温・保冷式カップ・ホルダ – タイプ別装備
- リヤ・デフロスタおよびヒーテッド・ドア・ミラー
- エアコンディショナー・システム
- 150W パワー・インバータ・システム
- オーディオ・システムおよびテレマティックス・システム

バッテリーの充電不足は、以下のうちの一つまたは複数の状況により発生します。

- 電力負荷が充電システムの能力より大きくなるため、充電システムが車両システムに十分な電力を供給できなくなる。それでも充電システムは正常に機能している。
- 特定の走行条件（市街地走行、けん引、頻繁な停止）で、車両のすべての電力負荷がオンになる（たとえば、エアコンディショナーが最大設定になる、室内灯や車外灯が点灯する、+12 ボルト、150W 電源アウトレット、USB ポートが過負荷になる）。
- 追加のランプ、後付けの電気アクセサリ、オーディオ・システム、アラーム、およびそれに類似した装置などのオプションが装備されている。
- 異常な走行サイクル（短距離走行と長期間の駐車の繰り返しなど）。
- 車両を長期間（週単位、あるいは月単位で）駐車した。
- 最近バッテリーを交換したが、完全に充電していなかった。
- 車両を駐車したときに作動していた電力負荷によってバッテリが放電した。
- エンジンが作動していない状態で、ラジオ、ライト、充電器、掃除機などの携帯電気器具用の+12V 電源、ゲーム・コンソールおよびそれに類する機器へ電力を供給するためにバッテリが長期間に使用された。

電気負荷低減アクション・メッセージが表示される（「Battery Saver On（バッテリ・セーバ・オン）」または「Battery Saver Mode（バッテリ・セーバ・モード）」）場合に行うこと

走行中：

- 可能な場合、以下のようにして不要な負荷への出力を下げる：
  - 余分な灯火類（室内灯や車外灯）を消灯する
  - +12 ボルト、150W 電源アウトレット、USB ポートに接続されているものを点検する
  - エアコンディショナー設定（ファン、温度）を確認する
  - オーディオ設定（音量）を確認する

走行後：

- 市販の機器（追加ランプ、カスタム電装品、オーディオ・システム、アラーム）が取り付けられていないかを確認し、取り付けられている場合は、仕様を確認する（負荷電流およびイグニッション OFF ドロー電流）。
- 直近の走行サイクル（走行距離、走行時間および駐車時間）の見直しを行う。
- それでも引き続き走行中にメッセージが表示される場合や、車両および走行パターンを見直しても原因を特

定できない場合は、車両の修理点検を行う必要があります。

警告灯およびメッセージ

インストルメント・パネルの警告灯／表示灯が点灯すると、それに関連する専用のメッセージや警告音が同時に発せられます。メッセージや警告音は注意を喚起する予備的なものですので、それだけに頼ったり、取扱説明書に記載されている情報に代わるものと考えたりはしないでください。また、いかなる場合でも取扱説明書の説明を十分にお読みください。故障の兆候が見受けられる場合は、必ずこの章の説明を参照してください。まず、問題に該当する表示灯がすべて表示されます。装備オプションやその時点の車両の状態によっては、システム点検メニューの表示が異なることがあります。一部の表示灯はオプションであり、表示されないことがあります。

赤色警告灯

エアバッグ警告灯



この警告灯は、エアバッグの故障を示し、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にすると、電球点検として 4～8 秒間点灯します。この警告灯は、エアバッグの故障が検出された場合にチャイム 1 回とともに点灯し、故障が解消されるまで点灯したままになります。エンジン始動時にこの警告灯が点灯しなかったり、点灯したままの状態になったり、または運転中に点灯した場合は、直ちに正規ディーラーで点検を受けてください。

ブレーキ警告灯



この警告灯は、ブレーキ・フルード量やパーキング・ブレーキなどのさまざまなブレーキ機能をモニタします。ブレーキ警告灯が点灯している場合は、パーキング・ブレーキがかかっているか、ブレーキ・フルード量が低下しているか、またはアンチロック・ブレーキ・システムに不具合があることを示しています。

パーキング・ブレーキがかかっていないときやマスタ・シリンダ・リザーバのフルード量が規定値にあるときに、ブレーキ警告灯が点灯したままの場合は、ブレーキ油圧システムに故障があるか、またはブレーキ・ブースタでの問題がアンチロック・ブレーキ・システム（ABS）／エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）システムで検出されたことを示しています。この場合、不具合が修理されるまで警告灯は点灯し続けます。問題がブレーキ・ブースタに関係している場合、ブレーキをかけているときに ABS ポンプが作動し、停車しようとするたびにブレーキ・ペダルの脈動が感じられる場合があります。

このデュアル・ブレーキ・システムは、油圧システムが一部効かなくなった場合に予備のブレーキ能力を発揮します。デュアル・ブレーキ・システムのいずれかで漏れが発生すると、ブレーキ警告灯が点灯します。これは、マスタ・シリンダのブレーキ・フルード量が規定値より低下した時に点灯します。

警告灯は、不具合が修理されるまで点灯し続けます。

メモ：
この警告灯は、急なカーブを曲がるときなどにフルード量の状態が変化することにより点滅する場合があります。車両を整備に出し、ブレーキ・フルード量の点検を受けてください。

ブレーキの故障がある場合は、直ちに修理が必要です。

警告!

赤いブレーキ警告灯が点灯したままの状態で走行することは危険です。ブレーキ・システムの一部に故障が起きている可能性があります。この場合、車両の制動距離が長くなります。衝突事故につながります。直ちに点検を受けてください。

アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）装備車には、電子ブレーキ・フォース・ディストリビューション（EBD）機能も搭載されています。EBD が故障した場合、ブレーキ警告灯が ABS 警告灯とともに点灯します。早急に ABS システムを修理する必要があります。

ブレーキ警告灯の動作は、イグニッション・スイッチを「OFF」位置から「ON/RUN」位置に回すことによって確認できます。警告灯が約 4 秒間点灯します。その後、パーキング・ブレーキを効かせるか、またはブレーキの不具合が検知されない限り、警告灯は消灯します。警告灯が点灯しない場合、正規ディーラーで点検を受けてください。

また、イグニッション・スイッチが「ON/RUN」位置でパーキング・ブレーキを効かせるとこの警告灯が点灯します。

メモ：
この場合は、単にパーキング・ブレーキがかかっていることを示します。ブレーキの作動具合を示すものではありません。

バッテリ充電警告灯



この警告灯は、バッテリが適切に充電されていない場合に点灯します。エンジンが作動中でも点灯し続ける場合、充電装置に問題があるおそれがあります。できるだけ早く、正規ディーラーにお問い合わせください。

これは、電気系統または関連部品に問題がある可能性を示しています。

ドア・オープン警告灯



この警告灯は、ドアが半ドアまたは開いた状態で、完全に閉じていないときに点灯します。

メモ：
車両が動いている場合、チャイムが 1 回鳴ります。

居眠り検知警告ー タイプ別装備



運転者居眠り検知機能は、運転者に適宜休憩を促すことで疲労による事故の回避を支援します。運転者の居眠りを検知すると、運転者が **OK** ボタンを押して消灯させるまでポップアップが表示されたままになります。

ポップアップ・メッセージが消灯すると、その状況が解消されるまでメッセージが保存されます。

電動パワー・ステアリング（EPS）故障警告灯



この警告灯は、EPS システムに故障が発生すると点灯します ⇨ ページ 93。

警告!

アシストが完全でない車両を操作し続けると、事故につながる恐れがありますので、直ちに整備を受けてください。

エレクトロニック・スロットル・コントロール（ETC）警告灯



この警告灯は、ETC システムに不具合が発生すると点灯します。車両の走行中に不具合が検出されると、不具合の状況に応じて警告灯は点灯または点滅します。車を安全に停車させ、トランスミッションを「P（パーキング）」位置に入れてイグニッションを切り替えると、警告灯は消えます。走行中に警告灯が点灯し続ける場合、通常は走行可能ですが、できるだけ早く正規ディーラーで点検を受けてください。

メモ：
アクセル・ペダルとブレーキ・ペダルを同時に踏むと、この警告灯は点灯することがあります。

この警告灯が走行中に点滅し続ける場合、直ちに点検を受ける必要があります。出力の低下、アイドリング回転数の増加、不安定、またはエンストなどが起きて、車両をけん引しなければならなくなる場合もあります。警告灯は、イグニッションを「ON/RUN」位置にした時に点灯し、電球点検のためしばらく点灯します。始動時に警告灯が点灯しない場合、正規ディーラーでシステムの点検を受けてください。

エンジン 温度警告灯



この警告灯は、エンジンがオーバーヒートしているときに点灯します。エンジン・クーラント温度が高すぎる場合は、警告灯が点灯し、チャイムが 1 回鳴ります。

走行中に警告灯が点灯した場合、安全を確認して車を路肩に寄せ、停止させてください。エアコン（A/C）システムを ON にしている場合は OFF にします。トランスミッションを「N（ニュートラル）」に入れ、アイドリングします。水温計の測定値が正常範囲に戻らない場合は、直ちにエンジンを止めて、整備を依頼してください ⇨ ページ 208。

ボンネット・オープン警告灯



この警告灯は、ボンネットが開いたままの状態で、完全に閉じていないときに点灯します。

メモ：
車両が動いている場合、チャイムが 1 回鳴ります。

リフトゲート・オープン警告灯



この警告灯は、リフトゲートが開くと点灯します。

メモ：
車両が動いている場合、チャイムが 1 回鳴ります。

油圧警告灯



この警告灯はエンジン油圧低下を示します。走行中にこの警告灯が点灯する場合は、直ちに車を止め、エンジンを停止し、正規ディーラーに連絡してください。警告灯が点灯すると、警告チャイムが鳴ります。

原因の箇所を修理するまで車を運転しないでください。この警告灯はエンジン・オイル量を示すものではありません。エンジン・オイル・レベルはエンジン・ルーム内で確認してください。

3

オイル温度警告灯



この警告灯は、エンジン・オイル温度が高いことを示します。走行中にこの警告灯が点灯する場合は、直ちに車を止め、エンジンを停止します。オイル温度が正常レベルに戻るのを待ちます。

シートベルト・リマインダ警告灯



この警告灯は、運転席または助手席のシートベルトが締められていないことを示します。イグニッションを最初に「ON/RUN（オン/走行）」位置にしたときに、運転席のシートベルトが外れている場合は、チャイムが鳴り警告灯が点灯します。運転中に助手席のシートベルトが外れたままの場合は、シートベルト・リマインダ警告灯が点滅または点灯し続け、チャイムが鳴ります ⇨ ページ 170。

速度警告システム警告灯 - タイプ別装備

この警告灯は、車速が 80km/h または 120km/h 以上になると点灯します。チャイムが 1 回鳴り、メッセージが表示されます。

警告音の周期:



車速が 80km/h（49mph）- 2 分に 1 回（第一段階）



車速が 120km/h（75mph）- 2 秒に 1 回（第二段階）

メモ:

速度警告システムの警告音を止めるには、運転者が速度を落とす以外の方法はありません。

トランスミッション異常警告灯



この警告灯は、トランスミッションに異常がある場合に点灯します（インストルメント・パネル・ディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが鳴ります）。エンジン再始動後もメッセージが表示されている場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

トランスミッション温度警告灯



この警告灯は、トランスミッション・フルード温度が高いことを警告するために点灯します。これは、トレーラけん引などの過酷な使用を行った際に発生することがあります。この警告灯が点灯した場合、車を停止し、トランスミッションを「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」に入れた状態で、警告灯が消灯するまでエンジンをアイドリング回転またはわずかに速いアイドリング回転で作動させてください。警告灯が消灯すれば、通常走行を継続してかまいません。

警告!
トランスミッション温度警告灯が点灯しているときに車の運転を続けると、トランスミッション・フルードが吹きこぼれて温度が高いエンジンや排気系の部品に接触し、火災が発生することがあります。

注意!
トランスミッション温度警告灯が点灯した状態で運転を続けると、トランスミッションに深刻な損傷や故障が発生する恐れがあります。

車両セキュリティ警告灯 タイプ別装備



この警告灯は、車両セキュリティ・システムがセットされると約 15 秒間すばやく点滅し、その後は解除されるまでゆっくりと点滅します。

黄色警告灯

アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）警告灯



この警告灯は、ABS を監視しています。イグニッションを「ON/RUN」位置に動かすと点灯し、約 4 秒後に消灯します。

運転中に ABS 警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯する場合は、ブレーキ・システムの ABS 装置が機能しておらず、できるだけ早い修理が必要です。しかし、ブレーキ警告灯が点灯していなければ、通常のブレーキ・システムはそのまま正常に作動します。

イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置に動かしても ABS 表示灯が点灯しない場合、正規ディーラーでブレーキ・システムの点検を受けてください。

エレクトロニック・パーキング・ブレーキ警告灯



この警告灯は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキが正常に機能しておらず、整備が必要であることを点灯して知らせます。正規ディーラーにお問い合わせください。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）作動警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、ESC システムが作動しているときに点灯します。インストルメント・パネル内の ESC 表示灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にしたときと、ESC が作動したときに点灯します。この表示灯は、エンジンが始動すると消灯します。エンジンがかかっても ESC 警告灯が点灯し続ける場合は、ESC システムに故障があることを意味します。イグニッション操作が数回行われ、48km/h（30mph）以上の速度で数キロメートル（数マイル）運転した後も警告灯が点灯し続ける場合、直ちに正規ディーラーで診断および修理を受けてください。

- ESC OFF 表示灯と ESC 表示灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にするたびに一時的に点灯します。
- ESC システムの作動中は、ブンブンまたはカチッという音を発します。これは正常な動作で、ESC が作動しなくなるとこの音は止まります。
- ESC が作動すると、この警告灯が点灯します。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）オフ警告灯 – タイプ別装備



の警告灯は、ESC が OFF であることを示します。イグニッション・スイッチを「ON/RUN（オン／走行）」位置にするたびに、以前 OFF にしていた場合でも、ESC システムは ON になります。

燃料カットオフ警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、事故の発生後にシステムが燃料を遮断した場合に点灯します。

アクティブ・レーン・マネジメント警告灯 – タイプ別装備



車両が車線ラインに近づくと、アクティブ・レーン・マネジメント警告灯は黄色に点灯します。車両が車線ラインを越えると、LaneSense 警告灯は点滅します。

アクティブ・レーン・マネジメント整備警告灯 – タイプ別装備



この警告灯は、アクティブ・レーン・マネジメント・システムが作動しておらず、整備が必要な場合に点灯します。正規ディーラーにお問い合わせください。

クーラント・レベル低下警告灯



この表示灯は、車両のクーラント・レベルが低下しているときに点灯します ⇨ ページ 221。

残燃料警告灯



タンク容量が 51L（13.5 gal）か 60L（15.8 gal）かによって、燃料の残量がそれぞれ 5.6L（1.5gal）または 6.6L（1.7gal）未満まで減少すると、残燃料表示灯が点灯します。

ウォッシャ液不足警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、フロントウィンドウ・ウォッシャ液の残量が少なくなったときに点灯します。

エンジン点検／警告灯（MIL）



MIL は、エンジンおよびオートマチック・トランスミッションのコントロール・システムを監視する OBD II と呼ばれるオンボード故障診断システムの一部です。エンジン始動前、イグニションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にすると、この警告灯が点灯します。イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」から「ON/RUN（オン／走行）」位置にしたときに警告灯が点灯しない場合は、直ちに点検を受けてください。

エンジン始動後も、フューエル・フィラ・キャップの緩みや紛失、燃料の品質不良などで警告灯が点灯することがあります。通常の運転の際にこの警告灯がたびたび点灯したままになる場合は、車の整備を受けてください。このようなときでも、ほとんどの場合、車は正常に運転でき、けん引の必要はありません。

MIL が点滅する場合は、エンジンが作動しているときに、急な出力低下や触媒コンバータの損傷などにつながる重大な不具合があることを警告しています。その場合は、直ちに正規ディーラーで車両の整備を受けてください。

警告!

上記のように触媒コンバータが故障した場合、触媒コンバータの温度が通常の走行状態よりも高くなることがあります。乾燥した草木など、可燃性の物質の上を低速で走行したり、駐車したりした場合、触媒コンバー

(続き)

3

警告!

タの故障が原因で火災が発生し、運転者、乗員、または他の人が死亡したり、重傷を負うことがあります。

注意!

エンジン警告灯（MIL）が点灯したまま長時間運転すると、車両コントロール・システムが損傷する恐れがあります。また、燃費と操縦性にも影響を与えることがあります。MIL が点滅すると、触媒コンバータの重大な損傷と出力低下が程なくして起こります。直ちに整備を受けてください。

AdBlue®（UREA）インジェクション・システム異常警告灯 - タイプ別装備



許容可能特性に適合しない不明なフルードが補充された場合、または 50%を超える AdBlue®（UREA）の平均消費が検出された場合に、ディスプレイの専用メッセージ（タイプ別装備）とともにこの警告灯は点灯します。できるだけ早く、正規ディーラーにお問い合わせください。

問題が解決しない場合、エンジンの始動ができなくなるまで特定のしきい値が達すると、特定のメッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。

AdBlue®タンクが空になるまで、約 200km（125 マイル）走行する必要がある場合、インストルメント・パネルには専用メッセージが途切れずに表示され、ブザーが鳴ります（タイプ別装備）。

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）整備警告灯 - タイプ別装備



この表示灯は、ACC が作動しておらず、整備が必要な場合に点灯します ⇨ ページ 99。

4WD 整備警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、4WD システムに故障が発生すると点灯します。警告灯が点灯し続けたり走行中に点灯したりするときは、4WD システムが正常に機能しておらず、整備が必要であることを示しています。最寄りの正規ディーラーまで運転し、直ちに車両の整備を受けることをお勧めします。

前面衝突警報（FCW）の整備警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、前面衝突警報システムの故障を示す場合に点灯します。正規ディーラーで整備を受けてください ⇨ ページ 165。

START&STOP システム整備警告灯 - タイプ別装備



この警告灯は、START&STOP システムが正常に機能しておらず、整備が必要である場合に点灯します。正規ディーラーで整備を受けてください。

タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム（TPMS）警告灯 – タイプ別装備



警告灯が点灯し、タイヤ空気圧が推奨値よりも低下していることや、ゆっくりと圧力が喪失していることを伝えるメッセージが表示されます。このような場合、最適なタイヤの寿命や燃費が確保されないことがあります。

1 本以上のタイヤが上記の状態になった場合、該当するタイヤが表示されます。

注意!

1 本以上のタイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。操作性が失われるおそれがあります。急ブレーキや急ハンドルを避け、車を止めてください。タイヤがパンクした場合は、専用のタイヤ修理キットを使って直ちに修理し、できるだけ早く正規ディーラーにお問い合わせください。

冷間時に、スペア・タイヤ（ある場合）も含め各タイヤを毎月チェックし、車両プラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されているメーカー推奨空気圧までタイヤの空気を入れてください。車両プラカードまたはタイヤ空気圧ラベルに記載されているサイズとは異なるサイズのタイヤが車に取り付けられている場合、適切なタイヤ空気圧を判断する必要があります。

追加の安全機能として、車両には TPMS が装備されており、1 つ以上のタイヤの空気圧が大幅に低下したときに低タイヤ空気圧警告灯が点灯します。低タイヤ空気圧警告灯が点灯したら、直ちに車を止め、タイヤをチェックした後、適切な空気圧までタイヤに空気を入れてください。タイヤ空気圧が著しく低下している状態で走行すると、タイヤが過熱し、タイヤの不具合につながるおそれがあります。タイヤ空気圧が低いと燃費も低下し、タイ

ヤ・トレッドの寿命も短くなります。さらに、車の操作や制動能力にも影響が出る可能性があります。

TPMS は通常のタイヤのメンテナンスに代わるものではないことに注意してください。空気圧の低下が TPMS の低タイヤ空気圧警告灯が点灯するレベルに達していない場合でも、タイヤの空気圧を正しく保つのは運転者の責任です。

また、この車には、システムの動作が適切でない場合に点灯する TPMS 警告灯が装備されています。TPMS 警告灯は低タイヤ空気圧警告灯と組み合わせて使用されます。システムによって不具合が検出されると、警告灯が約 1 分間点滅し、その後は点灯し続けます。不具合が発生しているかぎり、この動作はその後の車の始動時にも継続します。警告灯が点灯していると、システムによって低タイヤ空気圧が正しく検出および警告できない場合があります。TPMS の不具合は、交換タイヤまたは代替タイヤまたはホイールを車に取り付けた場合など、TPMS の適切な動作を妨げるさまざまな原因によって発生します。タイヤやホイールを 1 つでも交換した場合は、TPMS 警告灯を必ず確認し、交換用または代替のタイヤやホイールでも TPMS が引き続き正常に動作することを確認してください。

注意!

TPMS は、純正タイヤとホイール用に最適化されています。TPMS の空気圧と警告は、車両に取り付けられたタイヤ・サイズに対して設定されています。サイズ、タイプ、またはスタイル（あるいはそのすべて）が同じでない交換タイヤを使用すると、好ましくないシステム操作が発生したり、センサが損傷したりする場合があります。アクセサリ部品のホイールを使用すると、センサが損傷する可能性があります。市販のタイヤ・シーラントを使用すると、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム（TPMS）のセンサが作動しなくなる場合があります。市販のタイヤ・シーラントの使用後は、お近くの正規ディーラーに車両をお持ちいただき、センサ機能の点検を受けることをお勧めします。

(続き)

けん引フック故障警告灯 – タイプ別装備



この警告灯は、けん引フックに不具合があるときに点灯します。正規ディーラーで整備を受けてください。

黄色表示灯

「4WD LOW」表示灯–タイプ別装備



この表示灯は、車が 4WD LOW モードに入っていることを運転者に警告します。フロントおよびリヤ・ドライブシャフトが機械的に同時にロックされ、前輪と後輪は強制的に同じ速度で回転します。ロー・レンジの方が減速率が高く、ホイールに伝達されるトルクが大きくなります ⇨ ページ 92。

4WD ロック表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、車両が 4WD ロック・モードに入っていることを運転者に警告します。フロントおよびリヤ・ドライブシャフトが機械的に同時にロックされ、前輪と後輪は強制的に同じ速度で回転します ⇨ ページ 92。

アクティブ・スピード・リミッタ故障表示灯 - タイプ別装備



この警告灯は、アクティブ・スピード・リミッタの故障が検知されたときに点灯します。

オート・ブレーキ・ホールド故障表示灯 - タイプ別装備



オート・ブレーキ・ホールド故障が検出されると、故障表示灯が点灯し、故障状態が存在する限り点灯し続けます。

前面衝突警報（FCW）表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、前方車両との衝突可能性を警告する場合に点灯します。

前面衝突警報（FCW）オフ表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、前面衝突警報が OFF であることを示す場合に点灯します。

燃料カットオフ故障灯 - タイプ別装備



この表示灯は、燃料カットオフに故障がある場合に点灯します。この表示灯が点灯した場合は、正規ディーラーに点検をご依頼ください。

イモビライザ故障／VPS 電気アラーム表示灯



この表示灯は、車両セキュリティ・システムが車両への侵入が試みられたことを検知すると点灯します。

メモ：

イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」に回した後、システムで問題が検知されると、車両セキュリティ警告灯が点灯します。この状況では、2 秒後にエンジンが停止します。

-ディーゼル微粒子フィルタ（DPF）清掃進行中表示灯 - DPF 搭載ディーゼル・バージョンのみ - タイプ別装備



この表示灯が点灯するか、またはメッセージが表示されると、DPF システムが再生プロセスを通して捕集された汚染物質（微粒子）を除去する必要があることを示しています。走行条件によって運転者に知らせる必要があるときを除き、DPF 再生時に毎回、点灯またはメッセージの表示はありません。記号を消灯するには、再生プロセスが終了するまで車両を走行し続けます。平均で、このプロセス 15 分かかります。

このプロセスを完了するための最適条件は、エンジン回転数を 2000rpm 超にしながら、60km/h（37mph）で走行します。

この記号が点灯するか、またはメッセージが表示されている場合でも、車両の故障を示しているわけではないため、ワークショップに入庫する必要はありません。

メモ：

バージョンによっては、記号の点灯とともに、ディスプレイに専用メッセージが表示されます。

注意!

車両の走行速度は必ず、交通状況、天候条件に合わせ、交通規則を遵守してください。

DPF 警告灯が点灯していても、エンジンを切ることができますが、再生処理が繰り返し中断されると、エンジン・オイルの早期劣化を招くことがあります。このため、エンジンを切る前に記号が消灯するのを待つことが重要です。車両が停止しているときに、DPF 再生処理を実行しないでください。

ディーゼル排気液添加剤 AdBlue®（UREA）残量少表示灯 - タイプ別装備



ディーゼル排気液添加剤 AdBlue®（UREA）残量少表示灯は、AdBlue®レベルが低くなると点灯します。

AdBlue®タンクに 5 リットル（1.3 ガロン）以上の AdBlue®をできるだけ早く補充します。

タンク内での AdBlue®の残量がゼロに等しくなってからタンクへの補充を完了した場合は、2 分間待ってから車両を始動する必要がある場合があります。

リヤ・フォグ・ランプ表示灯 - タイプ別装備



リヤ・フォグ・ランプが点灯すると、この表示灯が点灯します。

燃料内水混入表示灯 – タイプ別装備



燃料内水混入表示灯は、フューエル・フィルタ内で水が検知されたときに点灯します。この表示灯が点灯し続ける場合は、エンジンの損傷を防止するため、フューエル・フィルタから水を排出するまではエンジンをかけないでください。また、正規ディーラーにお問い合わせください。

注意!

フューエル・システム回路に水が混入すると、インジェクション・システムに重大な損傷が発生し、異常なエンジン作動になることがあります。表示灯が点灯している場合、できるだけ早く正規ディーラーに連絡し、システムから抜き取ってください。補充直後に前記の表示灯が点灯した場合、タンクに水が混入しています。直ちにエンジンを切り、正規ディーラーにお問い合わせください。

始動待機表示灯 - タイプ別装備



イグニッションを「RUN（走行）」位置に回すと、この表示灯が約 2 秒間点灯します。低温での走行状態においては、点灯時間が長くなることがあります。表示灯が消灯するまで、車両は始動しません ⇨ ページ 82。

メモ：

始動待機表示灯は、インテーク・マニフォールド温度が十分に高い場合は点灯しないことがあります。

緑色表示灯

アクティブ・スピード・リミッタ設定表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、アクティブ・スピード・リミッタを ON にして特定の速度に設定すると点灯します ⇨ ページ 79。

先行車を検知していないときのアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）設定表示灯 - タイプ別装備



このランプはアダプティブ・クルーズ・コントロールが「SET（セット）」の位置にあり、前方に車両が検知されていないときに点灯します ⇨ ページ 99。

先行車を検知しているときのアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）設定表示灯 - タイプ別装備



このランプはアダプティブ・クルーズ・コントロールが「SET（セット）」の位置にあり、先行車が検知されているときに点灯します ⇨ ページ 99。

オート・ブレーキ・ホールド表示灯 タイプ別装備



オート・ブレーキ・ホールドにより、ブレーキ・ペダルに足を載せておかなくても、車両が完全停止状態に維持されます。作動すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに緑色の「HOLD（ホールド）」表示が現れます。

アクティブ・レーン・マネジメント表示灯 – タイプ別装備



アクティブ・レーン・マネジメント表示灯が緑色に点灯している場合、両方の車線が検知され、システムが「設定」され、意図しない車線逸脱の発生時に視覚による警告とトルクによる警告を発する準備が完了しています。

駐車灯／ヘッドライト表示灯



この表示灯は、駐車灯またはヘッドライトを ON にすると点灯します。

フロント・フォグ・ランプ表示灯 タイプ別装備



フロント・フォグ・ランプが点灯すると、この表示灯が点灯します ⇨ ページ 36。

方向指示灯表示灯



左右の方向指示器を作動させると、方向指示器表示灯は個別に点滅し、対応する車外の方向指示器が点滅します。方向指示灯は、マルチファンクション・レバーを下（左）または上（右）に動かして作動させます。

メモ：

- 左右どちらかの方向指示灯を出したまま 1 マイル (1.6 km)以上運転すると、警告チャイムが鳴り続けます。
- 左右どちらかが早く点滅する場合は、フロントおよびリヤの方向指示灯の電球に不具合がないかどうか点検してください。

クルーズ・コントロール SET 表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールが希望の速度に設定されると点灯します ⇨ ページ 98。

START&STOP 作動表示灯 タイプ別装備



この表示灯は、START&STOP 機能が「自動停止」モードになっているときに点灯します。

オート・ハイ・ビーム表示灯 – タイプ別装備



この表示灯は、オート・ハイ・ビーム・ヘッドライトが点灯していることを示します ⇨ ページ 36。

インテリジェント・スピード・アシスト（ISA）セット – タイプ別装備



ISA システムは、アクティブ・スピード・リミッタとトラフィック・サイン・アシスト（TST）システムの組み合わせにより、検知した道路標識に基づき、最大車速を自動的に調整します。システムが完全に作動し、TSA システムを使用して現在の速度を検知すると、インストルメント・パネル・ディスプレイのメッセージがアクティブ・スピード・リミッタによりその時点で設定された速度とともに「Set（設定済み）」に変化し、表示灯が緑色に変わります ⇨ ページ 97。

白色表示灯

アクティブ・スピード・リミッタ作動可能表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、アクティブ・スピード・リミッタが作動しているが設定されていないときに点灯します。

アクティブ・スピード・リミッタ設定表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、アクティブ・スピード・リミッタを ON にして特定の速度に設定すると点灯します ⇨ ページ 95。

アクティブ・レーン・マネジメント表示灯 – タイプ別装備



アクティブ・レーン・マネジメント・システムが ON でも設定されていない場合、アクティブ・レーン・マネジメント表示灯は白色に点灯します。左または右の車線が検出された場合、あるいはいずれの車線も検出されない場合にこのことが行われます。1 本の車線が検出された場合で、検出された車線で意図しない車線逸脱が発生すると、システムは視覚による警告だけを示す準備が整います ⇨ ページ 122。

ヒル・ディセント・コントロール（HDC）表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、HDC 機能が作動しているときに点灯します。HDC がセットされていると、表示灯が点灯します。トランスファ・ケースが「4WD Low」位置にあり、車速が 48km/h（30mph）未満である場合にのみ、HDC をセットできます。これらの条件を満たしていない場合に、HDC 機能を使用しようとすると、HDC 表示灯が点滅します。

クルーズ・コントロール作動可能表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールがオンでも設定されていないときに点灯します ⇨ ページ 98。

クルーズ・コントロール SET 表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールが設定されると点灯します ⇨ ページ 98。

速度警告システム表示灯 - タイプ別装備



設定速度警告がオンであり、設定速度を超えると、チャイムが 1 回鳴り、ポップアップ・メッセージ「Speed Warning Exceeded（速度警告を超過）」が表示されます。「Speed Warning（速度警告）」はインストルメント・パネル・ディスプレイでオンおよびオフにできます。

「55」という数字は、単なる設定可能な速度の例です。

インテリジェント・スピード・アシスト（ISA）作動可能 – タイプ別装備



ISA システムは、アクティブ・スピード・リミッタとトラフィック・サイン・アシスト（TST）システムの組み合わせにより、検知した道路標識に基づき、最大車速を自動的に調整します。「Ready（作動可能）」というメッセージと白い表示灯がインストルメント・パネル・ディスプレイに表示され、システムが作動したことを通知します ⇨ ページ 97。

青色表示灯

ハイ・ビーム表示灯



この表示灯は、ハイ・ビーム・ヘッドライトが点灯しているときに点灯します。ロー・ビームの使用中にマルチファンクション・レバーを前方（車両前方側）に押すと、ハイ・ビームが点灯します。マルチファンクション・レバーを後方（車両後方側）に引くと、ハイ・ビームが消灯します。ハイ・ビームがオフの場合、さらにレバーを手前に引くと、一時的にハイ・ビームが点灯し、「パッシング操作」を行えます。

灰色表示灯

クルーズ・コントロール作動可能表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、クルーズ・コントロールがオンでも設定されていないときに点灯します ⇨ ページ 98。

アクティブ・スピード・リミッタ作動可能表示灯 - タイプ別装備



この表示灯は、アクティブ・スピード・リミッタが作動しているが設定されていないときに点灯します。

オンボード故障診断システム – OBD II

この車両には、OBD II と呼ばれる高性能のオンボード故障診断システムが装備されています。このシステムは、排気、エンジンおよびオートマチック・トランスミッションの各コントロール・システムの性能を監視するものです。これらのシステムが適切に作動していると、車両は優れた性能および燃費を発揮するほか、排ガスのレベルも現行の基準値内に保たれます。

これらのシステムで点検が必要になると、OBD II システムはエンジン警告灯（MIL）を点灯します。また、故障診断コードや他の情報も記録するので、修理時の補助となります。この警告灯が点灯した場合でも、通常車両は走行可能で、けん引の必要はありませんが、できるだけ早く正規ディーラーで整備を受けてください。

注意!

- MIL が点灯したまま長時間運転すると、排出物コントロール・システムへさらなる損傷を与える恐れがあります。また、燃費と操縦性にも影響を与えることがあります。排ガス点検を行う前に、必ず車両を整備してください。
- 車両の走行中に MIL が点滅すると、重大な触媒コンバータの損傷と出力低下がすぐに発生します。直ちに整備を受けてください。

オンボード故障診断システム（OBD II）サイバーセキュリティ

エミッション・コントロール性能に関連する情報にアクセスするには、OBD II と接続ポートを装備する必要があります。認定を受けた整備士が車両およびエミッション・システムの診断および整備を実施する際に、この情報にアクセスすることが必要になる場合があります ⇨ ページ 136。

警告!

- VIN の読み取り、車両の診断、または整備を行うため、OBD II 接続ポートに機器を接続できるのは認定整備技術者に限られます。
- OBD II 接続ポートに、運転者動作追跡機器などの不正な機器が接続された場合、以下が生じる恐れがあります。
  - 安全関連システムを含む車両システムに障害が発生したり、車の制御が失われ、重傷または死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
  - 車両システムに保存された情報（個人情報を含む）へのアクセス、またはそれらの情報への他者のアクセスが許可されます。

始動と運転

エンジン始動手順

車を始動させる前に、座席位置、ルーム・ミラーおよびドア・ミラーを調節し、シートベルトを締めます。

警告!

- 車を出るときは、必ずキー・フォブを携帯して、車をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。
- お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはトランスミッション・ギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内または車の近くに、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。また、Keyless Enter-N-Go™搭載車では、イグニッションを「ACC」または「ON/RUN（オン／走行）」位置のままにして車から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

(続き)

警告!

- 車内で休息や仮眠をとる場合は、必ずエンジンを停止してください。誤ってギヤ・セレクタを動かしてしまい衝突事故を起こす恐れがあります。アクセル・ペダルを踏み込むことにより衝突事故につながる恐れもあります。また、排気装置が異常過熱され、オーバーヒートや出火を引き起こすこともあり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

ギヤ・セレクタを「N（ニュートラル）」レンジまたは「P（パーキング）」レンジに入れて、エンジンを始動します。シフト・レバーを操作するときには、ブレーキをかけてください。

通常の始動手順

車を始動させる前に、座席位置、ルーム・ミラーおよびドア・ミラーを調節し、シートベルトを締めます。

イグニッションを「START（始動）」位置に回し、エンジンが始動したらスイッチから手を放します。スタータは 25 秒以上回さないでください。スタータを回すごとに 2 分以上待つことで、スタータのオーバーヒートを防止できます。

警告!

- 車両から離れる前に、必ず完全に停車して、オートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」に入れ、パーキング・ブレーキをかけてください。

(続き)

警告!

- 必ずキーレス・イグニッション・ノードを「OFF（オフ）」位置にし、キー・フォブを車両から取り出し、車両をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内または車の近くに、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。また、Keyless Enter-N-Go™搭載車では、イグニッションを「ACC」または「ON/RUN（オン／走行）」位置のままにして車から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

メモ：

外気温が非常に低いときにエンジンを始動すると、明確に白い煙が発生することがあります。この状態はエンジンが暖機されると解消されます。

注意!

エンジンのクランキングは 25 秒を超えて行ってはいけません。この時間内でエンジンがかからない場合、2 分間以上空け、スターターが冷えるのを待ってから始動手順を再度行ってください。

メモ :

外気温が非常に低い場合、最大 5 秒間の始動遅延が行われる可能性があります。予熱動作中は、「Wait to Start(始動までお待ちください)」の警告灯が点灯します。「Wait to Start(始動までお待ちください)」の警告灯が消灯すると、エンジンの始動が可能になります。

チップ・スタート機能

イグニッション・スイッチを「START(始動)」位置にし、スタータがかかったらイグニッション・キーから手を放します。エンジンが掛かると、スタータ・モータが自動的に解除されます。エンジンがかからなかった場合、スタータは 25 秒以内に自動的に解除されます。この場合、次のようになります。

1. イグニッションを「OFF(オフ)」位置にします。
2. 2 分以上待ちます。
3. 「通常の始動 - ディーゼル・エンジン」手順を繰り返します。

メモ :

外気温が非常に低い場合、最大 5 秒間の始動遅延が行われる可能性があります。予熱動作中は、「Wait to Start(始動までお待ちください)」の警告灯が点灯します。「Wait to Start(始動までお待ちください)」の警告灯が消灯すると、エンジンの始動が可能になります。

オートマチック・トランスミッション

エンジンをかける前にシフト・レバーを P(パーキング)または N(ニュートラル)にします。いずれのドライブ位置へのシフトも、ブレーキをかけてから行ってください。

注意!

次の注意事項に従わないと、トランスミッションが損傷することがあります。

- エンジン回転数がアイドリング回転数を超えているときには、「P(パーキング)」、「R(リバース)」、「N(ニュートラル)」、「D(ドライブ)」間でシフトしないでください。
- 車両が完全に停止してから、ギヤを「P(パーキング)」または「R(リバース)」に入れるか、そのギヤからシフトします。
- シフト・レバーを操作する前に、ブレーキ・ペダルをしっかり踏んでください。

キーレス・イグニッションの機能 - 「ENGINE START/STOP(エンジン始動／停止)」ボタンの使用

1. トランスミッションが P(パーキング)または N(ニュートラル)位置にある。
2. ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で「ENGINE START/STOP」ボタンを 1 回押します。
3. システムによってスタータが作動します。エンジンがかからなかった場合、スタータは 25 秒後に自動的に作動停止します。
4. エンジンが始動する前に始動動作を停止するには、もう一度ボタンを押します。

キーレス・イグニッションの機能 - ブレーキ・ペダル／クラッチ・ペダルが踏まれていない状態(「P(パーキング)」または「N(ニュートラル)」位置)

キーレス・イグニッション機能は、イグニッション・スイッチと同様に機能します。この機能には、「OFF(オフ)」、「ON/RUN(オン／走行)」、「START(始動)」の 3 つの位置があります。車両を始動させずにイグニッションの位置を変えてアクセサリを使用するには、イグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」位置にして、以下の手順を実行します。

1. 「ENGINE START/STOP(エンジン始動／停止)」ボタンを 1 回押して、イグニッション・スイッチを「ON/RUN(オン／走行)」位置にします。
2. 「ENGINE START/STOP(エンジン始動／停止)」ボタンをもう 1 回押すと、イグニッション・スイッチが「OFF(オフ)」位置に変わります。

バッテリ・ブランケットの使用

バッテリ温度が-18°C(0°F)に下がると、バッテリはそのクランキング・パワーの 60%を失います。それと同じ温度低下の場合、エンジンを同じ回転数でクランキングするのに 2 倍のパワーが必要となります。バッテリ・ブランケットを使用すると、低温における始動能力が大幅に向上します。適切なバッテリ・ブランケットは、Mopar®正規ディーラーで入手できます。

通常の始動手順 - Keyless Enter-N Go™

エンジン始動時にインストルメント・パネルの表示灯を観察します。

1. 必ずパーキング・ブレーキをかけます。
2. ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で「ENGINE START/STOP」ボタンを 1 回押します。

メモ：
極低温条件下では、始動が最長で 5 秒間遅れる可能性があります。予熱プロセス中は、「Wait to Start（始動待機）」表示灯が点灯します。「Wait To Start（始動待機）」表示灯が消灯したら、エンジンが自動的にクランキングされます。

注意!
燃料内水混入表示灯が点灯したままになっている場合は、エンジン破損を防止するため、フューエル・フィルタから水を排出するまではエンジンを始動しないでください。

3. このシステムにより、スタータが自動的にかみ合ってエンジンのクランキングが行われます。エンジンがかからなかった場合、スタータは 25 秒後に自動的に作動停止します。
4. エンジンが始動する前に始動動作を停止するには、もう一度ボタンを押します。
5. 油圧警告灯が消灯していることを確認します。
6. パーキング・ブレーキを解除します。

エンジンの暖機

エンジンが冷えている場合、アクセル全開操作は避けてください。冷えているエンジンを始動する場合、エンジンを運転回転数まで徐々に持っていき、エンジンが暖まるのに応じて油圧が安定するようにしてください。

メモ：
冷えているエンジンを高回転、無負荷で運転すると、過度な白煙が生じて性能が不足する場合があります。無負荷でのエンジン回転数は、特に寒冷な周囲温度条件の場合、暖機時間中は 1,200RPM 以下でなければなりません。

長期間の駐車後のエンジン始動

メモ：
30 日間以上車両のエンジンを始動させない、または車両を走行させないと、長期間の駐車状態になります。

1. バッテリが完全に充電された状態でエンジン始動動作を行なうために、バッテリ充電器またはジャンパ・ケーブルをバッテリに接続します。
2. イグニッション・キーを「START（始動）」位置にし、エンジンが始動したらイグニッション・キーから手を放すか、キーレス・イグニッション装備車の場合は、ブレーキ・ペダルを踏んだままにしながら、「ENGINE START/STOP（エンジン START&STOP」ボタンを 1 回押します。
3. エンジンが 25 秒以内に始動しない場合、イグニッションを「OFF（オフ）」位置にし、2 分間待ってスタータを冷やしてから、もう一度「長期間の駐車後のエンジン始動」手順を実行してください。
4. この操作を 8 回繰り返してもエンジンが始動しない場合は、スタータを 10 分以上冷やしてからもう一度この手順を実行してください。

注意!
損傷を防ぐため、スタータは 1 回に 25 秒以上回さないでください。再度スタータを回すまでに 2 分以上おいてください。

始動後 — エンジンの暖機

アイドリング回転数は自動的に制御され、エンジンが温まるにつれて回転数は低くなります。

エンジンの停止

車速が 8km/h（5mph）を超えているときにエンジンを停止するには、「START/STOP（START&STOP）」ボタンを押し続けるか、「START/STOP（START&STOP）」ボタンを数秒以内に 3 回連続で押す必要があります。エンジンが停止し、イグニッションは「ON/RUN（オン／走行）」位置になります。

エンジンを停止しても（イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置から「STOP/OFF（停止／オフ）」位置にしても）、3 分間はアクセサリへの電力が供給され続けます。

イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」にした状態で運転席ドアを開けると、短いチャイムが鳴り、イグニッションを「STOP/OFF（停止／オフ）」にするよう運転者に通知されます。

イグニッションを「STOP/OFF（停止／オフ）」位置に入れると、ウィンドウ・スイッチが 3 分間作動し続けます。フロント・ドアを開けると、この機能はキャンセルされます。

負担の大きな走行した後は、エンジンを停止する前にエンジンのアイドリングを行い、エンジン・ルーム内の温度を下げてください。

エンジンの慣らし運転について

エンジンおよび駆動系（トランスミッションおよびアクスル）に対する長時間の慣らし運転は不要です。

最初の 500km（300 マイル）はゆっくりと走行してください。最初の 100km（60 マイル）を過ぎた後は、速度を 80 または 90km/h（50mph または 55mph）まで上げるようにしてください。

一定速度で走行しながらスロットルを瞬間的に全開にし、交通法規の範囲内で加速を行うことで、良い慣らし運転ができます。低速ギヤでスロットル全開加速を行うことは、車体に悪影響を及ぼしますので避けてください。

工場でエンジンに充填されているエンジン・オイルは、高品質、省エネ・タイプのオイルです。車を運転する時の気候条件に合わせオイル交換を行ってください ⇨ ページ 217。

注意!
ノンデタージェント・オイルまたはストレート・ミネラル・オイルはエンジンに絶対に使用しないでください。使用した場合、エンジンが損傷する恐れがあります。

メモ :
新しいエンジンでは、最初の数千キロメートルの走行で、エンジン・オイルが若干多めに消費されることがあります。これは正常な慣らし運転の結果ですので、問題はありません。

エレクトロニック・パーキング・ブレーキ（EPB）

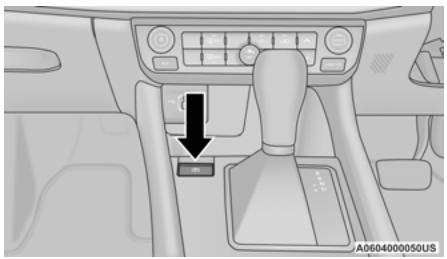
車両には、EPB システムが装備されています。このシステムは簡単に操作できるばかりでなく、パーキング・ブレーキをより便利かつ使いやすくする機能をいくつか備えています。

駐車中に車両が動かないようにすることが、パーキング・ブレーキの主な目的です。車から降りるときは、必ずパーキング・ブレーキをかけてください。また、トランスミッションを「P（パーキング）」レンジに入れたままにしておいてください。

パーキング・ブレーキをかけるには、次の 2 つの方法があります。

- 手動で「EPB」スイッチを作動させます。
- 「Uconnect Settings（Uconnect 設定）」の「Customer Programmable Features（ユーザー選択機能）」のセクションで、「Auto Park Brake（自動パーキング・ブレーキ）」機能を有効にすると、自動的にパーキング・ブレーキが作動します。

「EPB」スイッチはセンタ・コンソールにあります。



EPB スイッチ

手動でパーキング・ブレーキをかけるには、このスイッチを引き上げます。パーキング・ブレーキが完全に固定されると、インストルメント・パネルのブレーキ警告灯とスイッチの表示灯が点灯します。ブレーキ・ペダルを踏みながらパーキング・ブレーキをかけると、ブレーキ・ペダルがわずかに動くのがわかります。イグニッション・スイッチが「OFF（オフ）」であるのにブレーキ警告灯が点灯しない場合でも、パーキング・ブレーキをかけることができます。ただし、イグニッション・スイッチが「ON/RUN（オン／走行）」位置にあるときしか解除できません。

メモ :
EPB スイッチを 60 秒以上解除または作動のいずれかの位置にしたままにすると、EPB 警告灯が点灯します。スイッチを放すと、この警告灯は消灯します。

自動パーキング・ブレーキ機能を有効にすると、イグニッション・スイッチを OFF の状態で、トランスミッションを「P（パーキング）」に入れると、パーキング・ブレーキが自動的に作動します。ブレーキ・ペダルを踏んでいる場合、パーキング・ブレーキがかかるときに、ブレーキ・ペダルがわずかに動くのがわかります。

イグニッション・スイッチを「ON（オン）」にし、トランスミッションを「D（ドライブ）」または「R（リバース）」に入れ、運転席のシートベルトを装着し、車両の走行を試みると、パーキング・ブレーキは自動的に解除されます。

手動でパーキング・ブレーキを解除するには、イグニッション・スイッチを「ON/RUN（オン／走行）」位置にする必要があります。ブレーキ・ペダルを踏み、「EPB」スイッチを押し下げます。また、ブレーキ・ペダルがわずかに動くのがわかります。パーキング・ブレーキを完全に解除すると、インストルメント・パネルのブレーキ警告灯とスイッチの LED 表示灯が消灯します。

メモ :
坂道で駐車するときは、下り坂では前輪を縁石側へ向け、上り坂では車線中央側へ向けて駐車することが重要です。ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」に入れる前にパーキング・ブレーキをかけてください。そうしないと、トランスミッションのロック機構にかかる負荷で、ギヤ・セレクタが「P（パーキング）」から抜けにくくなることがあります。車を離れるときは、必ずパーキング・ブレーキをかけてください。

警告!

- リヤ・ブレーキが水または泥に浸かった場合は、パーキング・ブレーキが十分に作動しない場合があります。
- 絶対にパーキング・ブレーキの代用として「P(パーキング)」位置を使用しないでください。車が動かないように、また人身事故や物損を防止するため、駐車時には必ずパーキング・ブレーキを確実にかけてください。
- 車を離れるときは常に、キー・フォブを携帯し、車をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内または車の近くに、またはお子さまの手が届く場所に放置しないでください。また、Keyless Enter-N-Go™搭載車では、イグニッションを「ACC」または「ON/RUN(オン／走行)」位置のままにして車から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。
- 運転する前にパーキング・ブレーキを完全に解除してください。解除が不十分な場合、ブレーキの故障および衝突事故につながる恐れがあります。
- 車から離れるときは、パーキング・ブレーキを確実にかけてください。車が動き出し破損またはけがを

(続き)

警告!

引き起こす恐れがあります。また、セレクタを「P(パーキング)」レンジに入れたままにしておいてください。そうしない場合、車が動き出して破損またはけがを引き起こす恐れがあります。

注意!

パーキング・ブレーキを解除してもブレーキ警告灯が点灯したままの場合、ブレーキ・システムに不具合があることを示しています。直ちに正規ディーラーでブレーキ・システムを修理してください。

車両が動いている間にパーキング・ブレーキをかけなければならない状況では、必要なだけ EPB スイッチに上向きの力をかけ続けます。ブレーキ警告灯が点灯し、警告チャイムが鳴り続けます。車両が動いている間は、リヤ制動灯も自動的に点灯します。

車両が動いている間にパーキング・ブレーキを解除するには、スイッチを放します。パーキング・ブレーキを使用して車両を完全に停止させる場合、車両が約 5km/h (3mph)になるとパーキング・ブレーキは作動したままになります。

警告!

パーキング・ブレーキをかけたままで車を走行させたり、減速するためにくり返しパーキング・ブレーキを使用すると、ブレーキ・システムに重大な損傷が発生することがあります。これにより、ブレーキの故障および衝突事故につながる恐れがあります。

万一、EPB システムに異常が発生すると、黄色の EPB 故障ライトが点灯します。これにより、ブレーキ警告灯が点滅する場合もあります。異常が発生した場合は、EPB システムの緊急整備が必要です。車両の停止を維持するために、パーキング・ブレーキを使用しないでください。

Auto Park Brake(自動パーキング・ブレーキ)

車速が 3km/h(1.9mph)未満でシフト・レバーを「P(パーキング)」に入っているか(オートマチック・トランスミッションの場合)、イグニッション・スイッチを「OFF(オフ)」になっているときは常に、EPB が自動的に作動するように設定できます。自動パーキング・ブレーキは、「Uconnect の設定」の「ユーザー選択機能」のセクションから有効または無効にできます。

車速が 3km/h 未満でシフト・レバーが「P(パーキング)」に入っているか(オートマチック・トランスミッションの場合)、イグニッション・スイッチが「OFF(オフ)」に入れたときは常に、EPB が自動的に作動するように設定できます。自動パーキング・ブレーキは、「Uconnect の設定」の「ユーザー選択機能」のセクションから有効または無効にできます。

オートマチック・トランスミッションの場合、トランスミッションが「P(パーキング)」に入っていてイグニッションが「ON/RUN(オン／走行)」位置のときに、EPB スイッチを解除位置に押すと、1 度だけ自動パーキング・ブレーキが作動しなくなるようにすることができます。

セーフホールド

セーフホールドは、EPB システムの安全装置の 1 つで、イグニッション・スイッチが「ON/RUN(オン／走行)」位置のときに車両が動き出せる状態にあると、自動的にパーキング・ブレーキを作動させます。

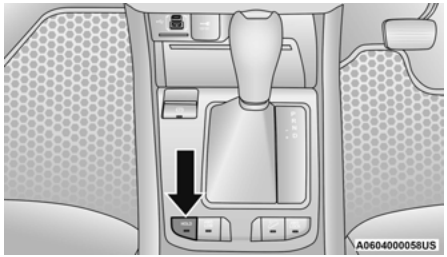
以下のすべての条件を満たすと、自動的に EPB が作動します。

- 車速が 3km/h（1.9mph）未満である。
- ブレーキ・ペダルまたはアクセル・ペダルを踏んでいない。
- シートベルトが外れている。
- 運転席ドアが開いている。
- 車両が「P（パーキング）」位置になってない。

運転席ドアを開き、ブレーキ・ペダルを踏み込みながら EPB スイッチを押すと、セーフホールドを一時的に解除できます。手動で解除した後に、車速が 20km/h（12mph）になるか、イグニッションを「OFF（オフ）」位置にしてからもう一度「ON/RUN（オン／走行）」位置にすると、再度セーフホールドが作動します。

オート・ブレーキ・ホールド - タイプ別装備

オート・ブレーキ・ホールドは、運転者が車両が停止してしまえば、ブレーキ・ペダルから足を離すことができるコンフォート機能です。車両は、油圧ブレーキにより既定の時間だけ必ず静止状態に保持されます。その後は、運転者がアクセル・ペダルを踏むまで、EPB が車両を停止状態に維持し続けます。オート・ブレーキ・ホールドは、スイッチ・バンクにある「HOLD（保持）」ボタンを押すことで作動／解除ができます。



オート・ブレーキ・ホールド・スイッチ

オート・ブレーキ・ホールドが作動するには、次の条件を満たさなければなりません。

- 運転席ドアを閉じている、または運転席のシートベルトが着用されている
- 車両が停止している
- 前進ギヤが選択されている
- アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）が作動していない
- EPB が作動していない
- ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムによる自動駐車操作が作動していない

警告!

オート・ブレーキ・ホールド機能で停車中でも、アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）が作動すると発進する場合があります。オート・ブレーキ・ホールド機能で停車中は、常に周囲に注意を払ってください。

ブレーキ整備モード

ブレーキの整備は正規ディーラーで実施することをお勧めします。

この手順を実施するには、正規ディーラーにお問い合わせください。

警告!

車や車の周りでの作業は、大けがをする危険を伴います。お客様ご自身での整備は、整備についての正しい知識と適切な工具のある場合に限り行ってください。整備に自信がない場合は、資格のある整備士に整備をご依頼ください。

オートマチック・トランスミッション

「P（パーキング）」からのシフトは、ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で行う必要があります。

警告!

- 絶対にパーキング・ブレーキの代用として「P（パーキング）」位置を使用しないでください。車が動かないように、また人身事故や物損を防止するため、車両から離れるときは、必ずパーキング・ブレーキを確実にかけてください。
- 「P（パーキング）」位置に入っていないと、車が動き出して、自分が負傷したり人身事故を招く恐れがあります。ブレーキ・ペダルを放し、ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」から別のギヤに入れて確認してくだ

（続き）

警告!

さい。車から出るときは、必ずトランスミッションが「P(パーキング)」位置に入っていることを確認してください。

- エンジン回転数がアイドリング回転数を超えているときに、セレクタを「P(パーキング)」または「N(ニュートラル)」からシフトするのは危険です。ブレーキ・ペダルをしっかり踏んでいないと、車両が前方または後方に急発進する恐れがあります。車を制御できなくなり、人や物にぶつかる危険性があります。シフト操作は、エンジンが通常通りにアイドリングしていて、ブレーキ・ペダルをしっかり踏んでいるときにだけ行ってください。
- 車両が動いているときにシフト操作をする場合、「P(パーキング)」、「R(リバース)」、および「D(ドライブ)」の間でシフトすると、新しく選択されたギヤが入らないことがあります。
- 車両が予期せずに動き出してしまった場合、人身事故を招く危険性があります。エンジンをかけたまま、車外に出ないでください。車両から離れる前に、必ず完全に停車してパーキング・ブレーキをかけ、トランスミッションを「P(パーキング)」に入れ、エンジンを停止して、キー・フォブを抜いてください。イグニッションを「OFF(オフ)」(キーを抜く)位置にすると(または、プッシュ・ボタン・スタート装備車で、イグニッションを「OFF(オフ)」位置にすると)、車両が予期せず動き出さないようにトランスミッションは「P(パーキング)」位置に固定されます。
- 車両から離れる場合は、必ずイグニッションを「OFF」位置にし、キー・フォブを携帯して、車両をロックしてください。

(続き)

警告!

- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはトランスミッション・ギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- キー・フォブを車内または車両の近く(またはお子さまの手が届く場所)に放置しないでください。また、(プッシュ・ボタン・スタート装備車の場合)イグニッションを「ON/RUN(オン／走行)」位置のまま車両から離れないでください。お子さまがパワー・ウィンドウやその他の装置を操作したり、車を動かしてしまう恐れがあります。

注意!

次の注意事項に従わないと、トランスミッションが損傷することがあります。

- 車両が完全に停止してから、ギヤを「P(パーキング)」または「R(リバース)」に入れるか、そのギヤからシフトします。
- エンジン回転数がアイドリング回転数を超えているときには、「P(パーキング)」、「R(リバース)」、「N(ニュートラル)」、「D(ドライブ)」間でシフトしないでください。
- シフト・レバーを操作する前に、ブレーキ・ペダルをしっかり踏んでください。

イグニッション・パーキング・インターロック

プッシュ・ボタンで始動する車両:

この車両にはイグニッション・パーキング・インターロックが装備されており、トランスミッションを「P(パーキング)」にしてからイグニッションを「OFF(オフ)」位置にする必要があります。これは、運転者がトランスミッションを「P(パーキング)」レンジに入れずにうっかり車両から離れてしまうことを防ぎます。このシステムは、イグニッションが「OFF」位置のときは必ずトランスミッションを「P(パーキング)」にロックする機能も備えています。

機械式キーを使用する車両:

この車両にはキー・イグニッション・パーキング・インターロックが装備されており、トランスミッションを「P(パーキング)」レンジにシフトしてからイグニッションを「OFF(オフ)」(キーを抜く)位置にする必要があります。キーはイグニッション・スイッチが OFF 位置にあるときのみイグニッション・スイッチから抜くことができます。トランスミッションは P(パーキング)レンジに固定されます。

車両のバッテリが放電してしまった場合、ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」位置にしても、イグニッションからキーが抜けなくなります。キーを抜くためには、バッテリを充電してください。

ブレーキ／トランスミッション・シフト・インターロック(BTSI)システム

この車両には、ブレーキ・ペダルが踏み込まれていない場合にトランスミッション・ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」位置に固定する BTSI が装備されています。トランスミッションを「P(パーキング)」位置から動かすには、エンジンの作動状態にかかわらずイグニッションを「ON/RUN

(オン／走行)」位置にし、ブレーキ・ペダルを踏み込む必要があります。また、車両が停止しているか低速走行しているときに「N(ニュートラル)」から「D(ドライブ)」または「R(リバース)」にシフトする場合にも、ブレーキ・ペダルを踏む必要があります。

6 速または 9 速オートマチック・トランスミッション

メモ:

この車両には、6 速または 9 速のオートマチック・トランスミッションが装備されています(タイプ別装備)。このセクションでは、6 速と 9 速両方のトランスミッションの動作について説明します。

トランスミッション・ギヤ・レンジ(PRND)は、ギヤ・セレクタの横とインストルメント・パネル内の両方に表示されます。ギヤ・レンジを選択するには、ギヤ・セレクタの「Lock(ロック)」ボタンを押し、セレクタを後方または前方へ動かします。車両が停止中、トランスミッションを「P(パーキング)」(または車両が停止している、あるいは低速走行中は「N(ニュートラル)」)以外のレンジへシフトする場合も、ブレーキ・ペダルを踏む必要があります。通常の運転には、「D(ドライブ)」レンジを選択してください。

メモ:

- このトランスミッションの電子制御は自動補正式です。そのため、新車の場合、最初のうちはシフトの動きがいくぶん不自然に感じることがあります。しかし、これは異常な状態ではなく、数百キロメートル走るうちに正確なシフトが行われるようになります。
- ギヤ・セレクタの位置と実際のトランスミッション・ギヤが一致しないと(たとえば、前進中に運転者が「R(リバース)」を選択した場合)、セレクタを正しい位置に戻すか、要求されたシフト操作を行えるようになるまで、位置表示が点滅し続けます。

電子制御されるトランスミッションは、ドライバの操作と環境および路面状況に基づいてシフト・スケジュールを調整します。

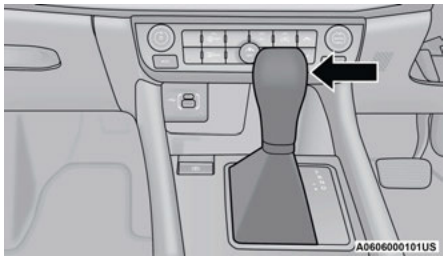
9 速トランスミッションは、現行および将来の FWD/AWD モデルの需要に合わせて開発されています。ソフトウェアとチューニングには、お客様の運転しやすさと燃費を最大限に確保するよう細心の注意を払っています。一部の車両と駆動系の組み合わせにおいては、設計上、きわめて特殊な走行状況や条件下でしか 9 速ギヤを使用しない場合があります。

「D(ドライブ)」から「P(パーキング)」または「R(リバース)」にシフトする場合は、必ずアクセル・ペダルを放し、車を停止してから行ってください。これらのレンジ間でシフトするときは、必ずブレーキ・ペダルを踏んでおいてください。

トランスミッション・ギヤ・セレクタのシフト位置は、「P(パーキング)」、「R(リバース)」、「N(ニュートラル)」、「D(ドライブ)」、「AutoStick(+/-)」です。AutoStick シフト・コントロールを使用すると、マニュアル・シフトを行えます ⇨ページ 91。ギヤ・セレクタを「AutoStick(+/-)」位置(「D(ドライブ)」位置の横)に動かすと、AutoStick モードが作動してマニュアル・シフト・コントロールを行えるようになります。このとき、インストルメント・パネルに選択中のギヤ(1、2、3 など)が表示されます。ギヤ・セレクタを「AutoStick」位置にしたまま前方(-)または後方(+)に動かすと、トランスミッション・ギヤを手動で選択できます。

メモ:

ギヤ・セレクタを前方に押しても「P(パーキング)」、「R(リバース)」、または「N(ニュートラル)」位置に入らない場合、シフト・レバーが「D(ドライブ)」位置の横の AutoStick(+/-)位置に入っている可能性があります。AutoStick モードでは、トランスミッション・ギヤ(1、2、3 など)がインストルメント・パネルに表示されます。「P(パーキング)」、「R(リバース)」、および「N(ニュートラル)」に入れるには、ギヤ・セレクタを右(「D(ドライブ)」位置)に動かしてください。



ギヤ・セレクタ

ギヤ・レンジ

「P(パーキング)」または「N(ニュートラル)」から他のギヤ・レンジへシフトするときは、アクセル・ペダルを踏み込まないでください。

メモ:

任意のギヤ・レンジを選択したら、選択されたギヤに入るまで少し待ってからアクセル・ペダルを踏んでください。これは特にエンジンが冷えているときに重要です。

P(パーキング)

「P(パーキング)」レンジは、トランスミッションをロックすることによって、パーキング・ブレーキを補助します。エンジンはこのギヤ・レンジで始動します。車が動いているときには、絶対にセレクタを「P(パーキング)」レンジに入れないでください。ギヤをこのレンジに入れて車を降りる時は、パーキング・ブレーキをかけてください。

坂道で駐車する時は、トランスミッションを「P(パーキング)」レンジに入れる前にパーキング・ブレーキをかけてください。そうしないと、トランスミッションのロック機構にかかる負荷によって、ギヤ・セレクタが「P(パーキング)」レンジから動かせなくなることがあります。念のため、下り坂では前輪を縁石側へ向け、上り坂では車線中央側へ向けて駐車してください。

車両から離れるときは常に以下を行ってください。

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. トランスミッションを「P(パーキング)」位置にします。
3. イグニッションを OFF の位置にします。
4. キー・フォブを携帯して車両から出ます。

メモ:
- 急斜面に駐車する場合は、車輪止めの使用を推奨します。
- ギヤ・セレクタが「N(ニュートラル)」位置にある状態で、またはギヤ・セレクタを「P(パーキング)」に入れる前に(オートマチック・トランスミッション装備車の場合)、絶対に車両から離れないでください。

注意!

- トランスミッション・ギヤ・セレクタを「P(パーキング)」からシフトする前に、イグニッション・スイッチを「ON/RUN(オン/走行)」位置に回して、ブレーキ・ペダルを踏んでください。そうしないと、ギヤ・セレクタが損傷する恐れがあります。
- 「P(パーキング)」または「N(ニュートラル)」位置から別のギヤ・レンジにシフトするときは、エンジン回転数を上昇させないでください。ドライブトレーンが損傷する危険があります。

次のガイドラインに従って、トランスミッションを「P(パーキング)」位置に適切かつ確実にシフトしてください。

- 「P(パーキング)」にシフトするときは、ギヤ・セレクタのロック・ボタンを押して、セレクタが停止して所定の位置に固定されるまで、前方に向けていっぱいに動かします。
- トランスミッション・ギヤ位置表示を見て、「P(パーキング)」位置になっていることを確認してください。
- ブレーキ・ペダルを放した状態で、ギヤ・セレクタが「P(パーキング)」位置から動かないことを確認してください。

R(リバース)

このレンジは、車両を後退させる場合に使用します。必ず車両が完全に停止してから、「R(リバース)」レンジにシフトしてください。

N(ニュートラル)

エンジンを作動させた状態で長時間停車する際に使用します。エンジンは、このギヤ・レンジでも始動できます。車両を降りる場合は、パーキング・ブレーキをかけ、トランスミッションを「P(パーキング)」レンジに入れます。

警告!

「N(ニュートラル)」レンジで惰性走行しないでください。また、エンジンを切ったまま絶対に下り坂を惰性走行しないでください。交通や路面の状態の変化に対する運転者の反応が制限されるため、きわめて危険です。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。

注意!

けん引時、惰性走行、またはその他の何らかの理由でトランスミッションを「N(ニュートラル)」に入れて走行させると、トランスミッションが重大な損傷を受ける恐れがあります。

キャンピング・カーなどのけん引については、⇨ ページ 131。

走行不能車両のけん引については、⇨ ページ 210。

D(ドライブ)

市街地および高速道路を走行する際に使用します。シフトアップおよびシフトダウンが最も滑らかで、燃費性能も最大限発揮されます。トランスミッションがすべての前進ギヤにわたって自動的にシフトアップします。「D(ドライブ)」ポジションにすると、あらゆる通常の走行状況で、最適な走行性能を得ることができます。

重い荷物を積んでの運転、丘陵地や強い向かい風の中を走行しているとき、または重いトレーラをけん引しているときなど、トランスミッションが頻繁にシフトする場合は、AutoStick シフト・コントロール(タイプ別装備)を使用して低いギヤを選択します ⇨ ページ 91。これらの状況では、低速ギヤを使用すると走行性能が高まり、シフトの頻度が減って過熱状態を避けることができるため、トランスミッションの寿命も延びます。

トランスミッションの温度が通常作動時の限度を超えた場合、トランスミッション・コントローラによりトランスミッションのシフト・タイミングが変更され、エンジンのトルクが軽減され、トルク・コンバータ・クラッチの締結範囲が広くなります。これは、オーバーヒートによるトランスミッションの損傷を防ぐために行われます。

トランスミッションの温度が非常に高くなると、トランスミッション温度警告灯が点灯し、トランスミッションが冷却されるまで、トランスミッションが通常とは異なって作動する場合があります。

低温時には、エンジンまたはトランスミッション、あるいはその両方の温度、ならびに車速に応じてトランスミッションの動作が変わることがあります。この機能により、最も効率よくエンジンやトランスミッションを暖機できます。トルク・コンバータ・クラッチの締結（および 9 速トランスミッションの場合の 8 速または 9 速ギヤへのシフト）は、エンジンまたはトランスミッション、あるいはその両方が暖まるまで行われません。温度が適切なレベルまで上昇すると、通常の作動に戻ります。

AUTOSTICK（M（マニュアル）モード）

AutoStick は運転者の意思でシフト・チェンジができるトランスミッションです。マニュアル・シフト・コントロールを行なえるようにすることで、車のこまやかなコントロールを可能にします。AutoStick によりエンジン・ブレーキを最大限活用し、不要なシフトアップやシフトダウンをなくし、全体的な車の性能を向上させることができます。このシステムは、追い越し、市街地走行、寒冷時のすべりやすい状態、山岳走行、トレーラけん引およびその他多くの状況で、細やかなコントロールを可能にします。

操作

ギヤ・セレクタは、「AutoStick」位置（「D（ドライブ）」位置の横）のときに前後に動かすことができます。この操作により、使用するトランスミッション・ギヤを運転者が手動で選択できます。ギヤ・セレクタを前方（-）へ動かすとシフトダウンし、後方（+）へ動かすとシフトアップします。現在のギヤは、インストルメント・パネルに表示されます。

AutoStick モードでは、エンジンのラギングや過回転状態が発生しない限り、運転者がギヤ・セレクタを後方（+）または前方（-）に動かすと、トランスミッションはシフトアップまたはシフトダウンします。下記の条件を除き、さらにシフトアップやシフトダウンを選択するまで現在選択しているギヤが維持されます。

- 6 速トランスミッションは、エンジンの過回転を防止するために必要な場合、自動的にシフトアップします。
- トランスミッションは、車の速度が遅くなると、自動的にシフトダウンしてエンジンのラギング（もたつき）を防止し、現在のギヤが表示されます。
- トランスミッションは、停車すると自動的に 1 速にシフトダウンします。停車してから発進するときに運転者は車の加速に応じてトランスミッションを手動でシフトアップ（+）する必要があります。
- 停車後、1 速または 2 速でも発進することができます（あるいは 6 速モデルの 3 速、もしくは選択可能な場合は「4WD LOW（4WD 低速）」レンジ、「Snow（雪）」モードまたは「Sand（砂）」モード）。（停車時に）（+）を押すと、2 速で発進できます。雪や凍った状況では、2 速での発進が有効な場合があります。
- 要求されたシフトダウンによってエンジンが過回転になる場合、そのシフトは発生しません。
- このシステムは、車速が不十分な場合にシフトアップしようとしても無効になります。
- AutoStick が有効な場合、トランスミッションのシフト動作がより強く感じられます。
- 故障またはオーバーヒート状態が検出された場合、システムはオートマチック・シフト・モードに戻ることがあります。

メモ：

セレクスピードまたはヒル・ディセント・コントロールが有効な場合、AutoStick は無効になります。

AutoStick を解除するには、ギヤ・セレクタを「D（ドライブ）」位置に戻します。「AutoStick」位置へ、または「AutoStick」位置からのシフト操作は、アクセル・ペダルから足を放さなくてもいつでもできます。

警告!

滑りやすい路面では、シフトダウンして余分なエンジン・ブレーキをかけないでください。駆動輪がグリップを失って車両が滑り、衝突や人身事故が発生する恐れがあります。

トランスミッション・リンプ・ホーム・モード

異常な状態がないかどうか、トランスミッション機能は電子的にモニタされています。トランスミッションの損傷につながる状態が検知されると、トランスミッション・リンプ・ホーム・モードが作動します。このモードでは、トランスミッションが一定のギヤのみで作動することや、「N（ニュートラル）」のままになることがあります。警告灯（MIL）が点灯することがあります。リンプ・ホーム・モードにより、トランスミッションを損傷させることなく正規ディーラーまで自走し、整備を受けることができます。

不具合が一時的であった場合は、下記の手順でトランスミッションをリセットすれば、前進ギヤはすべて作動可能な状態に戻ります。

1. 車を停止させます。
2. 可能な場合は、トランスミッションを「P（パーキング）」位置にします。そうでない場合は、トランスミッションを「N（ニュートラル）」にシフトします。
3. イグニッションを OFF の位置にします。プッシュ・ボタン・スタート装備車の場合、エンジンが停止するまでイグニッションを押し続けます。
4. 約 30 秒間待ちます。

5. エンジンを再始動してください。
6. 目的のギヤ・レンジにシフトします。不具合が検知されなければ、トランスミッションは正常な動作に戻ります。

メモ：

トランスミッションがリセットできた場合にも、できるだけ早く最寄りの正規ディーラーにご相談ください。正規ディーラーには、トランスミッションの状態を評価する診断機器が備わっています。トランスミッションをリセットできない場合は、正規ディーラーでの整備が必要です。

トルク・コンバータ・クラッチ

燃費を向上させる機能です。車両のオートマチック・トランスミッション内にあります。トルク・コンバータ内のクラッチが、測定した速度に応じて自動的に接続します。このため高速ギヤでの通常走行時に、感覚や反応が若干異なる場合があります。トルク・コンバータ・クラッチは、減速または加速中に自動的にクラッチの接続を解除します。

メモ：

トルク・コンバータ・クラッチは、エンジンまたはトランスミッション、あるいはその両方が温まるまで（通常、2～5km（1～3 マイル）走行するまで）接続されません。トルク・コンバータ・クラッチが接続されていないとエンジン回転数が高めになるため、車両の温度が低いときにはトランスミッションが適切にシフトしないように感じられることがありますが、これは正常な状態です。パワートレインが十分に温まると、トルク・コンバータ・クラッチは正常に機能します。

4WD 走行 ― タイプ別装備

JEEP®アクティブ・ドライブ

この車両には、パワー・トランスファ・ユニット（PTU）が装備されていることがあります。このシステムは自動式であるため、運転者による操作や特別な運転技術を必要としません。通常の走行状態では、トラクションのほとんどは前輪が伝えます。前輪がトラクションを失い出すと、駆動力は自動的に後輪にシフトします。前輪がトラクションを失うと、それだけ後輪に多くの駆動力がかかります。

また、乾いた路面でホイールの空転にならない程度に強めにアクセルを踏むと、後輪に早めにトルクがかかり、車両の発進や性能特性が高まります。

注意!

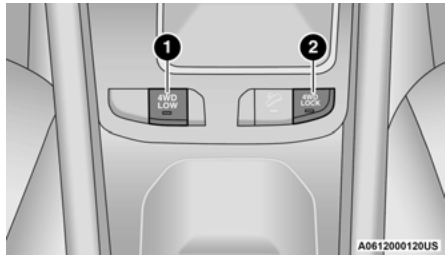
すべてのホイールに同一のサイズおよびタイプのタイヤを取り付ける必要があります。異なるサイズのタイヤは絶対に使用しないでください。タイヤ・サイズが異なると、パワー・トランスファ・ユニットが故障する恐れがあります。

4WD（4x4）

通常の走行モードでは、4WD が自動的に作動します。

メモ：

車速が 120km/h（75mph）を超えているときは、モードを変更できません。



4WD ボタン

1 - 4WD LOW（4WD ロー）
2 ― 4WD LOCK（4WD ロック）

4WD（4x4）を有効にする

4WD を有効にするためのボタンは、センタ・コンソールにあり、以下を選択できます。

- 4WD LOCK（4WD ロック）
- 4WD LOW

アクティブ・ドライブ・コントロール - タイプ別装備

リヤ・ドライブ・アクスルに速やかにトルクが伝わるように、パワー・トランスファ・ユニット（PTU）がロックされます。この機能は、AUTO（オート）モードでは選択可能ですが、その他の走行モードでは自動で設定されます。4WD LOCK は以下の方法で有効にできます。

- 「4WD LOCK（4WD ロック）」ボタンを押す。
- セレクテレイン・スイッチを AUTO（オート）からその他のオフ・ロード・モードに動かす。

ロー・コントロールによるアクティブ・ドライブ - タイプ別装備

4WD LOW モードでは、あらゆるモードでのオフ・ロード性能が向上します。4WD LOW を有効にするには、以下の手順に従ってください。

「4WD LOW（4WD 低速）」を有効にする

車両を停止させ、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」にするかエンジンを作動させた状態で、トランスミッションを「N（ニュートラル）」に入れ、「4WD LOW（4WD 低速）」ボタンを 1 回押します。シフトが完了すると、インストルメント・パネルに「4WD LOW（4WD 低速）」のメッセージが表示されます。

メモ：

- シフトが完了するまではボタンの「LOCK（ロック）」と「LOW（低速）」の両方の LED が点滅し、その後有効になります。
- インストルメント・パネル・ディスプレイの「4WD LOW」アイコンが点灯します。

「4WD LOW（4WD 低速）」を無効にする

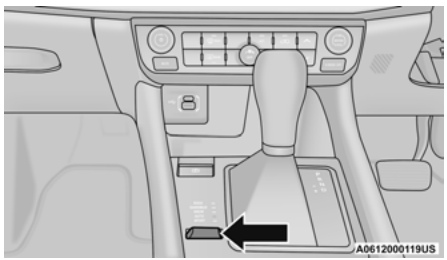
4WD LOW モードを無効にするには、車両を停止させてトランスミッションを「N（ニュートラル）」にシフトする必要があります。「4WD LOW（4WD 低速）」ボタンを 1 回押します。

セレクテレイン – タイプ別装備

セレクテレインは、各種車両コントロール・システムの能力を集結させることによって優れたドライビング・レスポンスを実現し、あらゆる地形で最高の性能を発揮します。

モードの選択方法

- **AUTO（オート）**：4WD の作動は完全に自動的に行なわれ、オン・ロードでもオフ・ロードでも使用できます。このモードでは、トラクションのバランスを取ることによって、2WD の車両と比較すると、操縦性を確保する駆動力と加速性能の向上を両立しています。またこのモードでは、条件が許せばドライブ・シャフトの切り離しが可能になるので、燃費も向上します。
- **SNOW（雪）**：このモードでは、悪天候の状況下でのスタビリティが向上します。雪で覆われている路面など、トラクションが低い場合のオン・ロードおよびオフ・ロードでの使用に向いています。SNOW モードにすると（特定の運転条件において）、ホイールのスリップを最小限に抑えることができるように、始動時にトランスミッションは（1 速ではなく）2 速に入ります。
- **SAND/MUD（砂地／泥地）**：オフ・ロード走行時、または泥や濡れた草などで覆われている乾燥した砂地や路面など、トラクションの低い路面での使用に向いています。トランスミッションは、トラクションが最大になるように設定されます。



セレクテレイン・スイッチ

メモ：

- ROCK モードは、オフ・ロード・パッケージが搭載された車両でのみ利用できます。
- 急な下り坂では、高いコントロール性が得られるように、ヒル・ディセント・コントロールを作動させてください ⇨ ページ 157。

パワー・ステアリング

電動パワー・ステアリング・システムにより、車両の応答性や狭い場所での操作性が向上します。このパワー・ステアリング・システムは、様々な走行条件に適応します。

警告!

アシストが完全でない車両を操作し続けると、事故につながる恐れがありますので、直ちに整備を受けてください。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Service Power Steering（パワー・ステアリングの整備が必要です）」または「Power Steering Assist Off - Service System（パワー・ステアリング・アシストが OFF。システムの整備が必要です）」というメッセージが表示され、ステアリング・ホイールのアイコンが表示された場合は、正規ディーラーで整備を受ける必要があることを示しています。この場合は、パワー・ステアリング・アシストが機能しなくなる可能性があります ⇨ ページ 60。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「Power Steering System Hot - Performance May Be Limited（パワー・ステアリング・システム過熱 - 性能が低下する恐れがあります）」というメッセージが表示され、アイコンが表示された場合は、過度なステアリング操作が発生し、パワー・ステアリング・システムが過熱した可能性があります。過熱状況が解消されるまで、パワー・ステアリング・アシストが

一時的に機能しなくなります。安全を確認し、車を路肩に寄せ、メッセージが消灯するまでしばらくアイドリング状態にしておきます ⇨ ページ 60。

メモ：

- パワー・ステアリング・アシストが機能しなくなっても、車両を操舵することができます。このような状況、特に低速走行時および駐車時の操作においては、ハンドル操作にかかる負担が増します。
- 状況が改善されない場合は、正規ディーラーへお問い合わせください。

START&STOP システム タイプ別装備

START&STOP システムは、燃費向上のために開発された機能です。必要条件が満たされると、停車中にシステムがエンジンを自動的に停止させます。ブレーキ・ペダルを放すか、クラッチ・ペダルを放すか、アクセル・ペダルを踏み込むと、エンジンは自動的に再始動します。

警告!

ボンネットを開ける前に、エンジンがオフであり、イグニッションが「OFF（オフ）」位置にあることを確認します。ボンネットの下にあるプレートに記載の指示に従います。他の人が車内に残っている場合は、キー・フォブを抜き取ることを推奨します。キー・フォブを抜き取り、イグニッションを「OFF（オフ）」位置にした後でのみ、車両から降りてください。給油時には、エンジンがオフ（イグニッション装置が「OFF（オフ）」位置）になっていることを確認します。

注意!

バッテリを交換する場合は、必ず正規ディーラーにお問い合わせください。バッテリは、同じタイプ（ヘビー・デューティ）で、かつ同じ仕様のものと交換します。

作動モード

エンジン停止モード

車両が静止してブレーキ・ペダルを踏み込んでいる状態で、ギヤ・セレクタを「R（リバース）」以外の位置にした場合にエンジンは停止します。

上り坂で停止した場合、ヒル・スタート・アシスト機能を作動させるため START&STOP システムが無効になります（エンジン作動時にのみ機能します）。

インストルメント・パネルの START&STOP 表示灯が点灯し、エンジンが停止したことを示します。

エンジン再始動モード

エンジンを再始動するには、ブレーキ・ペダルを放します。

ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で、ギヤ・セレクタが「D（ドライブ）」にある場合、セレクタを「R（リバース）」、「N（ニュートラル）」、または「AutoStick」にシフトすると、エンジンを再始動できます。

ブレーキ・ペダルを踏み込んだ状態で、ギヤ・セレクタが「AutoStick」モードである場合、セレクタを「+」、「−」、「R（リバース）」、または「N（ニュートラル）」にシフトすると、エンジンを再始動できます。

エンジンが自動停止しないときの考えられる理由

エンジンを停止させる前に、システムは安全性や快適性に関するさまざまな条件が満たされているかを点検します。START&STOP システムの動作に関する詳細な情報は、インストルメント・パネルの「Stop/Start」画面で確認できます。次の条件下では、エンジンは停止しません。

- 運転席のシートベルトのバックルが外れている。
- 運転者ドアが閉じられていない。
- バッテリの温度が高すぎる、または低すぎる。
- バッテリの充電残量が少ない。
- 車両が急な坂にある。
- 車内が暖房中または冷房中で、車内温度が許容温度に達していない。
- ファン・スピードが高速で、エアコンディショナーが最大限のデフロスタ・モードに設定されている。
- HVAC が「MAX A/C（急速冷房）」に設定されている。
- エンジンが通常の作動温度に達していない。
- トランスミッションが前進ギヤに入っていない。
- ボンネットが開いている。
- 車両が「4WD LOW」になっている。
- ブレーキ・ペダルが十分な力で踏み込まれていない。
- アクセル・ペダルが踏まれている。
- エンジン温度が高過ぎる。
- 前回の自動停止から 8km/h（5mph）の設定値に達していない。

- ステアリングの角度が設定値を超えている。
- アダプティブ・クルーズ・コントロールが ON で、速度が設定されている。

上記の項目がより極端な場合は、START&STOP システムが「STOP/START READY（Stop/Start 準備 OK）」になっていない状態であり、車両を数回走行させることができる場合があります。

自動停止モード時にエンジンを始動する

トランスミッションが前進ギヤに入っている状態でブレーキ・ペダルを放すか、アクセル・ペダルを踏み込むとエンジンが始動します。エンジンが再始動すると、トランスミッションは自動的にかみ合います。

次の場合、自動停止モード時にエンジンが自動的に始動します。

- トランスミッション・セレクタを「D（ドライブ）」以外に動かした。
- 車内の温度を快適に保とうとしている。
- エアコンディショナーを最大限のデフロスタ・モードに設定した。
- エアコンディショナーシステムの温度またはファン・スピードを手動で調整した。
- バッテリ電圧が過度に低下した。
- START&STOP システム「OFF（オフ）」ボタンが押された。
- START&STOP システムにエラーが発生した。
- 車両が「4WD LOW」になっている。

次の場合は、自動停止モード時にエレクトロニック・パーキング・ブレーキが強制的に作動します。

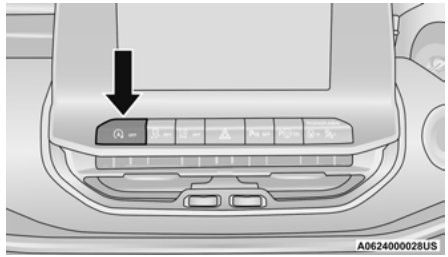
- 運転席のドアが開いた状態で、ブレーキ・ペダルが踏み込まれていない。
- 運転席のドアが開いた状態で、運転席のシートベルトのバックルが外れている。
- ボンネットを開いた。
- START&STOP システムにエラーが発生した。

エンジンが止まった状態でエレクトロニック・パーキング・ブレーキ（EPB）が作動すると、手動によるエンジンの再始動および EPB の手動解除（ブレーキ・ペダルを踏み込み、EPB スイッチを押す）が必要になることがあります ⇨ ページ 60。

手動による作動／解除

システムを手動で作動／解除するには、インストルメント・パネルのボタンを押します。

- LED オフ：システムが作動します
- LED オン：システムが解除されます



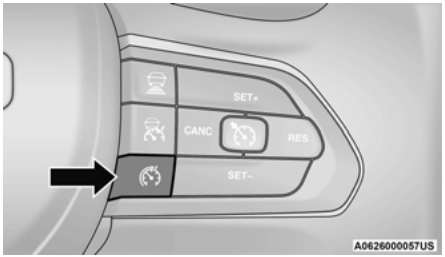
START&STOP システム「OFF（オフ）」ボタン

システム異常

START&STOP システムに異常が発生すると、システムによるエンジンの停止が行われなくなります。インストルメント・パネル・ディスプレイに「SERVICE STOP/START SYSTEM（START&STOP システム整備）」というメッセージおよび黄色の START&STOP 整備表示灯が表示されます ⇨ ページ 60。インストルメント・パネル・ディスプレイに「SERVICE STOP/START SYSTEM（START&STOP システム整備）」というメッセージが表示された場合は、正規ディーラーでシステムの点検を受けてください。「Autostop（自動停止）」中に不具合が発生した場合は、車両が自動始動しないことがあり、その場合はキーによる始動が必要です。

アクティブ・スピード・リミッタ - タイプ別装備

アクティブ・スピード・リミッタのボタンは、ステアリング・ホイールの右側にあります。



アクティブ・スピード・リミッタ・ボタン

アクティブ・スピード・リミッタは、車両の最高速度を設定された車速に制限します。

制限速度は 30km/h（20mph）から 130km/h（80mph）の間で設定できます。

メモ：

アクティブ・スピード・リミッタは、車両停止中または走行中に設定できます。

アクティブ・スピード・リミッタをスタンバイに設定するには、ステアリング・ホイールの設定ボタンを押します。アクティブ・スピード・リミッタはスタンバイ・モードになり、インストルメント・パネルに白い表示灯が表示されます。

メモ：

クルーズ・コントロール（タイプ別装備）およびアダプティブ・クルーズ・コントロール（タイプ別装備）は、アクティブ・スピード・リミッタが ON の場合は有効にできません。有効な場合、これらのシステムは「Speed Limiter（スピード・リミッタ）」ボタンを押すと無効になります。

作動

この機能を作動させるには、ステアリング・ホイール右側の「Active Speed Limiter（アクティブ・スピード・リミッタ）」ボタンを押します。インストルメント・パネル・ディスプレイに表示灯と合わせてメッセージが表示され、アクティブ・スピード・リミッタが作動したことが伝えられます。

「Active Speed Limiter（アクティブ・スピード・リミッタ）」ボタンを押した後、「SET（設定）（+）」または「SET（設定）（-）」ボタン（または、以前に設定した目標がすでにある場合は「RES（再開）」ボタン）を押して、目標速度を設定する必要があります。

「SET（設定）（+）」または「SET（設定）（-）」ボタンを押すと、設定速度を増減させて希望の値に設定できます。「SET（設定）（+）」または「SET（設定）（-）」ボタンを押し続けると、速度が 5km/h（5mph）の単位で増減されます。

アクティブ・スピード・リミッタを作動させたときはいつでも、「RES（再開）」ボタンを押すと目標速度は前回作動時に設定した最後の設定値に設定されます。

アクティブ・スピード・リミッタの作動（速度設定が記憶されている場合）

ステアリング・ホイールの「RES（再開）」ボタンを押すと、制限速度が記憶されている速度に設定されます。

メモ：

記憶されている制限速度が現在の車速より低い場合、設定しようとしてもアクティブ・スピード・リミッタは作動しません。この場合、対応するメッセージがインストルメント・パネルに表示されます。

作動中の表示

アクティブ・スピード・リミッタが作動している場合、設定された制限速度がインストルメント・パネルに表示され、アクティブ・スピード・リミッタ表示灯が緑色に点灯します。

一時的にアクティブ・スピード・リミッタの作動を解除するには

アクティブ・スピード・リミッタが作動した状態で走行中にアクセル・ペダルをいっぱいまで踏み込むと、アクティブ・スピード・リミッタの作動が一時的に解除される場合があります。この場合、対応するメッセージがインストルメント・パネルに表示されます。

制限速度を変更するには

アクティブ・スピード・リミッタが作動中に、ステアリング・ホイールの「SET（設定）+」または「SET（設定）-」ボタンを押します。「SET（設定）+」または「SET（設定）-」ボタンを押し続けると、制限速度が 1 mph (1 km/h)の単位で変わります。

アクティブ・スピード・リミッタをスタンバイに戻す

アクティブ・スピード・リミッタが作動中に、ステアリング・ホイールの「CANC（キャンセル）」ボタンを押すと、アクティブ・スピード・リミッタの作動は解除され、スタンバイに戻ります。インストルメント・パネルの制限速度表示は、設定速度値に取り消し線を引いて白に変わりますが、設定速度は引き続き記憶されます。

アクティブ・スピード・リミッタの作動を解除するには

アクティブ・スピード・リミッタがスタンバイ中に設定ボタンを押すと、アクティブ・スピード・リミッタの作動は解除されます。インストルメント・パネルの表示灯はオフになり、記憶されている速度は消去されます。

メモ：

クルーズ・コントロール（タイプ別装備）およびアダプティブ・クルーズ・コントロール（タイプ別装備）の各システムは、アクティブ・スピード・リミッタの使用中は使用できません。クルーズ・コントロール・システムまたは ACC システムを設定すると、アクティブ・スピード・リミッタはキャンセルされます。

設定速度の超過

装置が作動している場合にアクセル・ペダルを完全に踏み込むと、プログラムされた最高速度を超過することができます。

運転者が加速操作を行ったことでアクティブ・スピード・リミッタの設定値を超えた場合、表示灯が点滅し、インストルメント・パネル・ディスプレイにメッセージが表示されます。

この機能は車速がアクティブ・スピード・リミッタの設定値を下回るまで無効のままとなり、車速が下回ると、自動的に再作動します。

無効化

アクティブ・スピード・リミッタをオフにするには、ステアリング・ホイール右側のアクティブ・スピード・リミッタ・ボタンを押します。インストルメント・パネル・ディスプレイに、この機能がオフになったことを確認するメッセージが表示されます。また、「CANC（キャンセル）」ボタンを押してアクティブ・スピード・リミッタの作動を解除することもできます。この場合、システムは完全にはオフにならず、運転者は「RES（再開）」ボタンを押してアクティブ・スピード・リミッタを再び作動させることができます。

インテリジェント・スピード・アシスト（ISA）– タイプ別装備



インテリジェント・スピード・アシスト（ISA）システムは、アクティブ・スピード・リミッタ・システムとトラフィック・サイン・アシスト（TSA）システムを組み合わせたもので、検知した交通標識に基づいて車両の最高速度を自動的に調整します。

トラフィック・サイン・アシスト（TSA）（タイプ別装備）が作動中にアクティブ・スピード・リミッタをスタンバイにすると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Intelligent Speed Limiter Available（インテリジェント・スピード・リミッタが利用可能）」というメッセージが表示され、インテリジェント・スピード・アシスト（ISA）がスタンバイになります。

このとき、インストルメント・パネルのアクティブ・スピード・リミッタ表示灯の横にある表示灯が点灯します。ISAが作動している場合、検出した交通標識に基づいて車速が自動的に調整されます。

作動

この機能を作動させるには、Uconnect 設定内でトラフィック・サイン・アシスト（TSA）システムが有効になっていることを確認してから ⇨ ページ 136、ステアリング・ホイールの右側にある「Active Speed Limiter（アクティブ・スピード・リミッタ）」ボタンを押します。インストルメント・パネル・ディスプレイに白色表示灯と合わせて「Ready（準備完了）」というメッセージが表示され、システムが作動したことが伝えられます。

システムが「Ready（準備完了）」の状態にある間に、運転者は「SET（設定）（+）」、「SET（設定）（-）」、または「RES（再開）」ボタンを押して、システムを作動させる必要があります。システムが完全に作動し、TSA システムを使用して現在の速度制限を検知すると、インストルメント・パネル・ディスプレイのメッセージが「Set（設定）」に変わり、アクティブ・スピード・リミッタにより現在設定されている速度が並びます。表示灯は緑色に変わります。

ISA が作動している間に TSA システムが新しい速度制限を検知すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「New Speed Zone Detected（新しい速度域を検知）」というメッセージと検知した速度が表示され、アクティブ・スピード・リミッタにより自動的に最高設定速度が調整されます。アラート設定は Uconnect システム内でも調整できます。

メモ：
また、アクティブ・スピード・リミッタ・システムの設定速度より高い、または低い制限速度標識が検知されると、インストルメント・パネルにポップアップ・メッセージが表示されます。

ステアリング・ホイール右側にある「SET（設定）（+）」または「SET（設定）（-）」ボタンを押すと、ISA 設定速度より上か下の希望値まで設定速度が増減されます。「SET（設定）（+）」または「SET（設定）（-）」ボタンを押し続けると、速度が 5km/h（5mph）の単位で増減されます。

メモ：
クルーズ・コントロール（タイプ別装備）およびアダプティブ・クルーズ・コントロール（タイプ別装備）の各システムは、ISA システムの使用中は使用できません。

設定速度の超過

システムが作動している場合にアクセル・ペダルを完全に踏み込むと、最高設定速度を超過することができます。

最高設定速度を超えると、表示灯が点滅し、アクセル・ペダルを放すまで、インストルメント・パネル・ディスプレイにメッセージが表示されます。

無効化

インテリジェント・スピード・アシスト・システムをオフにするには、ステアリング・ホイール右側のアクティブ・スピード・リミッタ・ボタンを押します。インストルメント・パネル・ディスプレイに、この機能がオフになったことを確認するメッセージが表示されます。インテリジェント・スピード・アシスト・システムは、「CANC（キャンセル）」ボタンを押すこ

とでも解除できます。この場合、ISA システムは完全にはオフにならず、「RES（再開）」ボタンを押すと、システムを再度作動させることができます。

クルーズ・コントロール・システム – タイプ別装備

一部の車両には、以下のようなクルーズ・コントロール・システム、またはアダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）システムが装備されています。

- クルーズ・コントロールは、車速をあらかじめ設定された一定の速度に維持します。
- アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）は、あらかじめ設定された速度を上限に車速を調整して、先行車との車間距離を維持します。

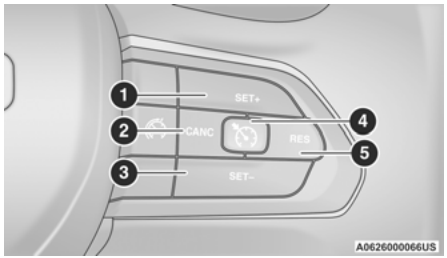
メモ：

- ACC 搭載車で ACC が有効になっていない場合、定速クルーズ・コントロールは自車の直前の車両を検知しません。選択されている機能に常に注意してください。
- クルーズ・コントロール（タイプ別装備）およびアダプティブ・クルーズ・コントロール（タイプ別装備）機能は、アクティブ・スピード・リミッタを使用しているときは使用できません。
- 複数のクルーズ・コントロール機能を同時に作動させることはできません。たとえば、定速クルーズ・コントロールが有効になっている場合、アダプティブ・クルーズ・コントロールは利用できません（逆の場合も同様です）。

クルーズ・コントロール

車速が 20 mph (30 km/h)を超えたときにクルーズ・コントロールを作動させて、アクセル操作を行わずに定速走行することができます。

クルーズ・コントロール・システムのボタンは、ステアリング・ホイールの右側にあります。



クルーズ・コントロール・ボタン

1 - SET（+）／加速
2 - CANC／キャンセル
3 - SET (-)／減速
4 - On/Off
5 - RES／再開

警告!

システムが一定速度を維持できないような状況でのクルーズ・コントロール・システムの使用は危険です。状況に合わない速度に加速して車を制御できなくなり、事故につながる恐れがあります。道路が混雑している場合、曲がりくねった道、凍結した道路、雪道、滑りやすい路面などでは、クルーズ・コントロール・システムは使用しないでください。

(続き)

作動するには

「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押して、クルーズ・コントロール・システムを作動させます。インストルメント・パネル・ディスプレイに「CRUISE CONTROL READY（クルーズ・コントロール準備完了）」と表示され、クルーズ・コントロール・システムがオンであることが示されます。「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを再度押すと、システムがオフになります。インストルメント・パネル・ディスプレイに「CRUISE CONTROL OFF（クルーズ・コントロール・オフ）」と表示され、クルーズ・コントロール・システムがオフであることが示されます。使用しないときには、システムを OFF にしておいてください。

警告!

クルーズ・コントロール・システムは、使用しないときに ON にしておくと危険です。不意にシステムが設定されたり、予想以上の速度になることがあります。車を制御できなくなり、事故につながる恐れがあります。システムを使用しないときは、常に OFF にしておいてください。

希望速度を設定するには

クルーズ・コントロール・システムをオンにします。車が希望速度に達したときに、「SET +（設定+）」または「SET -（設定-）」ボタンを押して放します。アクセルを放しても、車は設定された速度で走行し続けます。速度が設定されると、「CRUISE CONTROL SET TO MPH (km/h)（クルーズ・コントロールの設定は○○km/h（MPH））」というメッセージが表示され、設定された速度が示されます。速度が

設定されると、インストルメント・パネルに設定速度とともにクルーズ・コントロール表示灯が点灯し、そのまま点灯し続けます。

設定速度を変更するには

設定速度を増減させるには

クルーズ・コントロールの設定時に、「SET(設定)(+)」ボタンを押すと、設定速度が上がり、「SET(設定)(-)」ボタンを押すと、設定速度が下がります。

米国式(mph)

- 「SET(設定)(+)」ボタンまたは「SET(設定)(-)」を 1 回押すと、設定速度を 1mph 単位で調整できます。ボタンを 1 回押すごとに、1mph 単位で増減します。
- ボタンを押し続けると、ボタンを放すまで設定速度は 5mph ずつ加速し続けます。設定速度の上昇はインストルメント・パネル・ディスプレイに反映されます。

メートル法(km/h)

- 「SET(設定)(+)」または「SET(設定)(-)」ボタンを 1 回押すと、設定速度を 1km/h 単位で調整できます。ボタンを 1 回押すごとに、1km/h 単位で増減します。
- ボタンを押し続けると、ボタンを放すまで設定速度は 10km/h ずつ加速し続けます。設定速度の上昇はインストルメント・パネル・ディスプレイに反映されます。

追い越しのために加速するには

クルーズ・コントロールが設定されている間に、通常どおりアクセルを踏んで追い越します。ペダルを放すと、車は元の設定速度に戻ります。

坂道でのクルーズ・コントロール・システムの使用

トランスミッションが上り坂でシフトダウンし、車両の設定速度が維持されます。

クルーズ・コントロール・システムは、上り坂や下り坂でも速度を保ちます。緩やかな坂で速度が多少変化しても異常ではありません。急な坂道では加減速が大きくなるので、クルーズ・コントロールを使用せずに運転するようにしてください。

警告!

システムが一定速度を維持できないような状況でのクルーズ・コントロール・システムの使用は危険です。状況に合わない速度に加速して車を制御できなくなり、事故につながる恐れがあります。道路が混雑している場合、曲がりくねった道、凍結した道路、雪道、滑りやすい路面などでは、クルーズ・コントロール・システムは使用しないでください。

設定速度を復帰させるには

前回設定した速度を復帰させるには、「RES」ボタンを押して放します。復帰機能は、25km/h(17mph)を超える速度で使用できます。

設定を解除するには

ブレーキ・ペダルを軽く踏む、「CANC(キャンセル)」ボタンを押す、あるいは通常通りにブレーキ・ペダルを踏むと、設定した速度をメモリから消去せずにクルーズ・コントロール・システムを解除することができます。

次の条件を満たす場合、設定速度をメモリから消去せずにクルーズ・コントロールを解除できます。

- 車両のパーキング・ブレーキをかけた
- スタビリティが作動する
- ギヤ・セレクタを「D(ドライブ)」以外に動かした
- エンジン過回転になる

「ON/OFF(オン/オフ)」ボタンを押すか、イグニッションを「OFF(オフ)」位置にすると、設定した速度がメモリから消去されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)を使用することにより、高速道路や幹線道路を走行中にクルーズ・コントロールが提供する快適さが増します。しかし安全のための装置ではなく、衝突防止機能はありません。**クルーズ・コントロール機能は、車両に ACC が装備されていない場合には動作が異なります** ⇨ ページ 98。

ACC により、交通量が多くない状況で速度を再設定することなく、クルーズ・コントロールを作動させたままにすることができます。ACC では、前方の車両を検知するためにレーダー・センサおよび前方向きカメラを利用して、設定速度を維持します。

メモ:

- ACC センサが先行車を検出すると、減速と(当初の設定速度を超えないように)加速を自動的に調整し、あらかじめ設定された先行車との車間距離を維持しながら先行車の速度に合わせます。
- 車両のシャーシ/サスペンションまたはタイヤ・サイズに改変を加えると、アダプティブ・クルーズ・コントロールと前面衝突警報システムの性能に影響が出ます。

- 定速クルーズ・コントロール（ACC が有効になっていない状態）では、先行車を検知することはできません。選択されている機能に常に注意してください。

警告!

- アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）は利便性を追求したシステムです。運転者による運転に代わるものではありません。路面、交通状況、天候、車速、車間距離に注意し、なによりもあらゆる道路状況でブレーキを操作し安全に運転することは、運転者の責任です。安全運転を行うためには、常に十分な注意力が欠かせません。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。
- ACC システムは：
  - 歩行者、対向車、静止物（渋滞で停止している車や故障車など）には反応しません。
  - 路面、交通状況、および天候を考慮に入れることはできず、視界の悪い状況では性能が制限される場合があります。
  - 複雑な運転条件では必ずしも認識が完全に行われるわけではなく、そのため車間距離の警告が正しくなかったり、警告が発せられないことがあります。

次の場合は ACC システムをオフにしてください。

- 霧、大雨、大雪、凍結路、交通量の多い場所、複雑な状況（高速道路の工事中現場など）の中を運転する場合

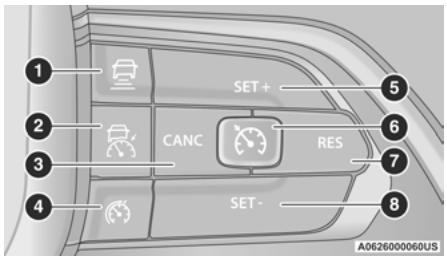
（続き）

警告!

- 右左折レーンや高速道路の出口ランプに入る場合、曲がりくねった道、凍結した道路、雪道、滑りやすい路面、勾配の大きい道を走行する場合
- 勾配の大きい道でトレーラをけん引する場合
- 一定速度で走行するのが危険な状況である場合

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の操作

ACC システムは（ステアリング・ホイールの右側にある）ボタンで操作します。



アダプティブ・クルーズ・コントロール・ボタン

1 - 距離設定ボタン
2 - アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）ON/OFF
3 - CANC／キャンセル
4 - アクティブ・スピード・リミッタ・ボタン
5 - SET（+）／加速
6 - 定速クルーズ・コントロール ON/OFF
7 - RES／再開
8 - SET (-)／減速

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）のメニュー

インストルメント・パネル・ディスプレイに現在のシステム設定が表示されます。DID に表示される情報は、ACC システムの状態に応じて異なります。

「アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）ON/OFF」ボタンを押すと、インストルメント・パネル・ディスプレイに以下のいずれかの項目が表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF

ACC の作動を解除すると、「Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）オフ）」と表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール - 準備完了

ACC がオンになっているが、車速設定が選択されていない場合は、ディスプレイに「Adaptive Cruise Control Ready（ACC 利用可）」と表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール - 設定

「SET（+）」または「SET（-）」ボタンを押すと、ディスプレイに「ACC 設定」が表示されます。

ACC を設定すると、設定速度がインストルメント・パネルに表示されます。

次の ACC 機能が作動すると、ACC 画面が再表示される場合があります。

- システムのキャンセル
- 運転者によるオーバーライド
- システム OFF
- ACC 接近警告
- ACC 利用不可警告

ACC 表示の動きがなく 5 秒経過すると、インストルメント・パネル・ディスプレイは最後に選択された表示に戻ります。

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の作動

ACC システムの最低設定速度は 30km/h（19mph）です。

システムを ON にして準備完了状態になると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC Ready（ACC 利用可）」と表示されます。

システムが OFF のときは、インストルメント・パネル・ディスプレイには「Adaptive Cruise Control (ACC) Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）オフ）」と表示されます。

メモ：
下記の状態では ACC を作動できません。

- 「4WD Low」になっている場合
- ブレーキが踏み込まれている場合
- パーキング・ブレーキがかかっている場合
- オートマチック・トランスミッションが「P（パーキング）」、「R（リバース）」、または「N（ニュートラル）」に入っている場合
- ブレーキが過熱している場合
- 低速で運転席のドアを開けている場合
- 低速で運転席のシートベルトが外れている場合
- この車両のすぐ前方に静止車両がある場合
- 「ESC フル OFF」モードが作動している場合

作動／停止するには

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押して放します。インストルメント・パネル・ディスプレイの ACC メニューに「ACC Ready（ACC 利用可）」と表示されます。

システムを OFF にするには、アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンをもう一度押して放します。このときシステムは OFF になり、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Adaptive Cruise Control (ACC) Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）オフ）」と表示されます。

警告!

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）システムを使用していないときに ON のままにしておくことは危険です。不意にシステムが設定されたり、予想以上の速度になることがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。システムを使用しないときは、常に OFF にしておいてください。

希望速度を設定するには

車両が希望速度に達したときに、「SET +」ボタンまたは「SET -」ボタンを押して放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに設定速度が表示されます。

メモ：
定速クルーズ・コントロールは ACC を有効にしなくても使用できます。別のモードに切り替えるには、ACC の ON/OFF ボタンを押します。これで、ACC と定速クルーズ・コントロールがオフになります。定速クルーズ・コントロールの ON/OFF ボタンを押すと、定速クルーズ・コントロール・モードがオンになります（切り替わります）。

警告!

定速クルーズ・コントロール・モードでは、システムは先行車には反応しません。さらに、先行車の存在や車間距離が検出されないため、先行車に近づきすぎても接近警報が作動せず、アラームも鳴りません。先行車との安全な車間距離を維持してください。選択されているモードに常に注意してください。

車速が 30km/h（19mph）を**下回っている**ときに ACC が設定されると、設定速度はデフォルトの 30km/h（19mph）になります。

メモ：
車速が 30km/h（19mph）を下回っているときは、定速クルーズ・コントロールを設定することができません。

車速が 30km/h（19mph）を**超えている**ときにいずれかのシステムが設定されると、設定速度は現在の車速になります。

メモ：

- アクセル・ペダルに足を乗せたままにしていると、設定速度を超えて加速し続ける場合があります。これが起こった場合は、インストルメント・パネル・ディスプレイに「DRIVER OVERRIDE（運転者によるオーバーライド）」というメッセージが表示されます。
- ACC を有効にした状態で設定速度を超えて加速し続けると、自車と先行車の間の車間距離制御が行われなくなります。車速はアクセル・ペダルを踏み込む量によってのみ決まります。

キャンセルするには

次の条件に合致すると、ACC システムまたは定速クルーズ・コントロール・システムがキャンセルされます。

- ブレーキ・ペダルを踏む

- 「CANC（キャンセル）」ボタンを押す
- アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）が作動する
- ギヤ・セレクタを「D（ドライブ）」位置から動かす
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール／トラクション・コントロール・システム（ESC／TCS）が作動する
- 車両のパーキング・ブレーキをかける
- トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC）が作動する
- 運転者が ESC をフル OFF モードに切り替える
- ブレーキ温度が正常範囲を超える（オーバーヒート）

次の条件に合致すると、ACC システムのみがキャンセルされます。

- 低速で運転席のシートベルトが外れている
- 低速で運転席のドアを開けている

OFF にするには

次のことを行うと、システムは OFF になり、メモリ内の設定速度は消去されます。

- アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）の「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押す
- 定速クルーズ・コントロール・システムの「ON/OFF（オン／オフ）」ボタンを押す
- イグニッション・キーが「OFF（オフ）」の位置にある
- 4WD LOW が作動している

再作動させるには

メモリに設定速度がある場合は、「RES（再開）」ボタンを押し、アクセル・ペダルから足を放します。インストルメント・パネル・ディスプレイに前回の設定速度が表示されます。

復帰機能は、定速クルーズ・コントロール使用中のみ、32km/h（20mph）を超える速度で使用できます。

復帰機能は、ACC の作動時は 0km/h（0mph）を超える速度で使用できます。

メモ：

- 車両が 2 秒以上静止したままの場合、運転者が「RES」（再開）ボタンを押すかアクセル・ペダルを踏んで、アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）に既存の設定速度を割り当てる必要があります。
- この車両のすぐ前方に静止車両がある場合、ACC を再開できません。

警告!

復帰機能は、交通状況と路面状態に注意して使用してください。設定速度が速すぎたり遅すぎたりするときに復帰機能を使用すると、そのときの交通量や路面状況によっては、車速を急に上げたり落としたりすることになるため危険です。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

設定速度を変更するには

設定速度を増減させるには

速度の設定後、「SET（設定）(+)」ボタンを押すと、設定速度が上がり、「SET（設定）(-)」ボタンを押すと、設定速度が下がります。

米国式（mph）

- 「SET（設定）(+)」ボタンまたは「SET（設定）(-)」を 1 回押すと、設定速度を 1mph 単位で調整できます。ボタンを 1 回押すごとに、1mph 単位で増減します。
- ボタンを押し続けると、ボタンを放すまで設定速度は 5mph 単位で連続して調整できます。新たに設定した速度はインストルメント・パネル・ディスプレイに反映されます。

メートル法（km/h）

- 「SET（設定）(+)」または「SET（設定）(-)」ボタンを 1 回押すと、設定速度を 1km/h 単位で調整できます。ボタンを 1 回押すごとに、1km/h 単位で増減します。
- ボタンを押し続けると、ボタンを放すまで設定速度は 10km/h 単位で連続して調整できます。新たに設定した速度はインストルメント・パネル・ディスプレイに反映されます。

メモ：

現在の設定を無視して「SET +（設定+）」ボタンまたは「SET -（設定-）」ボタンを押すと、新しい設定速度が車両の現在の速度になります。

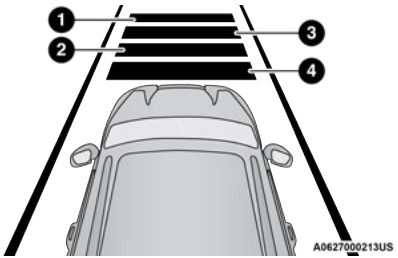
ACC の作動中：

- 「SET -（設定-）」ボタンを操作して減速するとき、エンジン・ブレーキによって設定速度まで車速を十分に落とすことができない場合、ブレーキ システムで自動的に減速します。
- 前方車両に追従しているときは、ACC システムが減速して完全停止します。自車が対象車に続いて静止した場合、2 秒後に、運転者が「RES（再開）」ボタンを押すか、アクセル・ペダルを踏んで ACC を再作動させて設定速度に戻す必要があります。

- ACC システムは、坂道でも設定速度を維持します。緩やかな坂で速度が多少変化しても異常ではありません。また、坂道の上り坂と下り坂ではシフトダウンが行われることもあります。これは設定速度を維持するために必要な正常な動作です。登坂および降坂時、ブレーキ温度が通常の範囲を超えると(オーバーヒート)、ACC システムはキャンセルされます。

ACC での車間距離の設定

バー 4 本(最長距離)、バー 3 本(長距離)、バー 2 本(中距離)、バー 1 本(短距離)の間で距離設定を変化させて、ACC の指定車間距離を設定できます。ACC は、この距離設定値と車速を基に、先行車との車間距離を計算して設定します。インストルメント・パネル・ディスプレイ内に距離設定が表示されます。



距離設定

1 - 最長距離設定(バー 4 本)
2 - 中距離設定(バー 2 本)
3 - 長距離設定(バー 3 本)
4 - 短距離設定(バー 1 本)

距離設定を長くするには、「距離設定」ボタンを押して放します。このボタンを押すたびに、距離設定はバー 1 本ずつ増加(延長)します。最長距離に達した後でボタンをもう一度押すと、選択可能な最短距離が設定されます。

先行車がいない場合、車両は設定速度で走行します。同じレーンに走行速度が遅い車両を検知すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに先行車を検知したときの ACC 設定表示灯が表示されます。その後システムは、設定速度に関係なく車速を自動的に調整し、距離設定を維持します。

車両は以下の条件が満たされるまで設定されている車間距離を維持します。

- 先行車が設定速度を超えるまで加速する。
- 先行車が車線を移る、またはセンサの検出範囲の外に出る。
- 車間距離の設定値を変更する。
- システムが解除される ⇨ ページ 101。

ACC による最大制動力は制限されますが、運転者は必要に応じて通常通りにブレーキをかけることができます。

メモ:

ACC システムがブレーキをかけると、常にブレーキランプが点灯します。

ACC はシステムの最大制動力では設定の車間距離を維持できないと判断すると、運転者に接近警報を発します。警報が出ると、インストルメント・パネル・ディスプレイで「BRAKE!(ブレーキ!)」という視覚警報が点滅し、チャイムが鳴ると同時に、ACC は最大制動力をかけ続けます。

メモ:

インストルメント・パネル・ディスプレイの「BRAKE!(ブレーキ!)」画面は運転者に対応を促す警告であり、必ずしも前面衝突警報システムが自動的にブレーキをかけるということではありません。

停止時の ACC の作動

前方車両に追従している間に、ACC システムにより車両が静止し、静止してから 2 秒以内にその前方車両が動き出した場合、運転者が何も対応しなくても、この車両は走行を再開します。

乗車している車両が静止してから 2 秒以内にその前方車両が動き出さない場合は、運転者が「RES(再開)」ボタンを押すか、アクセル・ペダルを踏んで ACC を再作動させて設定速度に戻す必要があります。

メモ:

ACC システムにより車両が約 3 分間連続して静止すると、パーキング・ブレーキが作動し、ACC システムはキャンセルされます。

ACC により車両が静止している間、運転席のシートベルトを外すか運転席のドアを開けると、パーキング・ブレーキが作動し、ACC システムはキャンセルされます。

警告!
ACC システムを再起動させるとき、運転者は、車両の進路上に歩行者、他の車両、障害物がないことを確認してください。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

追い越し補助

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)を作動させて別の車の後を走行中の場合、前方の車を追い越せるように、ACC の設定速度まで車が加速されます。右側通行の地域の場合、この追加の加速は、左方向指示器を使用したときに開始されます。なお、先行車の左側を追い

4

越す場合にのみ作動します。左側通行の地域の場合、この追加の加速は、右方向指示器を使用したときに開始されます。なお、先行車の右側を追い越す場合にのみ作動します。

メモ：

車が右側通行の地域から左側走行の地域に移行する場合、またはその逆の場合、ACC システムが通行の方向を自動的に検出します。

警告およびメンテナンスの表示

「WIPE FRONT RADAR SENSOR（フロント・レーダ・センサを清掃してください）」警告

システムの性能が一時的に制限される条件になると、「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC／FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃してください）」という警告が表示され、チャイムも鳴ります。

この警告は、多くの場合、雪や大雨などのため視界が悪いときに発せられます。ACC システムは、泥、埃、氷などの障害物によって一時的に利用できなくなる場合もあります。このような場合、インストルメント・パネル・ディスプレイに上のメッセージが表示され、システムが無効になります。

このメッセージは、反射率の高いエリア（反射タイルが使用されたトンネル、氷雪など）の走行中に表示されることがあります。エリアを離れると、ACC システムは再び作動します。まれに、レーダーが追跡する車両や物体が進路上にない場合、この警告が一時的に表示される場合があります。

メモ：

「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC／FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃してください）」という警告が表示されている場合でも、定速クルーズ・コントロールは使用できます。

天候状況が原因でない場合、センサを点検する必要があります。センサの清掃や障害物の除去が必要な場合もあります。センサは、車両中央、ロア・グリルの背後に取り付けられています。

ACC が正常に作動するために、以下のメンテナンス項目に留意してください。

- センサを常にきれいにしておきます。柔らかい布でセンサのレンズを丁寧に拭きます。センサのレンズに傷を付けないように注意してください。
- センサのネジを取り外さないでください。ネジを外すと、ACC システムが誤作動を起こしたり機能せず、センサの再調節が必要になる場合があります。
- 衝突によってセンサまたは車両の前部が損傷を受けた場合、正規ディーラーで整備を受けてください。
- センサ付近には透明な部品や後付けグリルなどのアクセサリをはめたり、取り付けたりしないでください。アクセサリを付けると ACC が機能しなくなったり、誤作動を起こす恐れがあります。

システムの作動を解除していた状況がなくなったとき、システムは「Adaptive Cruise Control Off（アダプティブ・クルーズ・コントロール - OFF）」状態になり、再起動するだけで再び機能するようになります。

メモ：

- 雪、雨、泥またはその他の障害物がないにもかかわらず「ACC/FCW Unavailable Wipe Front Radar Sensor（ACC/FCW が無効のためフロント・レーダ・センサを清掃してください）」というメッセージが頻繁に表示される場合（1 回の走行に 2 度以上）、正規ディーラーでレーダ・センサの再調節を行ってください。
- スノウプラウ、フロント・フェイス・カバーや後付けグリルの取り付け、またはグリルの改造は推奨しません。これらのパーツがセンサの障害となり、ACC/FCW が機能しなくなる恐れがあります。

「CLEAN FRONT WINDSHIELD（フロントウィンドウの清掃が必要です）」警告

システムの性能が一時的に制限される条件になると、「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC／FCW の機能が制限されているためフロントウィンドウの清掃が必要です）」という警告が表示され、チャイムがなります。この警告は、多くの場合、雪または大雨や曇りなどのため視界が悪いときに発せられます。ACC システムは、フロントウィンドウ上の泥、埃、氷、さらにはガラス内側の曇りなどの障害物によって一時的に利用できなくなる場合もあります。このような場合、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC/FCW の機能が制限されているためフロントウィンドウの清掃が必要です）」と表示され、システムは性能を低下させます。

悪天候条件での走行中、このメッセージが表示されることがあります。車両がこうしたエリアを離れると、ACC/FCW システムは再び作動します。まれに、カメラが進路上の車両や物体を追跡しない場合、この警告が一時的に表示される場合があります。

天候条件が原因ではない場合、運転者はフロントウィンドウおよびルーム・ミラーの裏側にあるカメラを点検する必要があります。清掃や障害物の除去が必要な場合もあります。

機能の制限をもたらす状況がなくなると、システムの機能は完全に元に戻ります。

メモ：
雪、雨、泥またはその他の障害物がないにもかかわらず「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC/FCW の機能が制限されているためフロントウィンドウの清掃が必要です）」というメッセージが頻繁に表示される場合（1 回の走行に 2 度以上）、正規ディーラーでフロントウィンドウおよび前方向きカメラの点検を受けてください。

ACC/FCW 整備警告

システムがオフになり、インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC/FCW Unavailable Service Required（ACC/FCW 利用不可、整備を受けてください）」または「Cruise/FCW Unavailable Service Required（クルーズ／FCW 利用不可、整備を受けてください）」と表示された場合は、ACC の機能を制限する内部システム故障または一時的な不具合が生じている恐れがあります。通常の状態で走行することはできますが、ACC は一時的に利用できなくなります。そのような場合は、後ほどイグニッション・サイクルに従って ACC を作動させてください。問題が解決できない場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

ACC を作動させて運転する際の注意事項

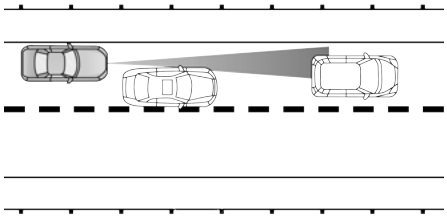
運転状況によっては、ACC の検出に問題が生じることがあります。そのような場合、ACC によってブレーキがかかるのが遅かったり、不意にかかったりする可能性があります。運転者は油断せず、場合によってはシステムの作動に対し処置を講じることが必要なこともあります。以下は、こうした種類の状況の例です。

トレーラのけん引

ACC の使用時、トレーラのけん引はお勧めしません。

車の位置のずれ

同じ車線に車がいても、運転している車の直線方向からずれている場合や、隣の車線から合流してくる車両の場合、ACC は検出できないことがあります。また、先行車との距離を十分に保つことができないことがあります。そのような車は一定して走行軌跡に留まらないため、車のブレーキが不意にかかったり、加速したりすることがあります。



車の位置のずれの例

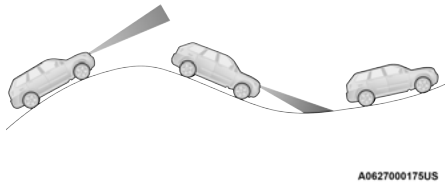
曲がり角やカーブ

ACC を作動させてカーブを走行すると、前方の車両を検知していない状態で、安定性確保のためにシステムが車速を増減させる場合があります。車両がカーブを抜けると、システムは元の設定速度を復帰させます。これは、ACC システムの正常な機能の一部です。

メモ：
急カーブでは、ACC の作動が制限される場合があります。

坂道での ACC の使用

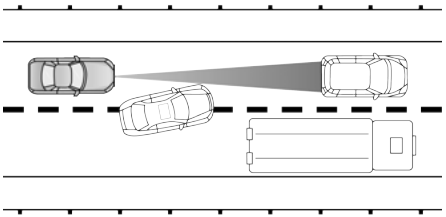
坂道を走行中は、ACC の性能が十分に発揮されない恐れがあります。速度、積載物の重量、交通状況、坂道の勾配によっては、ACC が車線斜での車両を検出できないことがあります。



坂道での ACC の例

車線変更

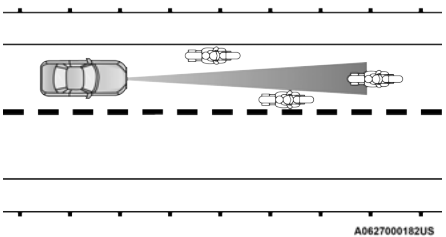
ACC は、車線変更している車が同じ車線に完全に移るまで車を検知しません。以下の車線変更の例では、ACC は車線変更中の車両をまだ検出しておらず、ACC システムは作動可能な時間内に車両を検出できないこと合があります。ACC は、車が同じ車線に完全に移るまで検知しません。また、先行車との距離を十分に保つことができないことがあります。常に注意を怠らず、必要に応じてブレーキをかけられるように準備をしておいてください。



車線変更例

車幅の狭い車

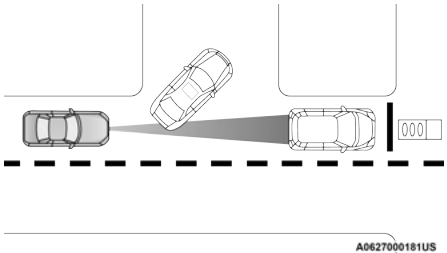
車幅の狭い車が車線の外側ラインぎりぎりの位置を走行している場合や、少しずつ同じ車線に移ってきている場合、車線内に完全に入るまで検知されないことがあります。また、先行車との距離を十分に保つことができないことがあります。



車幅の狭い車の例

静止物と車両

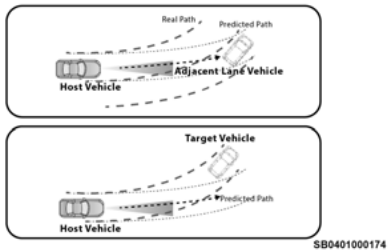
ACC は静止物または車両には反応しません。たとえば、ACC は前方車両が現在走行中の車線から移動した、または前方車両が現在走行中の車線で停止したなどの状況には反応しません。ACC は、相対的な動きを事前に検出しなかったので、この停止した車両を静止物とみなします。常に注意を怠らず、必要に応じてブレーキをかけられるように準備をしておいてください。



静止物と静止車両の例

カーブへの進入／退出

カーブへ進入／退出する際、ホスト車両が走行している道路の曲率が予測曲率と異なる場合、システムは隣接車線を制御対象として選択し、ホスト車線の先行車両を見落とすことがあります。



カーブ走行の例

トラフィック・サイン・アシスト・システム – タイプ別装備

トラフィック・サイン・アシスト（TSA）システムは、フロントウィンドウに取り付けられたカメラを使用して、速度制限など、認識可能な道路標識を検知します。

Uconnect 設定で TSA を作動すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに制限速度標識表示灯が表示され、システムは利用可能な道路標識を常時モニタします。

メモ：

- TSA システムは、「Uconnect Settings（Uconnect 設定）」またはインストルメント・パネル・ディスプレイ内で選択した測定単位（km/h または mph）で検知した道路標識を自動的に表示します。
- 速度制限標識が検知されない場合、システムはナビゲーション・システムに保存された制限速度標識を表示します。
- システムは常時、現在の制限速度標識を示す道路標識を確認します。システムは 2 種類の異なる道路標

識を認識することが可能で、それらをインストルメント・パネル・ディスプレイ内に表示します。

作動／解除

TSA システムの作動／解除は、「Safety/Driver Assistance（セーフィティ／運転者アシスト）」メニューの Uconnect システム内で行うことができます。TSA システムが作動していることは、インストルメント・パネルに表示される道路標識で通知されます。

メモ：
TSA システムが作動していなくても、運転者が「HOME（ホーム）」画面でシステムを選択すると、制限速度標識が表示されます。

トラフィック・サイン・アシスト・モード

TSA の操作は、Uconnect システムで設定できます。

Traffic Sign Assist Warning（トラフィック・サイン・アシスト警告）

Visual（視覚）

「Visual（視覚）」を選択すると、車両の現在の車速が検知された速度制限を超えると、インストルメント・パネル・ディスプレイのグラフィック表示により、システムによって運転者に警告が発せられます。

Visual + Chime（視覚+チャイム）

Visual + Chime（視覚+チャイム）を選択すると、車両の現在の車速が検知された速度制限を超えると、インストルメント・パネル・ディスプレイのグラフィック表示と警報音により、システムによって運転者に警告が発せられます。警報音は 10 秒間鳴動し、視覚警報は、速度制限の超過が終了するまで表示されたままになります。

メモ：
TSA システムによって警報が発せられる場合は、必ずオーディオの音量もミュートされます。

TSAOFF

TSA システムをオフにすると、システムによる道路標識の表示は行われず（「HOME（ホーム）」画面で選択して、検知された速度制限標識を表示する場合を除く）、運転者に対する警告は行われません。

New Speed Zone Indication（新速度域指示）

新しい制限速度域が検出されると、運転者に警告が表示されます。Uconnect 設定で指定できるオプションは「**Visual（視覚）**」、「**Visual + Chime（視覚とチャイム）**」、または「**Off（オフ）**」です。「Off（オフ）」が選択されている場合、運転者に警告は発せられません。

メモ：
TSA システムによって警報が発せられる場合は、必ずオーディオの音量もミュートされます。

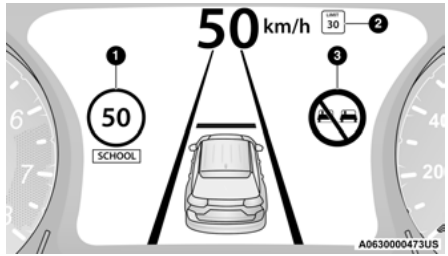
ディスプレイの表示

道路標識が検知されるとインストルメント・パネル・ディスプレイに表示され、利用可能な情報に応じて、複数のあらゆる標識の組み合わせを一度に表示することができます（制限速度、制限速度および補助情報、横断禁止標識など）。

新たに検知された制限速度が現在の制限速度より高い場合、ディスプレイは「up（上）」矢印とともに更新されます。

新たに検知された制限速度が現在の制限速度より低い場合、ディスプレイは「down（下）」矢印とともに更新されます。

メモ：
上矢印または下矢印は、最大 5 秒間表示されます。



認識された交通標識

1 – 補助情報（スクールゾーン）付きの現在の制限速度
2 – 検知された次の制限速度
3 – 検知された追い越し禁止区間

補助情報

補助情報は、運転者が認識する必要のある特別な状況を示す、新たに検知された制限速度とともに表示されることがあります。利用可能な補助情報は以下のとおりです。

- スクールゾーン
- 工事中
- 雨天
- 雪
- フォグ

メモ :
GPS しか装備されていない車両の場合、補助情報は表示されません。

Speed Limit Exceeded（制限速度超過）

車速が表示された制限速度を 5km/h（3mph）超過すると、インストルメント・パネル・ディスプレイの制限速度標識の輪郭が赤色になり、運転者に警告します。

注意!

- **インド地域の交通標識認識は、規制基準に従って設計された制限速度表示のみを検出します。**
- センサが遮られていると、機能が制限されるか、システムが作動しない場合があります。
- 激しい雨、あられやひょう、濃霧などの天候条件によっては、システムの作動が制限されたり機能しない場合があります。光のコントラストが強いと、センサの認識能力に影響することがあります。
- センサ周辺領域は、ステッカや他の物体で覆わないでください。
- センサのすぐ周辺のフロント・ガラス部分は改造したり、物を取り付けたりしないでください。
- 鳥のふん、昆虫、雪または氷などのフロント・ガラス上の異物は、きれいに取り除いてください。フロント・ガラスに傷を付けないように、指定の洗剤および清浄な布を使用してください。

ハイウェイ・アシスト・システム – タイプ別装備

操作

ハイウェイ・アシスト・システム（HAS）は、アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）システムと連動し、145km/h（90mph）までの速度で走行する際に走行車線の中央に車両を維持します。

ACC システムの操作手順とシステムの制限事項については、⇨ ページ 99 を参照してください。

メモ :
- 運転者は必ず交通法規と制限速度に従ってください。適用される制限速度を超えて走行しないでください。
- 運転者はブレーキをかけたり、加速したり、車両を操舵したりすることで、いつでも HAS を無効にすることができます。

ACC 同様、HAS は、先行車と自車間の設定された車間距離が維持されている限り、設定速度を維持します。HAS は、ブラインド・スポット・モニタのセンサを使用して、左右の車線の中央に車両を維持し、隣の車線を走行する他の車両を監視します。

HAS はステアリング・ホイール内のセンサーを使用して、運転者が注意して運転しているかどうかを監視します。HAS では、運転者は手を常時、ステアリング・ホイール上に添えている必要があります。このシステムは通常、車両をレーン中央に維持することを目的としていますが、運転者がステアリング・ホイールを回すと（隣のレーンを走行中の大型車両から遠ざかる場合など）、システムはコントロールを低下させて「補助ステアリング」モードになります。補助ステアリング・モードでは、システムはステアリング支援を低下させ、運転者が車両進路をコントロールできるようにします。運転者がステアリング・ホイールの操作をやめた場合、システムがレーン中央の維持（特に、カーブでの走行中）を完全に回復するには数秒かかります。

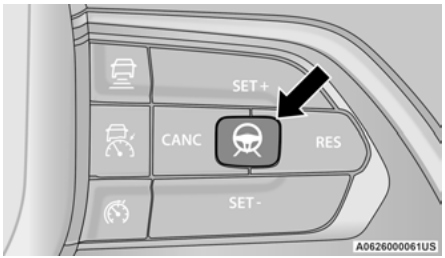
警告!

ハイウェイ・アシスト・システムは利便性を追求したシステムです。運転者による運転に代わるものではありません。道路交通、天候条件、車速、車間距離、他の車両に対するレーン内での位置、ブレーキ操作に注意を払い、あらゆる路面状況において車両を安全に運転することは、常にドライバーの責任です。安全運転を行うためには、常に十分な注意力が欠かせません。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながる恐れがあります。

次のような状況では、ハイウェイ・アシスト・システムをオフにしてください。

- 複雑な走行状況（都市環境、工事中現場など）、悪天候または視界が悪い状況（雨、雪、霧、凍結路、砂埃など）、または悪路状況（交通量の多い場所、車線の摩耗または欠落など）で走行する場合。
- 高速道路出口ランプに進入する場合、凍結、積雪、滑りやすい路面を走行する場合。
- 難しい、または不確かな状況で走行する場合。

ハイウェイ・アシストのオン／オフの切り替え

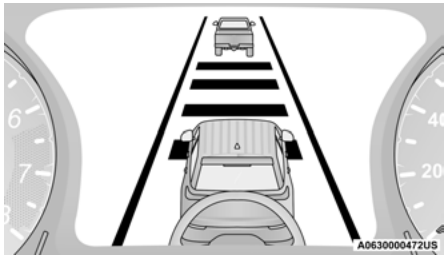


「Highway Assist On/Off（ハイウェイ・アシスト・オン/オフ）」ボタン

ハイウェイ・アシスト・システムを有効にするには、次の手順に従います。

1. ステアリング・ホイールの右側にある「Highway Assist on/off（ハイウェイ・アシスト・オン/オフ）」ボタンを押します。システムが作動するまでは、インストルメント・パネル・ディスプレイにステアリング・ホイールの画像が白く表示されます。以前に ACC を無効にしていた場合、このボタンを押すと、ACC とハイウェイ・アシストの両システムが作動します。
2. 「HAS on/off（ハイウェイ・アシスト・オン／オフ）」ボタンを押す前に ACC が有効で作動していた場合、ACC は作動したままで、HAS が有効になって作動します（他のすべての条件が満たされた時点で）。
3. 「HAS on/off（ハイウェイ・アシスト・オン／オフ）」」ボタンを押す前に ACC が有効でなかった場合、「SET（設定）**(+)**」ボタンまたは「SET（設定）**(-)**」ボタンを押して、インストルメント・パネル・ディスプレイに目的の走行速度が表示されたときに放します。

次のセクション「システム作動条件」に記載されているすべてのシステム条件が満たされると、システムが作動し、ディスプレイ内のステアリング・ホイールの画像が緑色に変わります。



ハイウェイ・アシスト作動時（ステアリング・ホイールが緑色）

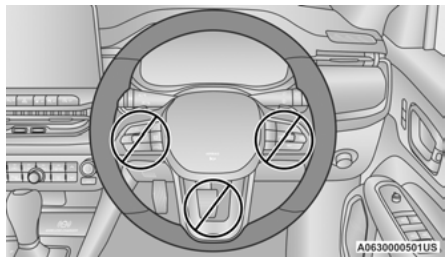
メモ：
HAS が作動すると、ステアリング・ホイールの画像の色の変化に合わせて、インストルメント・パネル・ディスプレイの「輝く」効果も緑色に変化します。

システム作動条件

システムが作動するには、ハイウェイ・アシスト・システムを有効にした後、次の条件が満たされる必要があります。

- ハイウェイ・アシスト・システムが作動している
- 運転席のシートベルトが着用されている
- システムが車線区分線を検知する
- 車両が 145km/h（90mph）未満で走行している
- 車両がレーンの中央にいる
- 方向指示器が作動していない
- 車両が急なカーブに入っていない
- トレーラが連結されていない
- 運転者がステアリング・ホイールに両手を添えている

メモ：
運転者の両手がステアリング・ホイール上にあることをシステムが検出するには、運転者はステアリング・ホイールの外側を握る必要があります。ステアリング・ホイールの内側を握ると、システムが作動するための運転者の手が添えられているという条件を満たしません。



ステアリング・ホイールの内側を握らないでください

システムの作動解除

次のいずれかの状況になった場合、システムの作動は解除されます。

- システムが運転者の不注意を検出し、段階的な警告の上限に達した場合

- 車線区分線が検出されなくなった場合
- ブレーキ・ペダルを踏んでいるか、ACC システムを解除した場合
- 方向指示器を使用した場合（方向指示器の作動と同じ側の死角に対象車が入っている場合を除く）
- 運転者がステアリング・ホイールを十分に操作した場合
- 運転席のシートベルトを外した場合
- 車速が 145km/h（90mph）を超えた場合
- 「Highway Assist system on/off（ハイウェイ・アシスト・システム・オン／オフ）」ボタンを再び押した場合（HAS がオフになる）
- 前面衝突警報（FCW）システムが有効になり、警告を発している／ブレーキを適用している場合

メモ：

- 車両へのトレーラの連結をシステムが検知すると、HAS は有効になりません。
- 「Highway Assist on/off（ハイウェイ・アシスト・オン/オフ）」ボタンを押すと、システムがオフになります。その他すべての無効化条件により、システムは「有効」状態に戻り（ステアリング・ホイール・インジケータが白色で表示される状態）、すべての作動条件が再び満たされるまでこの状態が続きます。
- システムを無効にすると、システム状態表示灯が消灯し、アクティブ・レーン・マネジメントは前の状態に戻り、ACC は無効になります。

ディスプレイの表示

「Highway Assist（ハイウェイ・アシスト）」システムの状態は、インストルメント・パネル・ディスプレイに常時表示され、状態の変化はシステム表示灯の色の変化で示されます。

⇨ ページ 108 ですでに説明したように、システムが運転者の注意力低下を検知すると、システム状態表示灯が緑色から、黄色、赤色へと変化し、ディスプレイのステアリング・ホイールのアイコンが画面上で中央に上昇します。運転者への警告度が上がるにつれ、表示灯が以下のように変化します。

- 「Highway Assist Indicator（ハイウェイ・アシスト表示灯）」（インストルメント・パネル・ディスプレイのステアリング・ホイール・アイコン）
- インストルメント・パネル・ディスプレイの色の変化

運転者の注意力が低下して戻らないと、システムが作動しなくなります。

「Highway Assist Indicator（ハイウェイ・アシスト表示灯）」オフ

- 運転者が HAS をオンにしていない／運転者が起動していない。

「Highway Assist Indicator（ハイウェイ・アシスト表示灯）」白色

- 運転者が HAS をオンにしている／有効にしているが、システムが車両のステアリングと速度制御をアクティブに行っていない。

「Highway Assist Indicator（ハイウェイ・アシスト表示灯）」緑色

- システムが運転者の注意力を検知し、車両のステアリングと速度制御をアクティブに行っている。

「Highway Assist Indicator（ハイウェイ・アシスト表示灯）」黄色

- 運転者の注意力低下を検知し、ステアリング・ホイールに両手を添えるように運転者に警告中である。

「Highway Assist Indicator（ハイウェイ・アシスト表示灯）」赤色

- 運転者の注意力低下を検知した状態が継続しており、運転者による対応が要求されており、ステアリング・ホイールに両手を添えるように運転者に警告中です。この警告は、システムが急なカーブを検出した場合にも発出され、運転者が対応するように警告中です

メモ：

運転者がシステムを作動させていないときは、ステアリング・ホイールに両手を添えて、車両の制御を**行わなければなりません。**



Highway Assist（ハイウェイ・アシスト）」が解除されたことのメッセージ

SYSTEM STATUS（システムの状態）

システムの表示灯の変化（緑色、黄色、赤色）に加えて、システムはステアリング・ホイールに振動を発生させることもできます。この振動による警告は（有効な場合）、たとえば急カーブ走行中など、車両が車線を逸脱したときに発生します。この機能は、Uconnect システム内でオン／オフを切り替えることができます ⇨ ページ 136。

システムの作動／制限

警告!

ハイウェイ・アシストは、運転者の注意力が常時必要な SAE レベル 2 の運転者アシスト機能です。重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- ハイウェイ・アシスト・システムは、便利なシステムですが、あらゆる状況を正確に検出できるわけではないことを常に覚えておいてください。ハイウェイ・アシスト・システムを使用しているときでも、常に最大限注意している必要があります。
- ハイウェイ・アシスト・システムを解除した場合、またはこの説明の前後に記載されているように完全に機能しなくなった場合、常に注意を怠らず、車両を制御できるようにしておいてください。
- 「Highway Assist（ハイウェイ・アシスト）」システムを作動させているときは、ステアリング・ホイールから絶対に手を放さないでください。
- ハイウェイ・アシスト・システムが作動しているときは、携帯端末を使用しないでください。

(続き)

警告!

- 他の車両との安全な車間距離を維持し、交通状況に注意を払ってください。ハイウェイ・アシスト・システムは、安全上の危険、工事現場、障害物、または路上の障害物を避けるための操舵をしません。そのような状況、また他の車に合流する、高速道路を降りる、道路を横切るためにハンドルを切る、または交通制御装置があるため停止する場合、車両の操舵を制御し、ブレーキをかける必要があります。
- ステアリング保持検出センサーに干渉しないように、ステアリング・ホイールの上に異物（ステアリング・ホイール・カバーなど）を被せないでください。

ハイウェイ・アシスト・システムは、次のことを**行いません。**

- 他車との衝突の警告および防止
- 停車した車両、速度の遅い車両、工事現場または建設機械、歩行者、または動物の周辺での車両の操舵
- 交通信号または一時停止標識への対応
- 高速道路への合流またはランプからの退出
- 車線変更または方向転換
- 交差する交通への対応

メモ：
アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）は、ハイウェイ・アシスト・システムのコア・コンポーネントです。ACC システムの制限事項については、⇨ ページ 99 を参照してください。

ハイウェイ・アシスト・システムは、次のいずれかの状態が発生すると機能を制限または低下させる場合があります。

- （たとえば、泥、氷、雪などで）車両のレーダー・センサや前方向きカメラが損傷したり、覆われたり、位置がずれたり、遮られたりしている
- サスペンションのアライメントが正しくない場合、車両の改造（サスペンションの上昇や下降、サイズの異なるホイールやタイヤの装着など）を行った場合
- 高速道路の料金所ブースの近くを走行

メモ：
フロントウィンドウが損傷したら、できるだけ早く正規ディーラーにフロントウィンドウの交換を依頼してください。

PARKSENSE フロント／リヤ・パーク・アシスト・システム - タイプ別装備

ParkSense フロント・リヤ・パーク・アシストは、パーキング操作などの車をバックまたは前進させるときに、リヤ／フロント・フェイシア／バンパと検知された障害物との距離を、視覚と音で示します。

このシステムの制限事項および推奨事項については、⇨ ページ 115 を参照してください。

システムがオンになっている限り、ParkSense はすべてのギヤ・セレクタ位置（「P（パーキング）」を除く）で作動します。「D（ドライブ）」または「N（ニュートラル）」に入っている間、このシステムは、車速が約 11km/h（7mph）以上になるまで作動したままになります。車速が約 9km/h（6mph）未満になると、システムは再度作動状態になります。「R（リバース）」に入っている間、このシステムは、車速が約 11km/h（7mph）以上になるまで作動したままになります。シフト・レバーが「R（リバース）」位置でシステムの操作速度を超えると、インストルメント・パネル・デ

ィスプレイに車速が速すぎることを知らせる警告が表示されます。車速が約 9km/h（6mph）未満になると、システムは再度作動状態になります。

ParkSense センサ

リヤ・バンパには、6 つの ParkSense センサ（フロント・センサが装備されていない場合は 4 つ）が内蔵されており、また、フロント・バンパには 6 つの ParkSense センサが内蔵されており、車両前方と後方の、センサの検出エリア内に入る範囲をモニタします。フロント・センサは、フロント・バンパから約 30cm（12 インチ）～120cm（47 インチ）の距離にある障害物を検知することができます。リヤ・センサは、リヤ・バンパから約 30cm（12 インチ）～200cm（79 インチ）の距離にある障害物を検知することができます。これらの距離は、水平方向における障害物の場所、種類、および方向に応じて異なります。

ParkSense 警告画面

ParkSense 警告画面は、Uconnect システムの「ユーザー選択機能（Customer Programmable Features）」セクションで「Sound and Display（音と表示）」を選択している場合のみ表示されます ⇨ ページ 136。

ParkSense 警告画面は、インストルメント・パネル・ディスプレイ内にあります ⇨ ページ 60。このシステムは、リヤ・バンパまたはフロント・バンパ（あるいはその両方）と検出された障害物との距離を、視覚による警告で伝えます。

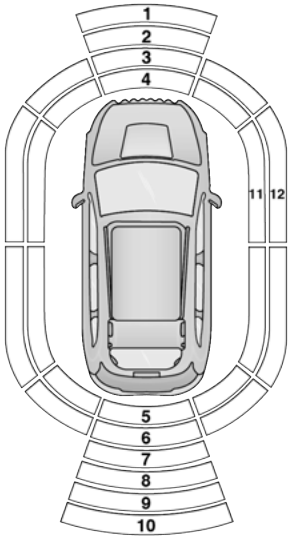
ParkSense 警告画面がインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されると、別の画面に切り替えることはできません。

ParkSense ディスプレイ

シフト・レバーが「R（リバース）」に入った状態または「D（ドライブ）」に入った状態、あるいは「N（ニュートラル）」に動かした状態で障害物が検知されると、警告ディスプレイが ON になり、システム・ステータスが表示されます。

システムは、車両に対する物体の距離と位置に基づき、左前方および左後方、ならびに右前方および右後方の領域のいずれかに 1 本の曲線を表示して、検知された障害物を示します。

左後方と右後方の領域の両方か一方で物体が検知されると、ディスプレイに左後方と右後方の領域の両方か一方に 1 本の曲線が表示され、システムが警告音を発します。車両が障害物に近づくにつれて、ディスプレイに車両へ近づいてくる 1 本の曲線が表示され、0.5 秒の警告音が 1 回鳴った後音の間隔が低速から徐々に速くなり、最終的に連続的な音になります。



A0629000256US

フロント／リヤ ParkSense の曲線

1 - 長い間隔の警告音／曲線が点灯
2 - 長い間隔の警告音／曲線が点滅
3 - 短い間隔の警告音／曲線が点滅
4 - 連続した音／曲線が点滅
5 - 連続した音／曲線が点滅
6 - 短い間隔の警告音／曲線が点滅
7 - 短い間隔の警告音／曲線が点滅
8 - 長い間隔の警告音／曲線が点灯
9 - 長い間隔の警告音／曲線が点灯
10 - 長い間隔の警告音／曲線が点灯
11 - 連続した音（車両の衝突が見込まれる場合）／曲線が点滅
12 - 短い間隔の警告音（車両の衝突が見込まれる場合）／曲線が点滅

メモ：
下記の警告音表に掲載した曲線の番号は、前の画像の曲線と一致しています。

車両が障害物に接近していると、インストルメント・パネル・ディスプレイに 1 本の点滅する曲線が表示され、警告音が連続して鳴ります。次の表は、障害物が検知されたときの警告方法を示しています。

リヤの警告音							
後方距離（cm／インチ）	200cm（79 インチ）超	200～150cm（79～59 インチ）	150～120cm（59～47 インチ）	120～100cm（47～39 インチ）	100～65cm（39～25 インチ）	65～30cm（25～12 インチ）	30cm（12 インチ）未満
曲線 - 左	なし	なし	なし	なし	なし	6 本目が点滅	5 本目が点滅
曲線 - 中央	なし	10 本目が実線	9 本目が実線	8 本目が実線	7 本目が点滅	6 本目が点滅	5 本目が点滅
曲線 - 右	なし	なし	なし	なし	なし	6 本目が点滅	5 本目が点滅
警報チャイム	なし	物体が車両に近づくにつれて、警報チャイムの間隔が短くなります					連続
オーディオの音量低下	非作動	作動					

フロントの警告音					
前方距離（cm／インチ）	120cm（47 インチ）超	120～100cm（47～39 インチ）	100～65cm（39～25 インチ）	65～30cm（25～12 インチ）	30cm（12 インチ）未満
曲線 - 左	なし	なし	なし	3 本目が点滅	4 本目が点滅
曲線 - 中央	なし	1 本目が実践	2 本目が点滅	3 本目が点滅	4 本目が点滅
曲線 - 右	なし	なし	なし	3 本目が点滅	4 本目が点滅
警報チャイム	なし	物体が車両に近づくにつれて、警報チャイムの間隔が短くなります			連続

フロントの警告音		
オーディオの音量低下	非作動	作動

メモ：
ParkSense が警告音を発している際にオーディオが ON になっていると、システムがオーディオの音量を下げます。

フロントおよびリヤ・パーク・アシスト警報

ParkSense は、車両に一番近いゾーン内に障害物がない限り、障害物が検知され、車両が停止してから約 3 秒後に、フロントまたはリヤ・パーク・アシスト警報（チャイム）を OFF にします。

調整可能チャイム音量設定

フロントおよびリヤのチャイム音量設定は、Uconnect システムから選択できます ⇨ ページ 136。

チャイム音量設定には、「LOW（低）」、「MEDIUM（中）」、「HIGH（高）」があります。

ParkSense は、イグニッション・スイッチを切り替えたときの最後の設定状態を保持します。

ParkSense の有効化と無効化



ParkSense は、Uconnect ディスプレイの下部にあるスイッチ・パネル上の ParkSense スイッチで有効または無効にできます。

ParkSense スイッチを押してシステムを無効にすると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE OFF（ParkSense オフ）」というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ParkSense スイッチの LED は、ParkSense が無効の場合、または整備が必要な場合に点灯します。システムが有効になっているときは、ParkSense スイッチの LED は消灯しています。ParkSense スイッチを押したときに、整備が必要な状態であると、ParkSense スイッチの LED は短く点滅してから点灯します。

ParkSense は、イグニッション・スイッチを「ON/RUN」位置に切り替えたとき、最後にイグニッション・スイッチを切り替えたときのシステムの状態（有効／無効）を維持します。

ParkSense パーク・アシスト・システムの整備

車両の始動中、ParkSense システムが故障状態を検出すると、インストルメント・パネルはイグニッション・サイクルごとにチャイムを 1 回鳴らし、「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE REAR SENSORS（ParkSense 使用不可、リヤ・センサを清掃してください）」、「FRONT OR REAR SENSEORS UNAVAILABLE（フロントまたはリヤ・センサ使用不可）」「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE FRONT SENSORS（ParkSense 使用不可、フロント・センサを清掃してください）」、または「PARKSENSE UNAVAILABLE SERVICE REQUIRED（ParkSense 使用不可、整備が必要です）」というメッセージを 5 秒間表示します。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE REAR SENSORS（ParkSense 使用不可、フロント・センサを清掃してください）」または「PARKSENSE UNAVAILABLE WIPE FRONT SENSORS（ParkSense 使用不可、フロント・センサを清掃してください）」というメッセージが表示された場合は、リヤ・フェイシア／バンパまたはフロント・フェイシア／バンパ（あるいはその両方）の外面と下面が汚れておらず、雪、氷、泥、汚れ、または異物が付着していないことを確認してから、イグニションを切り替えてください。このメッセージが引き続き表示される場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE UNAVAILABLE SERVICE REQUIRED（ParkSense 使用不可、整備が必要です）」というメッセージが表示された場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

ParkSense システムの清掃

ParkSense センサは、水と洗車用の洗剤、および柔らかい布で清掃します。生地の粗い布や固い布は使用しないでください。センサに引っかき傷を与えたり、たたいたりしないでください。センサが破損する恐れがあります。

ParkSense システム使用上の注意事項

メモ：
- ParkSense システムが正しく作動するように、フロントおよびリヤ・フェイシア／バンパに雪、氷、泥、汚れ、ごみを付着させないようにしてください。
- 建設機器や大型トラック、その他の振動が、ParkSense の作動に影響を与える場合があります。

- ParkSense を OFF にすると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE OFF（ParkSense OFF）」と表示されます。また ParkSense を OFF にすると、再び ON にするまでは、イグニッション・キーの切り替えに関係なく、OFF の状態を保ちます。
- ParkSense が ON の場合、ParkSense が警告音を発する際はオーディオの音量が下がります。
- センサに引っかき傷や損傷を与えないように注意しながら、ParkSense センサを定期的に清掃してください。センサに付着した氷や雪、泥、埃、堆積物を除去してください。これを怠ると、システムが適切に機能しない場合があります。ParkSense システムがバンパの後方または前方の障害物を検知しなかったり、バンパの後方または前方に障害物があると誤認する場合があります。
- 自転車用キャリアなどの物体がリヤ・フェイシア／バンパから 30cm（12 インチ）以内にある場合、ParkSense スイッチで ParkSense システムをオフにしてください。これを怠ると、システムが近くの物体をセンサの不具合と誤認識し、インストルメント・パネル・ディスプレイに「PARKSENSE UNAVAILABLE SERVICE REQUIRED（PARKSENSE 使用不可、整備が必要です）」というメッセージが表示される場合があります。

  メモ：
  視界の 2m（6.5 フィート）以内で物体がフェイシア／バンパにくっついていると、干渉が発生し、アラートが誤作動し、障害物があると認識する可能性があります。
- 物体が動いている場合、物体の検出速度が遅くなる場合があります。
- 車両のトレーラ電気ソケットにトレーラの電気用プラグを挿入すると、リヤ・センサは自動的に解除されます。フロント・センサは作動したままなので、警告音や警告表示を発することがあります。トレーラのケーブル・プラグを取り外すと、リヤ・センサは自動的に再作動します。
- 牽引に使用していないときは、着脱式牽引フック・ボール・アセンブリやアタッチメントを車両に付けたままにしないでください。中央の ParkSense センサーが牽引フックを障害物として検知する可能性があります。
- 日本の正規ディーラーでは ParkSense システムの更新は行っておりません。

警告!

- 運転者は、ParkSense を使用している場合でも、バックの際に注意を怠らないでください。常に車両の後ろを注意深く確認し、自分の後方を見て、バックする前に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角を確認してください。安全な運転を心がけ、周囲の確認を怠らないようにします。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。
- 車両をけん引目的に使用していないときは、ParkSense を使用する前に、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリを取り外すことを強くお勧めします。そうしないと、連続的な警告音が鳴ったときにはヒッチ・ボールがリヤ・フェイシア／バンパよりも障害物に近づいているため、負傷したり、車両または障害物が破損したりする危険があります。また、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリのサイズと形状によっては、車両の後方にある障害物としてセンサが誤認する場合があります。

注意!

- ParkSense は、あくまでも駐車をアシストするためのものであり、小さな物体など、すべての障害物を検知できるわけではありません。駐車用の縁石は、一時的に検知されたり、まったく検知されなかったりすることがあります。センサ上または下にある障害物は、すぐそばにある場合は検知されません。
- 障害物が検知されたらすぐに停止できるように、ParkSense 使用中はゆっくりと運転してください。ParkSense の使用中でも、肩越しに後ろを確認しながら運転することをお勧めします。

側方距離警告システム

側方距離警告システムには、フロント・フェイシア／バンパとリヤ・フェイシア／バンパにあるパーキング・センサを使用して、車両付近の側方障害物の存在を検知する機能があります。

メモ：
側方距離警告は、フロント・センサとリヤ・センサ両方を備えた車両でのみ利用できます。

側方距離警告表示

側方距離警告画面は、Uconnect 設定内でこの機能が有効になっている場合のみ表示されます ⇨ ページ 136。

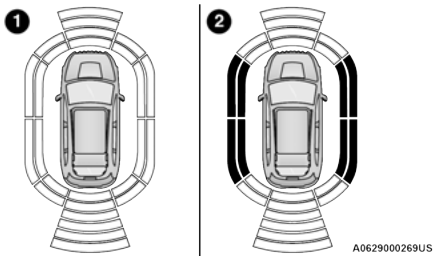
システムは警告音およびインストルメント・パネル・ディスプレイ上の視覚的な表示（選択されている場合）で運転者に警告します ⇨ ページ 60。

警告方法		
距離（cm／インチ）	76cm（30 インチ）未満	76～165cm（30～65 インチ）
曲線 - 左	11 本目が点滅	12 本目が点滅
曲線 - 右	11 本目が点滅	12 本目が点滅
警報チャイム	車両の衝突が見込まれる場合のみ警報	
オーディオの音量低下	作動	作動

メモ：
- ParkSense が警告音を発している際にオーディオがオンになっていると、システムがオーディオの音量を下げます。
- 前述の警告音表に記載の曲線の番号は、フロント／リヤ ParkSense の曲線の画像 ⇨ ページ 112 の曲線番号と一致しています。

作動 – 解除

短距離の走行後であり、車速が 0～11km/h（0～7mph）の場合にのみ、このシステムは作動します。システムの作動／解除は、Uconnect システムの「Settings（設定）」メニューから行うことができます。ParkSense システムが「ParkSense」ハード・スイッチを介して解除される場合、側方距離警告システムは自動的に解除されます。



側方距離警告システムの状態

1 – システムが作動していない
2 – システムが作動

メモ：
- トレーラが接続されると、側方距離警告システムが解除されます。
- 側方距離警告システムを作動させるには、おおよそ車両 1 台分の長さだけ車両を走行させる必要があります。

ParkSense 使用上の注意事項

側方距離警告システムは、以下のような条件に影響されることがあります。

メモ：
- ParkSense システムが正しく作動するように、フロントおよびリヤ・フェイシア／バンパに雪、氷、泥、汚れ、ごみを付着させないようにしてください。
- 建設機器や大型トラック、その他の振動が、ParkSense の作動に影響を与える場合があります。
- ParkSense をオフにすると、再びオンにするまでは、イグニッションの切り替えに関係なく、オフの状態を保ちます。
- ParkSense が ON の場合、ParkSense が警告音を発する際はオーディオの音量が下がります。
- センサに引っかき傷や損傷を与えないように注意しながら、ParkSense センサを定期的に清掃してください。センサに付着した氷や雪、泥、埃、堆積物を除去してください。これを怠ると、システムが適切に機能しない場合があります。ParkSense システムがバンパの後方または前方の障害物を検知しなかったり、バンパの後方または前方に障害物があると誤認する場合があります。
- トレーラがない状態でけん引フックが存在すると、パーキング・センサの正常な作動を妨げる可能性があります。車両をけん引作業用に使用していない場合、ParkSense システムを使用する前に車両から着脱式けん引フック・ボール・アッセンブリとすべてのアタッチメントを取り外すことをお勧めします。トレーラをけん引しないときもけん引フックを装着しておく場合は、正規ディーラーにお問い合わせいただき、ParkSense システムの更新作業を依頼してください。更新作業を行わないと、中央部のセンサがけん引フックを障害物として検知する可能性があります。

警告!

- 運転者は、ParkSense を使用している場合でも、バックの際に注意を怠らないでください。常に車両の後ろを注意深く確認し、自分の後方を見て、バックする前に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角を確認してください。安全な運転を心がけ、周

(続き)

警告!

囲の確認を怠らないようにします。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 車両をけん引目的に使用していないときは、ParkSense を使用する前に、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリを取り外すことを強くお勧めします。そうしないと、連続的な警告音が鳴ったときにはヒッチ・ボールがリヤ・フェイシア／バンパよりも障害物に近づいているため、負傷したり、車両または障害物が破損したりする危険があります。また、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリのサイズと形状によっては、車両の後方にある障害物としてセンサが誤認する場合があります。

注意!

- ParkSense は、あくまでも駐車をアシストするためのものであり、小さな物体など、すべての障害物を検知できるわけではありません。駐車用の縁石は、一時的に検知されたり、まったく検知されなかったりすることがあります。センサ上または下にある障害物は、すぐそばにある場合は検知されません。
- 障害物が検知されたらすぐに停止できるように、ParkSense 使用中はゆっくりと運転してください。ParkSense の使用中でも、肩越しに後ろを確認しながら運転することをお勧めします。

PARKSENSE アクティブ・パーク・アシスト・システム - タイプ別装備

ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは、適切な駐車スペースを見つけ、音と視覚による指示を与え、ステアリング・ホイールを制御することで、縦列駐車、車庫入れ、および出庫時に運転者を支援することを目的としています。アクセル、ギヤ・セレクタ、ブレーキの制御は運転者が行うため、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは「半自動」として定義されています。運転者が選択した駐車操作に応じて、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは、運転者または助手席のいずれかの側での縦列駐車または車庫入れのスペースに、および縦列駐車からの出庫に車両を誘導することができます。

メモ:

- 運転者は、車両を制御し、周囲の障害物を確認し、必要に応じて介入する必要があることを常に認識してください。
- システムは、あくまでも運転者を支援するものであり、運転者に代わって車両を操作するものではありません。
- 半自動操作中、ステアリング・ホイールから両手を放すように指示された後で運転者がステアリング・ホイールに触れると、システムは取り消されます。この場合、運転者は駐車操作を自分で完了させる必要があります。
- システムは状況によっては作動しないことがあります。たとえば、豪雨、雪などの環境下において、あるいは周囲が超音波センサの音波を吸収するような駐車スペースを探している場合などでは作動しないことがあります。
- ディーラーから納車された新車では、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムが十分に補正され、正確に機能するまでに、最低 48km（30 マイル）の走行を重ねなければなりません。これはシステムによる動的車両補正によるもので、これによって機能の性能が向上します。

PARKSENSE アクティブ・パーク・アシスト・システムの有効化と無効化



ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは、Uconnect ディスプレイの下部のスイッチ・パネル上にある ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・スイッチで有効および無効にできます。

ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムを有効または無効にするには、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・スイッチを 1 回押します（LED が点灯します）。このスイッチをもう一度押すと、システムが無効になります（LED が消灯します）。

ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは、次のいずれかの状態になると自動的に OFF になります。

- 駐車動作を終えたとき。
- 駐車スペースを探す際に車速が 30km/h（18mph）を超えたとき。
- アクティブ・ステアリングが車両を駐車スペースに誘導している際に車速が 7km/h（5mph）を超えたとき。
- アクティブ・ステアリングが車両を駐車スペースに誘導している際に運転者がステアリング・ホイールに触れたとき。

- 運転席ドアを開けたとき。
- リヤ・リフトゲートを開けたとき。
- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール／アンチロック・ブレーキ・システムが作動したとき。

ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムでは、「D（ドライブ）」と「R（リバース）」の間で、一定の最大回数、シフトすることができます。最大回数のシフトで操作が完了しない場合は、システムがキャンセルされ、インストルメント・パネル・ディスプレイに操作を手動で完了させるよう運転者に促す指示が出されます。

ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは、次の条件すべてを満たす場合にのみ作動し、駐車スペースを探します。

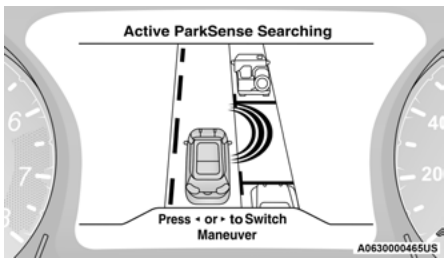
- ギヤ・セレクタが「D（ドライブ）」に入っている。
- イグニッションが「RUN」位置にある。
- ParkSense アクティブ・パーク・アシストが作動している。
- 運転者ドアを閉じている。
- リヤ・リフトゲートを閉じている。
- フロントおよびリヤ・バンパの外面と下面は常にきれいにしておいてください。雪、氷、泥や土などの異物が付着したら、清掃してください。
- 車速が 25km/h（15mph）未満である。

メモ：
車速が約 25km/h（15mph）を超えると、インストルメント・パネル・ディスプレイに速度を落とすように指示するメッセージが表示されます。車速が約 30km/h（18mph）を超えると、システムがキャンセルされます。この場合、運転者は ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・スイッチを押してシステムを再び有効にする必要があります。

前述の条件のうち 1 つでも満たされないものがある場合、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・スイッチを押すと、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・スイッチの LED が短く点滅し、その後消灯します。

縦列／並列駐車スペース・アシストの操作

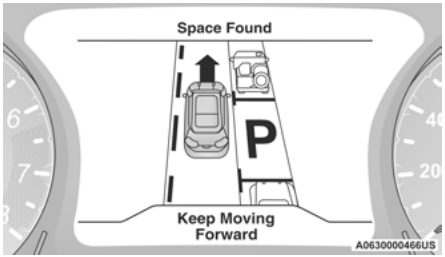
ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムを有効にすると、インストルメント・パネル・ディスプレイに「Active ParkSense Searching – Press ◁ or ▷ to Switch Maneuver（アクティブ ParkSense 検出 – 操作を切り替えるにはいずれかを押してください）」というメッセージが表示されます。並列、縦列駐車、または縦列駐車からの退出を選択できます。ステアリング・ホイールの左側にある矢印ボタンを使用して、駐車時の操作を切り替えることができます。



アクティブ ParkSense が探しています

メモ：
- 駐車スペースを探す際は、方向指示器を作動させて車両のどちら側で駐車操作を行いたいのかを選択します。方向指示器を作動させないと、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは自動的に車両の助手席側の駐車スペースを探します。
- 運転者は、駐車のために選択した駐車スペースが空いていること、障害物（歩行者や自転車など）がないことを確認する必要があります。
- 選択した駐車スペースが駐車に適していること、周囲に何もないこと（周囲の障害物や周囲の車両から、梯子やテールゲートなどの駐車スペースへの飛び出しがないこと）の確認は、運転者の責任で行います。
- 駐車スペースを探す際、運転者はできるだけ他の車両と並行（縦列駐車の場合）または直角（並列駐車の場合）に車両を移動させてください。
- この機能は、最後に検知した駐車スペースのみを示します。たとえば、空いている駐車スペースをいくつか通過した場合、システムは最後に検知した駐車スペースのみを駐車用スペースとして示します。システムが駐車スペースを検知するには、空いている駐車スペースの片側に車両がなければなりません。

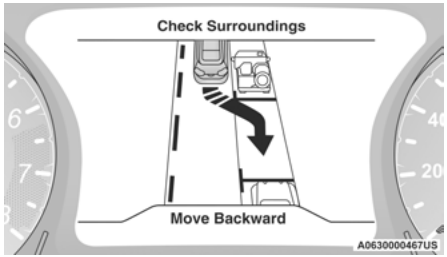
空いている駐車スペースが見つかっても車両が適切な位置にないと、車両を前進させて並列駐車操作または縦列駐車操作に適した位置（実施している操作の種類によって異なります）に車両を位置づけるよう指示されます。



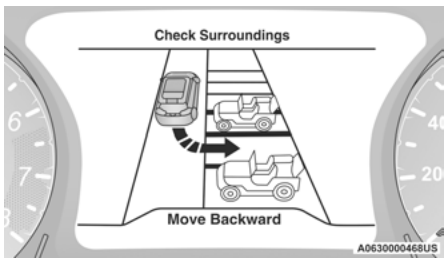
駐車スペースが見つかりました一前進移動を維持してください

車両が駐車できる位置にくると、車両を止めて、ステアリング・ホイールから手を放すよう指示されます。車両が停止すると、(まだ手がステアリング・ホイールから離れた状態で)ギヤ・セレクタを「R(リバース)」位置にするよう指示されます。

次にシステムは、周囲を確認し後退するように指示する前に、運転者に操舵の完了を待つように指示する場合があります。



縦列駐車スペースに後退



並列駐車スペースに後退

システムは、運転者に周囲の確認と駐車操作の完了を指示する前に、さらに数回、手をステアリング・ホイールから放した状態でギヤを「D(ドライブ)」または「R(リバース)」にシフトするように指示する場合があります。

車両が駐車位置に収まると、駐車操作が完了しますが、運転者は車両の駐車位置を確認し、続いて「P(パーキング)」にシフトするように指示されます。「Active ParkSense Complete – Check Parking Position(アクティブ ParkSense が終了しました – 駐車位置を確認してください)」というメッセージが短時間表示されます。

メモ:

- 半自動駐車操作中でのブレーキとアクセルの使用は、運転者の責任で行います。
- 駐車操作中のギヤ操作(指示された場合)は、運転者の責任で行います。
- ブレーキを使って車両を停車させるのは運転者です。運転者は周囲を確認し、指示を受けたら、または運転者の介入が必要な場合に車両を停止できるよう準備をします。
- ステアリング・ホイールから両手を放すように指示されたら、運転者は周囲を確認してゆっくり車両をバックさせてください。
- ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムでは、「D(ドライブ)」と「R(リバース)」で最大 6 回のシフトが可能です。6 回のシフトで操作が完了しない場合は、システムがキャンセルされ、インストルメント・パネル・ディスプレイに操作を手動で完了させるよう運転者に促す指示が出されます。
- 駐車スペースへの車両の誘導中に車速が 7km/h (5mph)を超えると、駐車操作はキャンセルされます。車速が 5km/h(3mph)になると、運転者は速度を落とすように警告が出されます。システムがキャンセルされた場合、その後の駐車操作の完了は、運転者の責任で行います。
- 何らかの理由で駐車操作中にシステムがキャンセルされた場合は、運転者が車両を制御しなければなりません。

警告!

- 運転者は、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムを使用している場合でも、縦列駐車や並列駐車の際に注意を怠らないでください。車両を前進またはバックさせる前に、常に車両の前後を注意深く確認し、前後に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角がないことを確認してください。安全な運転を心がけ、周囲の確認を怠らないようにします。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。
- 車両をけん引目的に使用していないときは、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムを使用する前に、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリを取り外すことを強くお勧めします。そうしないと、連続的な警告音が鳴ったときにはヒッチ・ボールがリヤ・フェイシア／バンパよりも障害物に近づいているため、負傷したり、車両または障害物が破損したりする危険があります。また、ボール・マウントおよびヒッチ・ボールのアセンブリのサイズと形状によっては、車両の後方にある障害物としてセンサが誤認する場合があります。

注意!

- ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムは、あくまでも駐車をアシストするのであり、小さい物体など、すべての障害物を認識できるわけではありません。駐車用の縁石は、一時的に検知されたり、まったく検知されなかったりすることがあります。センサ上または下にある障害物は、すぐそばにある場合は検知されません。

(続き)

注意!

- 障害物が検知されたらすぐに停止できるように、ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムの使用中はゆっくりと運転してください。ParkSense アクティブ・パーク・アシスト・システムを使用している場合でも、肩越しに後ろを確認しながら運転することをお勧めします。

駐車スペースからの退出

メモ:

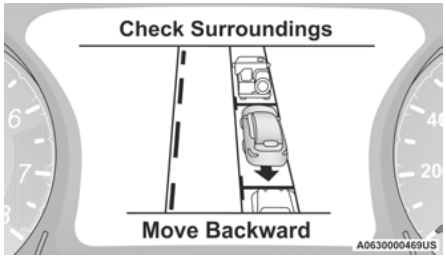
この機能は縦列の駐車スペースから退出するときにのみ機能し、並列の駐車スペースから退出するときは機能しません。

作動

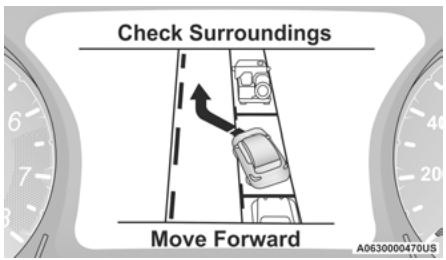
この機能を作動させるには、「D(ドライブ)」にシフトし、「ParkSense Active Park Assist(ParkSense アクティブ・パーク・アシスト)」スイッチを押し、ステアリング・ホイールの矢印ボタンを使用して、「Parallel Park Exit(縦列駐車からの退出)」機能を選択します。選択後にシステムが作動し、正しく運転するために必要な操作について、運転者に向けた指示がインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。

運転操作の開始

運転操作を行なっている間、システムにより運転者が「R(リバース)」へシフトするように要求されたら、方向指示器を退出する方向に操作します。システムによりステアリングが自動操作され車両が駐車スペースから退出している間は、ステアリング・ホイールから手を放し、ブレーキまたはアクセル・ペダルを使用します。故意かどうかにかかわらず、退出の最中に運転者がステアリング・ホイールを操作し続ける(ステアリング・ホイールに触ったり握ったりして動きを妨げる)と、退出が中断されます。



「R(リバース)」にシフトしてから後退



「D(ドライブ)」にシフトしてから前進

退出の終了

退出の完了を伝えるメッセージがディスプレイに表示されると、半自動退出が終了します。退出が終了すると、車の制御がシステムから運転者に戻されます。

4

メモ：
この操作を実行している場合、対向車は検知されません。駐車スペースから発進する前に対向車がないことを確認するのは運転者の責任です。

重要情報

- 位置が変わるような衝撃がセンサに加わると、システムの作動に大きく影響する可能性があります。
- パーキングに使用するダイナミックなタイヤ周囲計算により、車両を約 50km（30 マイル）走行させると、センサは最高のパフォーマンスを発揮するようになります。
- センサに引っかき傷や損傷を与えないように注意しながら、ParkSense センサを定期的に清掃してください。センサに付着した氷や雪、泥、埃、堆積物を除去してください。これを怠ると、システムが適切に機能しない場合があります。ParkSense システムがバンパの後方または前方の障害物を検知しなかったり、バンパの後方または前方に障害物があると誤認する場合があります。
- 建設機器や大型トラック、その他の振動が、ParkSense の作動に影響を与える場合があります。
- 洗車中や降雨、強風、ひょうの中を走行しているときなどは、機械騒音が原因となり、センサが存在しない障害物（エコー・ノイズ）を検知することがあります。
- センサは、特定の形状をした物体や特定の素材でできた物体（非常に細い柱、トレーラのビーム、パネル、網、低木、駐車防止の柱、歩道、ごみ箱、自動車など）を検知しないことがあります。システムが特定した駐車スペースに対し、車両とその進路が実際に対応しているか、常に細心の注意を払って確認してください。
- 標準装備とは異なるサイズのホイールとタイヤを使用すると、システムの作動に影響する可能性があります。
- 車両のけん引フック・ソケットにトレーラの電気用プラグを挿入すると、リヤ・センサの作動は自動的に解除されますが、フロント・センサは作動したままになり、警告音や警告表示を発することがあります。この状態になると、アクティブ・パーク・アシストは作動しません。トレーラのケーブル・プラグを取り外すと、リヤ・センサは自動的に再作動します。
- 「Search in Progress（検索中）」モードでは、システムが駐車操作を行う場所を誤って指定する可能性があります（分岐合流点や私道、走行方向と交差する車道の付近など）。
- 勾配がある道路で駐車操作を行う場合、システムの性能が低下し、システムの作動が解除されることがあります。
- 非常に急なカーブでの操作は、実行できない可能性があります。
- 駐車操作の最中は、状況に変化がないか（駐車スペースに人や動物がいないか、車両が進入してこないかなどを）確認しながら、必要に応じてすぐに対処できるように、細心の注意を払ってください。
- 駐車操作の最中は、反対方向から接近する車両に注意を払ってください。常に法律および交通規制に従ってください。

メモ：
- スノー・チェーンやコンパクト・スペア・タイヤを装着している場合、システムが正しく動作しない可能性があります。
- この機能では、パーキング・センサによって検知された、縦列駐車または並列駐車に適した最後の場所のみが運転者に伝えられます。
- 表示されるメッセージによっては、警告音を伴うことがあります。

アクティブ・レーン・マネジメント・システム - タイプ別装備

アクティブ・レーン・マネジメントの動作

アクティブ・レーン・マネジメント（ALM）システムは、前方向きカメラを使用して道路上の車線または道路端を検知することで車線境界線内の車両位置を判定し、同時に、ブラインド・スポット・モニタ・センサは車両が車線変更をしようとする際に隣の車線の車両を検知します。

システムは、車速が 60km/h（37mph）～180km/h（112mph）の範囲で作動します。

警告!

アクティブ・レーン管理は運転者アシスト・システムです。必ずステアリング・ホイールに両手を添えたままにし、いつでも車両を制御できるようにしてください。この警告に従わないと、衝突事故や死亡または重傷につながるおそれがあります。

アクティブ・レーン・マネジメント・システムは、左右の道路上の車線を検知し、運転者が意図せずに（方向指示器を作動させずに）車線を逸脱した場合、インストルメン

ト・パネルに視覚警告を表示すると同時に、ステアリングにアシスト・トルクを加えて（Uconnect 設定で設定した場合）、運転者に車線境界線内での走行を維持するよう促します。運転者がそのまま車線の逸脱を続けた場合、車両が車線境界を超えると、インストルメント・パネル・ディスプレイに視覚警告を点滅表示すると同時に、ステアリング・ホイールに触覚振動を加えます（Uconnect 設定で設定した場合）。

警告は、ステアリング・ホイールの振動や車両を車線の中央方向に戻すための自動ステアリング・アシストの形式で行います。

左右の道路上の車線を検知している状態で、運転者が方向指示器を作動させて車線変更の意図を示したときに、システムがブラインド・スポット（死角）モニタリング・ゾーンに別の車両を検知すると、アクティブ・レーン・マネジメント・システムがステアリング・アシストやステアリング振動の形式で警告を行い（オーディオ設定に応じて）、車両が車線の中央に戻るように誘導します。

選択した警告の種類に応じて、システムは車線の中央に車両を誘導する、またはステアリング・ホイールに振動を与えるのいずれか、または両方を行います。

メモ：

アクティブ・レーン・マネジメント・システムが隣の車線の目標車両に反応している状況下では、車両が走行している車線の中央を離れると（車線マーカーを跨ごうとしているのではない状態）、直ちに振動が発生し、ミラーのブラインド・スポット（死角）モニタリング表示 LED が点滅し、ステアリング・ホイール・トルクが通常の車線変更（隣の車線に車両がない場合）よりも大きくなります。

運転者は、ステアリング・ホイールに力をかけることにより、いつでもステアリング・アシスト警告を手動でオーバーライドできます。

車線マーカーが 1 つしか検知されず、運転者が（方向指示器を作動させずに）車線マーカーを越えた場合、アクティブ・レーン・マネジメント・システムは、インストルメント・パネル・に視覚的な警告を表示し、同時にステアリング・アシスト・トルクをかけて（Uconnect 設定で設定した場合）運転者に車線内での走行を維持するよう促します。運転者がそのまま車線の逸脱を続けた場合、車両が車線境界を超えると、インストルメント・パネル・ディスプレイに視覚警告を点滅表示すると同時に、ステアリング・ホイールに触覚振動を加えます（Uconnect 設定で設定した場合）。

メモ：

作動条件を満たした場合、アクティブ・レーン・マネジメント・システムは運転者の両手がステアリング・ホイール上にあるかどうか監視し、手が離れている場合は運転者に対して警告音を発します。運転者が両手をステアリング・ホイールに戻さない場合、システムは取り消されます。

アクティブ・レーン・マネジメントのオン／オフの切り替え



「Active Lane Management（アクティブ・レーン・マネジメント）」ボタンは、Uconnect ディスプレイの下にあるスイッチ・パネルにあります。

システムをオンにするには、「Active Lane Management（アクティブ・レーン・マネジメント）」ボタンを押します（LED は消灯します）。メッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。

システムをオフにするには、ボタンを 2 回押します（LED は点灯します）。

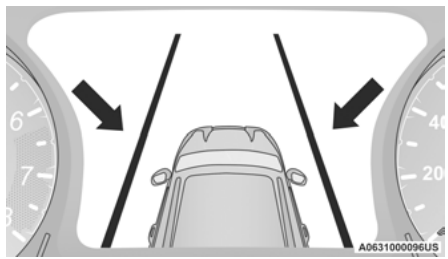
メモ：

ボタンを 1 回だけ押した場合は、インストルメント・パネル・ディスプレイにポップ・アップが表示され、ボタンを再び押してシステムを無効にするよう運転者に指示します。

アクティブ・レーン・マネジメント警告メッセージ

アクティブ・レーン・マネジメント・システムでは、インストルメント・パネル・ディスプレイを使用して現在の車線の挙動
状況を表示します。

このシステムがオンの場合、いずれの車線境界線も検知されないと、車線は灰色になります。



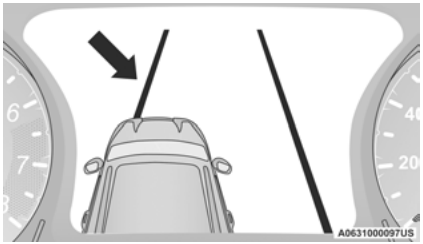
システムがオン（灰色の車線）

左車線の逸脱 - 左車線のみ検知

- システムがオンで左車線のみを検知し、その車線からの逸脱の発生時にインストルメント・パネル・ディスプレイに視覚的警告を表示する準備が完了すると、左車線は緑色になります。

4

- 車線に近づいた(ただし越えていない)ことをシステムが感知すると、左車線は黄色の実線に変化し、システムは触覚に訴えるステアリング・ホイールの振動やステアリング・アシスト・トルク(「Uconnect Settings (Uconnect 設定)」でプログラムされている場合)を発生させます。
- 車線を逸脱していることをシステムが感知すると、左車線は黄色の点滅に変化します。

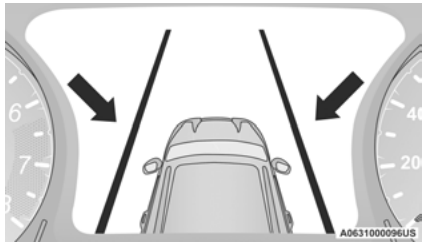


車線の逸脱(点滅する黄色い車線)

メモ:
アクティブ・レーン・マネジメント・システムは、右車線のみを検知したとき、右車線からの逸脱に対しても同様に作動します。

左車線の逸脱 - 両側の車線を検知

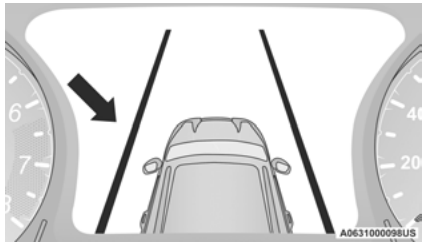
- このシステムがオンの場合、車線が灰色から緑色に変わり、両側の車線が検知されたことを示します。両側の車線が検知されるとシステムの準備が完了し、車線からの逸脱の発生時にインストルメント・パネル・ディスプレイに視覚的警告を表示し、ステアリング・ホイールに振動やステアリング・アシストによる警告を発生させることができるようになります。



車線の感知(緑色の車線)

- システムが車線の車両の挙動状況を感知すると、左の車線は黄色の実線に変化します。このとき、ステアリング・ホイールには車線の境界と反対方向にステアリング・アシストによる警告が発生します。

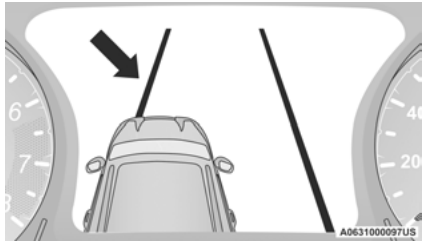
  たとえば、車両が左側の車線に近付いた場合、ステアリング・ホイールは右方向に向けられます。



車線での車両の挙動(黄色の実線)

- 車線を越えていることをシステムが感知すると、左車線は黄色の実線から黄色の点滅に変化します(オン/オフ)。このとき、ステアリング・ホイールには振動が発生します。

  たとえば、車両が左側の車線に近付いた場合、ステアリング・ホイールは右方向に向けられます。



車線の逸脱(点滅する黄色い車線)

メモ:
アクティブ・レーン・マネジメント・システムは、右車線からの逸脱に対しても同様に作動します。

アクティブ・レーン・マネジメント・システムの状態の変更

アクティブ・レーン・マネジメント・システムの設定は、Uconnect システムから行います ⇨ ページ 136。

選択可能な警告タイプ:

- 振動のみ
- ステアリング・アシストのみ
- 振動およびステアリング・アシスト

このシステムの他の設定可能な項目は、振動強度（高／中／低）、ステアリング・アシスト強度（高／中／低）、および警告ゾーン感度（早／中／遅）です。

メモ：

- アンチロック・ブレーキ、トラクション・コントロール・システム、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール、前面衝突警報などの安全システムが作動する場合は常時、ステアリング・ホイールに振動／ステアリング・アシストはかかりません。
- ブラインド・スポット（死角）モニタリング・システムは、ALM を作動させると強制的にオンになります。

PARKVIEW リヤ・ビュー・カメラ - タイプ別装備

ParkView リヤ・ビュー・カメラは、ギヤ・セレクタを「R（リバース）」に入れるたびに車両後方の周辺画像を画面に表示します。この画像は、「Navigation/Multimedia（ナビゲーション／マルチメディア）」オーディオ・ディスプレイに表示され、「Check Entire Surroundings（周囲全体を確認してください）」というメッセージが画面の上部に表示されます。5 秒後にこのメッセージは消えます。ParkView リヤ・ビュー・カメラは、車両後方、リヤ・ナンバー・プレートの上に取り付けられています。

ParkView リヤ・ビュー・カメラが表示されている間にリフトゲートが開いた場合、「Camera Not in Position（カメラが所定の位置にない）」というメッセージが画面の上部に 5 秒間表示されます.

リヤ・ビュー・カメラの手動作動

1. Uconnect ディスプレイにある「Vehicle（車両）」ボタンを押して、「Controls（コントロール）」メニューを選択します。
2. リヤ・ビュー・カメラ・システムを ON にするには、「Back Up Camera（リヤ・ビュー・カメラ）」ボタンを押します。

メモ：

- リヤ・ビュー・カメラ画像はサラウンド・ビュー・カメラのメニューからも選択できます（タイプ別装備）。
- ParkView リヤ・ビュー・カメラには、Uconnect システムで選択可能な動作のプログラム・モードがあります ⇨ ページ 136。

シフト・レバーを「R（リバース）」から別の位置に入れると（カメラ・ディレイは「OFF（オフ）」）、リヤ・カメラ・モードが終了し、直前の画面に戻ります。シフト・レバーを「R（リバース）」から別の位置に入れると（カメラ・ディレイは「ON（オン）」）、カメラの画像は、シフト・レバーを「R（リバース）」から別の位置に入れてから最大 10 秒間表示を継続します。ただし、以下の状況が発生しない場合に限ります。車速が 13km/h（8mph）を超える、シフト・レバーを「P（パーキング）」に入れる、車両のイグニッションを「OFF（オフ）」位置に入れる、またはタッチスクリーンの「X」ボタンを押してリヤ・ビュー・カメラを終了すること。

カメラ画像の表示を有効にすると、アクティブ・ガイドラインが画像に重なって表示され、車幅と、ステアリング・ホイール位置に基づいて予測された後退進路が示されます。重ねて表示される中心部の破線によって車両の中心が示され、駐車したり、またはけん引接続部分の位置を揃えたりすることを支援します。色分けされて表示されたゾーンは、車両後方までの距離を示します。次の表に、各ゾーンのおおよその距離を示します。

ゾーン	車両後方までの距離
赤	0～30cm（0～1 フィート）
黄	30cm～2m（1～6.5 フィート）
緑	2m（6.5 フィート）超

警告!

ParkView リヤ・ビュー・カメラを使用している場合でも、車両をバックさせるときは注意が必要です。常に車両の後ろを注意深く確認し、バックする前に歩行者や動物、他の車両、障害物がないか注意し、死角を確認してください。周囲の安全に注意を払い、バックする際には常に注意する必要があります。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

- 車両の損傷を防ぐために、ParkView リヤ・ビュー・カメラは駐車補助装置としてのみ使用してください。ParkView リヤ・ビュー・カメラでは、進路上のすべての障害物や物体を検知できるわけではありません。
- 車両の損傷を防ぐため、ParkView リヤ・ビュー・カメラ使用中は、障害物を検知した場合に停止できるようにゆっくり走行してください。ParkView リヤ・ビュー・カメラ使用中でも、肩越しに後ろを頻繁に確認しながら運転することをお勧めします。

メモ：
カメラに雪、氷、泥や異物が付着している場合は、レンズを洗浄して水ですすぎ、柔らかい布で拭いて乾かします。レンズにカバーなどをかけないでください。

Zoom View（ズーム表示）

リヤ・ビュー・カメラ画像の表示中は、どのギヤに入っていても車速が 13km/h（8mph）未満であれば、「Zoom View（ズーム表示）」が利用可能です。ディスプレイ画面左上の「magnifying glass（虫眼鏡）」アイコンを押すと、画像が標準表示の 4 倍に拡大されます。このアイコンを再度押すと、表示がリヤ・ビュー・カメラ・ディスプレイへ戻ります。リヤ・ビュー・カメラ表示が有効な場合、入っているギヤに関係なく、デフォルト表示は標準表示になります。

「Zoom View（ズーム表示）」を選択しているときに、シフト・レバーが「R（リバース）」に入っている状態から「D（ドライブ）」または「N（ニュートラル）」にシフトすると、標準リヤ・ビュー・カメラ表示が表示されます。ギヤを「R（リバース）」に戻すと、自動的に「Zoom View（ズーム表示）」に戻ります。

シフト・レバーを任意のギヤから N（ニュートラル）にシフトしても、車速が 13km/h（8mph）未満であれば、選択した表示（「Zoom（ズーム）」または「Standard（標準）」がそのまま維持されます。

シフト・レバーを「P（パーキング）」に入れると、ギヤ・セレクタを「D（ドライブ）」または「R（リバース）」に入れ、車速が 13km/h（8mph）以上になるまでは「Zoom View（ズーム表示）」が利用可能です。

メモ：
- シフト・レバーが「D（ドライブ）」、「N（ニュートラル）」、「R（リバース）」に入っており、車速が 13km/h（8mph）以上の場合、「Zoom View（ズーム表示）」は利用できず、アイコンがグレー表示になります。
- 「Zoom View（ズーム表示）」で表示されている間は、ガイドラインは見えなくなります。

サラウンド・ビュー・カメラ・システム タイプ別装備

この車両には、サラウンド・ビュー・カメラ・システムが装備されている場合があります。このシステムを活用することで、ギヤ・セレクタを「R（リバース）」に入れたときに必ず車両の周囲の画像および上方からの画像を画面上で確認できます。または、タッチスクリーン・ボタンにより別の画像を選択できます。車両の上方からの画像により、開いているドアがわかります。この画像は、タッチスクリーンに表示され、「Check Entire Surroundings（周囲全体を確認してください）」というメッセージが画面の上部に表示されます。5 秒後にこのメッセージは消えます。サラウンド・ビュー・カメラ・システムは、フロント・グリル、リヤ・リフトゲート、両サイド・ミラーにある一連のカメラ 4 台で構成されています。

メモ：
サラウンド・ビュー・カメラ・システムにはプログラム可能な設定があり、Uconnect システムにより選択可能です
⇨ ページ 136。



タッチスクリーンでこのボタンを押すと、Uconnect システムのサラウンド・ビュー・カメラ・メニューに入ります。

シフト・レバーを「R（リバース）」にシフトしたときは、後方の画像および上方からの画像がシステムのデフォルト画像です。

シフト・レバーを「R（リバース）」からシフトすると（カメラ遅延はオンの状態）、このカメラ画像の表示は最長 10 秒間継続されますが、車速が 13km/h（8mph）を超えたり、車両を「P（パーキング）」にシフトしたり、イグニッションを「OFF（オフ）」位置にすると、画像は表示されなくなります。タッチスクリーンには「X」ボタンがあり、これによりカメラ画像の表示を無効にできます。

「R（リバース）」から別の位置にシフトすると（カメラ遅延はオフの状態）、サラウンド・ビュー・カメラ・モードが終了し、直前の画面が再び表示されます。

有効にすると、アクティブなガイドラインが画像に重ねて表示され、車幅（サイド・ミラーを含む）と、ステアリング・ホイール位置に基づいて予測された後退進路が示されます。

色分けされて表示されたゾーンは、車両後方までの距離を示します。

次の表に、各ゾーンのおおよその距離を示します。

ゾーン	車両後方までの距離
赤	0～30cm（0～1 フィート）
黄	30cm～2m（1～6.5 フィート）
緑	2m（6.5 フィート）超

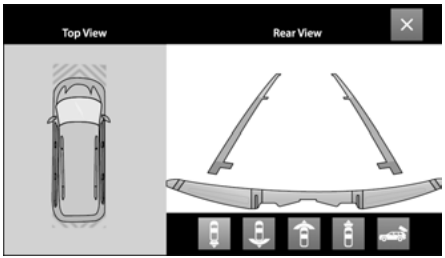
動作モード

サラウンド・ビュー・カメラの手動作動を選択するには、Uconnect システム内の「Controls（コントロール類）」メニューにある「Surround View Camera（サラウンド・ビュー・カメラ）」ボタンを押します。

上方からの画像

上方からの画像は、分割画面表示で、後方の画像と前方の画像と合わせて Uconnect システムに表示されま

す。画像には、車両の前部と後部に ParkSense の統合された円弧が表示されます。これらの円弧は、接近中の物体までの距離ゾーンに応じて、黄色から赤色まで変化します。



サラウンド・ビュー・カメラの画像

メモ：

- フロント・タイヤを切ると、画像にタイヤが表示されます。
- ミラー内のカメラは広角なので、画像はゆがんで見えます。
- 上方からの画像により、開いているドアがわかります。
- フロント・ドアを開けると、外側の画像はキャンセルされます。
- リフトゲートを開けると、上方からの画像の表示中、後方の画像はキャンセルされます。

後方の画像と上方からの画像



これは、「R（リバース）」時のシステムのデフォルト画像で、必ず車両の上方からの画像と組み合わせられ、オプションとして有効に設定すると、予測経路のガイドラインが含まれます。

リヤ・クロス・パス画像



「Rear Cross Path（リヤ・クロス・パス）」ボタンを押すと、リヤ・カメラ・システムの広角画像が運転者に表示されます。これを選択すると、上方からの画像が無効になります。

前方の画像と上方からの画像



前方の画像により、車両の直前にあるものが表示され、必ず車両の上方からの画像と組み合わせられます。

フロント・クロス・パス画像



「Front Cross Path（フロント・クロス・パス）」ボタンを押すと、フロント・カメラ・システムの広角画像が運転者に表示されます。これを選択すると、上方からの画像が無効になります。

リヤ・ビュー・カメラ画像



「Back Up Camera（リヤ・ビュー・カメラ）」ボタンを押すと、後方の画像が全画面で（ズーム表示機能付き）表示されます。

メモ：

「Surround View Camera（サラウンド・ビュー・カメラ）」メニューで「Rear View Camera（リヤ・ビュー・カメラ）」画像を選択した場合、「Rear View（後方の画像）」画面を終了させると「Surround View（サラウンド・ビュー）」メニューに戻ります。Uconnect システムの「Controls（コントロール）」メニューでリヤ・ビュー・カメラを手動で有効にした場合、表示画面を終了させると「Controls（コントロール）」メニューに戻ります。

無効化

このシステムは、次の条件下で無効になります。

- 車速が 13km/h（8mph）を上回る。
- 車両を「P（パーキング）」に入れた。
- シフト・レバーを「R（リバース）」以外のギヤに入れ、タッチスクリーンの「X」ボタンを押す。
- カメラ遅延システムを「Uconnect Settings（Uconnect 設定）」メニューから手動でオフにした ⇨ ページ 136。

メモ：

- カメラに雪、氷、泥や異物が付着している場合は、レンズを洗浄して水ですすぎ、柔らかい布で拭いて乾かします。レンズにカバーなどをかけないでください。
- システムに機能不全が発生した場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

警告!

サラウンド・ビュー・カメラを使用している場合でも、車両をバックさせるときは注意が必要です。常に車両の後ろを注意深く確認し、バックする前に歩行者や動物、他の車両、障害物がないか注意し、死角を確認してください。周囲の安全に注意を払い、バックする際には常に注意する必要があります。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

注意!

- 車両の損傷を防ぐために、サラウンド・ビューは駐車補助装置としてのみ使用してください。サラウン

（続き）

注意!

ド・ビュー・カメラでは、進路上のすべての障害物や物体を検知できるわけではありません。

- 車両の損傷を防ぐため、サラウンド・ビュー使用中は、障害物を検知した場合に停止できるようにゆっくり走行してください。サラウンド・ビュー使用中でも、肩越しに後ろを頻繁に確認しながら運転することをお勧めします。

Zoom View(ズーム表示)

リヤ・ビュー・カメラ画像の表示中は、どのギヤ・セレクタ位置に入っていても速度が 13km/h(8mph)未満であれば、「Zoom View(ズーム表示)」が利用可能です。



ディスプレイ画面左上の「magnifying glass(虫眼鏡)」アイコンを押すと、画像が標準表示の 4 倍に拡大されます。



このアイコンを再度押すと、表示がリヤ・ビュー・カメラ・ディスプレイへ戻ります。

リヤ・ビュー・カメラ表示が作動している場合、どのギヤに入っていても、デフォルト表示は標準リヤ・ビュー・カメラ表示になります。「Zoom View(ズーム表示)」を選択しているときに、シフト・レバーが「R(リバース)」に入っている状態から「D(ドライブ)」または「N(ニュートラル)」にシフトすると、標準リヤ・ビュー・カメラ表示が表示されます。ギヤを「D(ドライブ)」または「N(ニュートラル)」から「R(リバース)」に戻すと、自動的に「Zoom View(ズーム表示)」に戻ります。

シフト・レバーを任意のギヤから N(ニュートラル)にシフトしても、車速が 13km/h(8mph)未満であれば、選択した表示(「Zoom(ズーム)」または「Standard(標準)」がそのまま維持されます。

シフト・レバーを「P(パーキング)」に入れると、ギヤ・セレクタを「D(ドライブ)」または「R(リバース)」に入れ、車速が 13km/h(8mph)以上になるまでは「Zoom View(ズーム表示)」が利用可能です。

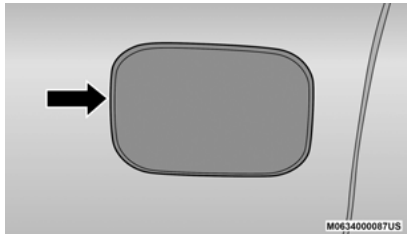
メモ:

- シフト・レバーが「D(ドライブ)」、「N(ニュートラル)」、「R(リバース)」に入っており、車速が 13km/h(8mph)以上の場合、「Zoom View(ズーム表示)」は利用できず、アイコンがグレー表示になります。
- 「Zoom View(ズーム表示)」で表示されている間は、ガイドラインは見えなくなります。

車両への給油

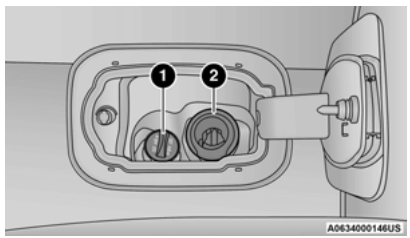
キャップレス・フューエル・システムは、燃料タンクの給油パイプにあるフラッパを使用します。このフラッパは、給油ノズルの出し入れ時に自動で開閉します。キャップレス・フューエル・システムは、誤った種類の燃料の補給を防ぐための仕組みです。

1. キー・フォブまたは運転席ドア・トリム・パネルの「ロック解除」ボタンを押して、フューエル・フィラ・リッドのロックを解除します。
2. フューエル・リッドの外側の端を押して、フューエル・フィラ・リッドを開きます。



フューエル・リッド

3. 給油口キャップはありません。パイプ内側のフラップによってシステムは密閉されています。
4. 給油パイプの中に給油ノズルをいっぱいまで差し込みます。給油中はノズルによりフラップが開かれ、保持されます。



フューエル・フィラ

1 – AdBlue®(尿素水)フィラ・キャップ
2 – フューエル・フィラ

5. 燃料を給油します。フューエル・ノズルからカチッという音が聞こえるか、または給油が止まった時点で燃料タンクは満タンです。
6. フューエル・ノズルを取り外す前に、10 秒待って燃料をノズルから排出させます。
7. 給油ノズルを取り外して、給油口リッドを閉めます。

警告!

- フューエル・リッドが開いているときやタンクに給油しているときには、決して車内や車周辺にタバコなどの火気を近づけないでください。
- エンジン作動中は、絶対に給油しないでください。これはほとんどの国で違法であるため、この行為を行うと、「エンジン警告灯」が点灯します。
- 車内に置かれた携帯用容器に直接燃料を給油すると火事の原因になり、やけどをする恐れもあります。給油中はガソリン容器を車外に出し、地面に置いてください。

注意!

ディーゼル・エンジンの場合、EN 590 欧州仕様に従って、自動車用のディーゼル燃料のみ使用してください。他の製品や混合燃料を使用すると、修理できる範囲を超えてエンジンが損傷し、発生した損傷によって保証が無効になる恐れがあります。誤って他の種類の燃料をタンクに入れてしまった場合、エンジンを始動させないでください。タンクから燃料を完全に抜いてください。ごく限られた時間であってもエンジンを作動させてしまった場合は、燃料タンクから燃料を抜くだけではなく、それ以外の供給回路からも燃料を抜く必要があります。

ADBLUE®(UREA:尿素)ータイプ別装備

車両には、「UREA(尿素)」インジェクション・システムと選択触媒還元脱硝装置が搭載されており、排出ガス規制に適合しています。これら 2 つのシステムにより、ディーゼル排出ガス規制要件への準拠、そして同時に燃費の改善、ハンドリング、トルク、出力の向上が実現しています。メッセージとシステム警告については、⇨ ページ 72。AdBlue®(UREA:尿素)は長期間在庫の可能な非常に劣化の少ない製品です。32°C(90°F)未満の温度で保存する場合、1 年間以上の品質保持期間があります。AdBlue®液の種類の詳細については、⇨ ページ 251。車両には、自動 AdBlue®ヒータ・システムが装備されており、-11°C(12°F)未満の気温におけるエンジン始動時でもシステムが正常に作動するようになっています。

メモ:

AdBlue®は-11°C(12°F)未満の温度で凍結します。

AdBlue®(UREA:尿素)の保管

AdBlue®(UREA:尿素)は、長期保存可能な非常に安定した製品とされています。AdBlue®(UREA:尿素)を-12°～32°C(10°～90°F)の温度に保てば、1 年以上保存できます。

AdBlue®(UREA:尿素)は、上記の最低温度では凍結します。たとえば、AdBlue®(UREA:尿素)は-11°C(12°F)以下で凍結することがあります。このシステムは、こうした環境でも作動するように設計されています。

メモ:

AdBlue®(UREA:尿素)を取り扱う際は、次の内容を認識しておくことが重要です。

- AdBlue®(UREA:尿素)に接触する容器や部品は、AdBlue®(UREA:尿素)に対応している必要があります(プラスチックまたはステンレス鋼)。銅、黄銅、アルミニウム、鉄、ステンレス以外の鋼は AdBlue®(UREA:尿素)で腐食するため、避ける必要があります。
- AdBlue®(UREA:尿素)がこぼれた場合は、完全に拭き取る必要があります。

AdBlue®(UREA:尿素)の補充

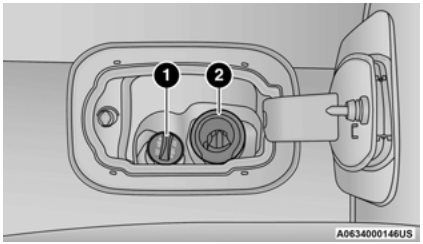
予備条件

AdBlue®(UREA)は-11°C(12°F)未満の温度で凍結します。長期間車両をこの温度で放置しておくと、補充が難しくなることがあります。このため、車両をガレージまたは暖かい環境に駐車して、補充前に尿素水が液体状態に戻るまで待つことを推奨します。

以下の手順に従ってください。

- 車両を平坦な場所に駐車し、イグニッションを「OFF(オフ)」位置にしてエンジンを停止させます。

- フューエル・リッドを開け、AdBlue®(UREA:尿素)フィラからキャップを緩めて取り外します。



フューエル・フィラ

1 – AdBlue®(尿素水)フィラ・キャップ
2 – フューエル・フィラ

ノズルによる補充

どの AdBlue®(UREA:尿素)販売店でも補充できます。

以下の手順に従ってください。

- AdBlue®(UREA:尿素)ノズルをフィラに差し込み、補充を開始し、最初に停止した時点で補充を終了させます(この停止は、AdBlue®(UREA:尿素)タンクがいっぱいになったことを示しています)。これ以上補充を続けないでください。AdBlue®(UREA:尿素)がこぼれる恐れがあります。
- ノズルを引き抜きます。

容器による補充

以下の手順に従ってください。

- 使用期限を確認します。
- ボトルの中身を AdBlue®(UREA:尿素)タンクに注ぐ前に、ラベルに記載されている使用上の注意を読んでください。
- ねじ込めないもの(たとえばタンク)を使用して補充する場合、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示が出た後 ⇨ ページ 72、AdBlue®(UREA:尿素)タンクに 8L(2gal)を超えない範囲で補充します。
- フィラにねじ込める容器を使用する場合、リザーバがいっぱいになると、容器内の AdBlue®(UREA:尿素)レベルが減らなくなります。これ以上補充しないでください。

補充後の作業

以下の手順に従ってください。

- キャップを時計回りいっぱいに回して、AdBlue®(UREA:尿素)フィラに再び取り付けます。
- イグニッションを「RUN(走行)」にします(エンジンを始動する必要はありません)。
- 車両を動かす前に、インストルメント・パネルの表示がオフに切り替わるまで待ちます。この表示は、数秒からおよそ 30 秒まで続くことがあります。エンジンを始動して車両を動かすと、この表示はさらに長く続きます。これによりエンジンが作動しなくなることはありません。
- タンクが空の状態から AdBlue®(UREA:尿素)をいっぱいに補充した場合は、エンジン始動前に 2 分間待機してください。

メモ:

- AdBlue®(UREA:尿素)がフィラ・ネックからこぼれたら、その部分をすぐきれいに清掃してから、補充を再開してください。こぼれた液体が結晶化したら、スポンジと温水で取り除いてください。
- 最高レベルを超えないようにしてください。そうしないと、リザーバが損傷する恐れがあります。AdBlue®(UREA)は-11°C(12°F)未満で凍結します。このシステムは、尿素水の氷点未満で作動するように設計されていますが、尿素水が凍結するとシステムが損傷する恐れがあるため、タンクの最高レベルを超えて補充しないことを推奨します。このセクションの指示に従ってください。
- この車両には、自動 DEF ヒータ・システムが装備されています。これにより DEF インジェクション・システムは、-11°C(12°F)の温度で正常に動作できます。車両が-11°C(12°F)の温度で長時間動作していない場合、タンクの DEF が凍結する場合があります。DEF タンクから溢れるまでクーラントを補充しないでください。溢れるまで補充し、凍結すると、タンクが損傷するおそれがあります。
- AdBlue®(UREA:尿素)が塗装面やアルミニウムにこぼれたら、すぐにその部分を水で洗い流し、吸収剤を使用して地面にこぼれた液体を回収してください。
- 誤って AdBlue®(UREA:尿素)をディーゼル燃料タンクに入れてしまった場合は、エンジンを始動しようとしないでください。エンジンに重大な損傷が発生する恐れがあります。正規ディーラーにお問い合わせください。
- AdBlue®(UREA:尿素)に添加剤や他の液体を加えないでください。システムが損傷する恐れがあります。
- 品質が不良または劣化した AdBlue®(UREA:尿素)を使用すると、インストルメント・パネル・ディスプレイに表示が出ることがあります ⇨ ページ 72。
- AdBlue®(UREA:尿素)は絶対に別の容器に注がないでください。汚染の恐れがあります。

- AdBlue®(UREA:尿素)を使い切った場合、⇨ ページ 72 を参照してください(車両を通常どおり使い続けるため)。

車両積載量

重量ラベル

地域の規則に定められているとおり、車両の運転席ドアまたはピラーには重量ラベルが貼付されています。

このラベルの記載内容は次のとおりです。

このラベルには、製造年月、車両定格総重量(GVWR)、フロントとリヤの車軸定格総重量(GAWR)、および車両識別番号(VIN)などが記載されています。このラベルに記載されている月日時(MDH)番号は、製造された月、日、時間を示します。ラベルの下部に記載されているバーコードが VIN です。

車両定格総重量(GVWR)

車両定格総重量(GVWR)とは、運転者、乗員、車両、装備、および積荷を含む、車両の許容総重量を意味します。ラベルには、フロントとリヤの車軸システムの最大許容荷重(GAWR)も記載されています。総荷重は制限されているため、GVWR およびフロントとリヤの GAWR を超えないようにしてください。

最大積載量

車両の最大積載量とは、運転者、全乗員、装備、および積荷を含む、車両が運搬可能な許容積載量を意味します。

車軸定格総重量(GAWR)

GAWR とは、フロント・アクスルおよびリヤ・アクスルの最大許容荷重を意味します。荷重はカーゴ・エリアで分散して、各アクスルの GAWR を超えないようにしてください。

各アクスルの GAWR は、システムで荷重容量が最小である構成部品(アクスル、ばね、タイヤ、またはホイール)によって決まります。耐久性を高めるために購入時に重いアクスルまたはサスペンション構成部品を指定しても、車両の GVWR が増えるとは限りません。

タイヤ・サイズ

車両識別ラベルのタイヤ・サイズは、車両の実際のタイヤ・サイズを示しています。交換タイヤの負荷性能は、このタイヤ・サイズの負荷性能と同じである必要があります。

リム・サイズ

記載されているタイヤ・サイズに合ったリム・サイズです。

空気圧

GAWR 限界までのすべての積載条件における車両の冷間時のタイヤの空気圧です。

装備重量

車両の装備重量とは、乗員や積荷が積載されていない状態で、すべてのフルード類(燃料を含む)を最大容量まで入れた状態の車両の総重量を意味します。フロントとリヤの装備重量は、乗員または積荷を積載する前に、業務用の重量計で車両の重量を測定することで求められます。

積載方法

地上で車両の実際の総重量およびフロントとリヤの重量を求めるには、積載済みの運転可能な状態で車両の重量を測定することをお勧めします。

まず、車両全体の重量を業務用の重量計で測定して、GVWR を超えていないことを確認します。次に、車両のフロントとリヤの重量を別々に測定し、荷重がフロント・アクスルとリヤ・アクスルに適切に分散されていることを確認します。測定した結果、総重量は記載の GVWR 以内であるが、フロント・アクスルまたはリヤ・アクスルで GAWR を超えている場合があります。その場合、必要に応じてフロントからリヤ、またはリヤからフロントに荷重を移動して、記載の重量制限内に収まるようにします。重い荷物を低い位置に配置し、荷重が均等に分散されるようにしてください。運転前に、安定の悪い荷物を固定します。

不適切な荷重配分は、車両の操舵性およびブレーキ性能に悪影響をおよぼすおそれがあります。

警告!

車両の積載量が、GVWR、またはフロントとリヤの GAWR より重くならないようにしてください。重くなっている場合、車両の部品が破損したり、車両の操作性が変化したりする場合があります。その結果、車が制御できなくなる恐れがあります。また、過負荷によって車両の寿命が短くなる可能性もあります。

レクリエーションけん引（モータホームによるけん引）

他の車でのけん引

けん引の条件	地面から離れている車輪	前輪駆動（FWD）	4WD
4 輪すべてが地面に着いている状態でけん引	なし	禁止	禁止
けん引用台車によるけん引	リヤ	禁止	禁止
	フロント	可能	禁止
トレーラによるけん引	すべて	最適な方法	可能

メモ：

- 車両のけん引を行う場合は、適用される法令に必ず従ってください。詳細については、国または各都道府県の行政機関にお問い合わせください。
- 車両けん引時には自動パーキング・ブレーキ機能が解除されていることを確認し、エレクトロニック・パーキング・ブレーキが予期せずにかからないようにしてください。自動パーキング・ブレーキ機能は、「Uconnect の設定」のユーザー選択機能で有効または無効にできます。

キャンピング・カーなどによるけん引 —前輪駆動車（FWD）モデル

キャンピング・カーなどでけん引される場合は、必ず前輪が地面から**離れた**状態でなければなりません。このようなけん引は、けん引用台車を使用して前輪を持ち上げるか、車両トレーラを使用して 4 輪すべてを持ち上げることで行えます。けん引用台車を使用する場合は、次の手順を行ってください。

1. けん引用台車をけん引車両に確実に固定し、けん引用台車のメーカの指示に従ってけん引を行ってください。
2. 前輪をけん引用台車に載せます。
3. エレクトロニック・パーキング・ブレーキ（EPB）を作動させます。シフト・レバーを「P（パーキング）」に入れます。エンジンを停止します。
4. 前輪をけん引用台車に確実に固定し、けん引用台車のメーカの指示に従ってけん引を行ってください。
5. イグニッションを「ON/RUN」位置にします。ただし、エンジンは始動させないでください。
6. ブレーキ・ペダルを踏み込んだままにします。
7. エレクトロニック・パーキング・ブレーキ（EPB）を解除します。
8. イグニッションを「OFF」位置に回し、キー・フォブを抜き、ブレーキ・ペダルを放します。

注意!

- 前輪を地面に着けてけん引すると、トランスミッションに重大な損傷が発生する恐れがあります。不適切なけん引によって生じた損傷は、新車保証の対象とはなりません。
- けん引中は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを解除し、解除された状態が維持されていることを確認してください。
- フェイシア／バンパ取り付けのクランプ式けん引バーはこの車に取り付けないでください。フェイシア／バンパ・フェースが損傷します。

レクリエーションけん引 — 4X4 モデル

レクリエーションけん引(4 輪すべてを接地させた状態、またはけん引用台車を使用)は禁止です。この車両は、4 輪すべてを持ち上げて、フラットベッド・トラックや車両トレーラに搭載して搬送してください。

注意!

いずれかのタイヤを地面に着けてこの車両をけん引すると、トランスミッションやトランスファ・ケースに重大な損傷が発生する恐れがあります。不適切なけん引によって生じた損傷は、新車保証の対象とはなりません。

運転のアドバイス

オン・ロード走行について

多目的車両は、最低地上高が高くホイール・ベースが狭く設計されています。これにより、オフ・ロード走行時の変化に富んだ走行に幅広く対応できます。また、特有のデザインにより重心が従来の乗用車よりも高くなっています。

最低地上高が高いため、道路に対しての視野が広がり、障害を事前に察知できます。車高の低いスポーツ・カーでオフロードの軽快な走行ができないのと同じように、この車では、従来の乗用車と同じ速度でコーナーを曲がることができません。急な旋回や操作は避けてください。このタイプの他の車と同じく、適切な運転を心がけなければ、制動不能または横転してしまう恐れがあります。

オフ・ロード走行について

4WD LOW を使用するケース

オフロード走行の際、滑りやすいまたは走行が困難な地形での運転や急な坂道の上り下りで、より大きなトラクションと制動力が必要な場面、および低速でより大きなけん引力が必要な場合は、「4WD LOW」位置にシフトします ⇨ ページ 92。このレンジの使用は、低速の駆動力を必要とする深雪、泥、砂利道などの悪路状況に限定してください。4WD LOW では、車の速度が 40km/h (25mph)を超えないようにしてください。

水溜りでの走行

この車は水位が安全な深さの場合に水溜りの中を走行することができますが、水に入る前に守らなければならない多くの注意事項があります。

注意!

水溜りの中を走行する場合、速度は 8km/h(5mph)以下にしてください。事前に水深を確認し、水溜りから上がったらすべてのフルード類を点検してください。水溜りでの走行では、新車限定保証の対象にならない損傷を受ける場合があります。

数センチ以上の深さがある水溜りでの走行には、安全の確認と車両の損傷防止のために細心の注意が必要です。水溜りを走行しなければならない場合は、入る前に深さと底の状態(および障害物の位置)を確認してください。慎重に車を進め、深い所では 8km/h(5mph)未満で一定の速度を維持し、波を立てないようにします。

流水

水が流れていたり、水かさが増えていたりする(洪水流出など)場合は、水面が下がって流れが緩やかになるまで水溜まりに入るのは避けてください。流水のある場所を走行する場合、水深が 22cm(9 インチ)を超える所は避けてください。水が河床を浸食し、車がより深い場所にはまる恐れがあります。流された場合を考慮して、進入場所の下流にある脱出場所を決めておきます。

よどみ

水深が 40.5 cm(16 インチ)を超える水溜りでの走行は避け、速度を抑えて波を立てないようにします。水深 40.5 cm(16 インチ)での最高速度は、8km/h(5 mph)未満です。

(Trailhawk のみ):水深が 48cm(19 インチ)を超えるよどみでの走行は避け、速度を抑えて波を立てないようにします。水深 48cm(19 インチ)での最高速度は、8km/h(5 mph)未満です。

注意!

交通の流れがあっても、浸水している場所、水が留まっていたり、流れている場所で車両を走行させないでください。浸水した場所では、他車の相対的な動きにより大量の水が動かされ、異常に高い波が発生します。水の中を走行すると、車両が損傷するおそれがあるため、安全を確保し損傷を防止するため、十分に注意してください。

お手入れ

深い水溜りを走行した後は、車のフルードおよび潤滑油(エンジン、トランスミッション、パワー・トランスファ・ユニット、リヤ・ドライブ・モジュール)を点検し、汚れがないことを確認します。フルードや潤滑油が汚れている(乳白色になっていたり、泡立っていたりする)場合、部品の損傷を防ぐために、速やかにフルードや潤滑油を洗い流して交換します。

雪、泥、砂地道での走行

大雪の中を走行したり、貨物をけん引したり、低速時の強い制御力を必要とするときには、シフトを低速ギヤに入れ、必要に応じて 4WD システムを「4WD LOW」にして適切な地形モードにシフトします ⇨ ページ 92。前進を続けるために必要なときのみ、低速ギアにシフトしてください。エンジンの回転数を上げ過ぎると車輪が空転し、トラクションが失われます。

凍結路や滑りやすい道路ではシフトダウンを避けてください。エンジン・ブレーキがかかって、横滑りや制動不能が起きる危険があります。

登坂走行

メモ：

坂道を登る前に、頂上および反対側の状態を判断します。

急な坂道を登る前に、トランスミッションを低速ギヤに切り替え、4WD システムを「4WD LOW」にします。さらに急な坂道では、1 速ギヤと「4WD LOW」を使用します。

メモ：

スリップが大きくなった場合は停止してしまう前にブレーキを掛けて、トラクションの得られない路面にもぐり込んだり、車両が立ち往生したり、動けなくなったりしないようにしてください。

登坂中にエンストを起こしたり、前進したりできなくなった場合は、停止してすぐにブレーキをかけてください。停止したら、R（リバース）にシフトします。坂をゆっくりと後退し、エンジン・ブレーキを使用して一定の速度を維持します。ブレーキ・ペダルで速度を落とす場合は軽く踏み、タイヤのロックや横滑りが起こらないように注意してください。

警告!

急坂でエンストしたり、前進できなくなったり、または頂上まで到達できなくなったら、絶対に方向転換しないでください。車が傾き、横転する危険があります。坂道は、シフト・レバーを「R（リバース）」レンジに入れて慎重に後退して、必ずまっすぐ下ってください。ブレーキだけに頼って、坂道を「N（ニュートラル）」で下りるのは絶対に行わないでください。

メモ：

坂道では斜めに横切りながら運転するのではなく、常にまっすぐ上り下りしてください。

坂道の頂上に近づくにつれタイヤがスリップする場合は、アクセルを緩め、ステアリング・ホイールをゆっくりと左右に回しながら前進を続けます。これにより路面にタイヤが食い込み、坂道を上りきるトラクションが生じることがあります。

下り坂でのトラクション

トランスミッションを低速ギヤに入れ、4WD システムを「4WD LOW」レンジに入れるか、ヒル・ディセント・コントロール（タイプ別装備）を選択します。4 つの車輪すべてにエンジン・ブレーキによるトラクションをかけながら、ゆっくりと降坂します。これによって車速と方向を制御できます。

山道などの下り走行時に繰り返しブレーキを使用するとブレーキが過熱し、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。できるだけシフトダウンを行い、ブレーキに負担をかけないようにしてください。

オフロード走行後

オフロード走行は道路での走行に比べて車にかかる負担が大きくなります。オフロード走行の後は損傷がないか点検することをお勧めします。

- アンダーボディをよく点検してください。タイヤ、ボディ構造、ステアリング、サスペンションおよび排気装置の破損を点検します。
- ラジエータに泥やごみなどが堆積していないか確認し、必要に応じて清掃してください。
- シャーシ、駆動系、ステアリングおよびサスペンションのファスナの締付け／取付け部が緩んでいないか確認します。緩んでいる場合は、サービス・マニュアルに規定されているトルクで締め直します。
- 草や枝が引っ掛かっていないか点検します。雑草などは火災を起こす危険性があります。草や枝に隠れて、フューエル・ライン、ブレーキ・ホース、アクスル・ピニオン・シール、プロペラ・シャフトの損傷がわからない場合もあります。
- 泥、砂、水など汚れた状態の道を長時間走行した後は、ラジエータ、ファン、ブレーキ・ロータ、ホイール、ブレーキ・ライニング、アクスル・ヨークを直ちに点検して清掃してください。

警告!

ブレーキ・システムに研磨作用のある物質が付着していると、過度に摩耗してブレーキ性能が予期できなくなるおそれがあります。衝突を避ける際にフル・ブレーキが効かなくなる場合があります。汚れた状態で車両を運転していた場合、できるだけ早くブレーキ構成部品を点検して、清掃してください。

- 異物があるとホイールのバランスが崩れる恐れがあります。ホイールから異物を除去すると、バランスの崩れを修正できることがあります。

マルチメディア

UCONNECT システム

Uconnect 5 NAV システム（10.1 インチ・ディスプレイ装備）の詳細は、Uconnect ラジオ取扱説明書を参照してください。

メモ：
Uconnect 画面の画像は例示にすぎず、車両のソフトウェアそのものを反映していない場合があります。

サイバーセキュリティ

適合性に応じて、車両は有線ネットワークまたはワイヤレス・ネットワークから情報を送受信できるようになります。この情報の活用により、車両のシステムおよび機能の正常な動作が可能になります。

車両システムやワイヤレス通信への不正アクセスの危険を低減するために、この車両に特定のセキュリティ機能が装備されていることがあります。車両ソフトウェア技術は、刻々と進化し続けているため、FCAIO はサプライヤと協同で評価を実施し、必要に応じて適切な処置を講じています。今までどおり、異常な車両動作を感じた場合、すぐに正規ディーラーまたは Jeep®フリー・ダイヤルにお問い合わせください（⇨ ページ 253）。

最新バージョンの車両ソフトウェア（Uconnect ソフトウェアなど）がインストールされていても、お客様の車両システムへの不正アクセスの危険性は依然として存在します。

警告!

- 信頼できるメディア機器／コンポーネントのみを車両に挿入してください。出所が不明なメディアには悪質なソフトウェアが含まれる場合があり、車両にインストールすると、車両システムが侵害される可能性が高まります。
- 今までどおり、異常な車両動作を感じた場合、すぐに正規ディーラーにお問い合わせください。

UCONNECT の設定

Uconnect システムでは、インストルメント・パネルの中央にあるタッチスクリーンのボタンとフェイスプレートのボタンを組み合わせて使用します。これらのボタンを使用して、選択機能にアクセスして変更できます。機能の多くは、車両やパッケージによって異なることがあります。

フェイスプレートのボタンは、インストルメント・パネルの中央の Uconnect システムの下または横（あるいはその両方）にあります。さらに、「SCROLL/ENTER（スクロール／入力）」コントロール・ノブが画面の右下にあります。コントロール・ノブを回してメニューをスクロールし、設定を変更します。コントロール・ノブの中央を 1 回以上押して設定を選択または変更できます。

Uconnect システムには、フェイスプレートに「SCREEN OFF（画面オフ）」と「MUTE（ミュート）」ボタンを備えているものもあります。

フェイスプレートの「SCREEN OFF（画面オフ）」ボタンを押すと、Uconnect 画面がオフになります。ボタンを再度押すか、画面をタップして画面をオンにします。

タッチスクリーンの「戻る矢印」ボタンを押すと、Uconnect システムのメニューまたは特定のオプションを終了できます。

オーディオのフェイスプレートにある「Power（電源）」ボタンを 15 秒間以上押し続けると、オーディオがリセットされます。

ユーザー選択機能



10.1 インチ・ディスプレイ装備の Uconnect 5 NAV のフェイスプレートのボタンとタッチスクリーンのボタン

1 – タッチスクリーンのボタン
2 – フェイスプレートのボタン

「Vehicle（車両）」ボタンを押してから、タッチスクリーン上部の「Settings（設定）」タブを押します。このメニューでは、Uconnect システムを使用して、利用可能なすべてのユーザー選択機能にアクセスできます。

メモ：
- 一度に選択できるタッチスクリーン領域は 1 つだけです。
- 車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

選択をする際は、タッチスクリーンのボタンを押して、希望のメニューに入ってください。希望のメニューにアクセスしたら、目的の設定オプションを押し続け、その設定の横にチェックマークが表示されて設定が選択されたことが示されたら放します。設定が完了したら、「Vehicle（車両）」ボタンを押して元の画面に戻ります。画面右側の上矢印または下矢印ボタンを押して、使用可能な設定を上下にスクロールできます。

スクリーン表示

タッチスクリーンの「Display（表示）」ボタンを押すと、タッチスクリーンのテーマ（タイプ別装備）、明るさ、色合いに関連するオプションが表示されます。利用可能な設定は以下のとおりです。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Language（言語）	この設定では、Uconnect システムおよびインストルメント・パネル・ディスプレイの言語を変更します。選択可能な言語は英語と日本語です。
Display Mode（表示モード）	この設定では、明るさを手動で設定するか、システムが自動的に設定するかを設定します。「Auto（自動）」設定では、ディスプレイの明るさが自動的に調整されます。「Manual（手動）」設定では、ディスプレイの明るさを手動で調整することができます。
Night Time Display Brightness（画面の輝度：夜間モード）	この設定では、ヘッドライト点灯時のディスプレイの明るさを設定します。この設定にアクセスするには、ディスプレイ・モードを「Manual（手動）」に設定する必要があります。「+」設定で明るくなり、「-」設定で暗くなります。
Daytime Display Brightness（画面の輝度：昼間モード）	この設定では、ヘッドライト消灯時のディスプレイの明るさを設定します。この設定にアクセスするには、ディスプレイ・モードを「Manual（手動）」に設定する必要があります。「+」設定で明るくなり、「-」設定で暗くなります。

設定名	説明
Set Theme（テーマの設定）	この設定では、ディスプレイのテーマを変更することができます。
Units（単位）	この設定では、単位表示を変更することができます。使用可能なオプションは、「Speed（速度）」（mph または km/h）、「Distance（距離）」（mi または km）、「Fuel Consumption（燃料消費）」（MPG［米］、MPG［英］、L/100km、または km/L）、「Pressure（空気圧）」（psi、kPa、または bar）、「Temperature（温度）」（°C または° F）という測定単位です。
Theme Mode（テーマ・モード）	この設定を使用すると、特定のテーマの明るさを調節できます。設定オプションは「Light（明）」、「Dark（暗）」、「Auto（自動）」です。「Light（明）」または「Dark（暗）」を選択すると、テーマがそのように表示されます。「Auto（自動）」では、テーマはヘッドライトに応じて変化します。
Touchscreen Beep（タッチパネル操作音）	この設定では、タッチスクリーンのビープ音のオン／オフを行うことができます。
Navigation Turn-by-Turn Displayed In Cluster（ナビの経路指示をメーターに表示）	この設定では、インストルメント・パネル・ディスプレイにナビゲーションのメッセージが表示されます。
Show Main Category Bar Labels（カテゴリーバーラベル表示）	この設定では、メイン・カテゴリ・バー・ラベルの表示／非表示を選択することができます。

My Profile（個人設定）

タッチスクリーンの「My Profile（個人設定）」ボタンを押すと、車両のプロファイルに関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Language（言語）	この設定では、Uconnect システムおよびインストルメント・パネル・ディスプレイの言語を変更します。選択可能な言語は英語と日本語です。
Display Mode（表示モード）	この設定では、オーディオの表示を「Auto（自動）」または「Manual（手動）」に設定します。「Manual（手動）」にすると、オーディオ・ディスプレイの詳細なカスタマイズが可能です。
Night Time Display Brightness（画面の輝度：夜間モード）	この設定では、ヘッドライト点灯時のディスプレイの明るさを設定します。この設定にアクセスするには、ディスプレイ・モードを「Manual（手動）」に設定する必要があります。「+」設定で明るくなり、「-」設定で暗くなります。
Daytime Display Brightness（画面の輝度：昼間モード）	この設定では、ヘッドライト消灯時のディスプレイの明るさを設定します。この設定にアクセスするには、ディスプレイ・モードを「Manual（手動）」に設定する必要があります。「+」設定で明るくなり、「-」設定で暗くなります。
Set Theme（テーマの設定）	この設定では、ディスプレイのテーマを変更することができます。
Units（単位）	この設定では、単位表示を変更することができます。使用可能なオプションは、「Speed（速度）」（mph または km/h）、「Distance（距離）」（mi または km）、「Fuel Consumption（燃料消費）」（MPG［米］、MPG［英］、L/100km、または km/L）、「Pressure（空気圧）」（psi、kPa、または bar）、「Temperature（温度）」（°C または ° F）という測定単位です。
Touchscreen Beep（タッチパネル操作音）	この設定では、タッチスクリーンのビープ音のオン／オフを行うことができます。
Show Main Category Bar Labels（カテゴリーバーラベル表示）	この設定では、メイン・カテゴリ・バー・ラベルの表示／非表示を選択することができます。
Time Format（時刻表示形式）	この設定では、時刻の表示形式（AM/PM）を設定します。この設定を使用するには、「Sync Time With GPS（GPS 時刻と同期）」がオフになっている必要があります。「12 hrs（12 時間）」設定では、時刻は 12 時間形式に設定されます。「24 hrs（24 時間）」設定では、時刻は 24 時間形式に設定されます。

設定名	説明
Voice Options（音声オプション）	この設定では、オーディオ用の音声を「Male（男性）」または「Female（女性）」に変更できます。
Voice Barge-in（音声割込）	この設定では、音声の割り込みをオン／オフすることができます。
Show Command List（コマンド・リストを表示）	この設定では、コマンド・リストの表示／非表示を選択することができます。
App Drawer Favoriting Pop-ups（お気に入りアプリ登録時ポップアップ）	この設定では、「On／Off（オン／オフ）」オプションでアプリ・ドロワ・ポップアップのお気に入り追加を行うことができます。
App Drawer Unfavoritings Pop-ups（お気に入りアプリ削除時ポップアップ）	この設定では、「On／Off（オン／オフ）」オプションでアプリ・ドロワ・ポップアップのお気に入り解除を行うことができます。
New Text Message Pop-ups（新着テキスト・メッセージ・ポップアップ）	この設定では、新着テキスト・メッセージのポップアップ通知を設定することができます。この設定オプションは、「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Missed Calls Message（不在着信メッセージ）	この設定では、応答できなかった通話のポップアップ通知を設定することができます。この設定オプションは、「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Navigation Pop-Up（ナビゲーション・ポップアップ）	この設定では、ナビゲーションに関するポップアップ通知を設定することができます。この設定オプションは、「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Key Off Power Delay（キー・オフ時電源遮断遅延）	この設定により、エンジンをオフにした後に特定の電装品がそのまま動作するようになります。いずれかのドアを開けると、その電装品の動作は停止します。利用可能な設定値は「0 min（0 分）」と「20 min（20 分）」です。
Audio Settings（オーディオ設定）	この設定では、車両プロファイルに関するオーディオ設定を行うことができます。
Reset App Drawer To Default Order（アプリドロワーの配置をリセット）	この設定では、アプリ・ドロワを工場出荷時のレイアウトへリセットすることができます。
Restore Settings to Default（工場出荷時設定にリセット）	この機能を選択すると、これまで変更した設定が工場出荷時の設定に戻ります。

設定名	説明
More Profile Options（詳細なプロファイル・オプション）	この設定では、詳細なプロファイル・オプションにアクセスすることができます。

Safety/Driving Assistance（安全&ドライブ アシスト）

タッチスクリーンで「Safety/Driving Assistance（安全&ドライブアシスト）」ボタンを押すと、車両の安全設定に関連するオプションが表示されます。これらのオプションは、車両に装備されている機能によって異なります。設定は、リスト形式で表示される場合と、画面のサブフォルダ内に表示される場合とがあります。サブフォルダにアクセスするには、希望のフォルダを選択すると、画面にその機能に関連する利用可能なオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Forward Collision Warning（前面衝突警報）-「Automatic Emergency Braking（衝突被害軽減ブレーキ）」サブメニュー内	この設定では、「Forward Collision Warning (FCW)（前面衝突警報）」システムのオン／オフを行います。「Off（オフ）」に設定すると、FCW システムが停止します。「Warning Only（警告のみ）」に設定すると、衝突を検知するとチャイムだけが鳴ります。「Warning + Active Braking（警告+アクティブブレーキ）」の設定では、衝突を検知するとチャイムが鳴り、規定のブレーキ圧がかかります。
Forward Collision Warning Sensitivity（前面衝突の感度）-「Automatic Emergency Braking（衝突被害軽減ブレーキ）」サブメニュー内	この設定では、前面衝突警報（FCW）の鳴動する距離を変更します。「Medium（中間）」の設定では、物体が視野に入り、衝突の可能性があることを検知すると FCW システムが信号を送出します。「Near（近い）」の設定では、物体が車両に接近中であると FCW システムが信号を送出します。「Far（遠い）」設定では、物体が車両から離れた距離にある場合に FCW システムが信号を送出します。
Lane Management（レーン・マネジメント）-「Active Lane Management（アクティブ・レーン・マネジメント）」サブメニュー内	この設定では、車線逸脱が検知された場合に運転者に警告するシステムを作動させます。選択すると、ステアリング・アシストを使用できます。設定可能なオプションは「Vibration Only（振動のみ）」、「Steering Assist Only（ステアリング・アシストのみ）」、および「Vibration + Steering Assist（振動+ステアリング・アシスト）」です。

設定名	説明
Lane Warning（レーン警告）-「Active Lane Management（アクティブ・レーン・マネジメント）」サブメニュー内	この設定では、LaneSense 警告灯の警告の種類を設定します。設定可能なオプションは、「Early（短い）」、「Medium（中）」、「Late（長い）」です。
Vibration Strength（振動強度）-「Active Lane Management（アクティブ・レーン・マネジメント）」サブメニュー内	この設定では、ステアリング・ホイールの振動の強度を設定します。設定可能なオプションは、「Low（低）」、「Medium（中）」、「High（高）」です。
Steering Assist Strength（ステアリング・アシスト強度）-「Active Lane Management（アクティブ・レーン・マネジメント）」サブメニュー内	この設定では、車線逸脱が検知された場合にステアリング・ホイールを引く強度を設定します。設定可能なオプションは、「Low（低）」、「Medium（中）」、「High（高）」です。
LaneSense Warning（LaneSense 警告灯）-「LaneSense」サブメニュー内	この設定では、LaneSense の警告の種類を設定します。設定可能なオプションは、「Early（短い）」、「Medium（中）」、「Late（長い）」です。
LaneSense Strength（LaneSense 強度）-「LaneSense」サブメニュー内	この設定では、LaneSense システムの強度を設定します。設定可能なオプションは、「Low（低）」、「Medium（中）」、「High（高）」です。
ParkSense（パークセンス）	この設定では、近くに物体が検知されたときの ParkSense 警告の種類を変更します。「Sound Only（警告音のみ）」に設定すると、物体の検出時にチャイムが鳴ります。「Sound and Display（警告音と表示）」に設定すると、物体の検出時にチャイムが鳴ると同時に視覚表示が行われます。
Front ParkSense Volume（フロントパークセンス音量）	この設定では、フロント ParkSense システムの音量を調整します。設定は、「Low（低）」、「Medium（中間）」、「High（高）」の中から選択します。
Rear ParkSense Volume（リアパークセンス音量）	この設定では、リヤ ParkSense システムの音量を調整します。設定は、「Low（低）」、「Medium（中間）」、「High（高）」の中から選択します。
Blind Spot Alert（ブラインドスポットアラート）	この設定では、車両の死角において物体が検知された場合の警告の種類を変更します。「Off（オフ）」設定では、ブラインド・スポット・アラートがオフになります。「Lights（ライト）」設定では、ドア・ミラーのブラインド スポット・アラート・ライトが点灯します。「Lights & Chime（ライト+チャイム）」設定では、ドア・ミラーのライトとチャイムの両方が作動します。

設定名	説明
Traffic Sign Assist（トラフィック・サイン・アシスト）	この設定では、トラフィック・サイン・アシストのオン／オフを設定します。
Traffic Sign Assist Warning（トラフィック・サイン・アシスト警告）	この設定では、交通標識に関する警告の種類を設定できます。設定可能なオプションは、「Off（オフ）」、「Visual（視覚）」、「Visual + Chime（視覚とチャイム）」です。
New Speed Zone Indication（新速度域指示）	この設定では、特定の領域での速度制限の変化をシステムが警告するかどうかを設定できます。設定可能なオプションは、「Off（オフ）」、「Visual（視覚）」、「Visual + Chime（視覚とチャイム）」です。
Drowsy Driver Alert（運転者居眠り警告）	この設定では、運転者の運転傾向を監視し、運転者が眠気を感じている可能性を示す変化があれば、警告を発します。設定可能なオプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Side Distance Warning（側方距離警告）	この設定では、側方距離警告のオン／オフを行います。「Off（オフ）」に設定すると、システムが停止します。「On（オン）」に設定すると、チャイムが鳴ると同時に視覚表示が行われます。
Side Distance Warning Volume（側方距離警告音量）	この設定により、側方距離警告の音量を調節します。設定可能なオプションは、「Low（低）」、「Med（中）」、「High（高）」です。

Clock（時計）

タッチスクリーンの「Clock（時計）」ボタンを押すと、車両の内部時計に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Sync Time With GPS（GPS 時刻と同期）	この設定では、システム内の GPS 受信機に時刻を同期させます。システムは、GPS の位置情報により時刻を制御します。
Time Format（時刻表示形式）	この設定では、時刻の表示形式（AM/PM）を設定します。この設定を使用するには、「Sync Time With GPS（GPS 時刻と同期）」がオフになっている必要があります。「12 hrs（12 時間）」設定では、時刻は 12 時間形式に設定されます。「24 hrs（24 時間）」設定では、時刻は 24 時間形式に設定されます。
Set Time Hours（時間の設定）	この設定では、時間を設定します。この設定を使用するには、「Sync Time With GPS（GPS 時刻と同期）」がオフになっている必要があります。「+」設定では時間が増加します。「-」設定では時間が減少します。
Set Time Minutes（分の設定）	この設定では、分を設定します。この設定を使用するには、「Sync Time With GPS（GPS 時刻と同期）」がオフになっている必要があります。「+」設定では分が増加します。「-」設定では分が減少します。
Show Time in Status Bar（ステータスバーに時刻を表示）	この設定では、ラジオのステータス・バーに時刻を表示します。
Set Date（日付設定）	この設定では、日付を設定できます。
Show Time And Date During Off Screen（画面 OFF 中に日付と時刻を表示する）	この設定により、システムがオフのときでも Uconnect のタッチスクリーンに時刻と日付が表示されます。

Phone/Bluetooth®（電話/Bluetooth®）

タッチスクリーンの「Phone/Bluetooth®（電話／Bluetooth®）」ボタンを押すと、外部オーディオ機器またはスマートフォンからの Bluetooth®の接続性に関連するオプションが表示されます。このメニューからペアリングされたオーディオ機器やスマートフォンのリストにアクセスすることができます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Device Manager（ペアリング済みデバイスの管理）	この設定では、デバイス・マネージャ・タブが開きます。
Enable Two Active Phones（電話機 2 台の同時使用を有効にする）	この設定により、Uconnect システムで 2 台の電話をアクティブにすることができます。
Do Not Disturb（応答拒否）	この設定では、「Do Not Disturb（応答拒否）」設定メニューが開きます。設定は次のとおりです。「Auto Reply（自動応答）」（both, text, call（両方、テキスト、通話））、「Auto Reply Message（自動応答メッセージ）」（custom, default（カスタム、デフォルト））、および「Custom Auto Reply Message（カスタム自動応答メッセージ）」（create message（メッセージの作成））。

音声 - タイプ別装備

タッチスクリーンの「Voice（音声）」ボタンを押すと、車両の音声認識機能に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Wake Up Word（ウェイク・アップ・ワード）	この設定では、音声認識の「Wake Up（ウェイク・アップ）」ワードのオン／オフを行うことができます。「Wake Up（起動）」には「Hey Uconnect（ヘイユーコネクト）」と「Hey Jeep®（ヘイジープ）」があります。
Voice Options（音声オプション）	この設定では、オーディオ用の音声を「Male（男性）」または「Female（女性）」に変更できます。
Voice Barge-in（音声割込）	この設定では、音声認識の割り込み機能のオン／オフを行うことができます。

5

設定名	説明
Show Command List(コマンド・リストを表示)	この設定では、コマンド・リストをオンまたはオフにできます。「Always(常時)」の設定では、常時、コマンド・リストが表示されます。「With Help(ヘルプ付き)」の設定では、コマンド・リストが表示され、コマンドの機能についての簡単な説明が表示されます。「Never(なし)」の設定では、コマンド・リストがオフになります。

Navigation(ナビゲーション)

タッチスクリーンの「Navigation(ナビゲーション)」ボタンを押すと、車両の内蔵ナビゲーション・システムに関連するオプションが表示されます。この設定では、マップ上で表示するアイコン、「到着時間の計算」、ルートの種類を変更することができます。

ナビゲーションの詳細については、Uconnect ラジオ取扱説明書を参照してください。

Camera(カメラ)

タッチスクリーンの「Camera(カメラ)」ボタンを押すと、車両のカメラ機能に関連するオプションが表示されます。

メモ:
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
ParkView Backup Camera Delay(パークビューカメラ遅延)	この設定では、「R(リバース)」から他のギヤにシフトしたときに、ParkView リヤ・ビュー・カメラに遅延が加味されます。
ParkView Backup Camera Active Guide Lines(パークビューカメラアクティブガイドライン)	この設定では、アクティブ ParkView リヤ・ビュー・カメラ・ガイドラインのオン／オフを設定します。
Surround View Camera Delay(サラウンド・ビュー・カメラ遅延)	この設定では、「R(リバース)」から他のギヤにシフトしたときに、サラウンド・ビュー・カメラに遅延を追加します。

設定名	説明
Surround View Camera Guidelines（サラウンド・ビュー・カメラ・ガイドライン）	この設定では、サラウンド・ビュー・カメラ・ガイドラインのオン／オフを切り替えます。

Mirrors & Wipers（ミラー&ワイパー）

タッチスクリーンの「Mirrors & Wipers（ミラー&ワイパー）」ボタンを押すと、ミラーおよびワイパに関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Rain Sensing Auto Wipers（雨量感知オートワイパ）	この設定では、雨量感知式オートワイパのオン／オフを設定します。
Auto Folding Side Mirrors（ドア・ミラーの自動折りたたみ）	この設定では、車両の電源がオフになっているとき、ドアがロックされているとき、またはキー・フォブ・ボタンが押されたときに、サイド・ミラーを自動的に折りたたんだり広げたりします。設定可能なオプションは「On（オン）」と「Off（オフ）」です。

Lights（ライト）

タッチスクリーンの「Lights（ライト）」ボタンを押すと、車両の車外灯および車内灯に関連するオプションが表示されます。

メモ：
- 「Daytime Running Lights（デイタイム・ランニング・ランプ）」機能を選択すると、デイタイム・ランニング・ランプをオンまたはオフにできます。この機能は、車を購入した国の法規で認められている場合のみ使用できます。
- 車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Interior Ambient Lighting（車内のアンビエント・ライト）	この設定では、室内周囲照明の設定を調整できます。「+」または「-」を使用して、明るさを増減させます。
Headlight Sensitivity（ヘッドライトの感度）	この設定により、可視光の量によってヘッドライトの感度を設定できます。設定する感度が高いほど、周囲の明るさが少し暗くなっただけでライトが点灯するようになります（たとえば、日没時にレベル 3 を設定すると、レベル 1 や 2 の場合よりも早くヘッドライトが点灯します）。設定レベルには、「Level 1（レベル 1）：最低感度」、「Level 2（レベル 2）：中間感度」、「Level 3（レベル 3）：最高感度」があります。
Greeting Lights（グリーティング・ライト）	この設定では、グリーティング・ライトのオン／オフを設定します。
Cornering Lights（コーナリング・ライト）	この設定を選択しているときに、ステアリング・ホイールを大きく回転させたり方向指示器を点灯させたりすると、夜間の視界が改善されるように、該当する側のフォグ・ランプに内蔵されたライトが点灯します。
Flash Lights With Lock（ドアロック時にライト点滅）	この設定では、キー・フォブのロック・ボタンを押したときのライトの点滅をオンまたはオフにすることができます。
Headlight Off Delay（ヘッドライト遅延消灯）	この設定では、車両のエンジンを切った後、ヘッドライトが消灯するまでの時間を設定できます。設定は、「0 秒」、「30 秒」、「60 秒」、「90 秒」のいずれかを選択します。
Daytime Running Lights（デイタイム・ランニング・ランプ）	この設定では、デイタイム・ランニング・ランプのオン／オフを行います。
Auto High Beams（オート・ハイ・ビーム）	この設定では、Auto High Beams（オート・ハイ・ビーム）のオン／オフを行うことができます。

ブレーキ

タッチスクリーンの「Brakes（ブレーキ）」ボタンを押すと、次の設定を利用できます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Auto Park Brake（自動パーキング・ブレーキ）	この設定では、「Auto Park Brake（自動パーキング・ブレーキ）」のオン／オフを設定します。

Doors & Locks（ドア&ロック）

タッチスクリーンの「Doors & Locks（ドア&ロック）」ボタンを押すと、車両のドアのロック／ロック解除に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Auto Unlock On Exit（降車時に自動解錠）	この設定では、ドアのいずれかが内側から開かれたときにドアのロック解除が行われます。
Flash Lights With Lock（ドアロック時にライト点滅）	この設定では、キー・フォブのロック・ボタンを押したときのライトの点滅をオンまたはオフにすることができます。
Sound Horn With Lock（施錠時にホーンを鳴らす）	この設定では、キー・フォブの「Lock（ロック）」ボタンを押したときにホーンを鳴らすことができます。「Off（オフ）」の設定では、「Lock（ロック）」ボタンを押してもホーンは鳴りません。「1st Press（1 回押し）」の設定では、「Lock（ロック）」ボタンを 1 回押すと、ホーンが鳴ります。「2nd Press（2 回押し）」の設定では、「Lock（ロック）」ボタンを 2 回押すと、ホーンが鳴ります。

設定名	説明
Sound Horn With Remote Start（リモート始動でホーンを鳴らす）	この設定では、キー・フォブでリモート始動を起動したときにホーンを鳴らすことができます。
Remote Door Unlock, Door Lock/1st Press Of Key Fob Unlocks（リモート・ドア解錠、ドア・ロック／キーフォブの 1 回押しでロック解除）	この設定では、すべてのドアのロックを解除するのに必要なキー・フォブのロック解除ボタンを押す回数を変更します。「Driver Door（運転席ドア）」の設定では、「Unlock（ロック解除）」ボタンを 1 回押した場合、運転席ドアのロックのみが解除されます。「All Doors（すべてのドア）」の設定では、「Unlock（ロック解除）」ボタンを 1 回押すだけで、全てのドアのロックが解除されます。
Passive Entry（パッシブエントリー）	この設定では、「Passive Entry（パッシブエントリー）」機能（Keyless Enter-N-Go™）のオン／オフを設定します。
Personal Settings Linked To Key Fob（キー・フォブによる個人設定の呼び出し）	この設定により、キー・フォブにリンクされているプリセット・ラジオ局や運転席位置が呼び出されます。

設定名	説明
Hands-Free Power Liftgate（ハンズ・フリー・パワー・リフトゲート）	この設定では、ハンズ・フリー技術を使用して、パワー・リフトゲート開閉を自動的に行うことができます。選択可能なオプションは、「On（オン）」と「Off（オフ）」です。

Seats & Comfort（シート&コンフォート）

タッチスクリーンの「Seats & Comfort（シート&コンフォート）」ボタンを押すと、リモート始動起動時や車両始動時の車両のコン・フォート・システムに関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Auto-On Driver Heated/Ventilated Seat & Steering Wheel With Vehicle Start（自動 ON 設定／ベンチレーションおよびステアリング・ホイールのヒータの自動オン）	この設定では、車両のリモート始動時またはイグニッション始動時に、車両のコンフォート・システムとシート・ヒータ（タイプ別装備）またはヒーテッド・ステアリング・ホイール（タイプ別装備）が作動します。「Off（オフ）」設定では、コンフォート・システムは作動しません。「Remote Start（リモート始動）」設定では、リモート始動を使用している場合のみ、コンフォート・システムが作動します。「All Start（すべて始動）」設定では、車両始動時には常時、コンフォート・システムが作動します。

Key Off Options（キー OFF オプション）／ Engine Off Options（エンジン・オフのオプ ション）

タッチスクリーンの「Key Off Options/Engine Off Options（キー OFF オプション／エンジン・オフのオプション）」ボタンを押すと、システムにより車両停止に関連するオプションが表示されます。これらの設定は、イグニッションを「OFF（オフ）」に設定したときのみ有効になります。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Radio Off Delay（ラジオの停止遅延）	この設定により、エンジンをオフにした後にラジオがそのまま動作するようになります。いずれかのドアを開けると、その電装品の動作は停止します。利用可能な設定値は「0 min（0 分）」と「20 min（20 分）」です。
Radio Off With Door（ドアに連動してラジオをオフにする）	この設定により、ドアを開けるとラジオがオフになります。利用可能な設定値は「On（オン）」と「Off（オフ）」です。
Headlight Off Delay（ヘッドライト遅延消灯）	この設定により、車両をオフにした後にヘッドライトがそのままオンになっている時間を設定できます。「+」を押すと、時間が増えます。「-」を押すと、時間が減ります。

Audio（オーディオ）

タッチスクリーンの「Audio（オーディオ）」ボタンを押すと、車両のサウンド・システムに関連するオプションが表示されます。この設定を使用すると、車両内の音声の「Balance/Fade（バランス／フェード）」、「BASS（低音）」または「TREBLE（高音）」の調整、オーディオ装置またはスマートフォンの自動再生設定を変更することができます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Balance/Fade（バランス／フェード）	この設定では、車両のフロント／リヤおよび左右に配置されている特定のスピーカーからの音量を調整します。「Speaker（スピーカー）」アイコンを移動させると、バランス／フェードを調整することができます。
Equalizer（イコライザー）	この設定では、オーディオの「BASS（低音）」、「Mid（中音）」、または「TREBLE（高音）」を調整します。
Speed Adjusted Volume（速度による音量調整）	この設定では、車速が上がったときのオーディオ音量を調整します。設定を上げると、車速が上がったときの音量増加が大きくなります。利用可能な設定値は、「Off」、「1」、「2」、「3」です。
Surround Sound（サラウンド・サウンド）	この設定では、「Surround Sound（サラウンド・サウンド）」システムのオン／オフを行います。
AUX Volume Offset（AUX 音量調整）	この設定では、「AUX」ポートに接続した機器の音量を調整します。利用可能な設定値は、「+」と「-」です。
Auto Play（自動再生）	この設定では、接続した機器の音声が自動的に再生されます。
Auto On Radio（自動作動オーディオ）	この設定では、車両始動時にオーディオがオンになります。
Radio Off With Door（ドアに連動してラジオをオフにする）	この設定により、ドアを開けるとラジオがオフになります。利用可能な設定値は「On（オン）」と「Off（オフ）」です。

設定名	説明
Volume Adjustment（音量調節）	この設定では、さまざまなオーディオ・システムと接続したデバイスの音量を調節します。

Notifications（お知らせ）

タッチスクリーンの「Notifications（お知らせ）」ボタンを押すと、システムの通知機能に関連するオプションが表示されます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
App Drawer Favoriting Pop-ups（お気に入りアプリ登録時ポップアップ）	この設定では、「App Favorited（お気に入りに追加したアプリ）」のポップアップのオン／オフを行うことができます。
App Drawer Unfavoritings Pop-ups（お気に入りアプリ削除時ポップアップ）	この設定では、「App Unfavorited（お気に入りを解除したアプリ）」のポップアップのオン／オフを行うことができます。
New Text Message Popups（新着テキストメッセージポップアップ）	この設定では、接続したすべての電話の新着テキスト・メッセージについて、ポップアップの受信／保存のオン／オフを行うことができます。
Missed Calls Message（不在着信メッセージ）	この設定では、接続したすべての電話の応答できなかった通話について、ポップアップの受信／保存のオン／オフを行うことができます。
Notification Sounds（通知音）	この設定では、ポップアップ時の通知音をオンまたはオフにします。
Navigation Pop-Up（ナビゲーション・ポップアップ）	この設定では、予測型「Navigation（ナビゲーション）」のポップアップの受信／保存のオン／オフを行うことができます。

「Clear Personal Data/Restore Settings（個人データを消去／設定の復元）」

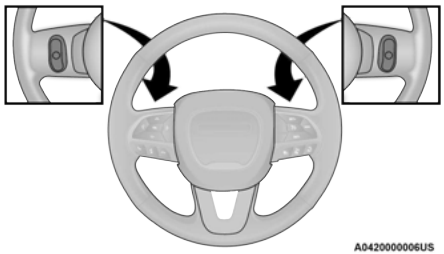
タッチスクリーンの「Clear Personal Data/Restore Settings（個人データを消去／設定の復元）」ボタンを押すと、Uconnect システムを工場出荷時の設定に復帰するオプションが表示されます。この設定により、個人データの消去や他のメニューにより選択した設定のリセットを行うことができます。

メモ：
車両オプションによって、機能設定が異なることがあります。

設定名	説明
Restore Settings（設定の復元）	この機能を選択すると、これまで変更した設定が工場出荷時の設定に戻ります。
Reset App Drawer（アプリ・ドロワのリセット）	この設定では、アプリ・ドロワを工場出荷時のレイアウトへリセットすることができます。
Clear Personal Data（個人データを消去）	この設定では、ポップアップが表示され、Bluetooth®機器やプリセットをなど、すべての個人データがシステムから消去されます。 **メモ：** この機能を実行するのに数分かかる場合があります。

ステアリング・ホイール・オーディオ・コントロール

Uconnect システムのリモート・スイッチは、ステアリング・ホイールの背面の 3 時と 9 時の位置にあります。



ステアリング・ホイール・オーディオ・コントロール

右側のロッカ・タイプ・スイッチの中央にはプッシュ・ボタンがあり、システムの音量とモードを制御できます。ロッカ・スイッチの上側を押すと音量が上がり、ロッカ・スイッチの下側を押すと音量が下がります。

右側コントロールの中央のボタンを押すと、利用可能なモードがプリセットに対応している場合、ラジオ・スイッチでさまざまなプリセット間を切り替えることができます。欧州および日本市場では、中央のボタンを押すとラジオの音がミュート（消音）されます。

左側のロッカ・タイプ・スイッチの中央にはプッシュ・ボタンがあります。左側スイッチの機能は、そのときのモードによって変わります。

以下に左側スイッチのモードごとの動作を説明します。

ラジオの操作

スイッチの上側を押すと、次に受信可能な周波数の高い放送局を探し、スイッチの下側を押すと、次に使用可能な周波数の低い放送局を探します。

左側スイッチの中央にあるボタンを使用すると、ラジオのモードがさまざまに切り替わります（AM/FM またはメディアなど）。

メディア・モード

スイッチの上側を 1 回押すと、選択したメディア（AUX/USB/Bluetooth®）の次のトラックを再生します。スイッチの下側を 1 回押すと、現在の曲の最初に戻るか、または現在の曲が始まってから 8 秒以内であれば前の曲の最初に戻ります。

ラジオ操作と携帯電話

特定の状況では、車両で携帯電話を使用すると、ラジオの受信が不規則になったり、ノイズが発生することがあります。これは、携帯電話の車内での位置を変えると、軽減されたり、解消される場合があります。この状態がラジオに支障をきたすことはありません。携帯電話の位置を変えても、ラジオの音が十分に改善されない場合、Uconnect システムを使用せずに携帯電話を使用する際には、ラジオの音量を下げるか、または電源を切ることをお勧めします。

安全について

安全装置

アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）

ABS は大抵の制動状態で、車両安定性と制動性能を向上させます。このシステムは、ホイールのロックを自動的に防ぎ、ブレーキ中でも車を制御しやすくします。

車両の始動および走行を行うごとに、システム自身がセルフチェックを行い、ABS が正しく作動しているか点検します。このセルフチェックが行われている最中は、モータ音とともに小さなカチッという音が聞こえることがあります。

ABS は、1 つ以上のホイールがロックし始めたことを検出すると、ブレーキ中に作動します。ABS が作動する可能性は、氷、雪、砂利、凹凸路、鉄道軌、岩屑などの路面状況や急制動を行うことにより高まります。

ABS が作動すると、次のようなことも発生する可能性がありますが、これは正常です。

- ABS のモータ音またはカチカチ音（停止後も若干作動し続けることがあります）
- ブレーキ・ペダルの脈動
- 停止する際のブレーキ・ペダル力のわずかな低下

ABS は、Original Equipment Manufacturer（OEM）のタイヤで作動するように設計されています。改造を行うと、ABS の性能が低下するおそれがあります。

警告!

- ABS には、不適切な取り付けや高出力の無線送信装置によって生じる干渉の影響を受けやすい、精密な電子機器が装備されています。この障害により、アンチロック・ブレーキ・システムの機能が損なわれることがあります。無線送信機などを取り付ける場合は専門家にご相談ください。
- アンチロック・ブレーキ・システムは、ブレーキ・ペダルをポンピングすると性能が低下し、衝突事故につながる恐れがあります。ブレーキ・ペダルのポンピングにより、停止するまでの距離が長くなります。車を減速または停止させるときには、ブレーキ・ペダルをしっかりと踏み込んでください。
- ABS は、物理的法則が車両に働くのを防いだり、車両のブレーキとタイヤまたはトラクションの状態で決まる性能以上にブレーキ性能やステアリング性能を高めることはできません。
- ABS は、カーブでの速度の出しすぎや、車間距離の詰めすぎ、ハイドロプレーニング現象などが原因の衝突事故は、防ぐことができません。
- 車両に搭載された ABS の機能を、むやみにまたは危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。

アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）警告灯

黄色の ABS 警告灯は、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにすると点灯し、約 4 秒後に消灯します。

運転中に ABS 警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯する場合、ブレーキ・システムの ABS 装置が機能しておらず、修理が必要です。しかし、ABS 警告灯が点灯していなければ、通常のブレーキ・システムはそのまま正常に作動します。

ABS 警告灯が点灯したときは、できるだけ早くブレーキ・システムの修理を行い、その機能が正常に作動するようにしてください。イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにしても ABS システム警告灯が点灯しない場合、できるだけ早く警告灯の修理を依頼してください。

リヤ・シート警告アラーム（RSRA）－タイプ別装備

RSRA は、リヤ・シートに物が置かれていたり、乗員やペットがいたりする可能性がある場合に、視覚と聴覚を通して警告を発します。システムが作動している場合、運転者が車両から降りるためにイグニッションを「OFF（オフ）」位置にしたときに、メッセージ「Check Rear Seat（リヤ・シートを点検してください）」がインストルメント・パネル・ディスプレイに表示され、警告音が鳴ります。このシステムは、イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」位置にしてから 10 分以内にリヤ・ドアが開いた場合に自動的に作動します。RSRA は、リヤ・シートを点検する際の

注意喚起として使用するためのもので、物体や同乗者、ペットを直接検知するものではなく、前述の条件が満たされた場合にのみ作動します。

警告!

- 車両から離れる前に、必ず完全に停車して、オートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」に入れ、パーキング・ブレーキをかけてください。
- 必ずキーレス・イグニッション・ノードを「OFF（オフ）」位置にし、キー・フォブを車両から取り出し、車両をロックしてください。
- お子さまだけを車内に残して車を離れないでください。またお子さまが、ロックされていない車に触れることのないようにしてください。お子さまを車内に残して車から離れることは、非常に危険です。お子さまだけでなく第三者にもけがを負わせる恐れがあります。お子さまがパーキング・ブレーキ、ブレーキ・ペダルまたはギヤ・セレクタに触れないように注意してください。
- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。

Drowsy Driver Detection (DDD)（運転者居眠り検知）—タイプ別装備

DDD は、運転者が疲労を検知感じたときにはそれを検知し、路肩に停止し、休憩を取るように警告します。

作動／停止するには

DDD は、以下の項目を順番に選択することで、Uconnect システムから起動／停止することができます。

1. 「Safety/Driving Assistance（セーフティ／ドライビング・アシスト）」
2. 「Drowsy Driver Detection（運転者居眠り検知）」

警告!

DDD システムは運転を支援するものであり、運転者が車両を運転する責任を軽減するものではありません。運転中に疲れを感じた場合は、DDD の警告を待たずに、安全な場所に車両を停めて休憩してください。ご自分や他の運転者を危険にさらさないようにするため、身体と精神状態が正常な状態になるまで、道路に戻らないでください。

System Warnings（システム警告）

DDD システムは、運転者と車両からの入力情報を基に運転者が眠くなっているかどうかを判定します。システムが運転者が眠くなっていることを検知すると、チャイムが鳴り、DDD の画像がインストルメント・パネルの画面に表示されます。

運転者がステアリング・ホイールの「OK」ボタンを押してシステムの発信する注意を**確認**すると、メッセージがディスプレイに表示されなくなります。

運転者がシステムの発信する警告を**確認しない**場合は、メッセージが画面に 1 分間表示されたままになります。

メモ：

- DDD システムの不具合の場合、黄色の記号と専用メッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。
- ABS が作動すると、「ABS ACTIVE（ABS 作動）」というメッセージが DDD 記号の場所に表示され、ABS の作動が解除されるまで表示されたままになります。



DDD の警告メッセージ

エレクトロニック・ブレーキ・コントロール（EBC）システム

車両には高度なエレクトロニック・ブレーキ・コントロール（EBC）システムが装備されています。このシステムには、アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）、ブレーキ・アシスト・システム（BAS）、電子ブレーキ・フォース・ディストリビューション（EBD）、エレクトロニック・ロール・ミティゲーション（ERM）、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）、ヒル・スタート・アシスト（HSA）、トラクション・コントロール・システム（TCS）が含まれます。これらのシステムは連動して、さまざまな運転状況での車両安定性やコントロールを向上させます。

この車両には、ダイナミック・ステアリング・トルク（DST）、ヒル・ディセント・コントロール（HDC）、レイン・ブレーキ・サポート（RBS）、レディ・アラート・ブレーキ（RAB）、トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC）も装備されていることがあります。

ブレーキ・アシスト・システム（BAS）- タイプ別装備

BAS は急ブレーキをかけた際に、車の制動力が最適な状態になるように設計されています。このシステムは、ブレーキ・ペダルの踏力と踏み込み量を感知して急ブレーキ状況を検出し、ブレーキに最適なプレッシャをかけます。これにより、制動距離の短縮が図られます。BAS は、アンチロック・ブレーキ・システム（ABS）を補完しています。勢いよくブレーキを踏むと、BAS 補助による最大の効果が得られます。システムの効果を得るには、停止時にポンピング・ブレーキをかけるのではなく、ブレーキを継続してかけ続けなければなりません。ブレーキが不要になるまでは、ブレーキ・ペダルにかけた力を弱めないでください。ブレーキ・ペダルをいったん放すと、BAS は解除されます。

警告!

ブレーキ・アシスト・システム（BAS）は、車両に働く物理的法則を回避したり、一般的な路面状態で発生するトラクションを向上させることはできません。BAS は、カーブでのスピードの出しすぎや、非常に滑りやすい路面での運転、ハイドロプレーニング現象などによる衝突事故を防止することはできません。BAS 搭載車両の機能を無謀または危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。

ブレーキ・システム 警告灯

赤色の「ブレーキ・システム警告灯」は、イグニッションを「ON/RUN」モードにすると点灯し、約 4 秒後に消灯します。

運転中にブレーキ・システム警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯する場合、ブレーキ・システムが適切に機能しておらず、直ちに修理が必要なことを示しています。イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにしてもブレーキ・システム警告灯が点灯しない場合、できるだけ早く警告灯の修理を依頼してください。

ダイナミック・ステアリング・トルク（DST）

DST は、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）モジュールと電動パワー・ステアリング（EPS）モジュール機能の 1 つで、ESC モジュールが車両の不安定な走行状況を検知すると、その走行状態に対しステアリング・ホイールにトルクをかけます。ステアリング・ホイールにかかるトルクは、運転者が車両安定性を確保し維持するために最適なステアリング操作を行うことを支援するだけのものです。この機能が作動したことを運転者が知るのは、ステアリング・ホイールにトルクがかかった場合のみです。

メモ：

DST 機能は、ステアリング・ホイールにわずかなトルクをかけることで、運転者が適切な操作を行うのを支援するためのものです。つまり、DST 機能の効果は、運転者の感性と、かかったトルクに対する全体的な反応に大きく依存します。重要なのは、車両の操舵はあくまで運転者が行うもので、この機能が行うものではないということです。

電子ブレーキ・フォース・ディストリビューション（EBD）

EBD は、リヤ・アクスルにかかるブレーキ圧を制限することによって、フロント・アクスルとリヤ・アクスルへ分配するブレーキ・トルクを制御します。これにより、リヤ・ホイールの空転が防止されて車両の安定性が保たれるほか、ABS がフロント・アクスルより先にリヤ・アクスルに作動することが防がれます。

エレクトロニック・ロール・ミティゲーション（ERM）

ERM は、運転者によるステアリング・ホイールからの入力と車速をモニタし、ホイール・リフトの可能性を早く発見します。ERM は、ステアリング・ホイール角の変化率と車速によってホイール・リフトが発生する可能性が大きいと判断すると、ホイール・リフトが発生する可能性を減らすために適切にブレーキをかけ、必要に応じてエンジン出力を下げます。ERM は、激しい運転操作や回避的な運転操作を行っている間に、ホイール・リフトの可能性を減らすことのみ可能です。路面状況、脱輪、物や他車との衝突など、他の要因によって発生するホイール・リフトを防止することはできません。

警告!

車両への積載状況、路面状況、運転状況などの多くの要因が、ホイール・リフトや横転の発生する可能性に影響します。ERM は、特に道路からの逸脱、物や他車との衝突などに関連する、すべてのホイール・リフトや横転を防止することはできません。車両に搭載された ERM の機能を無謀または危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。

緊急停止信号（ESS）– タイプ別装備

強いブレーキ圧がかけられると、ESS によりハザード警告灯が通常より速く点滅します。ESS は、速度が 50km/h（31mph）を超える場合のみ作動します。ESS は、他のライトと関係なく作動し、自動的にオン／オフになります。これにより、この車両が急停止していることを周囲に知らせます。

メモ：

- インストルメント・パネル内で 1 つの警告灯が点灯し、ESS 機能が作動したことを運転者に知らせます。
- トレーラけん引時には、ESS によりトレーラのリヤ表示灯も点灯されます。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）

ESC は、さまざまな運転状況における直進安定性や車両の安定性を高めます。ESC は、オーバーステアまたはアンダーステア状態に対応するために、適切なホイールにブレーキをかけ、車の以前の状態を補正します。さらに、目的の進行方向を維持するために、必要に応じてエンジン出力を下げます。

- オーバーステア – ステアリング・ホイールの位置に対して、車両が必要以上に曲がっていく状態。
- アンダーステア – ステアリング・ホイールの位置に対して、車が必要以上に曲がっていかない状態。

ESC では、車両のセンサを使用して、運転者が意図している進行方向を判断し、それを車の実際の進行方向と比較します。実際の進行方向が意図している進行方向と一致しない場合、ESC はアンダーステアまたはオーバーステア状態に対応するために、適切なホイールにブレーキをかけます。

ESC システムが作動すると、インストルメント・パネルに配置された「ESC 作動／エンジン警告灯」がすぐに点滅します。「ESC 作動／エンジン警告灯」は、TCS が作動したときも点滅します。加速時に「ESC 作動／故障表示灯」が点滅を始めたら、アクセル・ペダルの踏み込みを緩めて、できる限り軽く踏むようにしてください。走行速度や運転方法は、必ずその時点の路面状況に合わせるようにしてください。

警告!

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）は、車両に働く物理的法則を回避したり、一般的な路面状態で発生するトラクションを向上させることはできません。ESC は、カーブでのスピードの出しすぎや、非常に滑りやすい路面での運転、ハイドロプレーニング現象などによる事故を防止することはできません。また、ESC は、状況に不適切な操作を行ったために車両をコントロールできなくなり、それにより発生した事故を防止することもできません。安全を重視し、注意を怠らない、優れた運転技術を有する運転者だけが事故を防ぐことができます。車両に搭載された ESC の機能を、無謀または危険な方法で利用することは絶対にしないでください。運転者本人や第三者を危険にさらすことになります。
- 車両を改造したり、車両を正しくメンテナンスしなかったりすると、車両のハンドリング特性が変化し、ESC システムに悪影響を及ぼす場合があります。ステアリング・システム、サスペンション、ブレーキ・システム、タイヤ・タイプ／サイズ、またはホイール・サイズを変更すると、ESC の性能に悪影響を及ぼす場合があります。空気圧が間違っていたり、偏摩耗しているタイヤも ESC の性能を悪化させる場合があります。車両を改造したり、車両を正しくメンテナンスしなかったりすると、ESC システムの効果が減少し、車両のコントロール性の喪失、車両の横転、けが、死亡事故の危険が増大します。

ESC 作動モード

ESC システムは、モデルおよび作動モードに応じて、複数の作動モードを備えています。

ESC ON

これは、ESC システムの標準操作モードです。車を始動すると、ESC システムは必ずこのモードになります。通常の運転状況では、このモードを使用します。次の段落に記載する特定の理由がある場合のみ ESC モードの切り替えを行ってください。

パーシャル OFF

このモードは、車両がスタックしたときに有効な場合があります。このモードでは、TCS および ESC 作動のしきい値が上がり、通常許可されるより多くのホイールの空転を可能にします。

「パーシャル OFF」モードにするには、オーディオの下にある「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを一瞬の間押します。ESC OFF 表示灯が点灯します。ESC を再び ON にするには、「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを短く押します。「ESC OFF 表示灯」が消灯します。

メモ：

スノー・チェーンを装着して走行しているときや、深い雪や砂、砂利から動き出そうとするときは、ホイールがより多く空転できる方が望ましいことがあります。この状態にするには、「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを短く押して「Partial Off（パーシャル・オフ）」モードにします。ESC を「パーシャル OFF」モードに切り替える必要がなくなったら、「ESC OFF」ボタンを短く押して ESC を再び ON にします。この操作は、走行中に行うことができます。

警告!

- 「パーシャル OFF」モードでは、TCS のセクションに記載のリミテッド・スリップ機能を除き、ESC の TCS 機能は無効になり、「ESC OFF 表示灯」が点灯します。「パーシャル OFF」モードにすると、TCS のエン

(続き)

警告!

ジン出力減少機能が無効になり、ESC システムによる車両安定性向上機能が低下します。

- ESC システムが「パーシャル OFF」モードに入っているときは、トレーラ・スウェイ・コントロール（TSC）は無効になります。

フル OFF（4WD モデルのみ）

このモードは、幹線道路以外の道やオフ・ロードのトレール状態で ESC 安定性機能によって車両の操縦性に影響がある場合を想定しています。停車中でエンジンがかかっているときに、「ESC OFF」ボタンを 5 秒間押したままにすると、このモードに入ります。5 秒後、「ESC OFF 表示灯」が点灯し、「ESC OFF（ESC オフ）」メッセージがインストルメント・パネル・ディスプレイに表示されます。

このモードでは、TCS のセクションに記述されている「リミテッド・スリップ」機能を除いて、ESC および TCS は車速が 64km/h（40mph）に達するまで OFF になります。車速が 64km/h（40mph）に達すると、前述のような「Partial Off（パーシャル・オフ）」モードに戻ります。TCS はオフのままです。車速が 48km/h（30mph）未満になると、ESC システムは OFF になります。ESC はオフ・ロード走行を妨げないように車両が低速走行している場合は OFF になります。ただし、車速が 64km/h（40mph）を超えると、ESC 機能は車両を安定させるために再度作動します。「ESC OFF 表示灯」は ESC が OFF のときは常に点灯します。

ESC を再び ON にするには、「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを短く押します。これにより、「ESC ON」モードに戻ります。

「ESC OFF」ボタンは、のラジオ下のフェイスプレートにあります。

警告!

「フル OFF」モードの場合、エンジン・トルク軽減機能およびスタビリティ機能は無効になります。緊急回避操作において、ESC システムは安定性の維持を補助しません。「ESC OFF」モードは幹線道路以外の道またはオフ・ロードでのみ使用するためのものです。

ESC 作動／故障警告灯と ESC OFF 表示灯



インストルメント・パネル内の「ESC 作動／故障表示灯」は、イグニッションを ON モードにしたときに点灯します。この表示灯は、エンジンが始動すると消灯します。エンジンがかかっても「ESC 作動／エンジン警告灯」が点灯し続ける場合は、ESC システムに故障があることを意味します。イグニッション操作が数回行われ、48km/h（30mph）以上の速度で数キロ運転した後も警告灯が点灯し続ける場合、直ちに正規ディーラーで診断および修理を受けてください。

タイヤがトラクションを失い、ESC システムが作動すると、インストルメント・パネルに配置された「ESC 作動／エンジン警告灯」がすぐに点滅します。「ESC 作動／エンジン警告灯」は、TCS が作動したときも点滅します。加速時に「ESC 作動／故障表示灯」が点滅を始めたら、アクセル・ペダルの踏み込みを緩めて、できる限り軽く踏むようにしてください。走行速度や運転方法は、必ずその時点の路面状況に合わせるようにしてください。



「ESC OFF 表示灯」は、ユーザーがエレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）を低減モードにしたことを示します。

メモ：

- 「ESC 作動／エンジン警告灯」と「ESC OFF 表示灯」は、イグニッション・スイッチを「ON（オン）」にするたびに一時的に点灯します。
- イグニッション・スイッチを「ON（オン）」位置にするたびに、以前 OFF にしていた場合でも、ESC システムは ON になります。
- ESC システムの作動中は、ブンブンまたはカチッという音を発します。これは通常の状態であり、ESC を作動させた操作が終了して ESC が作動しなくなると、音はしなくなります。

ヒル・ディセント・コントロール（HDC）— タイプ別装備



HDC は、「4WD LOW」での低速のオフ・ロード走行専用です。HDC は、様々な走行状態で坂を下る場合に、必要に応じてブレーキをかけ、車速を維持します。HDC は、積極的にブレーキを制御することで、車速を制御します。

HDC には次の 3 つの状態があります。

1. オフ（機能は無効で作動しません）。
2. 有効（機能は有効で作動可能な状態ですが、作動条件が満たされていないか、運転者がブレーキやアクセルを能動的に操作しています）。
3. 作動中（機能は有効で、車速を能動的に制御しています）。

HDC を有効にする

HDC は、ギヤ・セレクタの前にある HDC ボタンを押すと有効になります。HDC を有効にするには、次の条件を満たさなければなりません。

- 駆動系が「4WD LOW」になっている。

- 車速が 12km/h（7.5mph）未満である。
- エレクトロニック・パーキング・ブレーキ（EPB）が解除されている。
- 運転席側のドアが閉まっている。

HDC を作動させる

HDC を有効にすると、約 8%を超える坂を下る場合、HDC は自動的に作動します。HDC の設定速度は運転者が選択します。HDC の設定速度はアクセルまたはブレーキを踏んで、設定値内で調整できます。

運転者によるオーバーライド

運転者は、アクセルやブレーキを操作して、いつでも HDC の作動速度をオーバーライドできます。

HDC を解除する

以下のいずれかの状況になったときは、HDC は解除されます。

- 12km/h（7.5mph）を超え、40km/h（25mph）を下回る速度で運転者が HDC の設定速度を無効にした場合。
- 車両が約 8%未満の勾配しかない下り坂にあるか、平坦な路面にあるか、上り坂にある場合。
- 車両のシフト・レバーが「P（パーキング）」に入った場合。

HDC を無効にする

次のいずれかの状況になった場合、HDC は解除され無効になります。

- 運転者が HDC スイッチを押した場合。
- 運転者が「4WD LOW」以外にシフトした場合。
- 運転席ドアが開いている場合。
- 車両が 40km/h（25mph）を超える速度で走行した場合（HDC は直ちに解除）。

運転者への通知:

インストルメント・パネルに HDC アイコンが表示され、HDC ボタンの LED が点灯し、HDC 状態になったことを運転者に知らせます。

- HDC が有効または作動しているときには、インストルメント・パネルのアイコンとスイッチの LED が点灯し続けます。これは、HDC の標準作動モードです。
- 有効となる条件が満たされていない状態で運転者が HDC スイッチを押した場合、スイッチの LED が数秒間点滅してから消灯します。

HDC スイッチは、ギヤ・セレクタ・ノブの下にあるセンタ・コンソールにあります。

警告!

HDC は、坂を下るときに車速をコントロールするための補助を意図したものです。運転者は、運転条件に常に注意を払い、安全な車速を維持しなければなりません。

ヒル・スタート・アシスト（HSA）

HSA は、坂道で車を完全停止状態から発進させるときに後退の発生を抑えるように設計されています。坂道で停止している場合、運転者がブレーキを放しても、HSA は短時間ブレーキ圧をかけ続けます。この時間が終了する前に運転者がスロットルをかけない場合、システムはブレーキ圧を解放し、車両は通常どおりに斜面を下ります。

HSA が作動するには、次の条件を満たさなければなりません。

- 機能が有効にされている。
- 車が停止している。
- パーキング・ブレーキがかかっていない。
- 運転席ドアが閉まっている。
- 車両が急な坂にある。
- 選択するギヤが、車両の上り方向に合致している（つまり、坂を上る場合は前進ギヤ、登り坂を背にしてバックする場合は「R（リバース）」ギヤ）。
- HSA は「R（リバース）」ギヤとすべての前進ギヤで作動します。トランスミッションが「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」位置にある場合は、このシステムは作動しません。マニュアル・トランスミッション装備車の場合、クラッチが踏まれていると HSA は作動したままになります。

警告!

勾配が緩やかな坂や、車に荷物を積んでいる場合や、トレーラけん引をしている場合は、ヒル・スタート・アシスト（HSA）が動作せず、少し車が下がる恐れがあります。HSA は、ドライバー自身による運転に代わるものではありません。車間距離、歩行者、対象物に注意し、なによりもあらゆる道路状況でブレーキを操作し安全に運転することは、運転者の責任です。安全運転を行うためには、常に十分な注意力が欠かせません。ここに示す警告に従わないと、衝突事故や重傷につながる恐れがあります。

6

HSA を無効または有効にする

この機能は ON にも OFF にもできます。インストルメント・パネル・ディスプレイから現在の設定を変更するには、⇨ ページ 60 で詳細を確認してください。

レイン・ブレーキ・サポート（RBS）

RBS は、濡れた路面でのブレーキ性能を向上させます。定期的に少量のブレーキ圧をかけて、フロント・ブレーキ・ロータに付いている水滴を取り除きます。フロントウィンドウ・ワイパが「LO」または「HI」速度の場合に機能します。レイン・ブレーキ・サポートの作動時に運転者に対する通知はありません。また、運転者による、レイン・ブレーキ・サポートを作動させるための操作は不要です。

レディ・アラート・ブレーキ（RAB）

RAB により、急ブレーキ時にフル・ブレーキになるまでの時間を短縮できます。運転者がどの程度速くスロットルを戻したかを監視して、急ブレーキをかける状況がいつ発生するかを事前に察知します。エレクトロニック・ブレーキ・コントローラ（EBC）が急制動に対してブレーキ・システムを準備します。

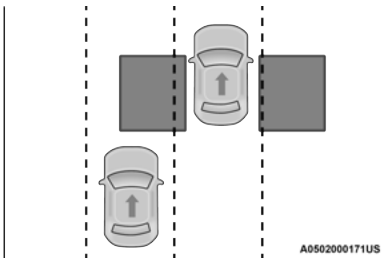
トラクション・コントロール・システム（TCS）

TCS は、各駆動輪のホイールの空転の量を監視します。ホイールの空転が検出されると、TCS が空転しているホイールにブレーキ圧をかけたり、車両の出力を低下させたりすることにより、加速性と安定性を向上させます。ブレーキ・リミテッド・ディファレンシャル（BLD）である TCS の機能は、リミテッド・スリップ・ディファレンシャルのように機能し、駆動アクスルでのホイールの空転を制御します。駆動アクスルの 1 つのホイールの回転がもう 1 つのホイールよりも高速である場合、回転しているホイールにブレーキがかけられます。これにより、車両のトルクが回転していないホイールにより大きくかかります。TCS や ESC が低減作動モードになっている場合でも、BLD は作動し続けます。

ドライビング・アシスト・システム

ブラインド・スポット・モニタ（BSM）- タイプ別装備

BSM は、リヤ・フェイシア／バンパの内側に取り付けられている 2 つのレーダー・センサを使用して、車両の後方／前方／側面の死角に入り込んだ高速道路を走行可能な車両（自動車、トラック、オートバイなど）を検知します。



後方検知ゾーン

車両を始動させると、左右のドア・ミラーの BSM 警告灯が一瞬点灯して、システムが作動していることを運転者に知らせます。BSM システムのセンサは、シフト・レバーが任意の前進ギヤに入っているときに作動し、「P（パーキング）」に入っているときにはスタンバイ・モードになります。

BSM 検知ゾーンは、車両の両側約 1 車線幅分で、3.8m（12 フィート）です。前後の長さはドア・ミラーの位置から車両のリヤ・バンパ後方約 3m（10 フィート）までです。BSM システムは、車速が約 10km/h（6mph）以上になると車両の左右の検知ゾーンを監視し、これらのゾーンに車両が存在している場合、そのことを運転者に警告します。

メモ：

- BSM システムは、検知ゾーン外の急速に接近している車両については警告しません。
- BSM システムの検知ゾーンは、トレーラをけん引している場合も同じです。このため、車線変更する前に、隣の車線に他の車両が存在しないことを目視確認し、車両とトレーラが安全に車線変更できることを確かめてください。トレーラまたはその他の物体（自転車やスポーツ用品など）が車両の左右からはみ出している場合、前進ギヤに入っている間は BSM 警告灯が点灯し続けます。誤検知回避のため、BSM システムを手動で解除しなければならない場合があります ⇨ ページ 136。
- オートバイや小型の物体が自車の横に長時間（数秒間以上）留まると、ブラインド・スポット・モニタ（BSM）システムが途中で機能しなくなり、ドア・ミラーの警告灯が点滅を繰り返すことがあります。

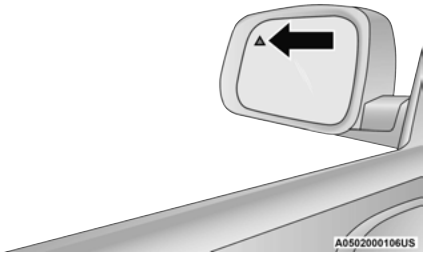
リヤ・フェイシア／バンパのレーダ・センサが取り付けられている部分に雪、氷、泥などの道路汚染物質がたまると、BSM システムが妨害されることがあります。また、砂漠などレーダーからの反射がきわめて少ない場所や、標高差の大きい道路を走行する場合にも障害を検知することがあります。障害を検知すると、「Blind Spot Temporarily Unavailable, Wipe Rear Corners（ブラインド・スポットが一時的に利用不可、リヤ・コーナーの拭き取り清掃を行ってください）」というメッセージがインストルメント・パネル内に表示され、左右のミラー警告灯が点灯し、

BSM と RCP の警告は発生しません。これは正常な動作です。そのような状態ではなくなると、機能が自動的に回復し、システムが復帰します。システムの妨害をできるだけ少なくするため、リヤ・フェイシア／バンパのレーダー・センサが取り付けられている部分を異物（バンパ・ステッカ、自転車用ラックなど）で覆わないようにし、道路汚染物質がない状態に維持してください。



レーダー・センサの位置（図は右側）

BSM システムは検知された物体に基づいて、左側または右側のドア・ミラーに視覚警報を発します。その後、運転者が方向指示器を作動させ、その方向が警告対象が存在する側と同じである場合は、チャイムが鳴ります。方向指示器を作動させたときに物体が検知され、それらが同じ側である場合は、視覚と音の両方による警告が発せられます。警報に加え、オーディオがオンになっている場合にはオーディオの音量もミュートされます。

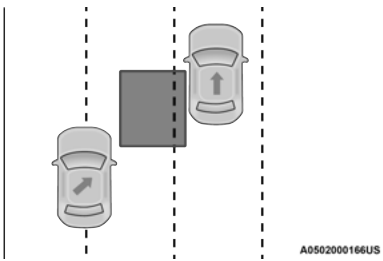


警告灯の位置

走行中、BSM システムは、3 つの方向（側方、後方、前方）からの進入に対して検知ゾーンを監視して、警告が必要かどうかを判断します。BSM システムは、次のようなゾーン侵入状況の時に警告を発します。

側方からの侵入

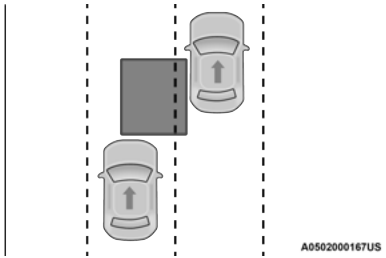
車両の左右の隣の車線に入ってくる車両。



側方監視

後方からの侵入

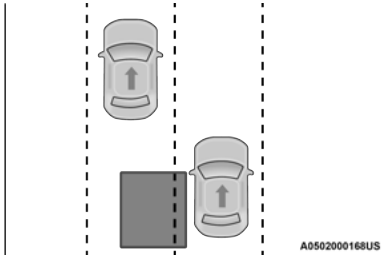
車両の左後方または右後方から近づき、相対速度 48km/h（30mph）未満で後方検知ゾーンに入ってくる車両。



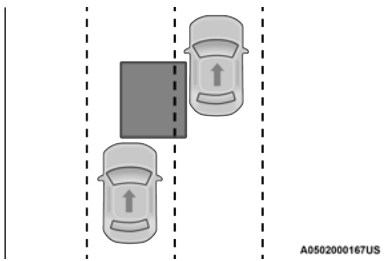
後方監視

追い抜き

自車が相対速度 16km/h（10mph）未満で別の車両をゆっくりと追い抜き、その車両が死角に 1.5 秒入っていた場合、警告灯が点灯します。速度差が 16km/h（10mph）以上の場合、警告灯は点灯しません。



追い抜き／接近



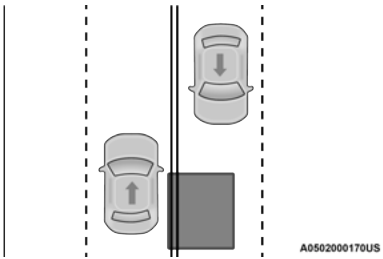
追い抜き／通過

BSM システムは、ガードレール、ポスト、壁、草木、土手などの静止物に対しては、警告を発しないように設計されています。ただし、まれにそのような物体に対して警告を発することもあります。これは正常な動作で整備の必要はありません。

BSM システムは、隣の車線を車両と反対方向に走行している物体に対しては警告を発しません。

メモ：

オートバイや小型の対象車が自車の B ピラーの位置に長時間（数秒間以上）留まると、BSM システムが途中で機能しなくなり、ドア・ミラーの LED アイコンが点滅を繰り返すことがあります。



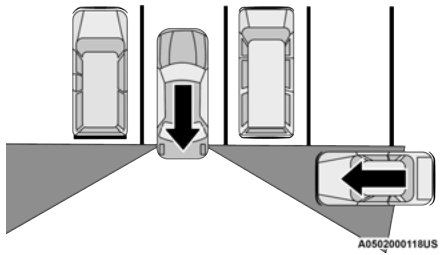
対向車

警告!

ブラインド・スポット（死角）モニタリング・システムは、死角ゾーンに存在する物体を検知しやすくするための補助機能です。BSM システムは、歩行者、自転車、または動物を検知するようには設計されていません。車両に BSM システムが装備されている場合でも、必ず車両のミラーを確認し、振り返って目視確認し、車線変更前に方向指示器を使用してください。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

リヤ・クロス・パス・ディテクション（RCP）

RCP 機能は、駐車スペースからバックで出るときに接近している車両が見えない場合に、運転者を補助することを目的としています。車両の後端が少し出るまで注意してゆっくりとバックします。これでリヤ・クロス・パス・ディテクションは接近している車両を検知でき、車両を検知した場合はそのことを運転者に警告します。



リヤ・クロス・パス・ディテクションの検知ゾーン

リヤ・クロス・パス・ディテクションは、車両の左右の後方検知ゾーンを監視し、側方から最低速度約 5km/h（3mph）、最大速度約 32km/h（20mph）で接近してくる物体を検知します。これは、駐車場での状況を想定したものです。

リヤ・クロス・パス・ディテクションがオンになっていて、シフト・レバーが「R（リバース）」に入っている場合、視覚と音による警告と、オーディオの音量低下によって運転者に警告を発します。

メモ：

駐車場では、左右に駐車している車両によって、接近している車両が遮られることがあります。センサが他の構造物や車両によって遮られた場合、システムは運転者に警告を発することはできません。

警告!

リヤ・クロス・パス・ディテクション（RCP）は、後退操作支援システムではありません。駐車場において、接近している車両を運転者が検知できるように補助することを目的としています。運転者は、RCP を使用している場合でも、バックの際に注意を怠らないでください。常に車両の後ろを注意深く確認し、自分の後方を見て、バックする前に歩行者、動物、他の車両、障害物、および死角を確認してください。これを怠ると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

ブラインド・スポット・モード

ブラインド・スポットには、Uconnect システムで利用できる 3 つの選択可能な動作モードがあります。

ブラインド・スポット・アラート警告灯のみ（工場出荷時の設定）

ブラインド・スポット・モニタが警告灯モードで作動している場合、BSM システムは検知された物体に基づいて、左側または右側のドア・ミラーに視覚警報を発します。ただし、システムがリヤ・クロス・パス・ディテクション・モードで動作している場合、物体が検知されると、システムは視覚と音の両方による警告を発します。警報が発せられる場合は、オーディオがミュート（無音）になります。

ブラインド・スポット・アラート警告灯／チャイム

ブラインド・スポット・モニタが警告灯／チャイム・モードで作動している場合、BSM システムは検知された物体に基づいて、左側または右側のドア・ミラーに視覚警報を発します。その後、運転者が方向指示器を作動させ、その方向が警告対象が存在する側と同じである場合は、チャイムが鳴ります。方向指示器を作動させたときに物体が検知され、それらが同じ側である場合は、視覚と音の両方による警告が発せられます。警報に加え、オーディオがオンになっている場合にはオーディオの音量もミュートされます。

メモ：

BSM システムによって警報が発せられる場合は、必ずオーディオの音量もミュートされます。

システムがリヤ・クロス・パス・ディテクションで作動している場合、物体が検知されると、システムは視覚と音の両方による警告を発します。音による警報が発せられる場合は、オーディオの音量が下がります。方向指示器／非常点滅灯の状態は無視されます。リヤ・クロス・パス・ディテクションの場合は、常にチャイムが鳴ります。

ブラインド・スポット・アラート・オフ

BSM システムがオフの場合、BSM システムまたはリヤ・クロス・パス・ディテクション・システムの視覚または聴覚による警報は発せられません。

メモ：

BSM システムは、イグニッション・スイッチを切ったときに現在の動作モードを保存します。車両を始動させるたびに、以前に保存されたモードが呼び出されて使用されます。

センサへの障害物の付着

システムが汚れや異物による性能の低下を検知すると、センサに障害物が付着していることを伝える警告メッセージが表示され、ドア・ミラーの警告灯が点灯します。この警告灯は、障害物が取り除かれたと認識されるまで点灯し続けます。まず、センサの周辺のフェイシア／バンパ・エリアから障害物を取り除きます。障害物を取り除いたら、イグニッションを「ON（オン）」から「OFF（オフ）」に回し、もう一度「ON（オン）」に戻してシステムをリセットします。

軽減動作を伴う前面衝突警報（FCW）- タイプ別装備

FCW は、前方衝突の可能性を検出した場合に、警告音と視覚的な警告（インストルメント・パネル・ディスプレイ内）を発し、またときには急ブレーキをかけて運転者に警告します。こうした警告および限定的なブレーキの目的は、運転者が衝突の可能性に対応し、回避し、軽減動作を行うための十分な時間が得られるようにすることです。

メモ：

FCW は、前方検知センサやエレクトロニック・ブレーキ・コントローラ（EBC）からの情報を監視して、前方衝突の可能性を計算します。前方衝突の可能性があるとシステムが判断すると、運転者に聴覚と視覚による警告が発せられ、さらに急ブレーキを行うべき警告が発せられる場合があります。

運転者がこうした段階的な警告に基づく対応を行わないと、次にシステムは限定的なレベルの自動ブレーキ作動で車両を減速させ、前方衝突の可能性に対して軽減動作を行います。運転者が警告に反応してブレーキを踏んでも、その制動力が衝突を回避するのに不十分であるとシステムが判断すると、システムは必要に応じて補正を行い制動力を増やします。

車速が 42km/h（26mph）未満で軽減操作を伴う前面衝突警報が開始した場合、前方衝突の可能性を軽減するために、システムが最大限のブレーキをかけることがあります。軽減動作を伴う前面衝突警報イベントにより車両が完全に停止すると、システムは 2 秒間車両を停止状態に維持し、その後でブレーキを解除します。



FCW メッセージ

前方車両と衝突する可能性がなくなったとシステムが判断すると、警告メッセージが表示されなくなります。

メモ：

- FCW の最低作動速度は 1 mph (2 km/h)です。
- コース予測に基づいて、ガードレールまたは道路標識などの車以外の物体に対して、FCW 警報が作動することがあります。これは予想範囲内の作動であり、正常な FCW の作動および機能の一部です。
- FCW システムのテストを行うのは危険です。こうしたシステムの誤用を防止するため、1 回のキー・サイクル内で 4 回の自動的なブレーキ動作が発生すると、FCW の自動ブレーキの作動は次のキー・サイクルまで無効化されます。
- FCW システムはオン・ロード専用です。車両がオフ・ロードを走行する場合、FCW システムを無効化して、不要な警告を防止する必要があります。

警告!

前方衝突警告（FCW）は、衝突を回避したり、あらゆる種類の衝突可能性を検知したりする機能ではありません。運転者は、ブレーキとステアリングによって車両をコントロールし、衝突を回避しなければなりません。ここに示す警告に従わないと、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

FCW の設定

FCW メニュー設定は Uconnect 設定にあります ⇨ ページ 136。

メモ：

FCW の初期設定のステータスは「Full On（フル ON）」になっています。この設定では、前方衝突のおそれがあるとシステムが警告を発し、自動的にブレーキをかけます。

FCW のステータスを「Warning Only（警告のみ）」に変更すると、前方衝突のおそれがあるときに運転者が十分にブレーキをかけない場合、システムは自動的にブレーキをかけなくなるか、補助のブレーキ・サポートを加えなくなります。

FCW のステータスを OFF にするとシステムの作動が解除されるので、衝突のおそれがあるときでも警告や自動ブレーキが一切行われなくなります。

メモ：

FCW システムのステータスは一度エンジンを切ると「Full On（フル ON）」に戻ります。つまり FCW システムを OFF にしても、エンジンを再始動すると「Full On（フル ON）」に再設定されます。

FCW の感度と動作ステータスの変更

FCW の感度および作動の設定は、Uconnect システムによりプログラムできます ⇨ ページ 136。

FCW の初期設定のステータスは「Medium（中間）」で、FCW は「Full On（フル ON）」に設定されています。こうすることで、警告音と警告表示を使用して前方車両との衝突のおそれをドライバーに警告し、自動ブレーキ作動を行います。

FCW のステータスを「Far（遠い）」設定に変更すると、「Medium（中間）」設定の距離よりも前方車両がより遠くにあるときでも、警告音と警告表示を使用して前方車両との衝突のおそれをドライバーに警告します。この設定では、運転者の反応時間を長く確保し、衝突の可能性を回避します。

メモ：

「Far（遠い）」設定では、FCW による衝突のおそれに対する警告の発生数が増加することがあります。

FCW ステータスを「Near（近い）」に変更すると、前方車両との車間距離が近くなった時点で、衝突のおそれについて警告します。この設定では、運転者の反応時間は「Far（遠い）」や「Medium（中間）」の場合よりも短くなり、よりダイナミックなドライビングが可能になります。

メモ：

「Near（近い）」設定では、FCW による衝突のおそれに対する警告の発生数が現象することがあります。

メモ：

- イグニッションを OFF にした場合、システムは運転者が前回選択した感度設定（「Near（近い）」、「Medium（中間）」、「Far（遠い）」）を維持します。車両を再始動すると、FCW「Full On（フル ON）」設定にリセットされます。

- FCW は、頭上の物体、地面の反射、車両の進路にない物体、遠方の静止物、対向車、同じ速度以上の速度で走行している前方車両など、無関係な物体には反応しない場合があります。
- FCW が無効の場合、利用不可能な画面が表示されます。

FCW 制限警告

インストルメント・パネル・ディスプレイに「ACC/FCW Limited Functionality（ACC/FCW の機能が制限されています）」または「ACC/FCW Limited Functionality Clean Front Windshield（ACC/FCW の機能が制限されているためフロントウィンドウの清掃が必要です）」と一時的に表示される場合は、FCW の機能が制限される状況が発生している恐れがあります。車両は通常の状態で走行することはできますが、自動ブレーキが十分に使用できない場合があります。システムの性能を制限する状況がなくなると、システムは完全に性能を発揮する状態に戻ります。問題が解決できない場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

FCW 整備警告

システムがオフになり、インストルメント・パネル・ディスプレイに「FCW Unavailable Service Required（FCW 利用不可能。整備が必要です）」と表示された場合、これはシステム内部に故障があることを示しています。通常の状態で走行することはできますが、正規ディーラーで点検を受けてください。

歩行者エマージェンシ・ブレーキ（PEB）- タイプ別装備

PEB は、FCW システムのサブシステムです。インストルメント・パネル・ディスプレイを介して聴覚的および視覚的に警告を運転者に与えます。歩行者／自転車との正面衝突の可能性を検知すると、自動ブレーキをかけることがあります。

PEB の作動が 60km/h（37mph）未満の速度で始まると、歩行者との衝突の可能性を軽減するためシステムはブレーキをかけることがあります。PEB の作動により車両が完全に停止すると、システムは 2 秒間車両を停止状態に維持し、その後でブレーキを解除します。前方の歩行者／自転車と衝突する可能性がなくなったとシステムが判断すると、警告メッセージは表示されなくなります。

PEB の最低作動速度は 3 mph (5 km/h)です。

警告!

歩行者エマージェンシ・ブレーキ（PEB）は衝突を回避するのではなく、PEB は歩行者とのあらゆる種類の衝突可能性を検知できるものではありません。運転者は、ブレーキとステアリングによって車両をコントロールし、衝突を回避しなければなりません。ここに示す警告に従わないと、大きなけがや死亡事故につながる恐れがあります。

メモ：

PEB の初期設定のステータスは「On（オン）」です。この設定では、歩行者／自転車との正面衝突の可能性について警告されます。

Tire Pressure Monitoring System（タイヤ空気圧モニタ・システム）（TPMS）

タイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）は、プラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧に基づいて、運転者にタイヤの空気圧が低くなっていることを警告します。

タイヤ空気圧は、外気温が 6.5°C（12°F）変わるごとに約 7kPa（1psi）変動します。つまり、外気温が下がると、タイヤ空気圧は低下します。タイヤ空気圧は、必ず冷間時のタイヤ空気圧に基づいて設定してください。冷間時のタイヤ空気圧とは、車両が 3 時間以上停車している状態のタイヤ空気圧、または 3 時間が経過した後で走行した距離が 1.6km（1 マイル）未満の空気圧を意味します。冷間時のタイヤ空気圧は、タイヤの側面に記載された最大空気圧を超えないようにしてください。また、タイヤ空気圧は車両走行中に上昇します。これは正常なので、上昇した空気圧を調整しないでください。

車のタイヤに適切に空気を入れる方法については、「タイヤ」を参照ください。

TPMS は、低温の影響や自然なタイヤ空気圧の損失など、何らかの理由でタイヤ空気圧が低タイヤ空気圧警告灯を下回る場合に、運転者にタイヤ空気圧が低くなっていることを警告します。そのような状況である限り、TPMS は運転者にタイヤ空気圧が低いことを警告し続けます。タイヤ空気圧がプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧以上になるまで、警告は OFF になりません。

メモ：

低タイヤ空気圧警告（TPMS 警告灯）が点灯したら、この TPMS 警告灯灯を消灯するためには、タイヤ空気圧をプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧まで上げる必要があります。

メモ：

暖まっているタイヤに空気を入れる場合、TPMS 警告灯を消灯するために、タイヤ空気圧をプラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧よりさらに最大 28kPa（4psi）上昇させる必要があります。

システムが自動的に更新され、更新されたタイヤ空気圧をシステムが受信すると、TPMS 警告灯が消灯します。TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h

(15mph)を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

たとえば、車両のプラカード記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧(3 時間以上停車)が 227kPa(33psi)であるとします。周囲温度が 20°C(68°F)で測定タイヤ空気圧が 193kPa(28psi)のとき、気温が-7°C(20°F)に下がると、タイヤ空気圧は約 165kPa(24psi)に低下します。このタイヤ空気圧は、TPMS 警告灯が点灯するのに十分低いです。車両を走行させると、タイヤ空気圧が約 193kPa (28psi)に上昇する場合がありますが、TPMS 警告灯はまだ点灯したままです。この状況で、TPMS 警告灯を消灯するには、車両のプラカードに記載の冷間時の推奨タイヤ空気圧の値までタイヤに空気を入れるしかありません。

注意!

- TPMS は、純正タイヤとホイール用に最適化されています。TPMS の空気圧と警告は、車両に取り付けられたタイヤ・サイズに対して設定されています。サイズ、タイプ、またはスタイル(あるいはそのすべて)が同じでない交換タイヤを使用すると、好ましくないシステム操作が発生したり、センサが損傷したりする場合があります。TPMS センサは、市販のホイールを使用するように設計されておらず、そうすることでシステム性能が全般に低下したり、センサが損傷する可能性があります。お客様は TPMS 機能が適切に作動するように必ず純正装着(OEM)を使用するようにしてください。
- 市販のタイヤ・シーラントを使用すると、タイヤ空気圧モニタ・システム(TPMS)のセンサが作動しなくなる場合があります。市販のタイヤ・シーラントの使用後は、お近くのジープ正規ディーラーに車両をお持ちいただき、センサ機能の点検を受けることをお勧めします。
- タイヤ空気圧を点検して調節したら、必ずバルブ・ステム・キャップを取り付けてください。このキャップは、水分や汚れのバルブ・ステムへの混入を防ぎます。水分や汚れが入ると、TPMS センサが損傷することがあります。

(続き)

メモ:

- TPMS は、タイヤの通常のお手入れおよびメンテナンスに代わるものではなく、タイヤの破損または状態を警告するためのものです。
- タイヤ空気圧の調節時に、TPMS をタイヤ空気圧ゲージとして使用しないでください。
- タイヤ空気圧が著しく低下している状態で走行すると、タイヤが過熱し、タイヤの不具合につながるおそれがあります。タイヤ空気圧が低いと燃費も低下し、タイヤ・トレッドの寿命も短くなります。さらに、車の操作や制動能力にも影響が出る可能性があります。
- TPMS は通常のタイヤのメンテナンスに代わるものではないことに注意してください。空気圧の低下が TPMS 警告灯が点灯するレベルに達していない場合でも、正確なタイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ空気圧を正しく保つのは運転者の責任です。
- 季節的な温度変化はタイヤ空気圧に影響を与えます。TPMS は実際のタイヤ空気圧を監視します。

プレミアム・システム

タイヤ空気圧モニタ・システム(TPMS)は、無線技術を使用して、ホイール・リムに装着された電子センサでタイヤ空気圧レベルを監視しています。バルブ・ステムの一部として各ホイールに取り付けられたセンサによって、タイヤ空気圧の値がレシーバ・モジュールに送信されます。

メモ:

月 1 回車両のすべてのタイヤの空気圧を確認して適正な空気圧に保つことは、特に重要です。

TPMS は、下記の部品で構成されます。

- レシーバ・モジュール
- 4 つのタイヤ空気圧モニタ・システム・センサ
- インストルメント・パネル・ディスプレイに表示される各種タイヤ空気圧モニタ・システムのメッセージ
- タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯

タイヤ空気圧モニタ・システム低圧警告



使用中のロード・タイヤ 4 本のうち 1 本以上のタイヤ空気圧が低下した場合に、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯がインストルメント・パネルで点灯し、チャイムが鳴ります。また、インストルメント・パネルに「Tire Low(タイヤ空気圧が低い)」メッセージと、低タイヤ圧の値が反転表示または異なる色になったタイヤごとの圧力値を示す図が表示されます。



タイヤ空気圧モニタ・システム低圧警告

この警告が発生した場合、できるだけ早く停止し、圧力が低いタイヤ（インストルメント・パネル・ディスプレイの図に反転表示または異なる色で示されているタイヤ）に、プラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧まで空気を入れます。更新したタイヤ空気圧が受信されると、システムが自動的に更新されます。インストルメント・パネルのグラフィック表示にある圧力値は反転表示でなくなるか元の色に戻り、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯は消灯します。

メモ：

暖まっているタイヤに空気を入れる場合、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯を消灯するために、タイヤ空気圧をプラカードに記載された冷間時の推奨タイヤ空気圧よりさらに最大 28kPa（4psi）上昇させる必要があります。

TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

TPMS 整備警告

システム故障が検知されると、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム警告灯が 75 秒間点滅し、その後点灯した状態になります。また、チャイムも鳴ります。さらに、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」というメッセージが 5 秒間以上表示され、空気圧値の代わりにダッシュ（- -）が表示され、どのセンサが受信していないか示します。

イグニッション・キーを回してこれが繰り返される場合、システム故障がまだ解消されていません。システム故障が解消されると、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム警告灯が点滅しなくなり、「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」メッセージが表示されなくなり、ダッシュの代わりに圧力値が表示されます。システムの故障は、以下のいずれかの場合に発生する可能性があります。

- 電子装置による妨害電波または TPMS センサと同じ周波数の電波を発生する施設付近を走行した場合
- 電波に影響を与えるアクセサリ部品のカー・フィルムを何らかの形で設置した場合。
- ホイールやホイール・ハウス周りに大量の雪や氷が付いた場合。
- タイヤ・チェーンを装着した場合。
- TPMS センサが装備されていないホイールまたはタイヤを使用している場合

コンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤを装着している車両

1. コンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤには、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム・センサはありません。そのため、TPMS では、コンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤの空気圧はモニタされません。
2. ロード・タイヤの代わりに、空気圧が低圧警告灯を下回るコンパクト・スペア・タイヤまたは不適合フル・サイズ・スペア・タイヤを装着している場合、次回イグニッション・キーを回したときにタイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム警告灯は点灯したままになり、チャイムが鳴ります。また、インストルメント・パネルの図には、圧力値が異なる色または反転表示で表示されます。
3. 24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間車両を走行させると、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム警告灯が 75 秒間点滅した後、点灯したままの状態になります。さらに、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」というメッセージが 5 秒間表示され、空気圧値の代わりにダッシュ（- -）が表示されます。
4. その後、イグニッション・キーを回すたびにチャイムが鳴り、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム警告灯が 75 秒間点滅した後に点灯したままになります。さらに、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」というメッセージが 5 秒間表示され、圧力値の代わりにダッシュ（- -）が表示されます。
5. 元のロード・タイヤを修理または交換し、コンパクト・スペア・タイヤの代わりに再度取り付けると、TPMS が自動的に更新されます。また、使用中のロード・タイヤ 4 本のいずれも低圧警告灯を下回っていなければ、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム警告灯が消灯し、インストルメント・パネルの図にダッシュ（- -）の代わりに新しい圧力値が表示されます。TPMS がこの情報を受信するには、車両を約 24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間走行させてください。

TPMS 作動解除 – タイプ別装備

冬用ホイールとタイヤ・アセンブリを車両に取り付けた場合など、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ（ロード・タイヤ）を TPMS センサを装備していないホイールとアセンブリに交換すると、TPMS を作動解除できます。

TPMS を作動解除するには、まず、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ（ロード・タイヤ）をタイヤ空気圧モニタ・システム（TPMS）センサを装備していないタイヤに交換します。次に、車両を 24km/h（15mph）を超える速度で 10 分間走行させます。TPMS のチャイムが鳴り、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が 75 秒間点滅した後、点灯したままの状態になります。インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」というメッセージが表示され、空気圧値の代わりにダッシュ（- -）が表示されます。

次回イグニッション・キーを回したとき、TPMS はチャイムを鳴らしたり、インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」というメッセージを表示したりすることはありませんが、空気圧値の代わりにダッシュ（- -）が表示されたままになります。

TPMS を再作動させるには、4 本すべてのホイールとタイヤ・アセンブリ（ロード・タイヤ）を TPMS センサを装備しているタイヤに交換します。次に、車両を 24km/h（15mph）を超える速度で最長 10 分間走行させます。TPMS のチャイムが鳴り、タイヤ空気圧モニタ・システム警告灯が 75 秒間点滅した後、消灯します。インストルメント・パネルに「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」というメッセージが表示され、ダッシュの代わりに空気圧値が表示されます。次にイグニッション・スイッチを回したときに、システム故障は存在しないため「SERVICE TPM SYSTEM（TPM システムの整備が必要です）」というメッセージは表示されません。

乗員保護拘束装置

最も重要な安全装置の 1 つに乗員を拘束するシートベルトとエアバッグがあります。

乗員保護拘束装置の機能

- シートベルト・システム
- 補助拘束装置（SRS）エアバッグ
- チャイルド・シート

このセクションで説明されている一部の安全機能は、一部のモデルでは標準装備されていますが、オプション装備のモデルもあります。標準装備されているか不確かな場合は、ジープ正規ディーラーでご確認ください。

安全に関する重要な注意事項

このセクションの説明は特に注意してお読みください。運転者と乗員の安全を守るためのシートベルト／エアバッグ・システムの正しい使用方法を説明しています。

次の要領で、エアバッグの作動により生じる危険を最小限にとどめてください。

1. 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。



助手席サンバイザに貼付されている警告ラベル

2. 車両のシートベルトを適切に着用できるほど大きくないお子さまは、適切なチャイルド・シート、またはリヤ・シート位置のブースタ・シートを使用する必要があります ⇨ ページ 188。
3. やむをえず 2～12 歳のお子さまを（後ろ向きチャイルド・シートを使用せずに）助手席に座らせる場合には、シートをできるだけ後ろに移動させ、フロント・シートでの使用に適したチャイルド・シートを使用してください ⇨ ページ 188。
4. 肩部分のベルトをお子さまの背後や腕の下に絶対に通さないでください。
5. チャイルド・シートやジュニア・シートを適切に使用するため、添付されている製造メーカの説明書をお読みください。

6. 乗員は、必ず全員 3 点式シートベルトを正しく着用してください。
7. 運転席および助手席は、フロント・エアバッグが膨張するスペースを確保するために、運転に差し支えない程度に、できるだけ後方に移動させてください。
8. ドアまたはウインドウに寄りかからないでください。サイド・エアバッグ装備車の場合、その展開時には、乗員とドアの間のスペースでサイド・エアバッグが強い力で膨らみます。これにより乗員が負傷することがあります。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。

シートベルト・システム

運転に自信がある方も、短い距離を走行する場合も、シートベルトを使用してください。未熟なドライバーの起こした事故に巻き込まれることもあります。事故は、近距離、長距離にかかわらず発生する可能性があります。

交通事故の調査によって、シートベルトが衝突時に人命を救い、事故による傷害の程度を軽減していることがわかっています。車外へ投げ出されてしまうような事故では、重傷を負う可能性が高くなります。シートベルトはこうした車外への投げ出しから乗員を守り、車内での打撲傷の危険を低減します。車内のすべての乗員が常にシートベルトを使用していることを確認してください。

シートベルト非着用高度警告システム

フロント／リヤ・シート BeltAlert - タイプ別装備

フロント・シート BeltAlert



BeltAlert は、運転者と助手席ドア側の乗員にシートベルトの着用を警告する機能です。シートベルト警告機能は、イグニッション・スイッチが「START」位置または「ON/RUN」位置になっているときに作動します。

初期通知

イグニッション・スイッチを最初に「START（始動）」位置または「ON/RUN（オン／走行）」位置にしたときに運転者がシートベルトを着用していない場合、チャイムが数秒間鳴ります。イグニッション・スイッチを最初に「START」位置または「ON/RUN」位置にしたときに運転者または助手席の乗員がシートベルトを着用していない場合、各シートベルト警告灯が赤色で点灯し、シートベルトが着用されるまで赤色のままで点灯し続けます。それぞれのシートベルト警告灯は、それぞれのシートベルトがバックルに差し込まれると、緑色に変わります。運転者または助手席乗員がシートベルトを着用すると、すべてのシートベルト警告灯が消灯します。助手席に乗員がいない場合、助手席シートベルト警告は作動しません。

BeltAlert 警告シーケンス

車両の走行速度が規定の車速範囲を超えた状態で運転者または助手席乗員がシートベルトを外すと、シートベルト警告作動が開始します（助手席乗員のシートベルト警告は、助手席に乗員がいない場合は作動しません）。各シートベルト警告灯の点滅と断続的なチャイムによるシートベルト警告作動が開始します。シートベルト警告作動が完了すると、シートベルト警告灯が赤色で点灯し、運転者または助手席乗員がシートベルトを着用するまで消灯しません。シートベルト警告の警告作動は、運転者または助手席に着座している乗員のシートベルトのバックルが差し込まれるまで、車速に応じて繰り返し作動することがあります。運転者はすべての乗員にシートベルトを着用するよう指示してください。

着用状態の変化

車両走行中に運転者または助手席乗員がシートベルトを外した場合、シートベルトのバックルが再度差し込まれるまでシートベルト警告作動が行われます。

助手席に乗員がいない場合、助手席シートベルト警告は作動しません。シートベルト警告は、ペットまたはその他の物体を助手席に載せた場合や、シートを折りたたんだ場合（タイプ別装備）に作動することがあります。ペットは、ペット・ハーネスでリヤ・シート（タイプ別装備）に拘束するか、ペット・キャリヤに入れシートベルトで固定することをお勧めします。また、荷物は正しく収納してください。

リヤ・シート BeltAlert

リヤ・シートベルト警告は、リヤ・シートのシートベルトのバックルが差し込まれているか、外れているかを運転者に伝えます。イグニッション・スイッチが「START」または

「ON/RUN」位置のとき、各リヤ・シートの位置に対応するシートベルト警告灯が点灯します。シートベルトがバックルに差し込まれると、その座席のシートベルト警告灯が緑色に点灯します。シートベルトのバックルが外されると、その座席のシートベルト警告灯が赤色に点灯します。走行し始めたときに差し込まれていた後部座席のシートベルトのバックルが外されると、チャイムが 1 回鳴り、その座席に対応するシートベルト警告灯の表示が緑色の点灯から赤色の点滅に変わります。これにより、後部座席のシートベルトのバックルが再び差し込まれるまで車両を停止するよう、運転者に警告します。運転者または助手席乗員がシートベルトを着用すると、すべてのシートベルト警告灯が消灯します。

ラップ／ショルダ・ベルト

すべてのフロントおよびリア・シートには 3 点式シートベルトが装備されています。

シートベルト・ウェビングのリトラクタがロックされるのは、急停止や衝撃を受けたときのみです。通常の状態では、肩部分のシートベルトは、自由に引き出すことができます。しかし衝突時にはシートベルトがロックし、車内で衝突したり車外に投げ出されたりする危険を低減します。

警告!

- エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。エアバッグは、シートベルトと共に使用したときに初めて効果をもたらします。エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。エアバッグが装備されていても、必ずシートベルトを使用してください。
- シートベルトを正しく使用していないと、衝突の際に運転者および乗員が重傷を負う恐れがあります。

(続き)

警告!

事故の状況によっては、車内各部や他の乗員にぶつかったり、車外に放り出されることも考えられます。運転者やすべての乗員が、シートベルトを正しく使用していることを常に確認してください。

- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。運転者を含む乗員は、エアバッグの有無に関わらず、常にシートベルトを着用し、衝突した場合に重傷を負う、あるいは死亡する危険性を最小限にする必要があります。
- シートベルトの着用が適切でないと、衝突の際に大けがをする恐れがあります。内臓に傷害を受けたり、体がシートベルトからすり抜けてしまうことがあります。安全にシートベルトを使用し、乗員の安全を守るためにも、ここでの説明に従ってください。
- 1 本のシートベルトを 2 人で使用しないでください。1 本のベルトを 2 人で使用すると、衝突の際お互いにぶつかり合い、双方とも重傷を負うことがあります。3 点式シートベルトまたはラップ・ベルトは、体の大きさに関係なく、必ず 1 人でご使用ください。

警告!

- 腰を通るベルトの位置が高すぎると、衝突の際にけがをする危険性が高くなります。シートベルトの衝撃を丈夫な腰と骨盤ではなく、腹部で受けることになります。シートベルトはできるだけ低い位置に、ぴったりと着用してください。
- シートベルトがねじれていると乗員が正しく保護されないことがあります。衝突の際などベルトが体に食い込むことがあります。シートベルトがねじれておらず、体に対して平らになっていることを確認してください。シートベルトのねじれが直らない場合は、直ちにジープ正規ディーラーで修理を受けてください。
- シートベルトを間違ったバックルに留めると、体が正しく保護されません。腰を通るベルトが高くなり、内臓に傷害を与える恐れがあります。シートベルトは、正しいバックルに差し込んでください。
- シートベルトが緩すぎると正しく保護されません。突然の停止時に体が大きく前方に移動して、けがをする恐れが高くなります。シートベルトは、体に密着するように使用してください。
- 脇の下でシートベルトを使用するのは危険です。衝突の際に体が車内で叩き付けられ、頭部や首にけがをする危険性が高くなります。また、脇の下に通したシートベルトによって内臓に傷害を負う恐れもあります。肋骨は、肩の骨ほど強くありません。衝突の力を最も強い肩の骨で受け止めるように、シートベルトは肩の上を通してください。
- 肩を通るベルト部分を体の後ろにまわすと、衝突の際にけがから身を守ることができません。肩を通るベルトを使用していない場合、衝突の際に頭部を

(続き)

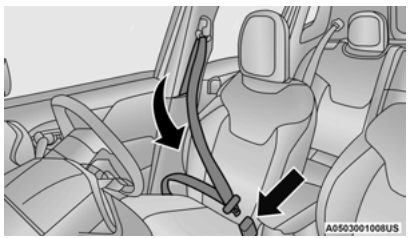
警告!

打ちつける危険が高くなります。3 点式シートベルトは、必ず腰回りと肩にかけて使用してください。

- 磨耗したり、切れかかったりしているシートベルトは衝突の際に破断し、乗員を保護できません。シートベルトは定期的に点検し、切れや磨耗、緩んだ部品などがないことを確認してください。損傷している部品は、直ちに交換してください。シートベルト・システムを分解したり、改造したりしないでください。車両が衝突事故に遭った場合、またはシートベルトやリトラクタの状態に疑問がある場合は、ジープ正規ディーラーで車両の検査を受けてください。

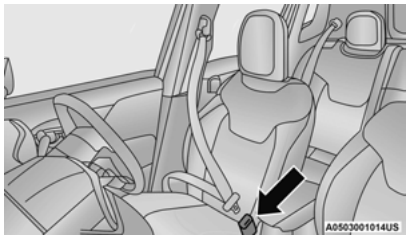
ラップ／ショルダ・ベルトの使い方

1. 車に乗って、ドアを閉めます。シートに深く座り、シートの位置を調節します。
2. シートベルト・ラッチ・プレートは、フロント・シートの背もたれの側方上部、およびリヤ・シートの横にあります。ラッチ・プレートを持ち、シートベルトを引き出します。シートベルトが腰を覆うのに十分なだけラッチ・プレートをシートベルト上でスライドさせます。



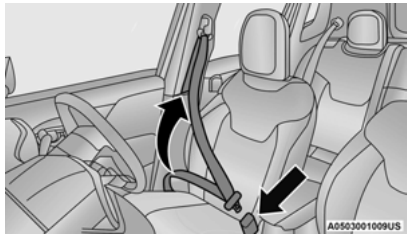
ラッチ・プレートの引き出し

3. シートベルトの長さが十分になったら、ラッチ・プレートをカチッという音がするまでバックルに差し込みます。



バックルへのラッチ・プレートの差し込み

4. ラップ・ベルトを、腹部の下の腰の低い位置に密着するように使用します。ラップ・ベルトの緩みをなくすには、ショルダ・ベルトを少し引き上げます。ラップ・ベルトがきつすぎるときに緩めるには、ラッチ・プレートを傾けてラップ・ベルトを引っ張ります。シートベルトをぴったりと使用することにより、衝突の際に体がシートベルトをすり抜けてしまう危険性が低くなります。



ラップ・ベルトの位置調整

5. 肩を通るベルトは肩と胸のまわりの隙間が最小限になるように使用してください。緩みは苦しくない程度にし、首にかからないようにします。リトラクタが肩を通るベルトの余分な緩みを巻き取ります。
6. シートベルトを外すには、バックルの赤いボタンを押します。シートベルトは、自動的に収納位置に引き込まれます。シートベルトが完全に戻らない場合は、ラッチ・プレートを一度下に引いてから放すときれいにベルトが巻き取られます。

ラップ／ショルダ・ベルトのねじれ修正手順

次の手順に従って、3 点式シートベルトのねじれを修正します。

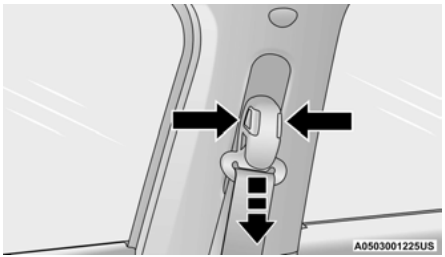
1. ラッチ・プレートをできるだけアンカ・ポイントの近くへ移動させます。
2. ラッチ・プレートから約 6～12 インチ (15～30 cm) 上を持ち、シートベルト・ウェビングを 180 度ねじってラッチ・プレートのすぐ上に折り目を付けます。
3. ラッチ・プレートを上方へスライドさせ、ベルトの折れた部分を通過させます。ベルトの折れた部分は、ラ

ッチ・プレートの上端部にあるスロットに入らなければいけません。

4. ラッチ・プレートを、ベルトの折れた部分が通過し、シートベルトにねじれがなくなるまでスライドさせてください。

アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカ

運転席シートおよび助手席シートのショルダ・ベルトでは、その上部を上下に調節することによって、首から離れた位置でシートベルトを着用することができます。アンカ・ボタンを押すか強く握ってアンカを緩め、次にアンカを上下に動かして最適な位置に調節します。



アジャスタブル・アンカ

目安として、平均よりも身長が低い場合はショルダ・ベルト・アンカを低めに、身長が高い場合は高めに調節することをお勧めします。アンカ・ボタンを緩めた後は、アンカを上下方向に軽く引っ張り、固定されていることを確認してください。

メモ：
アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカには、イージー・アップ機能が備わっています。この機能により、リリース・ボタンを押したり強く握ったりしなくても、ショルダ・ベルト・アンカを上の位置に調整できます。ショルダ・ベルト・アンカが固定されているかを確認するには、ロックされる位置までベルト・アンカを下方向に引っ張ります。

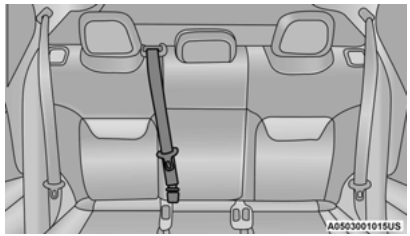
警告!

- シートベルトの着用が適切でないと、衝突の際に大けがをする恐れがあります。内臓に傷害を受けたり、体がシートベルトからすり抜けてしまうことがあります。安全にシートベルトを使用し、乗員の安全を守るためにも、ここでの説明に従ってください。
- 肩を通るベルトは肩と胸のまわりの隙間が最小限になるように使用してください。緩みは苦しくない程度にし、首にかからないようにします。リトラクタが肩を通るベルトの余分な緩みを巻き取ります。
- シートベルトを正しく着用しないと、衝突時の安全ベルトの有効性を損ないます。
- 必ず車両が停止しているときに、シートベルトの高さを調整してください。

2 列目中央シート・ベルトの操作方法

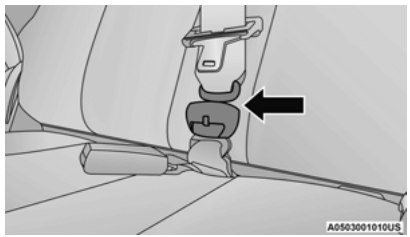
2 列目中央シート・シートベルトには、ミニ・ラッチ・プレートとバックルの付いたシートベルトが使われていることがあります。ミニ・ラッチ・プレートとバックルが装備されている場合、常につないだままにしておく必要があります。ミニ・ラッチ・プレートがバックルから外れている場合は、乗員がリヤ中央シートベルトを使用する前に適切につなぎ直してください。

1. ミニ・ラッチ・プレートを掴み、シートベルトをシートの上に引き出します。



ラッチ・プレートの引き出し

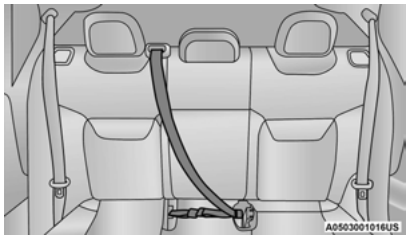
2. シートベルトの長さが十分になったら、ミニ・ラッチ・プレートをカチッという音がするまでミニ・バックルに差し込みます。



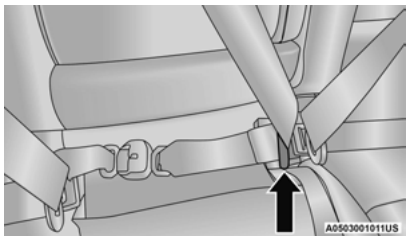
ミニ・ラッチ・プレートをミニ・バックルに差し込む

3. シートに深く座ります。シートベルトが腰を覆うのに十分なだけラッチ・プレートをベルト上でスライドさせます。

4. シートベルトの長さが十分になったら、ラッチ・プレートをカチッという音がするまでバックルに差し込みます。



バックルへのラッチ・プレートの差し込み



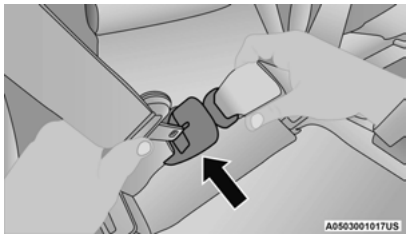
バックルへのラッチ・プレートの差し込み

5. ラップ・ベルトを、腹部の下の腰の低い位置に密着するように使用します。ラップ・ベルトの緩みをなくすには、ショルダ・ベルトを少し引き上げます。ラップ・ベルトがきつすぎるときに緩めるには、ラップ・ベルトを引っ張ります。シートベルトをぴったりと使用することにより、衝突の際に体がシートベルトをすり抜けてしまう危険性が低くなります。

6. ショルダ・ベルトは首にかからないように、胸部の苦しくならない位置に使用します。リトラクタがシートベルトの余分な緩みを巻き取ります。

7. シートベルトを外すには、バックルの赤いボタンを押します。

8. ミニ・バックルからミニ・ラッチ・プレートを外すには、標準ラッチ・プレートをミニ・バックルの中央の赤いスロットに差し込みます。



シートベルトの凸部を使ってミニ・バックルを外す

警告!

- 乗員がシートベルトを使用する際にミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを正しく留めなかった場合、シートベルトによる適切な拘束力を得ることができず、衝突時に負傷する危険性が高まります。
- ミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを留め直す場合は、ベルト・ウェビングがねじれていないことを確認してください。ベルトがねじれている場合は、前述の手順に従ってミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを外して、ベルトのねじれを修正し、ミニ・ラッチ・プレートとミニ・バックルを留め直してください。

妊娠中の方のシートベルト着用



妊娠中の方のシートベルト着用

妊娠中の方を含め、シートベルトはすべての乗員が着用するようにしてください。万が一事故に遭った場合でも、シートベルトを着用することによって母親と胎児への負傷の可能性が低減されます。

ラップ・ベルトは、下腹部に密着させ、強固な腰骨部に当たるように着用してください。ショルダ・ベルトは、胸部を横切るように、首から離して着用してください。ショルダ・ベルトは、絶対に背中の後ろに回したり、腕の下に通したりしないでください。

シートベルト・プリテンショナ

フロントシートのシートベルト・システムにはプリテンショナ装置が装備されており、衝突時にシートベルトのたるみを取り除くように設計されています。この装置は、衝突時に早めにシートベルトのたるみを取り除くことによってシートベルトの性能を向上させます。プリテンショナは、チャイルド・シートに座っているお子さまを含むあらゆる体形の人に対して有効です。

メモ：
これらの装置は、乗員による正しいシートベルトの使用に代わるものではありません。シートベルトは、必ず正しい位置で体に密着させて使用してください。

プリテンショナは、乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）により作動します。エアバッグ同様、プリテンショナは 1 回の使い切り部品です。作動したプリテンショナまたはエアバッグは、すぐに交換する必要があります。

衝突エネルギー低減機能

フロントシートのシートベルト・システムには衝突エネルギー低減機能があり、衝突時にけがをする危険性をさらに低減させるのに役立ちます。シートベルト・システムはリトラクタ・アセンブリを備えており、ベルトを緩める力を制御するように設計されています。

補助拘束装置（SRS）

このセクションで説明されている一部の安全機能は、一部のモデルでは標準装備されていますが、オプション装備のモデルもあります。標準装備されているか不確かな場合は、ジープ正規ディーラーでご確認ください。

エアバッグ・システムは衝突時に乗員を保護します。乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）は、エアバッグ・システムの電気構成部品に関係する内部回路と相互接続配線を監視します。お客様の車両には、以下のエアバッグ・システム構成部品が装備されている場合があります。

エアバッグ・システムの構成部品

- 乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）
- エアバッグ警告灯
- ステアリング・ホイールおよびコラム
- インストルメント・パネル
- ニー・インパクト・ボルスタ - タイプ別装備
- 運転席および助手席エアバッグ
- シートベルト・バックル・スイッチ
- サプリメンタル・サイド・エアバッグ
- 正面および側面衝突センサ
- シートベルト・プリテンショナ
- シート・レール位置センサ

エアバッグ警告灯



乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）は、イグニッション・スイッチが「START（始動）」位置または「ON/RUN（オン／走行）」位置になっているときに、エアバッグ・システムの電子部品の作動可能状態をモニタします。イグニッション・スイッチが「OFF」位置のときは、エアバッグ・システムは作動せず、膨らみません。

ORC に内蔵されたバックアップ電源供給システムにより、バッテリが上がったり、エアバッグの展開前に切り離されたりした場合でも、エアバッグ・システムを展開させることが可能です。

ORC は、イグニッション・スイッチが最初に「ON/RUN（オン／走行）」位置になったときに、約 4～8 秒間インストルメント・パネルのエアバッグ警告灯を点灯させて自己点検を行います。自己点検後、エアバッグ警告灯は消灯します。ORC がシステム内のどこかに不具合を検知すると、エアバッグ警告灯は瞬間的または継続的に点灯します。最初の始動後に警告灯が再度点灯した場合は、チャイムを 1 回鳴らして警告を発します。

ORC には診断機能も備わっており、エアバッグ・システムに影響を与える可能性のある不具合が検出された場合はインストルメント・パネル内のエアバッグ警告灯が点灯します。この診断機能は、不具合の性質の記録も行います。エアバッグ・システムはメンテナンス・フリーですが、次のような場合には直ちにジープ正規ディーラーにて点検を受けてください。

- イグニッション・スイッチが最初に「ON/RUN（オン／走行）」位置になったときに、エアバッグ警告灯が 4～8 秒間点灯しない場合
- イグニッションを「ON」位置にした後 4～8 秒経ってもエアバッグ警告灯が点灯したままの場合
- 運転中、エアバッグ警告灯が断続的に点滅または点灯する場合

メモ：
スピードメータやタコメータなどエンジン関連の計器が機能しない場合、乗員保護拘束装置コントローラ（ORC）も無効になっていることがあります。その場合、エアバッグが作動せず、衝突時に乗員が守られない危険があります。直ちにジープ正規ディーラーでエアバッグ・システムを適切に整備してください。

警告!
インストルメント・パネルのエアバッグ警告灯が点灯していると、衝突時にエアバッグ・システムによる保護が得られない場合があります。イグニッション・スイッチを最初に ON にしたときに、警告灯が点灯（電球点検のため）しなかったり、車両始動後も点灯し続けたり、運転中に点灯したときには、直ちにジープ正規ディーラーでエアバッグ・システムの点検を受けてください。

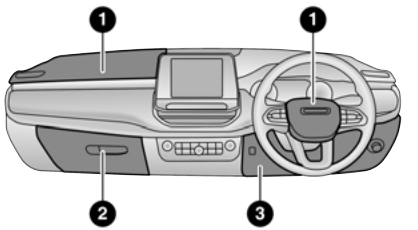
エアバッグ予備警告灯



エアバッグ警告灯に異常が検知され、それが補助拘束装置(SRS)に影響を与える可能性があると、インストルメント・パネルのエアバッグ予備警告灯が点灯します。エアバッグ予備警告灯は、異常が解消されるまで点灯し続けます。さらに、エアバッグ予備警告灯が点灯し、異常が検知されていることを運転者に警告するチャイムが 1 回鳴ります。走行中、エアバッグ予備警告灯が断続的に点灯または点灯し続ける場合は、直ちに正規ディーラーで車両の整備を受けてください ⇨ ページ 59。

フロント・エアバッグ

この車両には、運転席および助手席の両方にフロント・エアバッグとラップ／ショルダ・ベルトが装備されています。フロント・エアバッグは、拘束装置であるシートベルトを補助するものです。運転席のフロント・エアバッグは、ステアリング・ホイールの中心に内蔵されています。助手席のフロント・エアバッグは、グローブ・ボックスの上のインストルメント・パネルに内蔵されています。「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」という文字がエアバッグ・カバーの上に浮き彫り加工されています。



フロント・エアバッグ／ニー・ボルスタの位置

1 - 運転席および助手席のフロント・エアバッグ
2 - 助手席ニー・インパクト・ボルスタ(タイプ別装備)
3 - 運転席ニー・インパクト・ボルスタ(タイプ別装備)

警告!

- ステアリング・ホイールやインストルメント・パネルに接近し過ぎると、フロント・エアバッグが展開した際に重傷または死亡事故につながるおそれがあります。エアバッグが膨らむには、ある程度の空間が必要です。ステアリング・ホイールやインストルメント・パネルに向かってゆったりと腕を伸ばせるくらいに深く座ってください。
- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。

(続き)

警告!

- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。

運転席および助手席のフロント・エアバッグ機能

運転席および助手席フロント・エアバッグ・システムでは、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)が正面衝突センサ(タイプ別装備)または他のシステム構成部品から情報を受信して、衝突の程度と種類に応じて展開するよう設計されています。

警告!

- インストルメント・パネルまたはステアリング・ホイールのエアバッグ・カバーの上または近くに物を置かないでください。衝突時にエアバッグが膨張した際に、これらの物によってけがをする恐れがあります。
- エアバッグ・カバーの周辺やその上に物を置かないでください。またエアバッグ・カバーを手で開けないでください。エアバッグを傷つけるだけでなく、万一

(続き)

警告!

の際に機能せず負傷する恐れがあります。エアバッグ・クッションの保護用カバーは、エアバッグが作動した場合のみ開く設計になっています。

- エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。エアバッグは、シートベルトと共に使用したときに初めて効果をもたらします。エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。エアバッグが装備されていても、必ずシートベルトを使用してください。

フロント・エアバッグの作動

フロント・エアバッグは、シートベルトを補助することにより、保護効果を高めるように設計されています。フロント・エアバッグでは、後面衝突、側面衝突、または横転の際の負傷の危険性を減らす効果は期待できません。フロント・エアバッグは、すべての正面衝突で作動するわけではありません。このような衝突には、ポールとの衝突、トラックへのもぐりこみ、斜めオフセット衝突など、車両にかなりの損傷が生じる衝突などがあります。

その一方で、衝撃の種類と位置によっては、車両前部の損傷が軽微でも初期減速度が著しい衝突においては、フロント・エアバッグが作動することもあります。

エアバッグ・センサは時間に対する車両の減速度を計測するため、車速および損傷だけで、エアバッグ展開の要否を判断することはできません。

シートベルトは、あらゆる衝突で乗員を保護するためだけでなく、膨張するエアバッグから離れた位置に乗員を保持するためにも必要です。

乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)がフロント・エアバッグの作動に必要な衝撃を検知すると、インフレータ・ユニットに信号を送ります。フロント・エアバッグは、大量の無害なガスにより膨張します。

エアバッグが完全に膨張すると、ステアリング・ホイール・ハブのトリム・カバーとインストルメント・パネルの助手席側上部が外れて分離します。フロント・エアバッグは、まばたきよりも短時間で完全に膨らみます。膨張したフロント・エアバッグは、運転者と助手席の乗員を受け止めた後、直ちに収縮します。

助手席側エアバッグ無効機能 – タイプ別装備

フロント・シートにチャイルド・シートを取り付けなければ**ならない**場合、このシステムでは助手席側フロント・エアバッグを無効(OFF)にできます。助手席側フロント・エアバッグを無効(OFF)にするのは、どうしてもフロント・シートにチャイルド・シートを取り付けなければならない場合のみにしてください。12 歳以下のお子さまは、できるだけリヤ・シートでシートベルトを正しく使用させるようにしてください。衝突事故の統計によると、お子さまはフロント・シートよりもリヤ・シートでチャイルド・シートに座らせたほうが、より安全であることが確認されています ⇨ ページ 188。

警告!

- 「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」では、助手席側フロント・エアバッグは作動解除され、衝突時に展開しません。
- 「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」では助手席側フロント・エアバッグは、シートベルトを補助することで助手席の保護効果を高めることはしません。

(続き)

警告!

- センタ・スタックの助手席側エアバッグ「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」表示灯 OFF が点灯し、助手席側フロント・エアバッグが「DISABLED (OFF)(無効(オフ))」であることを示していない限り、フロント・シートにチャイルド・シートを装着しないでください。
- シートベルトを正しく使用していないと、衝突の際に運転者および乗員が重傷を負う恐れがあります。事故の状況によっては、車内各部や他の乗員にぶつかったり、車外に放り出されることも考えられます。運転者やすべての乗員が、シートベルトを正しく使用していることを常に確認してください。

助手席側フロント・エアバッグは、インストルメント・パネル・ディスプレイ・メニューの該当する設定を選択することによって、有効(ON)または無効(OFF)にできます。インストルメント・パネル・ディスプレイへのアクセス方法の詳細については、⇨ ページ 59 を参照してください。

助手席側エアバッグ無効機能には、以下のものが含まれます。

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
- OFF 助手席側エアバッグ無効(OFF)表示灯 - センタ・スタックにある黄色の表示灯
- ON 助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯 - センタ・スタックにある黄色の表示灯
- エアバッグ警告灯 - インストルメント・パネル・ディスプレイにある黄色の警告灯

乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、イグニッション・スイッチが「START(始動)」位置または「ON/RUN(オン／走行)」位置になっているときに、エアバッグ・システムの電子部品の作動可能状態をモニタします。ORC は、

イグニッション・スイッチを最初に「START（始動）」または「ON/RUN（オン／走行）」位置にしたとき、センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯と助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯を約 5～8 秒間点灯させ、自己点検を行います。自己点検が終わると表示灯が点灯し、助手席側フロント・エアバッグの状態を運転者と助手席乗員に伝えます。次のような場合、直ちに正規ディーラーでエアバッグ・システムを適切に整備してください。

- イグニッションを最初に「START（始動）」または「ON/RUN（オン／走行）」位置にしたとき、どちらの表示灯も自己点検のために点灯しない。
- 車両を始動した後、両方の表示灯が点灯し続ける。
- 車両を始動した後、両方の表示灯が消灯し続ける。
- 走行中に両方の表示灯が点灯する。
- 走行中に両方の表示灯が消灯する。

自己点検が終了すると、どちらかの助手席側エアバッグ表示灯のみが点灯します。

警告!

助手席側エアバッグ表示灯に問題があることを示す上記のいずれかの状況が発生している場合、助手席側高度フロント・エアバッグは最後に選択されていた状態（無効または有効）のままになります。

助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯

助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯（センタ・スタックにある黄色の表示灯）は、助手席側フロント・エアバッグが解除されていることを運転者と助手席乗員に伝えます。センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯が点灯している場合、衝突時に助手席側フロント・エアバッグが展開しないことを示しています。センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯が点灯していない場合は、助手席側フロント・エアバッグが無効であると**思わない**でください。

助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯

助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯（センタ・スタックにある黄色の表示灯）は、助手席側フロント・エアバッグが作動可能な状態であることを運転者と助手席乗員に伝えます。センタ・スタックの助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯が点灯している場合、エアバッグの展開を要する衝撃が発生すると助手席側フロント・エアバッグが展開することを示しています。センタ・スタックの助手席側エアバッグ有効（ON）表示灯が点灯していない場合は、助手席側フロント・エアバッグが有効であると**思わない**でください。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。

（続き）

警告!

- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。
- 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。

助手席側フロント・エアバッグを無効（OFF）にする

助手席側フロント・エアバッグを無効（OFF）にするには、ステアリング・ホイールの上下矢印ボタンを押して、インストルメント・パネルにあるインストルメント・パネル・ディスプレイのメイン・メニューにアクセスし、以下の作業を行います。

アクション	情報
「Vehicle Set-Up（車両設定）」まで上下にスクロールします	

アクション	情報
車両のステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Vehicle Settings（車両設定）」を開きます	
ステアリング・ホイールの矢印ボタンを使って上下にスクロールし、「Security（セキュリティ）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Security（セキュリティ）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG（助手席側エアバッグ）」を選択します	
「Passenger AIRBAG OFF（助手席側エアバッグ OFF）」（ OFF）まで上下にスクロールします	**メモ：** 以前に助手席側フロント・エアバッグを有効（ON）にしていた場合は初期設定で「ON（オン）」になるため、下にスクロールして「OFF（オフ）」を選択する必要があります。
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG OFF（助手席側エアバッグ OFF）」（ OFF）を選択します	
上下にスクロールして、確定するために「YES（はい）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「YES（はい）」を選択します	**メモ：** この操作を 1 分以内に行わないと、この選択内容が無効になり、手順を最初から繰り返さなければならなくなります。
	チャイムが 1 回鳴り、助手席側エアバッグ無効（OFF） 表示灯が 4～5 秒間点灯し、助手席側フロント・エアバッグが無効になったことを通知します。 助手席側エアバッグ無効（OFF） 表示灯はセンタ・スタック内で常時点灯し続け、助手席側フロント・エアバッグが無効（OFF）になっていることを運転者と助手席乗員に伝えます。

上記の表の作業に従うことで、助手席側フロント・エアバッグが無効（OFF）になります。センタ・スタックの助手席側エアバッグ無効（OFF）表示灯 が点灯している場合、衝突時に助手席側フロント・エアバッグが展開しないことを示しています。

助手席側フロント・エアバッグを有効（ON）にする

ステアリング・ホイールの上下矢印ボタンを押して、インストルメント・パネルにあるインストルメント・パネル・ディスプレイのメイン・メニューにアクセスし、以下の作業を行ないます。

アクション	情報
「Vehicle Set-Up（車両設定）」まで上下にスクロールします	
車両のステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Vehicle Settings（車両設定）」を開きます	
ステアリング・ホイールの矢印ボタンを使って上下にスクロールし、「Security（セキュリティ）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Security（セキュリティ）」を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG（助手席側エアバッグ）」を選択します	
「Passenger AIRBAG ON（助手席側エアバッグ ON）」（ = ON）まで上下にスクロールします	**メモ：** 以前に助手席側フロント・エアバッグを無効（OFF）にしていた場合は初期設定で「OFF（オフ）」になるので、下にスクロールして「ON（オン）」を選択する必要があります。
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Passenger AIRBAG ON（助手席側エアバッグ ON）」（ ON）を選択します	
ステアリング・ホイールの OK ボタンを押して、「Yes（はい）」を選択します	**メモ：** この操作を 1 分以内に行わないと、この選択内容が無効になり、手順を最初から繰り返さなければならなくなります。

アクション	情報
	チャイムが 1 回鳴り、助手席側エアバッグ有効(ON) 表示灯が 4～5 秒間点灯し、助手席側フロント・エアバッグが有効になったことを通知します。 助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯 はセンタ・スタック内で常時点灯し続け、助手席側フロント・エアバッグが有効(ON)になっていることを運転者と助手席乗員に伝えます。

上記の表の作業に従うことで、助手席側フロント・エアバッグが有効(ON)になります。センタ・スタックの助手席側エアバッグ有効(ON)表示灯 が点灯している場合、エアバッグの展開を要する衝撃が発生すると助手席側フロント・エアバッグが展開することを示しています。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。

(続き)

警告!

- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。
- 12 歳以下のお子さまには必ずシートベルトを着用させ、リヤ・シート付き車両のリヤ・シートに乗車させてください。

ニー・インパクト・ボルスタ

ニー・インパクト・ボルスタは、運転者と助手席乗員の膝を保護するとともに、フロント・エアバッグの効果を高める姿勢に保ちます。

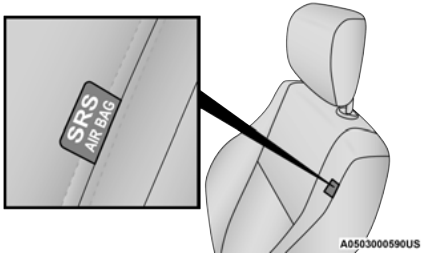
警告!

- ニー・インパクト・ボルスタにドリルで穴を開けたり、切断したり、改造したりすることは絶対にしないでください。
- ニー・インパクト・ボルスタに警告灯やステレオ、CB 無線などのアクセサリ類を取り付けないでください。

Supplemental Seat-Mounted Side Air Bags(サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ)(SAB) - タイプ別装備

この車両には、モデルによってサプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ(SAB)が装備されています。サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ(SAB)が装備されている場合、以下の情報を参照してください。

サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ(SAB)はフロント・シートのドア側に内蔵されています。SAB が装備されている場合、シートのドア側のラベルまたはシート・トリムに、「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」というマークが縫い付けられています。



フロントのサプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ

SAB が装備されている場合は、SAB はシートベルトやボディ構造による負傷の軽減に加え、特定の側面衝突時に乗員が負傷する危険性を低減するのに役立ちます。

SAB が展開するときは、シート・バックのトリム・カバーのドア側の縫い目が開きます。SAB は、シートの縫い目を裂いて展開し、乗員とドアの間の空間で膨張します。SAB は非常に速く強烈な力で作動するため、乗員が正しく座っていなかったり、SAB が膨張する空間に物が置いてある場合は、乗員が負傷する恐れがあります。お子さまの場合は、エアバッグの展開による負傷の危険性がさらに高まります。

警告!

後付けのシート・カバーを使用したり、体とサイド・エアバッグの間に物を置かないでください。十分な性能が得られなかったり、置いてあった物が身体に当たって負傷する恐れがあります。

サプリメンタル・シート・マウント・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)- タイプ別装備

この車両には、モデルによってサプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)が装備されています。サプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)が装備されている場合、以下の情報を参照してください。

サプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)はウィンドウ上部に内蔵されています。SABIC を覆うトリムには、「SRS AIRBAG」または「AIRBAG」というラベルが付いています。



サプリメンタル・サイド・エアバッグ・インフレータブル・カーテン(SABIC)のラベル位置

SABIC(タイプ別装備)は、シートベルトや車体構造による潜在的な負傷の軽減に加え、特定の側面衝突時におけるフロントおよびリヤ・シートのドア側乗員の頭部などへの負傷の危険性を軽減するうえで役立ちます。

SABIC は下向きに展開され、ドアウィンドウを覆います。膨張した SABIC は、ヘッドライナの周囲を外に向かって押し出し、窓を覆います。SABIC は強い力で膨張するため、乗員がシートベルトを着用せず正しく座っていなかったり、SABIC が膨張する空間に物が置いてある場合は、乗員が負傷する恐れがあります。お子さまの場合は、エアバッグの展開による負傷の危険性がさらに高まります。

SABIC(タイプ別装備)は、特定の側面衝突時にドアウィンドウから車両の乗員の体の一部またはすべてが飛び出す危険性を軽減するうえで役立ちます。

警告!

- SABIC の展開を妨げる高さに装置を取り付けたり、物や荷物を積み重ねたりしないでください。SABIC が収納されており SABIC 展開範囲となるドアウィンドウ上を覆うトリム付近には、障害物を置かないでください。
- SABIC が意図されたとおりに機能するように、車両のルーフを変形させるようなアクセサリを取り付けないでください。車両には後付サンルーフを取り付けないでください。車両ルーフに設置する際に、固定用部品(ボルトまたはスクリュ)を必要とするようなルーフ・ラックを取り付けないでください。車両ルーフには、絶対に穴をあけないでください。

側面衝突

サイド・エアバッグは、特定の側面衝突時に起動するよう設計されています。乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、特定の側面衝突時におけるサイド・エアバッグの展開が適切であるかどうかを、衝突の程度と種類に応じて判断します。ORC は側面衝突センサを使用して、発生した衝突に対して適切な応答を決定します。システムは、サイド・エアバッグによる乗員保護が必要な衝撃に対して、車両の衝突した側のサイド・エアバッグを作動させるよう調整されています。側面衝突では、サイド・エアバッグはそれぞれ独立して展開します。左側の衝突では左側のサイド・エアバッグのみが展開し、右側の衝突

では右側のサイド・エアバッグのみが展開します。車両の損傷自体は、サイド・エアバッグが展開するべきかどうかの十分な指標とはなりません。

サイド・エアバッグは、すべての側面衝突で展開するわけではありません。車内に影響を及ぼさないような特定の角度での衝突や一部の側面衝突では、サイド・エアバッグは展開しません。サイド・エアバッグは、フロント・エアバッグが展開する場合でも、角度のあるまたはオフセットした正面衝突の際に展開する場合があります。

サイド・エアバッグは、シートベルトの補助的な拘束装置です。サイド・エアバッグは、人間が 1 回まばたきをする時間もかからずに展開します。

警告!

- 乗員またはお子さまがサイド・エアバッグに接近し過ぎていると、重傷を負ったり、死にいたる恐れがあります。乗員とお子さまがドア、ドアウィンドウ、またはサイド・エアバッグが膨らむ範囲に寄りかかったり眠ったりしないようにしてください。お子さまをチャイルド・シートに座らせている場合も寄りかからないように注意してください。
- シートベルト(および適切な場合はチャイルド・シート)はあらゆる衝突から乗員を保護するために必要です。また、シートベルトは膨張するサイド・エアバッグから離れた位置に乗員を保持するためにも役立っています。サイド・エアバッグから最大限保護されるように、乗員はシートベルトを必ず適切に着用し、シートに背中を付けてまっすぐ座ってください。お子さまは、お子さまの体格に合ったチャイルド・シートまたはブースタ・シートに必ず正しく座らせてください。

警告!

- サイド・エアバッグが膨らむにはある程度の空間が必要です。ドアまたはウインドウに寄りかからないでください。シートの中央にまっすぐ座ってください。
- 展開中、サイド・エアバッグのすぐ近くにいると、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。
- サイド・エアバッグだけでは衝突の際に重傷を負う恐れがあります。サイド・エアバッグは、シートベルトを適切に着用しているときに初めて効果をもたらします。サイド・エアバッグがまったく展開しない衝突もあります。サイド・エアバッグが装備されていても、必ずシートベルトを使用してください。

メモ:
エアバッグのカバーは周囲の内装と見分けがつきませんが、万一のときには開いてエアバッグが展開します。

エアバッグ・システムの構成部品

メモ:
乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は、電動エアバッグ・システムの電気構成部品に関係する内部回路と相互接続配線を監視します。

- 乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)
- エアバッグ警告灯
- ステアリング・ホイールおよびコラム
- インストルメント・パネル
- ニー・インパクト・ボルスタ - タイプ別装備
- 運転席および助手席エアバッグ
- シートベルト・バックル・スイッチ
- サプリメンタル・サイド・エアバッグ
- 正面および側面衝突センサ
- シートベルト・プリテンショナ
- シート・レール位置センサ

エアバッグが作動したとき

フロント・エアバッグは、展開後すぐに収縮するように設計されています。

メモ:
フロントまたはサイド・エアバッグは、衝突のレベルによっては作動しないことがあります。これはエアバッグ・システムの故障ではありません。

衝突によりエアバッグが作動すると、次のような事態が起こることがあります。

- エアバッグが膨張するとき、エアバッグの素材により乗員がすり傷を負ったり、皮膚が赤くなったりすることがあります。エアバッグによるすり傷は、ロープなどによる摩擦で起きるもの、またはカーペットや体育館の床で滑ったときにできるもの(擦過傷)と同じものです。化学物質との接触によるものではありません。一時的なもので、通常は短期間で治癒するものです。ただし、数日たっても良くならないときや水ぶくれができたときには、直ちに医師の診察を受けてください。
- エアバッグが収縮するとき、煙のような粉末が発生することがあります。この粉末は、エアバッグ膨張のために無害なガスが発生するときの副産物です。この粉末が、皮膚、目、鼻、のどなどを刺激することがあります。皮膚や目に刺激を感じたら、冷水で洗い流してください。鼻やのどがひりひりするときは、空気が新鮮な場所に移動してください。それでも刺激を感じるようであれば、医師の診察を受けてください。粉末が衣服

に付着した場合は、衣服の表示に従ってクリーニングしてください。

エアバッグが作動した後は、その車を運転しないようにしてください。次に衝突に巻き込まれた際に、エアバッグが機能を果たしません。

警告!

一度作動したエアバッグおよびシートベルト・プリテンショナは、次の衝突時には作動しません。直ちにエアバッグ、シートベルト・プリテンショナ、シートベルト・リトラクタ・アセンブリをジープ正規ディーラーで交換してください。乗員保護拘束装置コントローラの整備も受けてください。

メモ:

- エアバッグのカバーは周囲の内装と見分けがつきませんが、万一のときには開いてエアバッグが展開します。
- 衝突した場合には、直ちにジープ正規ディーラーに整備を依頼してください。

高度事故時反応システム

衝突時に、車両通信ネットワークおよび電源には問題がない場合、衝撃の性質に応じて、乗員保護拘束装置コントローラ(ORC)は高度事故時反応システムを作動して次の機能を実行するかどうかを判断します。

- エンジンへの燃料供給停止(タイプ別装備)。
- 電動モータへのバッテリ電力供給の停止(タイプ別装備)。
- ハザード警告灯の点滅(バッテリ電力が切れるまで)。
- 室内灯の点灯。室内灯は、バッテリ電源がなくなるまで、または高度事故時反応システムの介入から 15 分間点灯し続けます。
- パワー・ドア・ロックの解錠。

ご使用の車両は、高度事故時反応システムに反応して以下の他の機能のいずれかを実行するように設計されていることもあります。

- フューエル・フィルタ・ヒータをオフにする、HVAC ブロア・モータをオフにする、HVAC サーキュレーション・ドアを閉じる
- 以下のコンポーネントへのバッテリ電力供給を停止する。
  - エンジン
  - 電動モータ(タイプ別装備)
  - 電動パワー・ステアリング
  - ブレーキ・ブースタ
  - 電動パーキング・ブレーキ
  - オートマチック・トランスミッション・ギヤ・セレクタ
  - ホーン
  - フロント・ワイパ

メモ:

事故の後は、バッテリーの消耗を避けるために、必ずイグニッションを停止 (オフ/ロック) 位置にしてください。システムをリセットしてエンジンを始動する前に、エンジン・ルーム内やエンジン・ルームおよび燃料タンク付近の地面に燃料漏れがないか、車両を十分に点検してください。燃料漏れがなく、車両の電気装置(ヘッドライトなど)に損傷がない場合は、以下の手順でシステムをリセットしてください。疑わしい場合は、ジープ正規ディーラーにお問い合わせください。

高度事故時反応システムのリセット手順

事故発生後にシステムが有効な場合、燃料のカットオフに関するメッセージが表示されます。イグニッション・スイッチを「AVV/START(AVV/始動)」または「MAR/ON/RUN(MAR/オン/走行)」から「STOP/OFF/LOCK(停止/オフ/ロック)」に回します。システムをリセットしてエンジンを始動する前に、エンジン・ルーム内やエンジン・ルームおよび燃料タンク付近の地面に燃料漏れがないか、車両を十分に点検してください。

事故の種類に応じて、インストルメント・パネルにある左右両方の方向指示器が点滅していることがあり、その後も点滅を続けます。車両を路肩に寄せるには、システムのリセット手順に従う必要があります。

お客様の作業内容	車両の反応
メモ： **それぞれの手順は 2 秒以上行う必要があります**	
1.イグニッションを「STOP/OFF/LOCK（停止／オフ／ロック）」に回します。（方向指示器スイッチはニュートラル状態にしておく必要があります。）	
2.イグニッションを「MAR/ON/RUN（MAR／オン／走行）」に回します。	右側の方向指示器が点滅します。 左側の方向指示器は消灯します。
3.右側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が常時点灯します。 左側の方向指示器は点滅します。
4.方向指示器をニュートラル状態にします。	右側の方向指示器が消灯します。 左側の方向指示器は点滅します。
5.左側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が点滅します。 左側の方向指示器が常時点灯します。
6.方向指示器をニュートラル状態にします。	右側の方向指示器が点滅します。 左側の方向指示器は消灯します。
7.右側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が常時点灯します。 左側の方向指示器は点滅します。
8.方向指示器をニュートラル状態にします。	右側の方向指示器が消灯します。 左側の方向指示器は点滅します。

お客様の作業内容	車両の反応
メモ： **それぞれの手順は 2 秒以上行う必要があります**	
9.左側の方向指示器スイッチを ON にします。	右側の方向指示器が常時点灯します。 左側の方向指示器が常時点灯します。
10.左側の方向指示器スイッチを OFF にします。（方向指示器スイッチはニュートラル状態にしておく必要があります。）	右側の方向指示器が消灯します。 左側の方向指示器は消灯します。
11.イグニッションを「STOP/OFF/LOCK（停止／オフ／ロック）」に回します。	
12.イグニッションを「MAR/ON/RUN（MAR／オン／走行）」に回します。（一連の手順は 1 分以内に完了する必要があります。1 分を超えると、手順を最初から繰り返さなければならなくなります。）	これでシステムがリセットされ、エンジンの始動が可能になります。
非常点滅表示灯を手動で OFF にします。	

リセット手順を 60 秒以内に完了できなかった場合、方向指示器が点滅し、正常な状態に戻すために手順を最初から繰り返さなければならなくなります。

エアバッグ・システムのメンテナンス

警告!

- エアバッグ・システムを改造すると、万一のときに作動しない恐れがあります。必要なときにエアバッグ・システムが作動せず、負傷する恐れがあります。ステアリング・ホイール・ハブ・トリム・カバーやインストルメント・パネルの助手席側上部にバッジやステッ

(続き)

警告!

カーなどを貼ったり、構成部品や配線を改造しないでください。フロント・バンパまたは車体構造を改造したり、アクセサリ部品のサイド・ステップまたはランニング・ボードを装着したりしないでください。

- お客様自身の手でエアバッグ・システムを修理することは危険です。車の整備を依頼するときは、整備士などにエアバッグ・システムが装備されていることを必ず伝えてください。
- エアバッグ・システムの部品は改造しないでください。改造を加えると、エアバッグが誤って膨張したり

(続き)

警告!

正常に機能しなかったりすることがあります。エアバッグ・システムの修理は正規ディーラーにご依頼ください。トリム・カバーやクッションなど、シートの整備（シート取り付けボルトの取り外しや緩め／締め付けを含む）が必要な場合は、正規ディーラーに作業をご依頼ください。使用できるシート・アクセサリは、メーカ認定済みのものだけです。

事象データ・レコーダ（EDR）

この車は、事象データ・レコーダ（EDR）を装備しています。EDR の主な目的は、衝突または衝突に近い状況（エアバッグの展開または道路の障害物に当たるなど）が起

6

こった際、車両のシステム作動状況を把握するのに役立つデータを記録することです。EDR は、車両のダイナミックスと安全システムに関連するデータを短時間（通常、30 秒以下）の間記録するように設計されています。この車の EDR は、次のデータを記録するように設計されています。

- 車両の各種システムの作動状況
- 運転席または助手席シートベルトがバックルに差し込まれていた（着用されていた）かどうか
- 運転者がアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルをどの程度踏み込んでいたか、またはまったく踏み込んでいなかったかどうか
- 車両の走行速度

これらのデータにより、衝突やけがの発生時の状況がわかりやすくなります。

メモ：

EDR データは、重要な衝突状況が発生した場合のみ車両で記録されます。通常の運転条件下ではデータは記録されません。また、個人情報（氏名、性別、年齢、衝突の場所）などは記録されません。ただし、法的機関などの他の関係者は事故調査中に通常取得される個人識別データと組み合わせてこの EDR データを使用する場合があります。

EDR に記録されたデータを読み取るには、専用の装置が必要で、車両または EDR にアクセスする必要もあります。車のメーカに加え、専用の装置を持っている法的機関などの他の関係者は、車両または EDR にアクセスできる場合に情報を読み取ることができます。

チャイルド・シート – お子さまを安全に乗せるために



助手席サンバイザに貼付されている警告ラベル

車内では、乳幼児も含めて全員が常にシートベルトを着用してください。EC 指令 2003/20/EC では、すべての EC 諸国に対し、シートの適切な使用を求めています。

身長が 1.5m に満たない 12 歳以下のお子さまは、できるだけリヤ・シートでシートベルトを正しく締めて乗車させるようにしてください。衝突事故の統計によると、お子さまはフロント・シートよりもリヤ・シートでチャイルド・シートに座らせたほうが、より安全であることが確認されています。

警告!

- 作動可能なエアバッグで保護されている助手席には、絶対に後ろ向きのチャイルド・シートを使用しないでください。お子様の死亡または重傷を負う原因となります。
- お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。
- 助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、助手席側フロント・エアバッグの作動を解除する必要があります。チャイルド・シートを使用する場合は、エアバッグ作動解除表示灯が点灯していることを必ず確認してください。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。
- 助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートのお子さまなど、12 歳以下のお子さまに重傷事故または死亡事故が起きる恐れがあります。
- 衝突の際には、チャイルド・シートなどにより保護されていないお子さまは、一瞬のうちに車内で放り出された状態になってしまう恐れがあります。衝突時にお子さまをひざの上で抱いて支えるには想像以上の力が必要となるため、どんなに力が強い方でも、お子さまを抱えきれません。お子さまのみならず他の乗員も重傷を負ったり死亡にいたる恐れがあります。お子さまの大きさに合った適正なチャイルド・シートで保護してください。

チャイルド・シートには、幼児用からある程度大きなお子さま用まで、様々なサイズとタイプがあります。お子さまはできる限り後ろ向きにお乗せください。後ろ向きは、衝

突の際にお子さまをもっとも保護します。必ずチャイルド・シートの取扱説明書を読んで、お子さまに適切なシートかどうかを確認してください。チャイルド・シートの取扱説明書とチャイルド・シートに貼り付けられているすべてのラベルに記載された指示事項と注意事項すべてを十分に読んで従ってください。

欧州では、チャイルド・シートは ECE R44 基準によって定義されています。この中でチャイルド・シートは、次の 5 つの体重グループに分類されています。

グループ	年齢	体重グループ	サイズ・クラス／固定
グループ 0	9 か月までの表示	10 kg まで	ISO/L1 ISO/L2 ISO/R1
グループ 0+	2 歳までの表示	13kg まで	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3
グループ 1	8 か月～4 歳までの表示	9～18 kg	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3
グループ 2	3～7 歳までの表示	15～25 kg	–
グループ 3	6～12 歳までの表示	22～36 kg	–

i-Size が装備されている場合、ECE R44 規格は ECE R-129 規定を補足するもので、i-Size チャイルド・シートの特性を定義しています（詳細については、「i-Size チャイルド・シートの使用に適した助手席」の項目を参照してください）。すべての拘束装置は、チャイルド・シートにしっかりと固定され絶対に外れることがないラベル上に、管理マークと一緒に型式認定データが記載されている必要があります。Jeep®の車両向けに特別に設計されているこれらの装置を推奨します。Lineaccessori Mopar® では、各体重グループ向けのチャイルド・シートを用意しています。

警告!

非常に危険です！作動可能なエアバッグの前に後ろ向きのチャイルド・シートを取り付けないでください。詳

(続き)

警告!

細については、サンバイザに貼られたラベルを参照してください。衝突の度合いに関係なく、事故時のエアバッグの展開により乳幼児が重傷を負ったり死亡する恐れがあります。お子さまを乗せる場合は、必ずリヤ・シートに取り付けたチャイルド・シートに座らせてください。これが衝突時に最も保護される位置です。

警告!

助手席に取り付けた後ろ向きのチャイルド・シートにお子さまを乗せる必要がある場合は、「Setup（セットアップ）」メニューから助手席側フロント・エアバッグとサイド・バッグ（バージョン／市場に応じてタイプ別装備）の作動を解除する必要があります。作動解除はインストルメント・パネルに点灯した警告灯によって確認できます。助手席をできるだけ後方に下げ、チャイルド・シートがダッシュボードに接触しないようにしてください。

「ユニバーサル」チャイルド・シード

チャイルド・シートをこの車両に取り付ける場合は、事前にチャイルド・シート・システム情報一覧表を参照して、使用するチャイルド・シートの種類がシート位置に適合するかどうか確認してください ⇨ ページ 194。

- 以下のセクションの図は、ユニバーサル・チャイルド・シートの各タイプの例です。一般的な取り付け方法が示されています。チャイルド・シートを取り付ける際は、このタイプのシートに添付されているメーカの説明書に必ず従ってください。
- ISOFIX アンカ付きのチャイルド・シートは、車両のシートベルトを使用せずに、車両に取り付けることができます。

グループ 0 および 0+

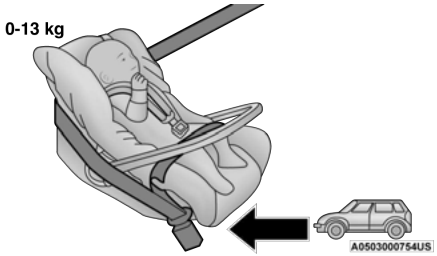


図 A

安全に関する専門家は、できるだけお子さまを車両内で後ろ向きに座らせることを推奨しています。体重が 13kg 未満の幼児は、図 A に示すチャイルド・シートのような後ろ向きシートに座らせる必要があります。このタイプのチャイルド・シートは、幼児の頭部をサポートし、急な減速や衝突時に首にストレスがかかりません。

後ろ向きチャイルド・シートは、図 A に示すにように車両のシートベルトで固定します。お子さまは、チャイルド・シート自体のハーネスで拘束します。

警告!

- 作動可能なエアバッグの前に後ろ向きのチャイルド・シートを取り付けないでください。助手席のフロント・エアバッグが展開すると、後ろ向きのチャイルド・シートに座っているお子さまを含む、12 歳以下のお子さまが重傷を負ったり、死亡したりするおそれがあります。

(続き)

警告!

- フロント・シートで後ろ向きのチャイルド・シートを使用する場合は、必ずフロント・エアバッグの作動を解除してください。

グループ 1

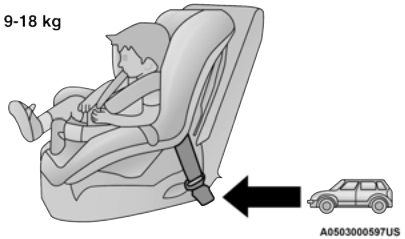


図 B

体重が 9kg～18kg のお子さまは、図 B に示すようなグループ 1 の前向きシートに乗せることができます。このタイプのチャイルド・シートは、グループ 0 または 0+のチャイルド・シートが小さすぎる大きなお子さま向けです。

グループ 2

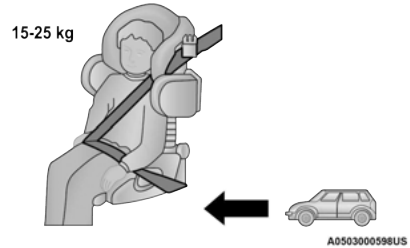


図 C

体重が 15kg～25kg で、グループ 1 のチャイルド・シートを使用するには大きすぎるお子さまは、グループ 2 のチャイルド・シートを使用することができます。

図 C に示すよう、グループ 2 のチャイルド・シートを使用することにより、ショルダ・ベルトがお子さまの首ではなく胸にかかり、ラップ・ベルトが腹部ではなく骨盤に密着するようにシートベルトを装着できます。

グループ 3

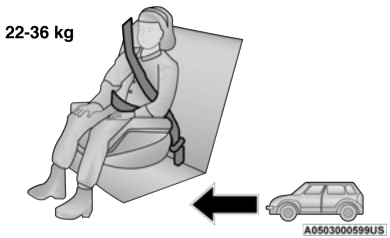


図 D

体重が 22kg～36kg で、大人用ショルダ・ベルトを無理なく着用できるだけの身長があるお子さまは、グループ 3 のチャイルド・シートを使用することができます。グループ 3 のチャイルド・シートでは、お子さまの骨盤の位置にラップ・ベルトを使用します。お子さまの身長は、ショルダ・ベルトが首ではなく、胸部にかかるだけの高さが必要です。

図 D は、グループ 3 チャイルド・シートのリヤ・シートでの正しい使用例を示しています。

警告!

- チャイルド・シートは、正しく取り付けないと機能しません。衝突の際にチャイルド・シートが外れ、お子さまが重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。チャイルド・シートの取り付けは、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。

(続き)

警告!

- 車両にチャイルド・シートを取り付けたら、車両のシートを前後に移動させないでください。これにより、チャイルド・シートの取り付け部が緩むことがあります。車両シートの位置を調整する場合は、チャイルド・シートを外してから行ってください。車両シートの位置を調整してから、チャイルド・シートを取り付けてください。
- チャイルド・シートをご使用にならない場合は、シートベルトまたは ISOFIX アンカで確実に固定するか、または車から降ろしてください。固定していない状態で車内にそのままにしないでください。急停止または事故の際に、シート・バックや乗員にぶつかり、乗員がけがをする恐れがあります。

大きなお子さまのシートベルトの使用

身長が 1.5m 以上あるお子さまは、チャイルド・シートではなくシートベルトを着用することができます。

以下の簡単な 5 段階のテストを使用して、お子さまがシートベルトを適切に使用できるか、またはシートベルトを正しく装着するにはまだグループ 2 または 3 のチャイルド・シートを使用する必要があるかご判断ください。

1. お子さまは、車のシート・バックに対していっぱいまで奥に座れますか？
2. お子さまの膝は、奥いっぱいに座ったままで車のシート前部を越えて無理なく曲がりますか？
3. ショルダ・ベルトは、お子さまの首と腕の間で肩を横切りますか？
4. ベルトのラップ部分はなるべく低い位置にあって、お子さまの腹部ではなく大腿部に触れていますか？

5. お子さまは、全行程中このような状態で座っていられますか？

これらの質問に対する回答に「いいえ」がある場合、お子さまはまだこの車ではグループ 2 または 3 のチャイルド・シートを使用する必要があります。お子さまが 3 点式シートベルトを使用している場合、ときどきベルトの状態を点検し、シートベルト・バックルが固定されていることを確認して下さい。お子さまが動いたりかがんだりするとベルトの位置がずれます。ショルダ・ベルトがお子さまの顔や首にあたる場合は、お子さまを車の中央寄りに座らせるようにしてください。または、ブースタ・シートを使用してお子さまが正しくシートベルトを着用できるようにしてください。

警告!

ショルダ・ベルトをお子さまの脇の下に通したり、背中の後ろに回したりすることは絶対に避けてください。衝突の際、ショルダ・ベルトはお子さまを適切に守ることができず、重傷を負うまたは死亡する場合があります。お子様は必ず 3 点式シートベルトの肩と腰の部分を正しく装着しなければなりません。

ISOFIX チャイルド・シート

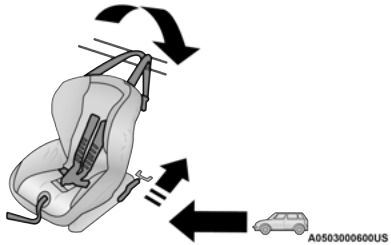


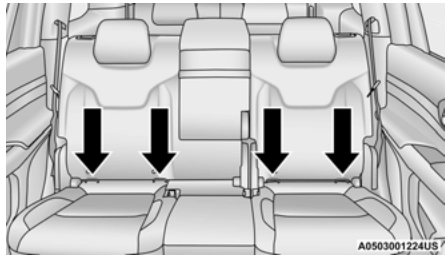
図 E

車両には ISOFIX というチャイルド・シート・アンカ機構が装備されています。このシステムにより、ISOFIX を備えたチャイルド・シートを車両のシートベルトを使用せずに取り付けることができます。ISOFIX システムには、シート・クッションの奥、シート・バックと接する位置にある 2 つのロア・アンカとシート位置の後ろにある 1 つのトップ・テザー・アンカが備わっています。

体重グループ 1 のユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートの例が図 E に示されています。他の体重グループ用の ISOFIX チャイルド・シートもご利用頂けます。

ISOFIX アンカの配置

ロア・アンカは丸いバーで、シート・バックとシート・クッション後部の境目にあり、シート・クッションのアンカ記号の上にあります。チャイルド・シートを取り付けるためにリヤ・シートを見ると、すぐに目に入ります。シート・バックとシート・クッション間のすき間に指を差し込むと、すぐに見つかります。



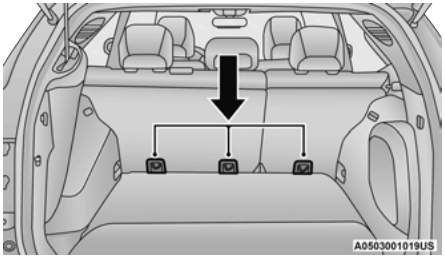
2 列目ロア・アンカ位置

2 列目テザー・アンカの配置



各リヤ・シートの後ろにはテザー・ストラップ・アンカがあり、背もたれに位置しています。

ISOFIX チャイルド・シートには、両側に堅いバーが付いています。それぞれ、ロア・アンカに取り付けるコネクタが付いており、アンカへの取り付け具合を締めることができます。前向きチャイルド・シートおよび一部の後ろ向きのチャイルド・シートには、テザー・ストラップが備えられている場合もあります。テザー・ストラップには、端部にトップ・テザー・アンカに取り付けるフックが付いており、アンカへの取り付け後にストラップを締めることができます。



2 列目テザー・アンカ位置

センタ・シートの ISOFIX

警告!

- センタ位置には、ISOFIX システムを使用してチャイルド・シートを取り付けないでください。どのタイプの ISOFIX チャイルド・シートについても、この位置への取り付けは認められていません。
- センタ・テザー・アンカのみを使用して ISOFIX チャイルド・シート・システムを取り付けないでください。センタ・シート位置にチャイルド・シートを取り付けるには、シートベルトを使用してください。
- 複数のチャイルド・シートの取り付けに同一のロア・アンカを使用しないでください。一般的な取扱説明書は ⇨ ページ 193 を参照ください。

ISOFIX チャイルド・シートの取り付け

チャイルド・シートを取り付ける際には、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。すべてのチャイルド・シートが上述のように取り付けられるわけではありません。

ユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートを使用する場合、ECE R44 基準(リリース R44/03 またはそれ以上)「Universal ISOFIX(ユニバーサル ISOFIX)」と印されている、認定チャイルド・シートのみをご使用いただけます。

1. 車両のアンカにコネクタを簡単に付けられるように、チャイルド・シートのロア・コネクタとテザー・ストラップのアジャスタを緩めます。
2. チャイルド・シートをそのシート位置のロア・アンカの間に置きます。2 列目シートがリクライニングできる場合は、収まりを良くするためにシートをリクライニングさせたり、ヘッド・レスト(調節可能な場合)を上げたりしてもかまいません。リヤ・シートを車内で前後に動かせる場合、最後方に動かしてチャイルド・シートのための空間を作ることができます。また、フロント・シートを前方に動かして、チャイルド・シートのための空間を広げることもできます。
3. チャイルド・シートのコネクタを、選択したシート位置のロア・アンカに取り付けます。
4. チャイルド・シートにテザー・ストラップが付いている場合は、それをトップ・テザー・アンカに接続します。テザー・アンカーの取り付け方法については、⇨ ページ 193 を参照してください。
5. チャイルド・シートをシートの後方および下方へ押しながら、ストラップをすべて締め付けます。チャイルド・シート・メーカの指示に従い、ストラップのたるみを取り除きます。
6. ベルトを取りまわしているところでチャイルド・シートを前後に引っ張って、チャイルド・シートがしっかりと取り付けられているかテストします。いずれの方向にも、25mm を超えて動いてはいけません。

警告!

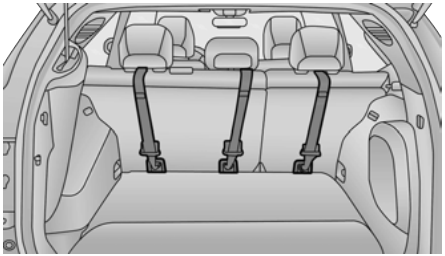
- チャイルド・シートは ISOFIX アンカへ正しく取り付けないと、機能しません。お子さまが重傷を負ったり、死亡にいたる恐れがあります。チャイルド・シートの取り付けは、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。
- チャイルド・シート・アンカは、正しく取り付けられたチャイルド・シートの荷重のみを支えるよう設計されています。大人用シートベルトやハーネスに使用したり、車両に他の部品や装置を取り付ける目的では絶対に使用しないでください。
- チャイルド・シートは、車両が停止しているときに取り付けてください。ISOFIX チャイルド・シートがブラケットに正しく固定されると、カチッという音がします。

トップ・テザー・アンカによるチャイルド・シートの取り付け

1. チャイルド・シートを取り付けようとしているシート位置の背面を見て、テザー・アンカを見つけます。シートが移動可能な場合、シートを前に移動させて、テザー・アンカに手が届きやすいようにシートを前に移動させる必要がある場合があります。そのシート位置にトップ・テザー・アンカがない場合、車の別の位置が利用可能ならば、チャイルド・シートをその位置に移動します。
2. テザー・ストラップを、アンカとチャイルド・シートの間の最短距離を通して取り回します。後席に調整機能付きヘッド・レストが装備された車両の場合、ヘッド・レストを持ち上げ、可能な場合は、テザー・ストラップをヘッド・レストの下、および 2 本の支柱の間に通します。それができない場合、ヘッド・レストを下

げ、テザー・ストラップをヘッド・レストのドア側に通します。

3. 図に示すように、チャイルド・シートのテザー・ストラップ・フックをトップ・テザー・アンカに取り付けます。
4. チャイルド・シート・メーカの指示に従い、テザー・ストラップのたるみを取り除きます。



2 列目テザー・アンカ

警告!

- テザー・ストラップの取り付け方法を誤ると、頭部の動きが大きくなりお子さまのけがの原因となる場合もあります。チャイルド・シートの上部テザー・ストラップを固定するには、お子さまの座席の真後ろにあるアンカのみに取り付けるようにしてください。
- 車両に分割リヤ・シートが装備されている場合は、ストラップのたるみを取り除くときに、テザー・ストラップが背もたれの間に入り込まないように注意してください。

シート位置ごとのチャイルド・シート使用法

この表には、特にチャイルド・シート・メーカを対象とした技術情報が記載されているため、各国言語に翻訳する必要はありません。

H67 人乗り、60/40 2 列目ベンチ・シート装備

	取り付け位置						
シート位置番号	**1.**	**2**	**3.**	**4**	**5.**	**6**	**7.**
前向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置（○適／×不適）	×	×	○	×	○	×	×
後ろ向き汎用ベルト取り付けに適したシート位置（○適／×不適）	×	×	○	×	○	×	×

	取り付け位置						
シート位置番号	**1.**	**2**	**3.**	**4**	**5.**	**6**	**7.**
i-Size シート位置（○適／×不適）	×	×	○	×	○	×	×
横方向固定具取り付けに適したシート位置（L1/L2）	×	×	×	×	×	×	×
後ろ向き固定具取り付けに適したシート位置（最大）（R1/R2X/R2/R3）	×	×	R2	×	R2	×	×
前向き固定具取り付けに適したシート位置（最大）（F1/F2X/F2/F3）	×	×	F2X	×	F2X	×	×
補助チャイルド・シートに適したシート（B2/B3）	×	×	×	×	×	×	×

*適したシート位置を使用する際は、シートを最後方位置に調整してください。

**大きいチャイルド・シートを使用する場合は、前方のシートの位置を変更してください。

シート位置:

1.運転席

2.助手席

3.2 列目左

4.2 列目中央

5.2 列目右

6.3 列目左

7.3 列目右

チャイルド・シートを取り付ける際には、必ずチャイルド・シート・メーカの指示に従ってください。すべてのチャイルド・シートが上述のように取り付けられるわけではありません。ユニバーサル ISOFIX チャイルド・シートを使用する場合、ECE R44 基準（リリース R44/03 またはそれ以上）「Universal ISOFIX（ユニバーサル ISOFIX）」と印されている、認定チャイルド・シートのみをご使用いただけます。

ヘッド・レストがチャイルド・シート取り付けの邪魔になる場合は、ヘッド・レストを調節します（調節可能な場合）。

警告!



I	RISCHIO DI FERITE GRAVI O MORTALI. I seggiolini bambino che si montano nel verso opposto a quello di marcia non vanno installati sui sedili anteriori in presenza di air bag passeggero attivo.
GB	DEATH OR SERIOUS INJURY CAN OCCUR. NEVER use a rearward facing child restraint on a seat protected by an ACTIVE AIRBAG in front of it, DEATH or SERIOUS INJURY to the CHILD can occur
F	RISQUE DE MORT OU DE BLESSURES GRAVES. NE PAS positionner le siège pour enfant tourné vers l'arrière, en cas d'air bag passager actif.
D	Nichtbeachtung kann TOD oder SCHWERE VERLETZUNGEN zur Folge haben. Rückwärts gerichtete Kinderrückhaltesysteme (Babyschale) dürfen nicht in Verbindung mit aktiviertem Beifahrerairbag auf dem Beifahrersitz verwendet werden
NL	DIT KAN DODELIJK ZIJN OF ERNSTIGE ONGELUKKEN VEROORZAKEN. Plaats het kinderstoeltje niet ruggelings op de voorstoel wanneer er een airbag aanwezig is.
E	PUEDE OCACIONAR MUERTE O HERIDAS GRAVES. NO ubicar el asiento para niños en sentido inverso al de marcha en el asiento delantero si hubiese airbag activo lado pasagero.
PL	MOŻE GROZIĆ ŚMIERCIA LUB CIĘŻKIMI OBRAŻENIAMI. NIE WOLNO umieszczać fotelika dziecięcego tyłem do kierunku jazdy na przednim siedzeniu w przypadku zainstalowanej aktywnej poduszki powietrznej pasażera.
TR	ÖLÜM VEYA AĞIR ŞEKİLDE YARALANMAYA SEBEP OLABİLİR. Yolcu airbagi aktif halde iken çocuk koltuğunu araç gidiş yönüne ters biçimde yerleştirmeyin.
DK	FARE FOR DØDELIGE KVÆSTELSER OG LIVSTRUENDE SKADER. Placer aldrig en bagudvendt barnestol på passagersædet, hvis passager-airbagen er indstillet til at være aktiv (on).
EST	TAGAJÄRJEKS VÕIVAD OLLA TÕSISED KEHAVIGASTUSED VÕI SURM. Turvapadja olemasolu korral ärge asetage lapse turvaistet sõidusuunaga vastassuunas.
FIN	KUOLEMANVAARA TAI VAKAVIEN VAMMOJEN UHKA. Älä aseta lasten turvaistuinta niin, että lapsi on selkä menosuuntaan, kun matkustajan airbag on käytössä.
P	RISCO DE MORTE OU FERIMENTOS GRAVES. Não posicionar o banco para criança numa posição contrária ao sentido de marcha quando o airbag de passageiro estiver activo.
LT	GALI ĮŠTIKTI MIRTIS ARBA GALITE RIMTAI SUSIŽEISTI. Nedėkite vaiko sėdynės atgręžtos nugara į priekinį automobilio sėklį tan, kur yra veikiant keleivio oro pagalvė.
S	KAN VARA LIVSHOTANDE ELLER LEDA TILL ALLVARLIGA SKADOR. Placera aldrig en bakåtvänd barnstol i framsätet då passagerarsidans krockkudde är aktiv.
H	HALÁLOS VAGY SÚLYOS BALESET KÖVETKEZHET BE. Ne helyezzük a gyermekülést a menetiránnyal szembe, ha az utas oldalán légzsák működik.
LV	VAR IZRAISĪT NĀVI VAI NOPIETNAS TRAUMAS. Nenovietot mazuļa sēdeklī pretēji braukšanas virzienam, ja pasažiera puse ir uzstādīts gaisa spilvens.
CZ	HROZÍ NEBEZPEČÍ VÁŽNÉHO UBLÍŽENÍ NA ZDRAVÍ NEBO DOKONCE SMRTI. Neumisťujte dětskou sedačku do opačné polohy vůči směru jízdy v případě aktivního airbagu spolujezdce.
SLO	LAHKO PRIDE DO SMRTI ALI HUDIH POŠKODB. Otroškega avtomobilskega sedeža ne nameščajte v obratni smeri vožnje, če ima vozilo vgrajene zračne blazine za potnike.
RO	SE POATE PRODUCE DECESUL SAU LEZIUNI GRAVE. Nu așezați scaunul de mașină pentru bebeluși în poziție contrară direcției de mers atunci când airbag-ul pasagerului este activat.
GR	ΜΠΟΡΕΙ ΝΑ ΠΡΟΚΛΗΘΟΥΝ ΘΑΝΑΤΟΣ Η ΣΟΒΑΡΑ ΤΡΑΥΜΑΤΑ. Μην τοποθετείτε το καρεκλάκι αυτοκινήτου για παιδιά σε αντίθετη προς την φορά πορείας θέση σε περίπτωση που υπάρχει αερόσακος εν ενεργεία στη θέση συνεπιβάτη.
BG	ИМА ОПАСНОСТ ОТ СМЪРТ И СЕРИОЗНИ НАРАНЯВАНИЯ. Не поставяйте столчето за пренасяне на бебета в положение обратно на посоката на движение, при положение активно на въздушната възглавница за пътуване.
SK	MÔŽE NASTAŤ SMRŤ ALEBO VÁŽNE ZRANENIA. Nedávajte autosedačku pre deti do polohy proti chodu vozidla, keď je aktívny airbag spolujazdca.
RUS	ТРАВМЫ И ЛЕТАЛЬНЫЙ ИСХОД. Детское кресло, устанавливающееся против направления движения, нельзя монтировать на месте переднего пассажира, если последнее оборудовано активной подушкой безопасности.
HR	OPASNOST OD TEŠKIH ILI SMRTONOSNIH OZLJEDA. Sjedala za djecu koja se montiraju u smjeru suprotnom od vožnje ne smiju se installirati na prednja sjedala ako postoji aktivni zračni jastuk suvozača.
AS	لا تستخدم مقاعد الأمان الخاصة بالأطفال على مقعد مزود "الوسادة هوائية"، حيث ان الطفل قد يتعرض للوفاة أو لإصابة بالغة.

安全のヒント

乗員を乗せる場合

カーゴ・エリアには決して乗員を乗せないでください。

警告!

- 高温時には、駐車した車内にお子さまやペットを残さないでください。車内の温度が上がり、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 車の内外に関係なく、カーゴ・エリアへの乗車は非常に危険です。衝突の際にカーゴ・エリアに乗っていると、重傷または死亡事故につながる危険性が高くなります。
- シートとシートベルトがない場所には人を乗せないでください。
- すべての乗員がシートベルトを正しく使用してシートに座っていることを確認してください。

ペットを乗せる場合

ペットをフロント・シートに乗せていると、エアバッグが作動した際にけがをする場合があります。ペットを正しく拘束していないと、急停止や衝突などの場合に車内で投げ出され、ペットや乗員がけがをする恐れがあります。

ペットは、ペット・ハーネスでリヤ・シート(タイプ別装備)に拘束するか、ペット・キャリヤに入れシートベルトで固定してください。

コネクテッド・カー

無線および有線通信のプライバシーは保証できません。第三者が、同意なく情報および個人の通信を不正に傍受することがあります ⇨ ページ 81。

警告!

車両システムが侵害された場合に考えられる結果をすべて予測することは不可能です。安全関連システムを含む車両システムに障害が発生したり、車の制御が失われ、重傷または死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

車内の安全点検

シートベルト

定期的にシートベルト・システムを点検し、切れや摩耗、たるみなどがないか確認してください。損傷している部品は、直ちに交換してください。システムを分解したり、改造したりしないでください。

車両が衝突事故に遭った場合、またはシートベルトやリトラクタの状態に疑問がある場合は、正規ディーラーで車両の検査を受けてください。

エアバッグ警告灯



エアバッグ警告灯は、イグニッション・スイッチを初めて「ON/RUN(オン／走行)」位置にしたとき、電球を点検するために 4～8 秒間点灯します。エンジン始動時にこの警告灯が点灯しなかったり、点灯したままの状態になったり、または運転中に点灯した場合は、直ちに正規ディーラーで点検を受けてください。電球点検後、この警告灯は、エアバッグ・システムの故障が検出された場合にチャイム 1 回とともに点灯します。故障が解消されるまで点灯したままになります。走行中、この警告灯が断続的に点灯または点灯し続ける場合は、直ちに正規ディーラーで車両の整備を受けてください ⇨ ページ 170。

デフロスタ

デフロスタ・モードを選択し、ファンを高速に設定して作動状態を点検します。空気がフロントウィンドウに向かって流れているのが感じられます。デフロスタが作動しない場合、正規ディーラーで整備を受けてください。

フロア・マットに関する安全情報

必ずお使いの車に適合するよう開発されたフロア・マットを使用してください。必ず、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルに干渉しないフロア・マットを使用してください。必ず、フロア・マットをフロア・マット固定具を使用してしっかりと固定し、所定の位置からずれたり、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、クラッチ・ペダルに干渉したり、それ以外の形で車両の安全な操作を妨げたりすることのないようにしてください。

警告!

フロア・マットの誤った取り付け、損傷、折り畳み、または積み上げ、または損傷したフロア・マット固定部により、フロア・マットがアクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になるおそれがあり、車両のコントロールが失われます。重傷または死亡事故を防ぐため、次の事項を守ってください。

- 
必ずフロア・マット・ファスナを使用して、フロア・マットを確実に取り付けてください。フロア・マットを上下逆さまに取り付けたり、フロア・マットを裏返しにしたりしないでください。軽く引っ張って、フロア・マット固定部でマットが固定されていることを定期的に確認します。

(続き)

6

警告!

-  他のフロア・マットを取り付ける場合は、必ず車両から既存のフロア・マットを取り外してください。既存のフロア・マットの上にフロア・マットを追加で取り付けたり、積み上げたりしないでください。
- 車両に合うよう設計されたフロア・マットのみを取り付けてください。正しく取り付けたり、車両に固定したりできないフロア・マットは取り付けないでください。フロア・マットを交換する必要がある場合、車両の適合したメーカー、モデル、年式の FCA 認定フロア・マットのみ使用してください。
- 運転席のフロア・マットは、運転席のフロア部分のみに使用してください。邪魔になっているかどうか確認するには、車両を正しく駐車してエンジンを切り、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、クラッチ・ペダル（ある場合）をいっぱいまで踏んで邪魔かどうか確認します。フロア・マットがペダルの操作の邪魔になっている、またはフロアに固定されていない場合、フロア・マットを車両から取り外し、トランクに置きます。
- 助手席のフロア・マットは、助手席のフロア部分のみに使用してください。
- 車両が移動したときに、物が運転席のフロア部分に落ちたり、転がったりしないことを必ず確認します。物がアクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの後ろに挟まると車の制御が失われます。
- 物（タオル、キーなど）をフロア・マットの下に置かないでください。こうした物によってフロア・マットの位置が変わる可能性があり、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になる場合があります。
- 車両のカーペットを取り外し、取り付け直した場合、必ずカーペットを正しくフロアに取り付け、フロア・マット固定部がカーペットに固定されていることを確認します。各ペダルをいっぱいまで踏み込み、アクセル・ペダル、ブレーキ・ペダル、またはクラッチ・ペダルの邪魔になっていないか確認し、フロア・マットを取り付け直します。
- フロア・マットの洗浄は、中性洗剤のみ使用することをお勧めします。洗浄後、フロア・マットが正しく取り付けられ、フロア・マット固定部で車両に固定されていることを、マットを軽く引っ張って必ず確認します。

（続き）

定期的な車外の安全点検

タイヤ

タイヤのトレッド面に過度の摩耗や偏摩耗がないか点検します。また、石、釘、ガラスなどの異物がトレッドとサイドウォール（側面）に突き刺さっていないか点検します。タイヤのトレッドに亀裂や損傷がないか点検します。タイヤのサイドウォール（側面）に亀裂、損傷、ふくらみがないか点検します。ホイール・ナット／ボルトのトルクの締め具合を点検します。タイヤ（スペアも含む）の冷間時の空気圧が適切かどうか点検します。

ライト

各スイッチ類を操作しながら、誰かに車外からストップ・ライトと外部ライトが正しく点灯していることを確認してもらいます。インストルメント・パネルの方向指示器表示灯とハイビーム表示灯を点検します。

ドア・ラッチ

しっかりと閉じ、ラッチがかかり、施錠されることを点検します。

液漏れ

一晩駐車していた地面にガソリン、クーラント、オイルなど液漏れの跡がないか点検します。ガソリン蒸気が検出された場合または燃料やブレーキ・フルードの漏れの疑いがある場合は、直ちに修理が必要です。

排気ガス

警告!

排気ガスは、けがまたは死に至る危険性のある有毒なガスです。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素（CO）が含まれています。一酸化炭素を吸引すると、意識を失うなど人体に有害な影響を与えます。一酸化炭素の吸引を防ぐために、次の安全事項を遵守してください。

- 狭いガレージや密閉された場所では、車を出入りさせるのに必要な時以外はエンジンをかけないでください。
- トランク／リフトゲート／リヤ・ドアを開けて走行するときは、窓がすべて閉まっていて、ヒータ／エアコンのファン・スピード調整スイッチが高速にセットされていることを確認してください。内気循環モードは使用しないでください。
- エンジンをかけたまま駐車した車内にいなければならない場合は、空調装置を調節して、外気を車内に取り込みます。ファン・スピードを高速に設定してください。

一酸化炭素が車内に侵入するのを防ぐ上で最も効果的な方法は、エンジン排気装置を適切に点検整備することです。

排気装置の音が変化した場合、車内に排気ガスが入り込んでいる場合、または車の下やリヤ側が破損している場合、正規ディーラーの整備士によって排気装置および隣接したボディ部に欠陥、損傷、劣化、またはアライメント不良部品があるかどうかの点検を受けてください。継ぎ目が開いていたり、接続部が緩んでいると、排気ガスが車内に侵入する恐れがあります。また、潤滑やオイル交換で車を持ち上げるたびに排気装置を点検してください。必要に応じて部品を交換してください。

一酸化炭素に関する警告

警告!

排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)は極めて有害です。一酸化炭素中毒を防ぐため、次の注意事項を必ず守ってください。

- 排気ガスを吸い込まないでください。排気ガスには、致死性の無色無臭のガスである一酸化炭素が含まれています。絶対にガレージなどの密閉された場所でエンジンをかけたままにしないでください。また、エンジンをかけたまま駐車した車の室内に、絶対に長時間留まらないでください。屋外でエンジンをかけたまましばらく車を停止させる場合は、車内に新鮮な外気を取り入れるよう空調装置を調節してください。
- 適切なメンテナンスを行い、一酸化炭素に十分注意してください。メンテナンスで車がリフトアップされる毎に、必ず排気装置を点検してください。異常があれば、直ちに修理してください。修理が完了するまで、すべてのドア・ウインドウを完全に開けて運転するようにしてください。

(続き)

警告!

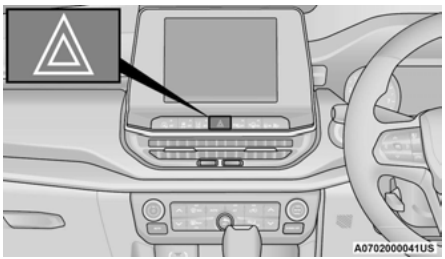
緊急時

非常点滅表示灯

非常点滅灯ボタンは、インストルメント・パネルの下部中央部にあります。

メモ：

この車両には、緊急停止信号（ESS）が装備されている場合があります ⇨ ページ 158。



非常点滅表示灯ボタン

非常点滅表示灯を点灯するには、ボタンを押します。ボタンを押すと、すべての方向指示器が点滅し、接近する周囲の車両に非常事態を知らせます。もう一度ボタンを押すと非常点滅灯は消灯します。

非常点滅灯は緊急時の警報システムです。走行中は使用しないでください。車両が走行不能になった場合、または他の車両の運転者に向けて安全上の非常警告を発信する場合にのみ、非常点滅灯を使用してください。

助けを呼びに車を離れる場合、イグニッションが「OFF」位置にあっても非常点滅表示灯は作動し続けます。

メモ：

非常点滅表示灯を使いすぎると、バッテリが放電がされることがあります。

ジャッキ・アップとタイヤ交換

警告!

- 車道側にあるタイヤの交換は行わないでください。ジャッキ操作やタイヤ交換は、作業中に事故に遭わないよう、車道から十分離れた安全な場所で行ってください。
- ジャッキで持ち上げられた車の下にいるのは危険です。車がジャッキからすべり落ち、押し潰される恐れがあります。ジャッキで持ち上げられた車の下には絶対に入らないでください。入る必要がある場合は、リフトが設置されているガソリン・スタンドなどをご利用ください。
- ジャッキで持ち上げた車のエンジンは始動させないでください。
- ジャッキはタイヤ交換専用の工具です。整備のために車を持ち上げる目的では使用しないでください。ジャッキを使用して車を持ち上げる場合は、固く平らな地面でのみ行ってください。凍結していたり、滑りやすい場所は避けてください。

ジャッキ作業の準備

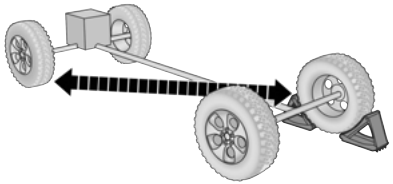
1. 車両をなるべく道路から離れた固く平らな場所に停車させます。凍結していたり、滑りやすい場所は避けてください。

   警告!

   車道側にあるタイヤの交換は行わないでください。ジャッキ操作やタイヤ交換は、作業中に事故に遭わないよう、車道から十分離れた安全な場所で行ってください。

2. 必要に応じて、車両後方に三角表示板を設置します。
3. 非常点滅表示灯を点灯します。
4. エレクトロニック・パーキング・ブレーキを作動させます。
5. ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」にします。
6. イグニッションを「OFF（オフ）」位置にします。

7. ジャッキで持ち上げるタイヤの対角線上に位置するタイヤの前後をブロックで輪留めします。たとえば、左フロント・ホイールを交換する場合は、右リヤ・ホイールをブロックで輪留めします。

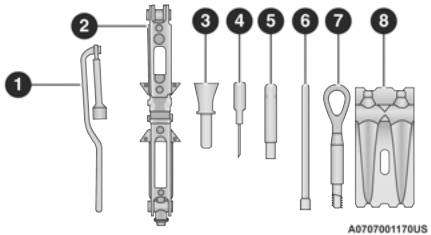


ブロックによるホイールの輪留め例

メモ：
車を持ち上げる時は、乗員に車から降りてもらってください。

ジャッキと工具の位置 - 5 シート車両

シザータイプのジャッキ・アップとタイヤ交換用工具は、リヤ・カーゴ・エリアにあるバッグに入っています。



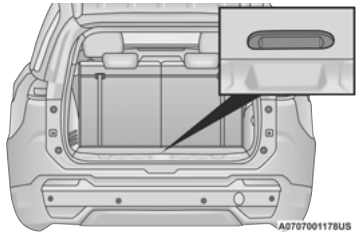
ジャッキと工具の説明

1 - ジャッキ・ハンドル／ホイール・ナット・ホイール・レンチ
2 - ジャッキ
3 - 緊急燃料ファネル
4 - ドライバ
5 - アライメント・ピン
6 - ホイール・レンチ・エクステンション
7 - けん引フック
8 - 輪留め（タイプ別装備）

ジャッキと工具の位置 - 7 シート車両

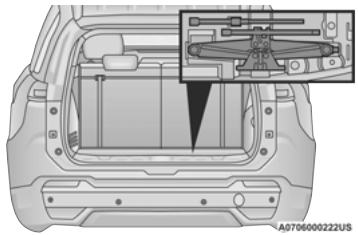
パンタグラフ・ジャッキおよびタイヤ交換用の工具は、リヤ・カーゴ・エリアのロード・フロアの下に収納されています。

1. リフトゲートを開けます。
2. ハンドルを使用してロード・フロアを持ち上げます。



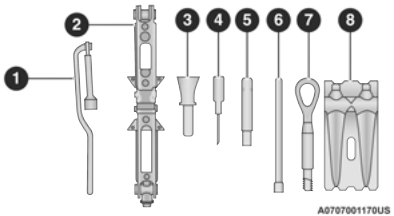
ラゲッジ・フロア・ハンドル

3. ジャッキと工具の収納部にアクセスします。
4. ジャッキと工具を取り外します。



ジャッキと工具の位置

5. ジャッキと工具の説明については以下を参照してください。



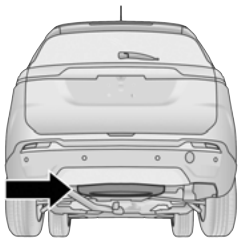
ジャッキと工具の説明

1 - ジャッキ・ハンドル／ホイール・ナット・ホイール・レンチ
2 - ジャッキ
3 - 緊急燃料ファネル
4 - ドライバ
5 - アライメント・ピン
6 - ホイール・レンチ・エクステンション
7 - けん引フック
8 - 輪留め（タイプ別装備）

スペア・ホイールの収納

車両には省スペースのスペア・ホイールが装備されています。スペア・ホイールは車両の他のホイールと同じ仕様またはサイズではないので、緊急時にのみ使用してください。詳細については、以下を参照してください ⇨ ページ 242

スペア・ホイールは、車両の後部下にケーブル・ウインチを使用して収納されています。スペア・タイヤの取り出しや収納には、正方形のソケット・エクステンションに接続したジャッキ・ハンドル／ホイール・ナット・レンチを使用して、「スペア・タイヤ・ドライブ」ナットを回転させます。このナットは、カーゴ・フロア・エリアの後部にあるプラスチック・カバーの下（リフトゲート開口部内側）にあります。



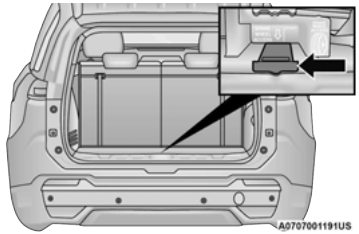
スペア・ホイールの位置

注意!
ウインチ機構は、ジャッキ・レンチ・エクステンション・ツールでの使用のみを想定して設計されています。エア・レンチまたは電動工具を使用すると、ウインチが破損する可能性があります。

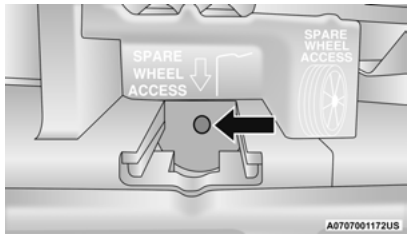
スペア・タイヤの取り外し

車両をジャッキ・アップしようとする前に、スペア・タイヤを取り外します。

1. 3 列目シートを平らになるまで下げます。リヤ・ロード・フロアを持ち上げて、スペア・タイヤ・ウインチに手が届くようにします。ストレージ・コンパートメントのウインチ穴アクセス・カバーを見つけて取り外し、ウインチ穴をむき出しにします。



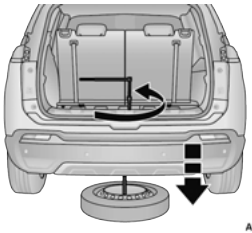
ウインチ・アクセス・カバーの位置



ウィンチ・ドライブ・ナットの位置

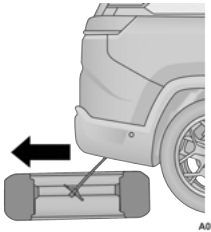
2. ジャッキ・ハンドル・エクステンションをウィンチ・ドライブ・ナットに取り付けます。ホイール・ナット・レンチとエクステンションを使用して、スペア・タイヤを完全に下げます。ウィンチが止まるまで、ハンドルを時計回りに回し続けます。

注意!
ウインチ機構は、ジャッキ・レンチ・エクステンション・ツールでの使用のみを想定して設計されています。エア・レンチまたは電動工具を使用すると、ウインチが破損する可能性があります。



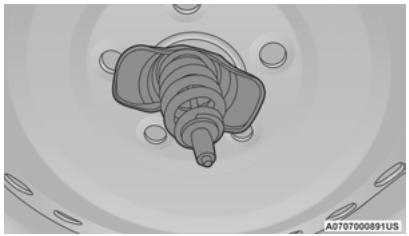
スペア・ホイールの下降

3. 車両の下からタイヤを滑らせて出し、リヤ・フェイシア／バンパの後方で回して直立させます。



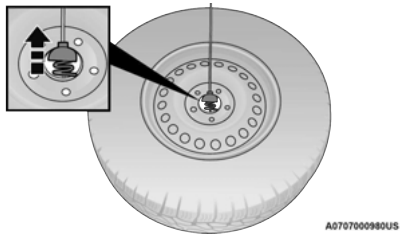
スペア・ホイールの取り外し

4. 金属製のリテーナを手前に引いて解除します。



スペア・タイヤ・リテーナ

5. リテーナをスチール・エクステンション・チューブとウィンチ・ケーブルの上に滑らせます。リテーナを回して、ホイールの穴を通して押し出します。



リテーナの解除

ジャッキ作業の手順

警告!
人身事故または物損事故を防ぐためにタイヤ交換時の警告に従ってください。 ● 車道脇からできるだけ離れた固く平らな地面に駐車してから、車を持ち上げるようにしてください。 ● 非常点滅表示灯を点灯します。 ● 持ち上げる車輪の対角線上に位置する車輪をブロックで輪留めします。 ● トランスミッションを「P（パーキング）」に入れ、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを作動させてください。 ● ジャッキで持ち上げた車両のエンジンは始動させないでください。 ● ジャッキで持ち上げられた車には人がいないようにしてください。

(続き)

警告!

- ジャッキで持ち上げられた車の下に入らないようにしてください。入る必要がある場合は、リフトが設置されているガソリン・スタンドなどをご利用ください。
- ジャッキは指定された位置に設置し、本車両を持ち上げてタイヤを交換する場合にのみ使用してください。
- 車道またはその近辺で作業を行う場合は、交通に十分注意してください。
- スペア・タイヤは空気圧の状態にかかわらず確実に固定されるように、バルブ・ステムを下向きにして収納する必要があります。
- ジャッキは緊急用の工具ですので、メンテナンスのために使用しないでください。ジャッキ・ハンドルを無理に回すと、ジャッキ・ハンドル・バーとジャッキの接続部が外れて車両を損傷する恐れがあります。ゆっくり、慎重に作業してください。



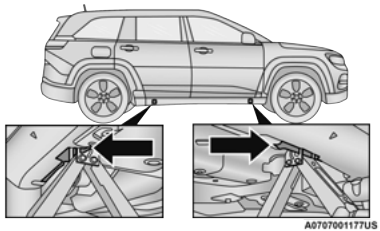
060600714

ジャッキ警告ラベル

1. ジャッキと必要な工具を取り外します。
2. ホイール・ボルトを覆うセンタ・キャップが付いているアルミ・ホイールが装着されている場合は、車両を上げる前にホイール・ナット・ホイール・レンチを使用して慎重にセンタ・キャップを外します。
3. 車両を上げる前に、ホイール・ナット・ホイール・レンチを使用してパンクしたタイヤのホイール・ボルトを緩めます。ただし、取り外さないでください。ホイールが地面に着いている状態で、ボルトを反時計回りに1回転させて緩めます。

メモ:

フロントおよびリヤのジャッキ配置場所は非常に重要です。正しいジャッキ位置については、下図を参照してください。



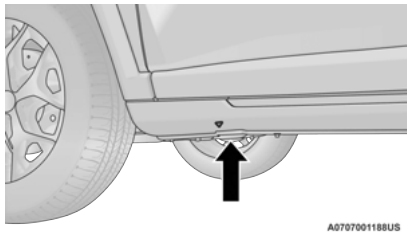
A0707001177US

リフト・ポイント

注意!

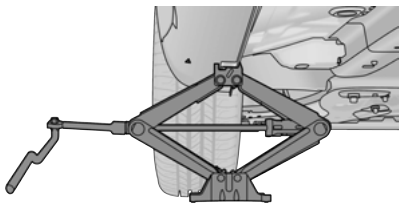
この車のジャッキ作業の手順で指定されている位置以外にジャッキを置いて車両を持ち上げないでください。

4. パンクしたタイヤになるべく近いリフト・ポイントの下にジャッキを置きます。ジャッキ・スクリュを時計回りに回して、ジャッキ・サドルとリフト・ポイントのシル・フランジがしっかりとはまるようにしてください。このとき、シルの凸部の切り込み部分の内側にジャッキ・サドルを合わせます。



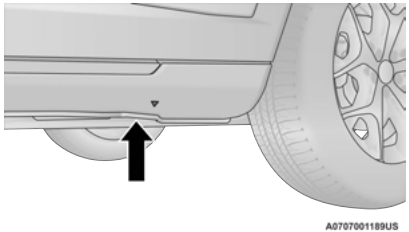
A0707001188US

フロント側ジャッキ・アップ・ポイント

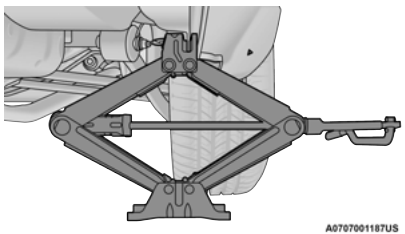


A0707001186US

フロント側ジャッキ位置



リヤ側ジャッキ・アップ・ポイント



リヤ側ジャッキ位置

5. 車体はパンクしたタイヤを取り外すために必要な高さだけ持ち上げてください。

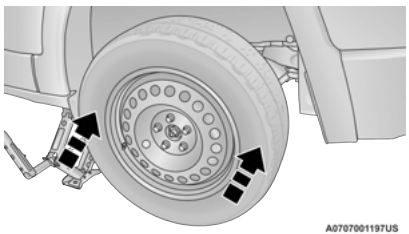
警告!

車体を必要以上に高く持ち上げると不安定になり、ジャッキからずり落ちるので危険です。車がジャッキから滑り落ちて、近くにいる人がけがをする恐れがあります。車体はタイヤを取り外すために必要な高さだけ持ち上げてください。

6. ホイール・ボルトとタイヤを取り外します。
7. アライメント・ピンをホイール・ハブにねじ込み、スペア・タイヤを取り付けます。
8. スペア・タイヤを取り付けます。

注意!

スペア・タイヤは、バルブ・ステムが外側にくるように取り付けてください。スペア・タイヤが正しく取り付けられていないと、車両が損傷することがあります。



スペア・タイヤの取り付け

メモ:

- センタ・キャップやホイール・カバーが装備されている場合、それらはコンパクト・スペアには取り付けないでください。
- スペア・タイヤとその使用方法、取り扱い方法などに関する他の警告、注意、情報については、⇨ ページ 237 を参照してください。

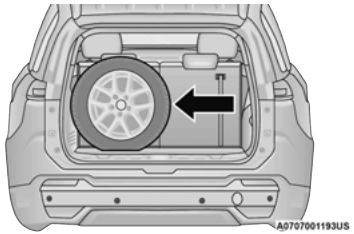
9. ホイール・ボルトを取り付け、軽く締めます。

警告!

カを加えると車がジャッキから滑り落ちる恐れがあるため、車体を降ろすまでホイール・ナットは完全に締め付けないでください。この警告に従わないと、重傷を負う恐れがあります。

10. ジャッキ・ハンドルを反時計回りに回して車両を降ろします。
11. ホイール・ボルトを締め付けます。力を加えやすいように、ハンドルの端を持ってレンチを押し下げます。ホイール・ボルトを対角順に 2 回に分けて締め付けます。トルク値が正しいかどうか不安な場合は、正規ディーラーまたはガソリン・スタンドで、トルク・レンチを使用して点検してください。
12. ジャッキが自由に動くまで下げます。輪留め用のブロックを取り外します。
13. 3 列目シートを後ろの最も低いリクライニング角度にリクライニングします。ジャッキおよび工具を収納部に戻します。

14. 損傷したタイヤを車両のリヤ・カーゴ・エリア内のストレージ・ビンに置きます（これにより走行中にタイヤが動かないようにします）。走行前にパーキング・ブレーキを解除します。



損傷したタイヤの収納

警告!

タイヤまたはジャッキが固定されていないと、衝突または急停止の際に前方へ投げ飛ばされ、乗員がけがをする危険性があります。ジャッキ部品およびスペア・タイヤは、必ず指定の場所に収納してください。空気の抜けた（パンクした）タイヤは、すぐに修理または交換してください。

15. 40km（25 マイル）走行後に、トルク・レンチを使用して、ホイール・ボルトのトルクを点検し、すべてのホイール・ボルトがホイールに正しく装着されていることを確認してください。

ジャンプ・スタート

バッテリが放電した場合には、ジャンパ・ケーブルを他の車両のバッテリに接続するか、補助バッテリを使用して、ジャンプ・スタートを行うことができます。ジャンプ・スタートは正しく行わないと危険です。このセクションの手順を遵守してください。

メモ：
補助バッテリを使用する場合は、メーカの取扱説明ならびに注意事項を遵守してください。

警告!

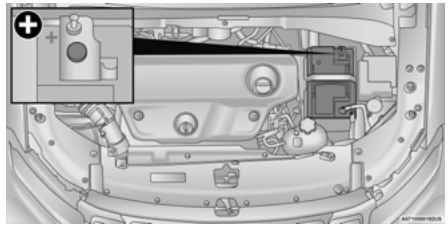
バッテリが凍結している場合は、ジャンプ・スタートを行わないでください。バッテリが破裂または爆発してけがをする恐れがあります。

注意!

12V を超える補助バッテリや他の補助電源を使用しないでください。使用した場合、バッテリ、スタータ・モータ、オルタネータ、または電気系統が損傷する恐れがあります。

ジャンプ・スタートの準備

バッテリは、エンジン・ルームの前方、左ヘッドライト・アッセンブリの後ろにあります。



バッテリのプラス（+）端子

メモ：
バッテリのプラス端子には保護キャップが付いています。端子の作業をするときは、キャップを持ち上げます。

注意!

- 車両の電子システムが損傷するおそれがあるため、エンジンを始動するときに、急速バッテリ充電器を使用しないでください。
- 電気系統への損傷を回避するため、ジャンプ・スタートの準備を行っている間は、すべてのドアと電動リフトゲート（タイプ別装備）が閉まっていることを確認します。

以下の手順を参照してジャンプ・スタートの準備を行います。

1. パーキング・ブレーキをかけ、オートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」位置（マニュアル・トランスミッションの場合は「N（ニュートラル）」）にシフトして、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にします。
2. ヒータ、ラジオなど、電装品をすべて OFF にします。

3. 他の車両のバッテリに接続してジャンプ・スタートを行う場合は、ジャンパ・ケーブルが届く位置に救援車両を停車してパーキング・ブレーキをかけ、必ずイグニッション・スイッチを「LOCK」位置にします。

警告!

アースがつながって、けがを負う恐れがあるので、車両同士が接触しないように注意してください。

警告!

- ボンネットが開いているときは、ラジエータの冷却ファンに触れないように気を付けてください。イグニッション・スイッチが ON になると、直ちに始動します。回転するファン・ブレードで、けがをする恐れがあります。
- 感電の恐れのある腕時計およびブレスレットなどの金属製装身具は外してください。重傷につながる恐れがあります。
- バッテリには、皮膚および目に触れるとやけどの原因となる硫酸が含まれています。また硫酸は、可燃性および爆発性の水素ガスを発生させる恐れもあります。バッテリの近くに火または火気を近づけないでください。

ジャンプ・スタートの手順

警告!

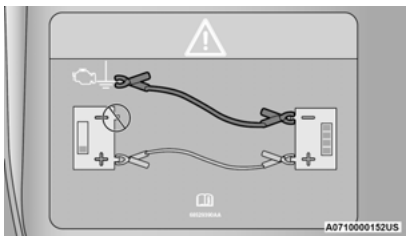
このジャンプ・スタート手順に従わないと、バッテリが爆発してけがを負うか、物損事故につながる恐れがあります。

注意!

この手順に従わないと、救援車両または故障車両の充電系統を損傷する恐れがあります。

ジャンパ・ケーブルの接続

1. ジャンパ・ケーブルのプラス(+)側を、故障車両のバッテリのプラス(+)端子に取り付けます。
2. プラス(+)のジャンパ・ケーブルのもう一方を、補助バッテリのプラス(+)端子に接続します。
3. ジャンパ・ケーブルのマイナス(-)側を、補助バッテリのマイナス(-)端子に取り付けます。
4. マイナス(-)のジャンパ・ケーブルのもう一方の端部を、エンジン・アースに正しく取り付けます。アースとは、アクセサリ・ブラケットや大径ボルトなどエンジン、フレーム、シャーシの露出した金属／未塗装の部分のことです。アースは、バッテリーや燃料噴射システムから離れていなければなりません。



適切なエンジン・アース(例)

警告!

放電したバッテリのマイナス(-)端子にジャンパ・ケーブルを接続しないでください。電気火花が発生するとバッテリが爆発してけがを負う恐れがあります。

5. 救援車のエンジンを始動させ、エンジンを数分間アイドリングします。次にバッテリが放電した車両のエンジンを始動します。
6. エンジンが始動したら、ジャンパ・ケーブルを逆の順序で取り外します。

ジャンパ・ケーブルの取り外し

1. ジャンパ・ケーブルのマイナス(-)側を、故障車両のエンジン・アース部から取り外します。
2. マイナス(-)ジャンパ・ケーブルの反対側を、補助バッテリのマイナス(-)端子から取り外します。
3. ジャンパ・ケーブルのプラス(+)側を、補助バッテリのプラス(+)端子から外します。
4. プラス(+)ジャンパ・ケーブルの反対側を、救援車両のバッテリのプラス(+)端子から外し、保護キャップを再度取り付けます。

ジャンプ・スタートを頻繁に行う必要がある場合は、正規ディーラーでバッテリおよび充電系統の点検を受けてください。

注意!

車両の電源コンセントに接続するタイプのアクセサリ(携帯機器など)は、使用していなくてもバッテリ電源を消耗します。エンジンがかかっていない状態で長時間

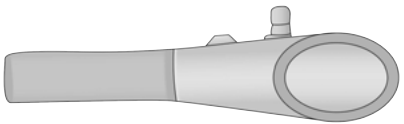
(続き)

注意!

プラグを差し込んだままにしておくと、車のバッテリが放電してバッテリの寿命を縮めたり、エンジン始動に支障をきたすことがあります。

緊急時の給油

この車両には、キャップレス・フューエル・システム用の緊急給油ファネルが装備されています。フューエル・ファネルは、リヤ・カーゴ・エリアのロード・フロアの下にあります。認定ガソリン缶を使用中に給油が必要な場合、給油ファネルをフィラ・ネック開口部に挿入してください。こぼれないように注意して、ファンネルで両方のフラッパを開けてください ⇨ ページ 128。



給油ファネル

メモ :

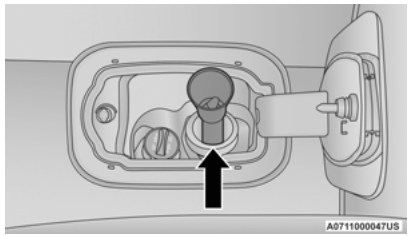
ある程度の低温条件では、給油口リッドが凍りついて開かない場合があります。こうした場合、給油口リッドを軽く押して蓄積した氷を砕き、室内のリリース・ボタンを使用して給油口リッドを再び解除してください。リッドをこじ開けないでください。

緊急用ガソリン缶での給油

ほとんどのガソリン缶では、フラッパ・ドアは開きません。緊急時にガソリン缶から給油できるように、ファネルが用意されています。

給油については次の手順を参照してください。

1. リヤ・カーゴ・ストレージ・スペースからファネルを取り出します ⇨ ページ 200。
2. 給油ノズルと同じように、ファネルを給油パイプの開口部に差し込みます。



ファネルの挿入

3. ファネルがいっぱいに差し込まれ、フラッパ・ドアが開いた状態に保持されていることを確認します。
4. 燃料をファネル開口部に注ぎます。

注意!

ガソリンが飛び散ったり溢れたりしないように、給油の際には燃料タンクの給油口いっぱいまでガソリンを入れないでください。

5. ファネルを給油パイプから取り外し、きれいに清掃してからスペア・タイヤ収納部に戻します。

警告!

- フューエル・リッドが開いているときやタンクに給油しているときには、決して車内や車周辺にタバコなどの火気を近づけないでください。
- エンジン作動中は、絶対に給油しないでください。これはほとんどの国で違法であるため、この行為を行うと、「エンジン警告灯」が点灯します。
- 車内に置かれた携帯用容器に直接燃料を給油すると火事の原因になり、やけどをする恐れもあります。給油中はガソリン容器を車外に出し、地面に置いてください。

注意!

ディーゼル・エンジンの場合、EN 590 欧州仕様に従って、自動車用のディーゼル燃料のみ使用してください。他の製品や混合燃料を使用すると、修理できる範囲を超えてエンジンが損傷し、発生した損傷によって保証が無効になる恐れがあります。誤って他の種類の燃料をタンクに入れてしまった場合、エンジンを始動させないでください。タンクから燃料を完全に抜いてください。ごく限られた時間であってもエンジンを作動させてしまった場合は、燃料タンクから燃料を抜くだけではなく、それ以外の供給回路からも燃料を抜く必要があります。

エンジンがオーバーヒートした場合

車両がオーバーヒートしている場合は、正規ディーラーでの整備が必要です。

車両オーバーヒートの潜在的な兆候として、次のものが挙げられます。

- 水温計が「H（高温）」
- クーラントの強いにおい
- エンジンや排気系からの白煙
- クーラント・ボトルのクーラントに泡がある

警告!

ラジエータから出る高温のエンジン・クーラント（不凍液）または蒸気でやけどを負う恐れがあります。ボンネットの下から蒸気が見える、または音がする場合は、ラジエータが冷えるまでボンネットを開けないでください。ラジエータやクーラント・ボトルが熱い時は、絶対にラジエータ・キャップを開けないでください。

水温計が「H（高温）」位置に向かって動いているか、近くにある状況が見られる場合、適切に対応することでオーバーヒートになる可能性を低減できます。

- 高速道路走行時 – 速度を抑えてください。
- 市街地走行時 車両を停止させている間は、ブレーキで車両を停止させながら、シフト・レバーを「N（ニュートラル）」に入れてください。エンジンのアイドリング回転数は上げないでください。
- エアコン（A/C）をオフにします。A/C システムは、エンジンの冷却装置を加熱させる作用があり、OFF にすることにより、この熱を除去できます。
- 温度コントロールをヒーター最大に、ファン・スピード・スイッチを高速にします。これによってヒータ・コアがラジエータの補助として作動し、エンジン冷却装置の熱を取り除く手助けをします。

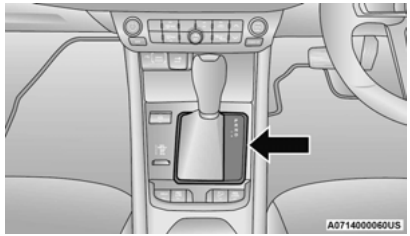
注意!

冷却装置が過熱した状態で運転すると、車が損傷することがあります。水温計が「H」（HOT）を示している場合は、車を路肩に寄せ、停止させてください。エア・コンディショナを切り、針が通常温度範囲に下がるまでアイドリングします。針が「H」を指したままチャイムが鳴り続ける場合は、直ちにエンジンを止めて正規ディーラーに連絡してください。

ギヤ・セレクタ・オーバーライド

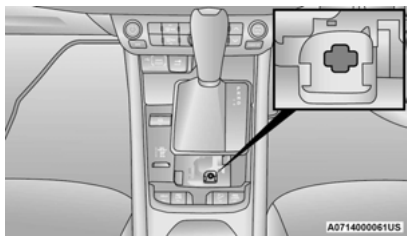
故障が発生し、ギヤ・セレクタを「P（パーキング）」位置から動かせない場合は、以下の手順を使用して一時的にギヤ・セレクタを動かすことができます。

1. エンジンを停止します。
2. パーキング・ブレーキをかけます。
3. ギヤ・セレクタ後方のブーツをつかんで引き上げ、センタ・コンソールからギヤ・セレクタ・ベゼルとブーツ・アッセンブリを慎重に離します。



ギヤ・セレクタ・ベゼル

4. ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだままにします。
5. ギヤ・セレクタ・アッセンブリの右後ろ隅にあるギヤ・セレクタ・オーバーライド・アクセス・ホールにドライバなど小型工具を入れて、オーバーライド・リリース・レバーを下に押し続けます。



ギヤ・セレクタ・オーバーライド・アクセス・ホール

6. ギヤ・セレクタを「N（ニュートラル）」位置に動かします。
7. エンジンは「N（ニュートラル）」位置で始動できます。
8. ギヤ・セレクタ・ブーツを取り付けなおします。

スタックからの脱出

泥、砂、または雪の中で動きが取れない場合、車を前後に揺り動かすと脱出できることがよくあります。ステアリング・ホイールを左右に回して、フロント・タイヤ周辺から障害物を取り除きます。オートマチック・トランスミッション装備車の場合、ギヤ・セレクタのロック・ボタンを押し続けます。次に、アクセル・ペダルを少し踏み込みながら、「D（ドライブ）」と「R（リバース）」（オートマチック・トランスミッションの場合）の間、または 2 速ギヤと「R（リバース）」（マニュアル・トランスミッションの場合）の間でシフトをくり返します。

メモ：

オートマチック・トランスミッション装備車の場合、「D（ドライブ）」と「R（リバース）」間のシフトは、ホイール速度が 8km/h（5mph）以下でのみ可能です。トランスミッションが 2 秒間を超えて「N（ニュートラル）」に入っている場合は、必ずブレーキ・ペダルを踏んで「D（ドライブ）」または「R（リバース）」に入れなければなりません。

タイヤを空転させたり、エンジンを空吹かししないで車両を前後に揺り動し続けることができるように、少しだけアクセル・ペダルを踏みます。

警告!

タイヤの高速空転は危険です。過度のホイール回転速度によって生じる力でアクスルおよびタイヤの破損または故障が発生する恐れがあります。タイヤが破裂し、人にけがを負わせる場合もあります。ぬかるみなどで動かなくなった場合は、車のタイヤを 48km/h（30mph）を超える速度で、または 30 秒以上連続して空転させないでください。また、回転速度に関係なく、空転しているタイヤ付近に人が近づかないようにしてください。

メモ：

車両を揺り動かす前に、必要に応じて、「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンを押し、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）システムを「パーシャル OFF」モードに切り替えます ⇨ ページ 159。車両がスタックから脱出したら、「ESC OFF（ESC オフ）」ボタンをもう一度押して、「ESC ON」モードに戻します。

注意!

- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障の原因になる恐れがありま

（続き）

注意!

す。この前後に揺する動きを 5 回行う度に、トランスミッションを「N（ニュートラル）」に入れて、1 分以上、エンジンをアイドリングさせてください。これにより、立ち往生した車を長時間かけて脱出させる場合に、クラッチやトランスミッションが過熱したり、故障したりする危険性を低減します。

- 立ち往生した車を、「D（ドライブ）」/2 速ギヤと「R（リバース）」を交互にシフト・チェンジしながら「揺り動かして」スタック状態から脱出させる場合、24km/h（15mph）以上の速度で車輪を回転させないでください。駆動装置が破損する恐れがあります。
- エンジンの高回転やタイヤの空転は、トランスミッションの過熱および故障につながる恐れがあります。また、タイヤの損傷の原因にもなります。ギヤを入れた状態で 48km/h（30mph）を超える速度でタイヤを空転させないでください（トランスミッションは変速しません）。

走行不能車両のけん引

このセクションでは、走行不能車両を一般のけん引サービスを使用してけん引する手順について説明します。

けん引の条件	地面から離れている車輪	FWD モデル	4x4 モデル
4 輪すべてが地面に着いている状態でけん引	なし	禁止	禁止
ホイール・リフト装置またはけん引用台車	リヤ	禁止	禁止
	フロント	可能	禁止

けん引の条件	地面から離れている車輪	FWD モデル	4x4 モデル
フラットベッド	すべて	**最適な方法**	**最適な方法**

車両の損傷を防ぐには、適切なけん引またはリフト装置を使用する必要があります。専用のけん引バーおよび他の装置のみを装置メーカの指示に従って使用してください。必ず安全チェーンを使用します。けん引バーまたは他のけん引装置を、車両の主要構造部材に取り付けます。フェイシア／バンパや関連するブラケットには取り付けないでください。車両のけん引に関する法令を遵守してください。

メモ：

- 車両けん引時には、不用意にエレクトロニック・パーキング・ブレーキが作動しないように、自動パーキング・ブレーキ機能が解除されていることを必ず確認してください。自動パーキング・ブレーキ機能は、「Uconnect Settings（Uconnect の設定）」のユーザー選択機能で有効または無効にすることができます。
- バッテリが放電した車両、またはエレクトロニック・パーキング・ブレーキ（EPB）が作動しているときに電気系統全体に及ぶ不具合が発生した車両をフラットベッドに載せるには、けん引用台車またはジャッキを使用して後輪を持ち上げる必要があります。

けん引中にアクセサリ（ワイパ、デフロスタなど）の使用が必要な場合、イグニッションは「ON/RUN（オン／走行）」モードにしてください。

運転席ドアが開いていると（バッテリが接続され、イグニッションが「ON」位置にあり、トランスミッションが「P（パーキング）」に入っておらず、ブレーキ・ペダルが踏まれていない場合）、常にセーフホールド機能が作動するので注意してください。イグニッションを「ON/RUN（オン／走行）」モードにしてこの車両をけん引する場合、運転席ドアを開けるたびにブレーキ・ペダルを踏み、EPB を解除して、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを手動で無効にする必要があります。

車両のバッテリが放電してしまった場合、車両を動かせるようにオートマチック・トランスミッションを「P（パーキング）」からシフトする手順について、⇨ ページ 209。

注意!

- けん引時は、スリング・タイプの装備を使用しないでください。車両が損傷する恐れがあります。
- 車両をフラット・ベッド・トラックに固定する場合は、フロントまたはリヤ・サスペンション構成部品で固定しないでください。不適切にけん引すると、車両を損傷する恐れがあります。
- けん引中は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを解除し、解除された状態が維持されていることを確認してください。
- フェイシア／バンパ取り付けのクランプ式けん引バーはこの車に取り付けないでください。フェイシア／バンパ・フェース・バーが損傷します。

イグニッション・キー・フォブがない場合

イグニッションをオフ・モードにして車をけん引する場合は、特別な注意が必要です。キー・フォブがない場合、フラット・ベッド・トラックを使用する以外のけん引方法は認められません。車両への破損を防ぐには、適切なけん引装備を使用する必要があります。

前輪駆動車（FWD）モデル - キー・フォブ付き

FCAIO では、フラットベッドを使用し、4 輪すべてを**地面に接触させない**でけん引することを推奨します。

フラットベッド装置を利用できない場合は、車両は必ず前輪を**持ち上げて**（けん引用台車またはホイール・リフト装置を使用して前輪を持ち上げた状態で）けん引してください。

けん引中は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを解除し、解除された状態が維持されていることを確認してください。4 輪がすべて接地して**いない**場合は、エレクトロニック・パーキング・ブレーキを解除する必要はありません。

注意!

上記の要件に反してこの車両をけん引すると、エンジンやトランスミッションに重大な損傷が発生する恐れがあります。不適切なけん引によって生じた損傷は、新車保証の対象とはなりません。

4X4 モデル

FCAIO では、必ず 4 つの車輪すべてを**持ち上げて**けん引することを推奨しています。

けん引の正しい方法は、車両をフラットベッド・トラックに載せるか、または車両の片方を持ち上げ、もう片方をけん引用台車に載せて行います。

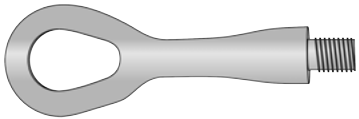
注意!

- 残りのホイールが接地している状態で、フロントまたはリヤ・ホイール・リフトは使用しないでください。けん引時にフロントまたはリヤ・ホイール・リフトを使用すると、トランスミッションまたはトランスファ・ケースの内部を損傷します。
- 上記の要件に反してこの車両をけん引すると、トランスミッションやトランスファ・ケースに重大な損傷が発生する恐れがあります。不適切なけん引によって生じた損傷は、新車保証の対象とはなりません。
- 車両の損傷を防ぐには、適切なけん引またはリフト装置を使用する必要があります。専用のけん引バーおよび他の装置のみを装置メーカの指示に従って使用してください。
- 必ず安全チェーンを使用します。けん引バーまたは他のけん引装置を、車両の主要構造部材に取り付けます。フェイシア／バンパや関連するブラケットには取り付けないでください。

けん引フックの使用法

この車両には、走行不能車両の移動に使用できるけん引フックが装備されています。

けん引フックを使用するときは、次の注意事項に従ってください。



A0717000043US

けん引フック

けん引フックの使用上の注意事項

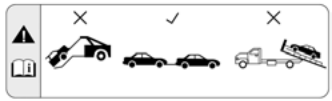
注意!

- けん引フックを車両にしっかりと固定し、車両を安全にフラット・ベッド・トレーラに積載する必要があります。車両をトレーラへ積載しているときに損傷しないよう、車両とフラット・ベッド・トレーラは平坦面に置く必要があります。
- けん引フックは道路上で発生した緊急の場合にのみ使用してください。交通規則に従った適切なデバイス(リジッド・バーまたはロープ)を用いて、けん引トラックによる輸送準備のため車両を操作します。
- けん引フックは、車両を道路以外または障害物のある場所に移動するのに使用しないでください。
- けん引フックをけん引トラックでの吊り上げ、または高速道路でのけん引には使用しないでください。
- 立ち往生した車を脱出させる場合は、けん引フックを使用しないでください。

(続き)

注意!

- これらのガイドラインに従わない場合、車両を損傷する恐れがあります。



0614050352

けん引フック警告ラベル

警告!

けん引フックでけん引する場合は、車両から離れてください。

- けん引フックでのけん引には、チェーンを使用しないでください。チェーンが切れて、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- けん引フックでのけん引には、けん引ストラップを使用しないでください。ストラップが切れる、または外れて、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 正しいけん引フックの使用方法に従わないと、構成部品が破損し、重傷または死亡事故につながる恐れがあります。
- 車両がけん引されている間は、ブレーキおよびステアリング・パワー・アシスト・システムは機能しません。したがって、より大きな力をブレーキ・ペダルお

(続き)

警告!

よびステアリング・ホイールに加える必要があります。けん引の際には柔軟なロープは使用せず、急激な動きは避けてください。車両をけん引しているときは、エンジンを始動しないでください。リングを締め付ける前に、ネジ付きハウジングをしっかり清掃してください。車両をけん引する前に、リングがハウジングに完全にネジ留めされていることを確認してください。

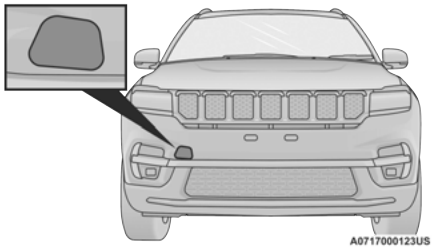
けん引フックの取り付け

フロントけん引フック

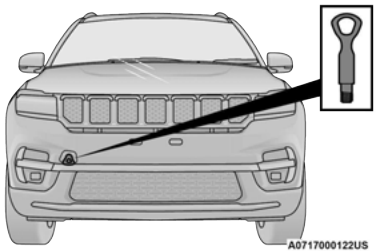
フロントけん引フックのソケットは、フロント・フェイシア／バンパの助手席側にある小さなアクセス・カバーの裏にあります。

けん引フックを取り付けるには、車両のキーまたは小さいドライバを使用してカバーを開けます。けん引フックをソケットにねじ込み、完全に締め付けられていることを確認します。

けん引フックは、フロント・バンパー内部のブラケットにしっかりと取り付けてください。けん引フックがブラケットにしっかりと取り付けられていない場合、車両を移動させないでください。



フロントけん引フック・アクセス・ドア



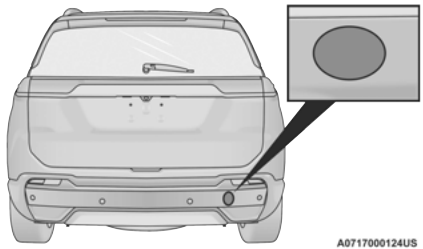
フロントけん引フックを取り付けた状態

リヤけん引フック

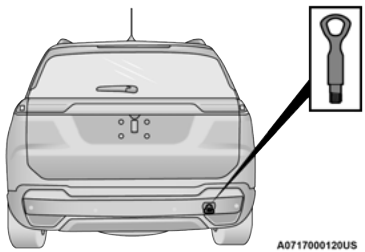
リヤけん引フックのソケットは、リヤ・フェイシア／バンパの助手席側にある小さなアクセス・カバーの裏にあります。

けん引フックを取り付けるには、車両のキーまたは小さいドライバを使用してカバーを開けます。けん引フックをソケットにねじ込み、完全に締め付けられていることを確認します。

けん引フックは、フロント・バンパー内部のブラケットにしっかりと取り付けてください。けん引フックがブラケットにしっかりと取り付けられていない場合、車両を移動させないでください。



リヤけん引フック・アクセス・ドア



リヤけん引フックの位置

高度事故時反応システム（EARS）

この車両には、高度事故時反応システムが搭載されています。

この機能は衝突時に有効になる通信ネットワークです ⇨ ページ 185。

事象データ・レコーダ（EDR）

この車は、事象データ・レコーダ（EDR）を装備しています。EDR の主な目的は、衝突または衝突に近い状況（エアバッグの展開または道路の障害物に当たるなど）が起こった際、車両のシステム作動状況を把握するのに役立つデータを記録することです ⇨ ページ 187。

緊急装備 – タイプ別装備

車両のグレードによっては、次の緊急装備が備えられている場合があります。

- 赤色緊急信号灯
- 三角停止表示板

赤色緊急信号灯

赤色緊急信号灯（懐中電灯タイプ）が装備されている場合、運転席側か助手席側のドア・ポケット内にあります。この信号灯は、昼夜を問わず後続車両への警告に使用することができます。この信号灯は、緊急の目的でのみ使用してください。

使用方法

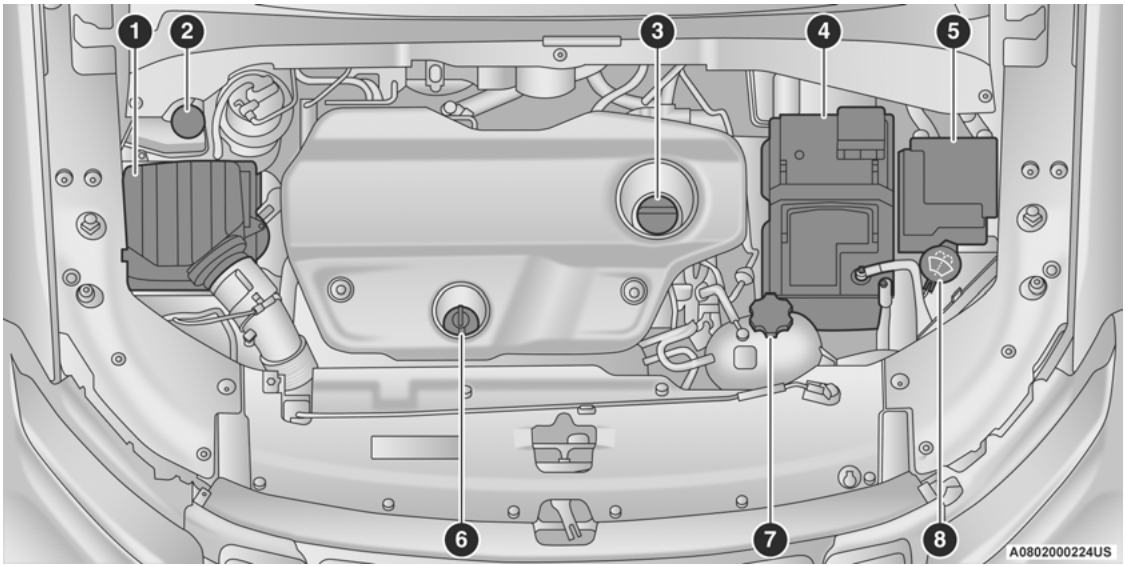
1. 底部（発光部の反対側）を反時計回りに回すと、赤色灯が点滅します。
2. さらに反時計回りに回すと、底部が外れて電池を取り出すことができます。
3. 底部を時計回りいっぱいに回すと点滅が止まります。
4. この信号灯には底部に磁石が埋め込まれており、金属面に取り付けることができます。

注意!
● エマージェンシ・ライト・マグネットをスライドさせると、車体が傷つきます。 ● エマージェンシ・ライトを車体に取り付けたまま車両を運転しないでください。

整備およびお手入れ

エンジン・ルーム

2.0L ディーゼル・エンジン



1 - エンジン・エアクリーナ、フィルタ
2 - ブレーキ・フルード・リザーバ・キャップ
3 - エンジン・オイル・フィラ
4 - バッテリ
5 - パワー ディストリビューション・センタ(ヒューズ)
6 - エンジン・オイル・レベル・ゲージ
7 - エンジン・クーラント・リザーバ圧力キャップ
8 - ウォッシャ・フルード・リザーバ・キャップ

オイル・レベルの点検

エンジンを適切に潤滑するためには、エンジン・オイルを適切なレベルに保つ必要があります。オイルのレベルを、燃料補給の度など定期的な間隔で点検してください。エンジン・オイル・レベルを点検するのに最適なのは、十分に暖機したエンジンを停止してから約 5 分後です。

車が水平な場所にあるときにオイルを点検すると、オイル量の測定精度が増します。

レベル・ゲージには次の 4 種類があります。

- 範囲マークが網目模様。
- 範囲マークが網目模様で「SAFE（安全）」とマークされている。
- 範囲マークが網目模様で、範囲の一番下に「MIN（最低）」とマークされ、範囲の一番上に「MAX（最高）」とマークされている。
- 範囲マークが網目模様で、範囲の「MIN（最低）」と「MAX（最高）」の端にくぼみがマークされている。

メモ：

オイル・レベルは常にレベル・ゲージの網目模様の範囲内を保つようにしてください。

読み取り値がレベル・ゲージ範囲マークの一番下の位置にあるときにオイルを 1.0L（1qt）加えると、オイル・レベルが範囲マークの一番上までいっぱいになります。

注意!

クランクケースへ補充が多すぎる、または少なすぎると、空気混入や油圧不足を招きます。これによりエンジンを損傷することもあります。

ウォッシャ液の補給

ウォッシャ液リザーバは、エンジン・ルーム前方にあります。ウォッシャ液リザーバの液量を定期的に点検してください。リザーバにフロントウィンドウ・ウォッシャ液（ラジエータ不凍液ではなく）をいっぱいまで注ぎ、システムを 2 ～3 秒機能させて、残っているウォッシャ液を使い切ります。

ウォッシャ液リザーバを補充する際に、ウォッシャ液を布またはタオルに少し付けてワイパ・ブレードを拭くと、ブレードの性能が向上します。

寒冷時のフロントウィンドウ・ウォッシャ・システムの凍結を防ぐには、お住まいの気候の気温範囲に適合するか、またはそれ以上の気温範囲に対応する液または混合液を選択してください。この規格情報は、ほとんどのウォッシャ液の容器に記載されています。

警告!

市販のフロントウィンドウ・ウォッシャ液は可燃性です。点火して、やけどをする恐れがあります。ウォッシャ液の補充または周辺での作業には特に注意してください。

メンテナンス・フリー・バッテリ

この車には、メンテナンス・フリー・バッテリが装備されています。水の補充や定期的なメンテナンスは必要ありません。

警告!

- 液量の少ないバッテリを使用すると、修復不能なほどバッテリを損傷し、爆発を招くことがあります。

(続き)

警告!

- バッテリに対して、またはその近くで作業をする場合、必ず保護メガネを着用して目を保護してください。
- バッテリには、環境にとって非常に危険な物質が含まれています。バッテリの交換については、正規ディーラーにお問い合わせください。
- バッテリ液は腐食性のある希硫酸なので、やけどや失明の恐れがあります。バッテリ液が目、皮膚または衣服に付かないようにしてください。クランプを取り付けるときには、バッテリの上にかがみ込まないでください。万一バッテリ液が目に入ったり皮膚に付いたりしたときには、大量の水で直ちに洗い流してください。
- バッテリから発生するガスは可燃性で爆発性があります。バッテリの近くに火または火気を近づけないでください。12V を超える電圧の補助バッテリや他の補助電源は使用しないでください。ケーブル・クランプ同士が接触しないようにしてください。
- バッテリ端子、その他のバッテリ部品には鉛および鉛の化合物が含まれます。バッテリを取り扱った後は、手を洗ってください。

注意!

- バッテリのケーブルを交換するときは、必ずプラス・ケーブルをプラス（+）端子に、マイナス・ケーブルをマイナス（-）端子に取り付けてください。バッテリ・ケース上にあるバッテリ・ポストには、プラス（+）およびマイナス（-）のマークが付けられ、識別することができます。ケーブル・クランプを端子にしっかりと固定し、腐食を防いでください。

(続き)

注意!

- バッテリを車に搭載したまま「急速充電器」を使用する場合、充電器をバッテリに接続する前に車の両方のバッテリ・ケーブルを切り離してください。車両の始動に「急速充電器」を使用しないでください。

高圧洗浄

エンジン・ルームを高圧ウォッシャで洗浄することはお勧めしません。

注意!

すべての部品および接続部を保護するように注意が施されていますが、これらの機械による圧力による水の侵入から完全に保護できる保証はありません。

車両のメンテナンス

正規ディーラーでは、あらゆる整備に高度な技術で対応するために、資格を持った整備士、専用工具および装置を用意してお待ちしております。整備に関する情報を詳細に記載したサービス・マニュアルも用意しております。ご自分で整備を試みられる前に、サービス・マニュアルを参照してください。

メモ:
排気装置を故意に改造すると、保証が無効になることがあり、また法律で罰せられることがあります。

警告!

車や車の周りでの作業は、大けがをする危険を伴います。お客様ご自身での整備は、整備についての正しい知識と適切な器具のある場合に限り行ってください。整備に自信がない場合は、資格のある整備士に整備をご依頼ください。

エンジン・オイル

エンジン オイルの選択

エンジン・オイルの選択については、⇨ ページ 251。

American Petroleum Institute（API）認定エンジン・オイル

これらのシンボルは、オイルが API に認定されていることを示すものです。当社は、API 商標の付いたオイルのみの使用を推奨いたします。



API Starburst 商標は、0W-20、0W-30、および 5W-30 の各エンジン・オイルを認定します。



API Donut 商標は 0W-40 および 5W-40 のエンジン・オイルを認定します。

注意!

エンジン・オイルには、化学洗浄剤は使用しないでください。化学洗浄剤によりエンジンを損傷する恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。

合成エンジン・オイル

エンジンは合成エンジン・オイルを使用するように設計されています。合成 API 認定エンジン・オイルのみご使用ください。

適正な API 商標と適正な SAE 粘度グレード番号の両方がついていない合成エンジン・オイルは使用しないでください。

エンジン・オイルの添加剤

当社は、オイル漏れ検出用の染料を除き、エンジン・オイルへの添加剤の注入は推奨しません。エンジン・オイルは加工製品であり、補助的な添加剤によって性能が劣化する可能性があります。

使用済みエンジン・オイルおよびオイル・フィルタの廃棄

使用済みエンジン・オイルおよびオイル・フィルタの廃棄には注意が必要です。使用済みオイルおよびオイル・フィルタを無分別に廃棄すると環境問題につながります。使用済みオイルおよびオイル・フィルタをお住まいの地域で安全に廃棄する方法と場所については、お近くの正規ディーラー、ガソリン・スタンド、または行政機関にお問い合わせください。

エンジン・オイル・フィルタ

エンジン・オイル・フィルタは、オイル交換と同時に新しいフィルタと交換してください。

エンジン・オイル・フィルタの選択

交換用としては、使い捨てのフルフロー型オイル・フィルタを使用してください。交換フィルタの品質は大きく異なります。Mopar®認定高品質フィルタのみをご使用ください。Mopar®エンジン・オイル・フィルタが使用できない場

8

合は、必ず SAE/USCAR-36 のフィルタ性能要件以上に合致するフィルタを使用してください。

エンジン・エア・クリーナフィルタ

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

警告!

エア・インダクション・システム（エア・クリーナ、ホースなど）は、エンジンがバックファイヤを起こしたときに保護する機能があります。修理またはメンテナンスが必要な場合を除き、エア・インダクション・システム（エア・クリーナ、ホースなど）は外さないでください。エア・インダクション・システム（エア・クリーナ、ホースなど）を外した状態でエンジンを始動する際は、エンジン・ルームの近くに人がいないことを確認してください。確認を怠ると、大けがにつながる恐れがあります。

エンジン・エアクリーナ・フィルタの選択

交換フィルタの品質は大きく異なります。Mopar®認定高品質フィルタのみをご使用ください。

エアコンのお手入れ

エアコンが最高の性能を発揮するために、夏季の前には正規ディーラーでの点検整備を受けてください。その際には、コンデンサ・フィンの清掃および性能の点検も行ってください。同時に、ドライブ・ベルトの張りも必ず点検してください。

警告!

- エアコン・システムには当社が認可した冷媒およびコンプレッサ潤滑油のみを使用してください。認可されていない冷媒には可燃性のものがあり、爆発してけがをする恐れがあります。その他の認可されていない冷媒やコンプレッサ潤滑油を使用すると、システムを破損して、高額の修理費が必要になる場合があります。
- エアコン・システムには高圧の冷媒が使用されています。人身事故やシステムの損傷を防ぐため、冷媒補充やシステムの配管を切り離す必要がある整備は必ず資格のある整備士に依頼してください。

注意!

エアコン・システムには、化学洗浄剤は使用しないでください。化学洗浄剤によりエアコンの部品が損傷する恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。

冷媒（R-1234yf）の回収とリサイクル - タイプ別装備

R-1234yf エアコン冷媒は、ハイドロフルオロオレフィン（HFO）であり、米国環境保護局が推奨する地球温暖化係数の小さいオゾン保護物質です。当社では、回収およびリサイクル（再生利用）設備の整った正規ディーラーでエアコンの整備を行うことをお勧めしています。

メモ：

当社が認可したエアコン・システム PAG コンプレッサ・オイルおよび冷媒のみを使用してください。

室内エア・フィルタ

正規ディーラーで整備を受けてください。

ボディ系の潤滑

シート・レール、ドア・ヒンジの開閉部およびローラ、リフトゲート、テールゲート、デッキ・リッド、スライディング・ドア、およびボンネット・ヒンジなどの部品を含め、ロック部やボディの開閉部は、Mopar®スプレー・ホワイト・グリースなどのリチウムベースのグリースを使用して定期的に潤滑する必要があります。これにより静粛性や操作性が向上し、錆や摩耗を防ぐことができます。潤滑油を塗布する前は、関連部品をきれいに拭いて埃やごみを取り除き、塗布後は余分なオイルやグリースを取り除いてください。また、ボンネット・ラッチ部品には特に注意し、適切に機能することを確認してください。他のエンジン・ルームの点検整備を行う場合、ボンネット・ラッチ、リリース・メカニズムおよび安全装置をきれいにして潤滑する必要があります。

外部ロック・シリンダは、年に 2 回程度（春と秋）潤滑を行ってください。Mopar®ロック・シリンダ・オイルなどの高品質の潤滑油を少量ロック・シリンダに直接塗布します。

ワイパ・ブレード

研磨剤の入っていない洗剤と柔らかい布またはスポンジで、定期的にワイパ・ブレードのゴム製エッジとフロントウィンドウおよびリヤ・ウィンドウを掃除してください。これによって付着した塩分や油膜などを取り除き、視界を良好に保てます。

表面が乾いた状態のフロントウィンドウで長時間ワイパを作動させると、ワイパ・ブレードが劣化する恐れがあります。乾いたフロントウィンドウまたはリヤ・ウィンドウからワイパで塩分や汚れを取り除く場合は、必ずウォッシャ液を使用してください。

フロントウィンドウまたはリヤ・ウィンドウの霜または氷の除去には、ワイパ・ブレードを使用しないでください。ブレードの損傷を避けるため、動かす前にワイパ・ブレードがガラスに凍り付いていないか確認してください。ワイパ・ブレードのゴム部分にはエンジン・オイルやガソリンなどの石油製品を付着させないでください。

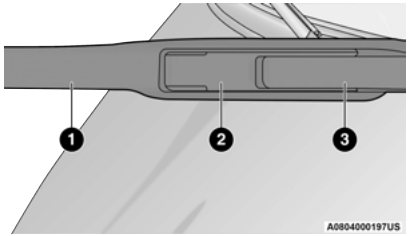
メモ：

ワイパ・ブレードの寿命は、地理的条件や使用頻度によって異なります。ブレードの性能が低下すると、カタカタ音、マーク、スジ、または拭きむらが発生します。このような状態が見られたら、ワイパ・ブレードを清掃するか、必要に応じて交換してください。

ワイパ・ブレードの取り外し／取り付け

注意!
ワイパ・ブレードを所定の位置にしない状態で、ワイパ・アームをウィンドウに勢いよく戻さないでください。ウィンドウが損傷するおそれがあります。

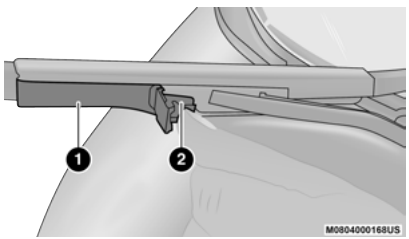
1. ワイパ・アームが一番上の位置になるまで、ワイパ・アームを持ち上げてワイパ・ブレードをガラスから上げて離します。



フロントウィンドウ・ワイパ・アーム

1 - ワイパ
2 - ロッキング・タブ
3 - ワイパ・アーム

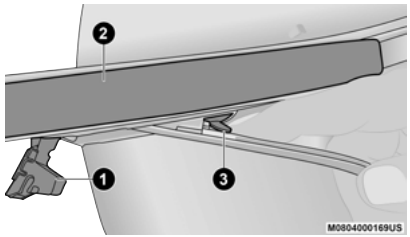
2. ワイパ・ブレードをワイパ・アームから切り離すには、ロッキング・タブをはね上げます。



ワイパ・ロッキング・アセンブリ

1 - ワイパ
2 - ロッキング・タブ

3. ワイパ・ブレードの下端を傾けてアームから離し、指１本でリリース・タブをワイパ・アームの方へ押します。

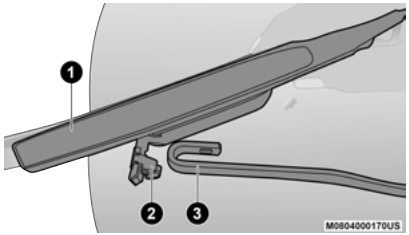


ワイパの切り離し

1 - ロッキング・タブ
2 - ワイパ
3 - リリース・タブ

4. ワイパ・ブレードをワイパ・アームのベースに向かってスライドさせます。

5. ワイパ・ブレードを切り離した状態で、ワイパ・アームを片手で押さえ、もう一方の手でワイパ・ブレードをワイパ・アームから切り離して、ワイパ・ブレードをワイパ・アームから取り外します（ワイパ・ブレードをワイパ・アームのベースに向けて動かし、ワイパ・アームの端部のＪフックから離します）。



ワイパ・アームからのワイパの取り外し

1 - ワイパ
2 - ロッキング・タブ
3 - ワイパ・アーム・J・フック

6. ワイパ・アームをゆっくりとガラスに下げます。

フロント ワイパの取り付け

1. ワイパ・アームが一番上の位置になるまで、ワイパ・アームを持ち上げてガラスから離します。
2. ワイパ・ロッキング・タブを開いた状態で、ワイパ・アームの先端のフックの下にワイパ・ブレードを配置します。
3. ロッキング・タブ下のワイパ・ブレードの開口部からアームの先端のフックにワイパ・アセンブリのレシーバ・ブラケットを挿入します。
4. ワイパ・ブレードをワイパ・アーム上のフックにスライドさせると、「カチッ」という音がして、ラッチがかかります。ラッチ・リリース・タブを下げて、ロック位置にしっかり留めて取り付けます。
5. ワイパ・ブレードをゆっくりとガラスに下げます。

排気装置

一酸化炭素が車内に侵入するのを防ぐ上で最も効果的な方法は、エンジン排気装置を適切に点検整備することです。

排気装置の音の変化、車内の排気臭、または車の下部または後部に損傷がある場合、排気装置全体および隣接したボディ部に破損、損傷、劣化または取付不良の部品がないかどうか、認定を受けた整備士により点検を受けてください。継ぎ目が開いていたり、接続部が緩んでいると、排気ガスが車内に侵入する恐れがあります。また、潤滑やオイル交換で車を持ち上げるときに排気装置の点検も依頼してください。必要に応じて部品を交換してください。

警告!

- 排気ガスは、けがまたは死に至る危険性のある有毒なガスです。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素（CO）が含まれています。一酸化炭素を吸引すると、意識を失うなど人体に有害な影響を与えます。一酸化炭素（CO）を吸引しないために、⇨ ページ 198。
- 可燃物の上に駐車すると、排気装置が熱を持ち、火災が発生する恐れがあります。たとえば、草や葉などが車両の排気装置に接触すると火災の原因になります。そのような可燃物が排気装置に接触するような場所に車両を駐車したり、そのような場所で車両を整備しないでください。

(続き)

注意!

- 触媒コンバータ装備車には、無鉛レギュラー・ガソリンのみを使用してください。有鉛ガソリンを使用すると、排気装置としての触媒の効果が失われ、エンジン性能が著しく低下してエンジンに重大な損傷を与えることがあります。
- 車両を適切に走行できる状態を維持しておかないと、触媒コンバータを損傷します。エンジンの点火不良や、著しい性能低下などエンジン不良が起きた場合は、直ちに車両の整備を受けてください。そのまま運転し続けるとコンバータがオーバーヒートして、コンバータおよび車両に損傷を与える恐れがあります。
- バイオディーゼル・ブレンドまたは高硫黄ディーゼルを使用すると、ディーゼル微粒子フィルタ（DPF）が詰まる可能性があります。

通常の走行状態では、触媒コンバータを整備する必要はありません。ただし、触媒を適切に機能させ触媒の損傷を防ぐために、適切にエンジンを調整しておくことが重要です。

メモ：

排気装置を故意に改造すると法律で罰せられることがあります。

エンジンの異常作動が著しい場合は、焦げた臭いがするため、触媒のオーバーヒートが深刻かつ異常な状態にあることを察知できます。その場合は車を停止してエンジンを切り、冷却してください。その後、すぐに整備を受

け、メーカの仕様に合わせたエンジン調整も行うようにしてください。

触媒コンバータの損傷を最小限にするために、次の注意事項を守ってください。

- トランスミッションのギヤが入っていて車両が走行中の場合は、イグニッション・スイッチを操作しないでください。
- 押しがけ、またはけん引によって車両を始動させないでください。
- 診断テスト中など、イグニッション系部品の接続を外したり、取り外しているときにエンジンをアイドリングしないでください。また、アイドリングが非常に不安定なとき、または故障しているときに、アイドリングを長時間行わないでください。

冷却装置

警告!

- ラジエータから出る高温のエンジン・クーラント(不凍液)または蒸気でやけどを負う恐れがあります。ボンネットの下から蒸気が見える、または音がする場合は、ラジエータが冷えるまでボンネットを開けないでください。ラジエータやクーラント・ボトルが熱い時は、絶対にラジエータ・キャップを開けないでください。
- ボンネットを開いているときは、手、工具、衣類、および装身具をラジエータ冷却ファンに近づけないでください。ファンは自動的に起動し、エンジンが作動中かどうかにかかわらず、いつでも起動することがあります。

(続き)

警告!

- ラジエータ冷却ファン付近で作業するときは、ファン・モータ・ハーネスを切り離すか、イグニッションを「OFF(オフ)」位置にしてください。ファンは温度によって制御されており、イグニッションが「ON(オン)」のときは、常に始動可能な状態にあります。

クーラントの点検

エンジン・クーラント(不凍液)の状態を 12 ヵ月毎(凍結シーズンが始まる前の適切な時期)に点検してください。エンジン・クーラントに汚れや錆が見受けられる場合、システムから抜き取って流洗し、新しいエンジン・クーラントと入れ替えます。A/C コンデンサの前側に虫や落葉などがたまっていないか点検し、汚れていたらコンデンサの表面にホースで上から下へ軽く水をかけて洗い流します。

冷却装置 抜き取り、洗浄、注入

メモ:

一部の車両では、クーラントを正しく補給するために特殊工具が必要です。これらのシステムに正しく補給しないと、エンジン内部の重大な損傷に至る恐れがあります。システムにクーラントを補給する必要がある場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

エンジン・クーラント(不凍液)が汚れていたり、目視できる沈殿物が含まれている場合は、正規ディーラーに、OAT(Organic Additive Technology)クーラント(MS.90032 に適合)の洗浄および流洗を依頼してください。

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

クーラントの選択

当社の推奨クーラントのみを使用してください ⇨ ページ 251。

メモ:

- 指定された OAT(Organic Additive Technology)エンジン・クーラント(不凍液)以外のクーラントを混合使用すると、エンジンが損傷したり、腐食防止効果が下がる場合があります。成分が異なるため、OAT エンジン・クーラントと HOAT(Hybrid Organic Additive Technology)エンジン・クーラントまたは何らかの「汎用的に互換性のある」クーラントを混ぜないでください。緊急時に非 OAT エンジン・クーラントをクーリング・システムに入れた場合、なるべく早く正規ディーラーにクーリング・システムの排出、洗浄、新しい OAT クーラント(MS.90032 に準拠)の充填を依頼する必要があります。
- アルコールが主成分のエンジン・クーラント製品または真水のみを使用しないでください。防錆剤は、ラジエータのエンジン・クーラントに合わず、ラジエータを詰まらせることがあるので添加しないでください。
- 本車両は、プロピレン・グリコール製のエンジン・クーラントを使用するように設計されていません。プロピレン・グリコール製のエンジン・クーラントの使用は推奨しません。
- 一部の車両では、クーラントを正しく補給するために特殊工具が必要です。これらのシステムに正しく補給しないと、エンジン内部の重大な損傷に至る恐れがあります。システムにクーラントを補給する必要がある場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

クーラントの補充

本車両は、メンテナンス間隔を長くする改良されたエンジン・クーラント(MS.90032 に適合した OAT クーラント)を

使用しています。このエンジン・クーラント（不凍液）は、交換まで最長 10 年、または 240,000km（150,000 マイル）の走行が可能です。メンテナンス間隔を短縮させないために、常に同じエンジン・クーラント（MS.90032 に適合した OAT クーラント）を使用することが重要です。

メーカの材料規格 MS.90032 に適合した OAT（Organic Additive Technology）エンジン・クーラントの使用に関する推奨事項を確認してください。エンジン・クーラントを補充するとき

- メーカの材料規格 MS.90032 の要件に適合した Mopar®不凍液／クーラント、10 年／240,000km（150,000 マイル）フォーミュラ OAT（Organic Additive Technology）の使用をお勧めします。
- メーカの材料規格 MS.90032 に適合した OAT エンジン・クーラントを蒸留水で 50%以上に希釈して、エンジン・クーラント溶液を作ります。気温が-37°C（-34 °F）を下回るような場合は、より濃度の高いクーラント（最大 70%）を使用してください。正規ディーラーにお問い合わせください。
- 水とクーラントを混合するときは、蒸留水や脱イオン水など高純度の水のみを使用してください。品質の悪い水を使用すると、エンジン冷却装置の腐食防止効果が下がります。

メモ：

- 気温が著しく低い地域では、お客様の判断で凍結に対する適切な対策を行ってください。
- 一部の車両では、クーラントを正しく補給するために特殊工具が必要です。これらのシステムに正しく補給しないと、エンジン内部の重大な損傷に至る恐れがあります。システムに補給するクーラントが必要な場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。
- 異なる種類のエンジン・クーラントを混合して使用することは推奨しません。システムの損傷を招く恐れがあります。緊急時に HOAT および OAT クーラントを混合した場合は、なるべく早く正規ディーラーに OAT クーラント（MS.90032 に適合）の排出、洗浄、充填を依頼してください。

冷却装置 ラジエータ・キャップ

キャップはエンジン・クーラント（不凍液）が漏れないように、またエンジン・クーラントがクーラント・エクスパンション・ボトル／リカバリ・タンク（タイプ別装備）からラジエータに戻るようにしっかりと締めます。

ラジエータ・キャップの密封面に異物が付着していないか点検し、きれいな状態にしておいてください。

警告!

- 熱くなったエンジン冷却装置は開けないでください。エンジンのオーバーヒート時は、絶対にエンジン・クーラント（不凍液）を補充しないでください。オーバーヒートしたエンジンを冷やすために、キャップを緩めたり外したりしないでください。熱により冷却装置内の圧力が高まります。やけどやけがをしないために、システム内が高温または高圧の間はラジエータ・キャップを外さないでください。
- 車両に指定されたラジエータ・キャップ以外は使用しないでください。人身事故やエンジンの損傷につながる恐れがあります。

使用済みクーラントの廃棄

使用済みのエチレン・グリコール系クーラント（不凍液）は産業廃棄指定物です。最寄りの行政機関に問い合わせ、その地域の廃棄規則を確認してください。ペットやお子さまによる誤飲を防ぐため、エチレン・グリコール系クーラントを口の開いた容器に保存したり、地面にたまったままにしたりせず、地面にこぼれた場合はすぐに拭き取ってください。お子さまやペットが誤って口にした場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

クーラントの量

クーラント・エクスパンション・ボトルは、クーラントの量が適量かどうか一目でわかるようになっています。エンジンを停止して冷めた状態で、ボトル内のエンジン・クーラント（不凍液）の量が「MIN（最低）」および「MAX（最高）」のマークの間にあるようにしてください。

エンジン作動温度が正常な限り、クーラント・ボトルは 1 ヵ月に 1 度点検すれば問題ありません。

エンジン・クーラントの補充が必要な場合は、クーラント・ボトルにクーラントを入れます。フルードを入れ過ぎないよう注意してください。

クーリング・システムの注意

メモ：

2～3km 走行した後に停止すると、エンジン・ルーム前面から蒸気が立ち昇ることがあります。これは通常ラジエータ外面に雨や雪、湿気などの水分が蓄積し、サーモスタットを開いたときにラジエータ内部に温度の上昇したエンジン・クーラント（不凍液）が流入して蒸発したもので、異常ではありません。

エンジン・ルームの点検でラジエータまたはホースに漏れが見られなければ、安全に走行できます。蒸気はしばらくすると消えます。

- クーラント・エクスパンション・ボトルにクーラントを補充し過ぎないでください。
- ラジエータとクーラント・エクスパンション・ボトル内のクーラントの濃度を調べてください。エンジン・クーラントを補充する必要がある場合、エクスパンション・ボトル内のクーラントも凍結から防ぐ必要があります。

- エンジン・クーラントの補充が頻繁に必要な場合、漏れていないかどうか冷却装置の圧力を点検してください。
- エンジンにはアルミ製部品が使用されているため、OAT クーラント（材料規格 MS.90032 に適合）と蒸留水との混合濃度を 50%以上に保つことによって、エンジンを腐食から保護します。
- クーラント・エクスパンション・ボトルのオーバーフロー・ホースがねじれたり、詰まっていないか点検してください。
- ラジエータの前面は清潔に保ってください。車両にエアコンが装備されている場合、コンデンサの前面も清潔にしてください。
- サーモスタットを夏用もしくは冬用に変更しないでください。交換する必要がある場合は、適切なタイプのサーモスタットのみを取り付けてください。異なるタイプのものを使用するとエンジン冷却性能の低化、燃費の悪化および排気ガスの増加につながる恐れがあります。

ブレーキ・システム

ブレーキ・システム性能を維持するため、すべてのブレーキ・システム構成部品は定期的に点検してください。適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。

警告!

ブレーキをかけ続けるとブレーキの故障、さらには衝突事故の原因になります。ブレーキ・ペダルの上に足を置いたまま運転したり、ブレーキ・ペダルを踏み続けて運転したりすると、ブレーキが熱を持ち、ライニング

(続き)

警告!

を過度に摩耗して、ブレーキを破損する恐れがあります。万一のとき、ブレーキの性能を完全に発揮させることができなくなります。

ブレーキ・マスタ・シリンダ

マスタ・シリンダ内のフルードは、エンジン・ルームの整備時に点検してください。また、ブレーキ警告灯が点灯した場合は、直ちに点検してください。

キャップを取り外す前に、マスタ・シリンダの上部をきれいに拭いてください。必要に応じて、ブレーキ・フルード・リザーバに示されている規定レベルまでフルードを補充します。ディスク・ブレーキの場合、フルード量はブレーキ・パッドが摩耗するにつれて下がります。ブレーキ・フルード・レベルはパッド交換時に確認してください。ただし、漏れによってフルードのレベルが低くなる恐れもあるため点検が必要です。

当社の推奨するブレーキ・フルード ⇨ ページ 251 のみを使用してください。

警告!

- 当社の推奨するブレーキ・フルード ⇨ ページ 251 のみを使用してください。不適切な種類のブレーキ・フルードを使用すると、ブレーキ・システムに重大な損傷が発生したり、ブレーキの性能が低下したりすることがあります。工場出荷時に取り付けられた油圧マスタ・シリンダ・リザーバのラベルにも、車両に適したブレーキ・フルードの種類が記載されています。

(続き)

警告!

- 異物や水分による汚染を防ぐために、新品のブレーキ・フルードまたは密閉容器に入っているブレーキ・フルードのみを使用してください。マスタ・シリンダ・リザーバのキャップは常にしっかりと閉めてください。容器が密閉されていないと、ブレーキ・フルードは空気中の水分を吸収し、沸点温度が下がります。これにより、急ブレーキをかけたり、長時間ブレーキをかけたときにブレーキ・フルードが沸騰して、突然ブレーキがきかなくなることがあります。その結果、衝突につながる恐れがあります。
- ブレーキ・フルード・リザーバにブレーキ・フルードを入れすぎると、ブレーキ・フルードが高温のエンジン部品の上にこぼれ落ち、ブレーキ・フルードが発火することがあります。ブレーキ・フルードは塗装面やビニール面も損傷させる場合があります。ブレーキ・フルードがこれらの面に接触しないように十分注意してください。
- ブレーキ・フルードが石油基剤のフルードで汚染されないようにしてください。ブレーキ・シール部品が損傷すると、ブレーキが部分的または完全にきかなくなる恐れがあります。その結果、衝突につながる恐れがあります。

オートマチック・トランスミッション – タイプ別装備

特別添加剤

当社はトランスミッションにいかなる添加剤も使用しないよう推奨しています。オートマチック・トランスミッション・フルード（ATF）は加工製品であり、補助添加剤により性能が劣化する可能性があります。したがって、トランスミッション・フルードには添加剤を入れないでください。また、

8

トランスミッション・シーラは、シール類に悪影響を与える場合があるので使用しないでください。

注意!

トランスミッションには、化学洗浄剤は使用しないでください。化学洗浄剤によりトランスミッション・コンポーネントを損傷する恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。

フルード量の点検

フルード量は工場で事前に設定されているので、通常の操作状況では調節は不要です。フルード量の定期的な点検は不要なため、トランスミッションにディップスティックはありません。正規ディーラーは、整備用の特殊な工具を使用して、トランスミッションのフルード量を点検できます。フルードの漏れやトランスミッションの不具合に気付いたときは直ちに、正規ディーラーでフルード量の点検を受けてください。フルード量が適正でない状態で走行すると、トランスミッションの重大な損傷につながる恐れがあります。

注意!

トランスミッション・フルードが漏れた場合、すぐに正規ディーラーへお越しください。トランスミッションに重大な損傷が発生する恐れがあります。正規ディーラーでは、正確にフルード量を調節する適切な工具および設備をご用意しています。

フルードおよびフィルタの交換

通常の走行状態であれば、工場で充填されたフルードで車両は十分に潤滑されます。フルードおよびフィルタの定期的な交換は不要です。ただし、フルードが(水などで)汚染したり、何らかの理由でトランスミッションを分解した場合は、フルードおよびフィルタを交換してください。

潤滑油の選択

トランスミッションの最適な性能と寿命を確保するには、正しいトランスミッション・フルードを使用することが重要です。当社指定のトランスミッション・フルードのみを使用してください ⇨ ページ 251。トランスミッション・フルードには推奨フルードを使用し、規定のレベルに維持することが重要です。

メモ:

トランスミッションには、化学洗浄剤は使用しないでください。認可されている潤滑油のみをご使用ください。

注意!

当社が推奨する以外のトランスミッション・フルードを使用すると、トランスミッション・シフトの性能の低下、またはトルク・コンバータの振動の原因になることがあります ⇨ ページ 251。

ヒューズ

一般情報

警告!

- 焼損したヒューズを交換する場合は、必ず元のヒューズと同一電流定格の適切な交換用ヒューズを使用してください。絶対に高い定格電流の別のヒューズに交換しないでください。絶対に焼損したヒューズを金属線や他の素材に置き換えないでください。ヒューズを回路ブレーカのキャビティ内に置かないでください。その逆も同様です。適切なヒューズを使用しないと、重大なけが、火災、物損事故に至る恐れがあります。
- ヒューズを交換する前に、イグニッションがオフであること、および他のすべての作動がオフまたは解除されていることを確認してください。正規ディーラーでのヒューズ交換をお勧めします。
- 交換したヒューズが再び焼損した場合は、正規ディーラーにご連絡ください。
- 安全システム(エアバッグ・システム、ブレーキ・システム)、パワー・ユニット・システム(エンジン・システム、トランスミッション・システム)またはステアリング・システム用の全般的な保護ヒューズが焼損した場合は、正規ディーラーにご連絡ください。

(続き)

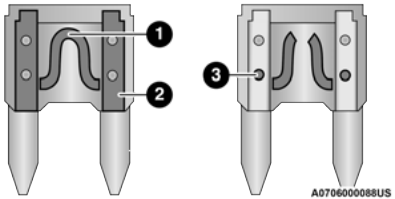
ヒューズは電気系統に過大な電流が流れないように保護します。

動作しない機器がある場合は、ブレード・ヒューズ内部のヒューズ・エレメントに破損/熔解がないか点検してください。

また、エンジンを停止した状態で長時間電源アウトレットを使用すると、車両バッテリが放電してしまうことがあります。

注意!

エンジン・ルームを洗浄する必要がある場合は、ヒューズ・ボックスおよびフロントウィンドウ・ワイパ・モータに直接水をかけないように注意してください。



ブレード・ヒューズ

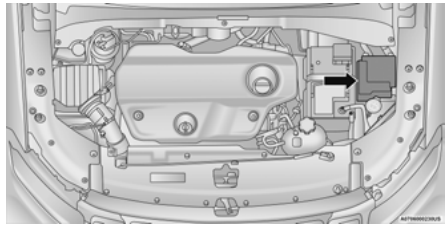
1 – ヒューズ・エレメント
2 – ヒューズ・エレメントが良好な／機能しているブレード・ヒューズ
3 – ヒューズ・エレメントが不良な／機能していないブレード・ヒューズ（ヒューズが切れている）

パワー ディストリビューション・センタ／ヒューズ

パワー・ディストリビューション・センタ（PDC）は、エンジン・ルームの運転席側のヘッドランプの後方にあります。このセンタには、カートリッジ・ヒューズ、マイクロ・ヒューズ、リレーおよびサーキット・ブレーカが収納されています。次の表に、内部のヒューズが記載されています。

注意!

パワー・ディストリビューション・センタのカバーを取り付ける際には、カバーの位置が正しく、しっかりとはまっていることを確認してください。カバーがしっかりと取り付けられていないと、パワー・ディストリビューション・センタ内に水が浸入し、電気系統の不具合が生じる恐れがあります。



ヒューズ・パネルとカバーの位置

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	ミニ・ヒューズ	説明
		* タイプ別装備	
F01	60A/黄	–	グロー・プラグ
F02	–	–	スペア
F03	40A/緑	–	PTC 供給電源 1*
F04	30A/ピンク	–	リヤ・デフロスタ（EBL）*
F05	–	–	スペア

8

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	ミニ・ヒューズ	説明
		* タイプ別装備	
F06	40A/緑	–	トレーラけん引モジュール（TTM）*
F07	40A/緑	–	SCR*
F08	20A/青	–	SLM 供給電源 LT*
F09	30A/ピンク	–	AGSM/TCM/SCCM
F10	20A/青	–	SLM 供給電源 RT*
F11	20A/青	–	BCM 供給電源 3（Run/Start & FB リレーおよび Start/Stop & FB リレー（BCM 内））
F12	40A/緑	–	BSM ポンプ
F13	40A/緑	–	BSM バルブ
F14	40A/緑	–	ディーゼル・フィルタ・ヒータ*
F15	–	–	スペア
F16	40A/緑	–	スタータ・モータ・ソレノイド*
F17	40A/緑	–	エアコンディショナーファン
F18	–	–	スペア
F19	–	2A／ヒューズ灰色	ステアリング・コラム・コントロール・モジュール（SCCM）

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	ミニ・ヒューズ	説明
* タイプ別装備			
F20	–	7.5A／茶	エンジン・コントロール・モジュール（ECM）／ラジエータ・ファン・リレー・コイル
F21	–	–	スペア
F22	–	7.5A／茶	AC コンプレッサ
F23	–	–	スペア
F24	–	7.5A／茶	サイド・ミラー・デフロスタ*
F25	–	–	スペア
F26	–	20A/黄	ランバ調節（運転席のみ）
F27	–	25A/透明色	エンジン・コントロール・モジュール（ECM）- UREA：尿素／パワートレイン・コントロール・モジュール（PCM）- UREA：尿素
F28	–	7.5A／茶	ブロー・バイ・ヒータ
F29A & B	–	–	スペア
F30	–	–	スペア
F31	–	15A/青	ワイヤレス・チャージング・パッド／SW バンク下側 2／SW バンク下側 LT & RT

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	ミニ・ヒューズ	説明
＊タイプ別装備			
F32	–	15A/青	UEGO（02）センサ – 上流側および下流側／グロー・プラグ・モジュール／オイル・ポンプ／マス・エアフロー・センサ／EGR クーリング・バイパス／スワール・アクチュエータ／SNSR UEGO DSL 上流側／ポンプ UREA 冷却
F33	–	–	スペア
F34A & B	–	–	スペア
F35	–	–	スペア
F36	–	10A/赤	ポート UCI2／Mod CVPM
F37	–	10A/赤	パワートレイン・コントロール・モジュール（PCM）
F38	–	10A/赤	ECM/TCM/AGSM
F39	–	–	スペア
F40	–	–	スペア
F41	–	–	スペア
F42	–	20A/黄	RR 荷室電源アウトレット - イグニッション電源
F43	–	–	RR 荷室電源アウトレット（F42 直接バッテリ電源で、20A ヒューズと置き換え可能）
F44	–	–	スペア

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	ミニ・ヒューズ	説明
* タイプ別装備			
F45	–	–	スペア
F46	–	30A/緑	ドライブトレイン・コントロール・モジュール（DTCM）AWD 電源
F47	–	30A/緑	フロント・ガラス・デフロスタ*
F48	–	–	スペア
F49	–	15A/青	トランスミッション・コントロール・モジュール（TCM）
F50	–	5A/黄褐色	駆動系コントロール・モジュール（DTCM）ECU 電源
F51	–	20A/黄	NOX SNSR フィード
F52	–	5A/黄褐色	オートマチック・ギヤボックス・シフタ・モジュール（AGSM）
F53	–	–	スペア
F54	–	–	スペア
F55	–	–	スペア
F56	–	10A/赤	PM SNSR
F57	–	20A/黄	RR 電源アウトレット（12V APO）
F58	–	–	スペア

キャビティー	カートリッジ・ヒューズ	ミニ・ヒューズ	説明
* タイプ別装備			
F59	–	–	スペア
F60	–	–	スペア
F61	–	20A/黄	フューエル・ポンプ
F62	–	5A/黄褐色	インテリジェント・バッテリ・センサ（IBS）
F63	–	15A/青	SCR
F64	–	10A/赤	MOD DCSD／ハンズ・フリー・リフトゲート／UCI + USB ポート／HRLS
F65	–	20A/黄	ホーン
F66	–	20A/黄	シガー・ライタ*
F67	–	10A/赤	エンジン・コントロール・モジュール（ECM）

車内のヒューズ

インテリア・ヒューズ・パネルはボディ・コントロール・モジ ュール（BCM）の一部で、助手席側のグローブ・ボックスの下にあります。

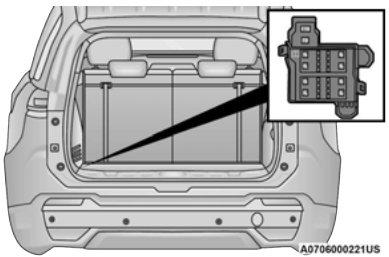
キャビティー	ブレード・ヒューズ	説明
F31	7.5A／茶	乗員保護拘束装置コントローラ

キャビティー	ブレード・ヒューズ	説明
F33	20A/黄	助手席パワーウィンドウ
F34	20A/黄	ウインドウ・モータ、運転席
F36	20A/黄	侵入防止モジュール／サイレン、ラジオ、VSU、ヒータ／エアコン、エレクトロニック・ステアリング・ロック、電動格納式ミラー、セキュリティ・ゲートウェイ／一体型センタ・スタック、ELTM モジュール／クランク抑制リレー、ポート診断
F37	10A/赤	インストルメント・パネル・クラスタ、ドライブトレイン・コントロール・モジュール、アダプティブ・クルーズ、ECC（エアコンディショナー）ファン
F38	20A/黄	ドア・ロック／ロック解除、リフトゲート・リリース、フューエル・リッド・ロック解除
F42	7.5A／茶	ブレーキ・システム・モジュール／電動パワー・ステアリング
F43	20A/黄	ウォッシャ・ポンプ、フロントおよびリヤ
F47	20A/黄	リヤ左パワーウィンドウ
F48	20A/黄	リヤ右パワーウィンドウ
F49	7.5A／茶	パーク・アシスト、ブラインド・スポット、電圧安定装置、湿度センサ、エレクトロニック・ステアリング・ロック、温度センサ、シート・ヒータ、レイン・ライト・センサ、「Start/Stop」スイッチ、ゲートウェイ・セキュリティ・モジュール、ルーム・ミラー
F50	7.5A／茶	乗員保護拘束装置コントローラ
F51	7.5A／茶	電子式ヒータ／エアコン、乗員分類、リヤ・ビュー・カメラ、ヘッドライト・レベリング、Terrain Select、ヒーテッド・リヤ・ウィンドウ、トレーラけん引、触覚レーン

キャビティー	ブレード・ヒューズ	説明
F53	7.5A／茶	キーレス・イグニッション・ノード・モジュール、エレクトロニック・パーキング・ブレーキ、RF ハブ、クラスタ
F94	20A/黄	ランバ調節（運転席）、電源アウトレット、DTV

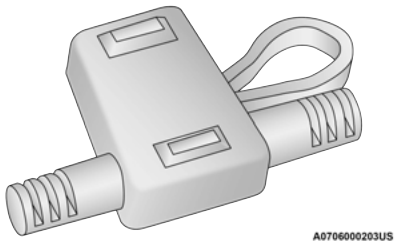
リヤ・カーゴのヒューズ／リレー配電ユニット タイプ別装備

リヤ・パワー・ディストリビューション・センタは、リヤ・カーゴ・エリアの助手席側にあります。リヤ・パワー・ディストリビューション・センタにアクセスするには、リヤ・カーゴ・ロード・フロアを持ち上げ、リヤ・パワー・ディストリビューション・センタ・アクセス・ドア・パネルを見つけて取り外します。



リヤ・パワー・ディストリビューション・ユニットの位置

メモ：
ヒューズはインライン・ヒューズ・ホルダに入っており、リヤ・パワー・ディストリビューション・センタを交換します（すべてのリヤ・パワー・ディストリビューション・コンポーネントのうちサンルーフのみ、またはパワー・インバータ・モジュールのみ装備している場合）。



インライン・ヒューズ・ホルダ

キャビティー	ミニ・ヒューズ	説明
＊タイプ別装備		
F1	30A/緑	パワー インバータ
F2	30A/緑	メモリ・シート＊
F3	20A/黄	サンルーフ＊
F4	30A/緑	パワー・シート（助手席側）＊
F5	–	未使用
F6	7.5A／茶	パワー・ランバ・サポート（パワー・シート）＊
F7	15A/青	ヒーテッド・ステアリング・ホイール／ベンチレーテッド・シート＊／コンフォート・シートおよびホイール・モジュール（CSWM）＊
F8	20A/黄	シート・ヒータ＊／コンフォート・シートおよびホイール・モジュール（CSWM）＊

リヤ・カーゴ・ヒューズ／リレー配電ユニットのブラケットには、パワー・リフトゲート用のマキシ・ヒューズ・ホルダ と HIFI オーディオ・システム用の ATO/Uni Val ヒューズ・ホルダがあります。

キャビティー	マキシ・ヒューズ	説明
＊タイプ別装備		
F01B	30A/緑	パワー・リフトゲート＊

8

* タイプ別装備		
キャビティー	ATO/Uni-Val ヒューズ	説明
F01C	25A/透明色	HIFI オーディオ・システム*

電球(バルブ)の交換

交換用電球、名称、部品番号

電球を交換する必要がある場合は、このセクションに電球の説明と交換部品の番号を記載しているので参考にしてください。

メモ :
LED 電球の交換については、正規ディーラーにお問い合わせください。

車内の電球	
ライト	電球の種類
室内灯／マップ・ランプ／読書灯(OHC)	T10 W5W
サンバイザーの照明	MBL(Festoon)
リヤ車内灯	T10 W5W
カーゴ・ライト	HT-168
収納ライト(グローブ・ボックス)	MBL(Festoon)

車外の電球	
ライト	電球の種類
ロー・ビーム・ヘッドライト	LED
ハイ・ビーム・ヘッドライト	LED
フロント車幅灯／デイタイム・ランニング・ランプ(DRL)	LED
フロント方向指示灯	LED
フロント・フォグ・ランプ	LED
サイド・インジケータ(ドア・ミラー)	LED
尾灯／ブレーキ・ランプ	LED
方向指示器	LED
ハイ・マウント・ストップ・ランプ	LED

車外の電球	
ライト	電球の種類
ナンバー・プレート・ランプ	LED
リフトゲート・ランプ(リバース)	LED
リフトゲート・ランプ(尾灯)	LED

車外電球の交換

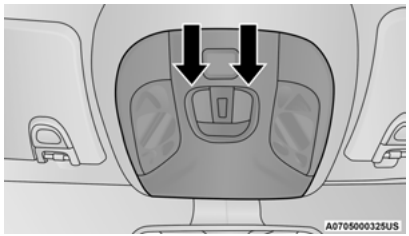
車外灯は LED です。LED ランプの交換については、正規ディーラーにご依頼ください。

車内の電球の交換

フロント車内灯

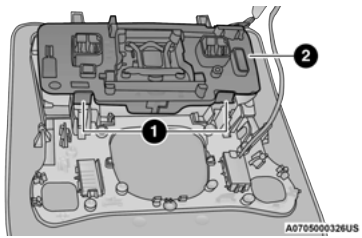
以下の手順に従って電球を交換してください。

1. 適切な工具を使用して、フロント車内灯アセンブリを取り外します。



フロント車内灯

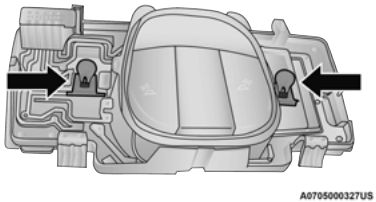
2. 図に示されているように、固定クリップと電球ハウジングを外します。



フロント車内灯の電球ハウジング

1 – 固定クリップ
2 – 電球ハウジング

3. 電球ハウジングから電球を引き出して、電球を交換します。



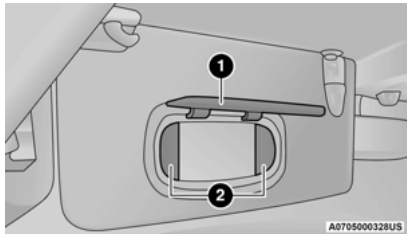
フロント車内灯の電球ハウジング

4. 新品の電球を挿入して、正しく固定されていることを確認します。
5. 電球ハウジングと車内灯ハウジングを組み立て直し、正しく固定されていることを確認します。
6. フロント車内灯を取り付け、正しく固定されていることを確認します。

バニティ・ミラーの照明 - タイプ別装備

以下の手順に従って電球を交換してください。

1. ミラーのカバーを持ち上げ、ミラー・ライトのカバーを取り付けた状態でミラー・フレームを引き出します。
2. 電球を側面の端子から外し、新品の電球を挿入します。交換を終えたら、電球が接触部の間に正しく固定されていることを確認します。



バイザ

1 – バイザ・ミラー・カバー
2 – バイザ・ミラー・ライト

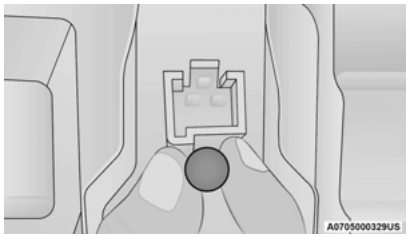
3. バイザ・ミラー・ライトのカバーを取り付け直し、正しく固定されていることを確認します。
4. 最後に、バイザ・ミラー・カバーをミラーまで下します。

グローブ・ボックスの収納ランプ

以下の手順に従って電球を交換してください。

1. グローブ・ボックスを開きます。

2. ライト・アッセンブリの内側に指を入れて、電球を引き抜いて交換します。



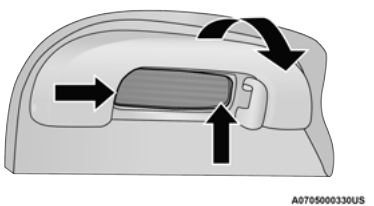
電球の取り外し／取り付け

3. 新品の電球を挿入して、正しく固定されていることを確認します。

カーゴ・ライト

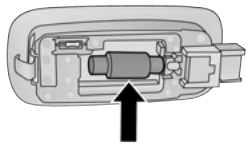
以下の手順に従って電球を交換してください。

1. 図に示されている方向にハンドルを下げ、車内灯を取り外します。



グラブ・ハンドル／室内灯

2. 側面の接触部から電球を取り外します。



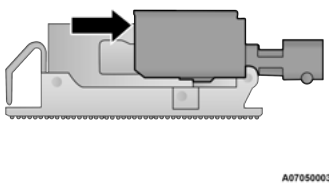
電球

3. 新品の電球を挿入して、接触部の間に固定されていることを確認します。
4. 車内灯を取り付け直します。

カーゴ室内灯

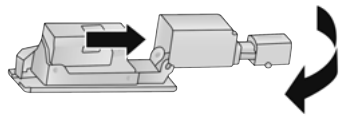
以下の手順に従って電球を交換してください。

1. 親指で軽く力を加えながら、電球ホルダを横に押します。



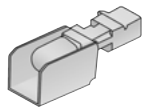
電球ホルダ

2. 電球ホルダをハウジングから十分に離します。



電球ホルダ

3. 電球ホルダを回転させて、電球を交換します。



電球

警告!

- 電気系統の変更または修理を誤って行ったり、技術特性を考慮せずに行ったりすると、火災の危険を伴う故障の原因になります。

(続き)

警告!

- ハロゲン・ランプには加圧されたガスが含まれています。ランプが破損した場合は、ガラス破片の飛び散りに注意してください。
- ハロゲン・ランプを取り扱う際、金属部以外には触れないでください。指で透明電球に触れると、照射される光の照度が低下するだけでなく、ランプの寿命に悪影響を及ぼす可能性があります。不意に触れてしまった場合は、アルコールで湿らせた布で電球の汚れを拭き取り、十分に乾燥させてください。

メモ:

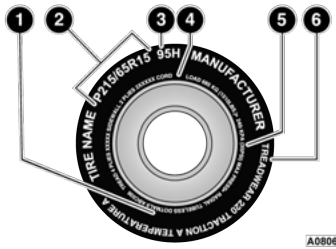
電球の交換は正規ディーラーにご依頼いただくことをお勧めします。

タイヤ

タイヤの安全情報

タイヤの安全情報では、以下の情報の内容を説明します。タイヤのマーキング、タイヤ識別番号、タイヤの用語と定義、タイヤ空気圧、およびタイヤ積載。

タイヤ上のマーク



タイヤ上のマーク

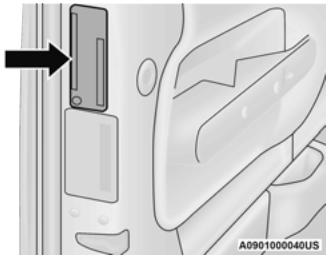
1 – 米国運輸省規定安全基準規格(TIN)
2 – サイズ表記
3 – 整備の説明
4 – 最大荷重
5 – 最大空気圧
6 – トレッド・ウエア、トラクション、および温度等級

タイヤ積載とタイヤ空気圧

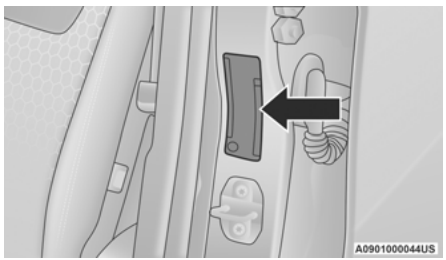
メモ:

適正な冷間時のタイヤ空気圧は、運転席側 B ピラーまたは運転席側ドアの後端に明示されています。

月に一度はスペア・タイヤ(タイプ別装備)も含めて各タイヤの空気圧を点検し、ご使用の車両の推奨空気圧まで空気を入れてください。

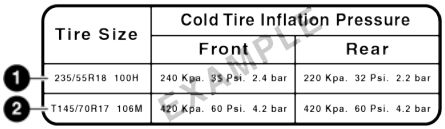


タイヤ・プラカードの配置例(ドア)



タイヤ・プラカードの配置例(B ピラー)

タイヤと積載情報のプラカード



	Tire Size	Cold Tire Inflation Pressure	
		Front	Rear
1	235/55R18 100H	240 Kpa. 35 Psi. 2.4 bar	220 Kpa. 32 Psi. 2.2 bar
2	T145/70R17 106M	420 Kpa. 60 Psi. 4.2 bar	420 Kpa. 60 Psi. 4.2 bar

EXAMPLE

A0806000018US

タイヤと積載情報のプラカード

このプラカードは次の重要な情報を説明しています。

1. 車両向けに設計されたタイヤ・サイズと冷間時のタイヤ空気圧。
2. 車両向けに設計されたスペア・タイヤ・サイズと冷間時のタイヤ空気圧。

積載方法

車両のタイヤの最大荷重は、タイヤの荷重容量を超えないようにしてください。タイヤと積載情報のプラカードに指定されている積載条件、タイヤ・サイズ、冷間時のタイヤ空気圧を守っていれば、タイヤの荷重容量を超えることはありません ⇨ ページ 131。

メモ :

最大積載量の状態では、フロント・アクスルおよびリヤ・アクスルの車軸定格総重量（GAWR）を超えないようにしてください。

GAWR、車両積載量およびトレーラけん引の詳細については、⇨ ページ 131 を参照ください。

タイヤ - 一般情報

Tire Pressure（タイヤ空気圧）

車を安全かつ快適に走行させるためには、タイヤの空気圧を適切に保つことが非常に重要です。タイヤ空気圧が不適切だと、車の走行にかかわる次の 4 項目に影響を及ぼします。

- 安全性
- 燃費
- トレッドの摩耗
- 乗り心地と車の安定性

安全性

警告!

- 空気圧が不適切なタイヤは危険で、衝突事故を起こす恐れがあります。
- 空気圧が低すぎると、タイヤのたわみを増加させ、過熱や破損の原因になります。
- 空気圧が高すぎると、タイヤの衝撃吸収能力が損なわれます。道路上の障害物および穴は、タイヤの故障を招く損傷を与える場合があります。
- タイヤの空気圧が高すぎたり低すぎたりすると操作性に影響し、また、突然パンクして車の制御ができなくなる恐れがあります。
- 不均衡なタイヤ空気圧は、ステアリング異常の原因になります。車が制御できなくなる恐れがあります。

(続き)

警告!

- タイヤ空気圧が左右で異なると、車体が左または右に振られる恐れがあります。
- 必ず推奨されている冷間時のタイヤ空気圧で運転してください。

高すぎる空気圧および空気圧の不足は、車両の安定性に影響を及ぼし、運転時の反応が鈍くなったように感じたり、反応が大きすぎるように感じたりする場合があります。

メモ :

- タイヤ空気圧が左右で異なると、不適正な予測できないステアリング反応が起こることがあります。
- タイヤ空気圧が左右で異なると、車体が左または右に振られる恐れがあります。

燃費

空気圧が低いタイヤは、タイヤの回転抵抗を増加させ、燃費が低下します。

トレッドの摩耗

不適切な冷間時のタイヤ空気圧は、正常ではない摩耗やトレッド寿命の短縮の原因となり、早目のタイヤ交換が必要になります。

乗り心地と車の安定性

適切なタイヤの空気圧は、快適な乗り心地を実現します。空気圧が高すぎると、きしり、および乗り心地の悪化の原因になります。

タイヤの空気圧

冷間時の適正なタイヤ空気圧は、車両左側の B ピラーまたは助手席側ドアの後端に明示されています。

最低 1 ヵ月に 1 度:

- 高品質の小型空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検して調整します。目視だけで適切な空気圧が入っているかどうかを判断しないでください。タイヤは、空気圧が低くても、適切な空気圧があるように見えます。
- タイヤの摩耗や目視できる損傷の徴候がないかタイヤを検査します。

注意!

タイヤ空気圧を点検して調節したら、必ずバルブ・ステム・キャップを取り付け直してください。このキャップは、水分や汚れのバルブ・ステムへの混入を防ぎます。水分や汚れが入ると、バルブ・ステムは損傷することがあります。

ラベルに明記された空気圧は、「冷間時のタイヤ空気圧」です。冷間時のタイヤ空気圧とは、車が 3 時間以上停車している状態のタイヤ空気圧、または 3 時間以上が経過した後で走行した距離が 1.6km(1 マイル)未満のタイヤの空気圧を意味します。冷間時のタイヤ空気圧は、タイヤの側面に記載された最大空気圧を超えないようにしてください。

タイヤの空気圧は温度変化の影響を受けるため、外気温の変動が激しい場合はより頻繁に点検を行ってください。

タイヤの空気圧は、気温が 7°C(12°F)変化するごとに約 7kPa(1PSI)変化します。特に冬にガレージ内でタイヤ空気圧をチェックする際は、このことを覚えておいてください。

例: ガレージ内の温度が 20°C(68°F)で外気温が 0°C(32°F)の場合、冷間時のタイヤ空気圧を 21kPa(3psi)高くします。つまり、外気温との差が 7°C(12°F)ごとに 7kPa(1psi)で調整します。

タイヤ空気圧は、走行中に 13〜40kPa(2〜6psi)上昇する場合があります。この空気圧の増加は正常なので圧力を下げないでください。空気を抜くとタイヤ空気圧が低くなりすぎます。

高速走行時のタイヤ空気圧

メーカは、制限速度内の安全速度で運転することを推奨しています。制限速度や道路条件から高速運転が可能で、実際に高速運転を行う場合、タイヤの空気圧を適切に保つことが特に重要になります。高速走行を行うには、タイヤ空気圧を上げて、車両積載量を減らす必要がある場合もあります。推奨される安全走行速度、積載量、および冷間時のタイヤ空気圧については、認定タイヤ販売店または純正部品販売店に問い合わせてください。

警告!

最大積載時の高速走行は危険です。タイヤに負荷がかかりすぎると、破損することがあります。重大な衝突事故につながる恐れもあります。車が最大積載量まで積荷されている場合は、120km/h(75mph)を超える速度で長時間走行しないでください。

ラジアル・タイヤ

警告!

ラジアル・タイヤを他の種類のタイヤと混合して使用すると、車の操作性に悪影響を及ぼします。安定性が損なわれ、衝突事故につながることがあります。ラジアル・タイヤは、常に 4 本セットで使用してください。絶対にラジアル・タイヤをその他のタイヤと組み合わせて使用しないでください。

タイヤの修理

タイヤが損傷した場合でも、次の基準に適合する場合は修理できることがあります:

- パンクした状態で走行していない。
- 損傷がタイヤのトレッド部分に限定されている(サイドウォールの損傷は修理できません)。
- パンクが 6mm(1/4 インチ)以下である。

タイヤの修理および詳細については、認定タイヤ販売店にお問い合わせください。

損傷したラン・フラット・タイヤ、または空気圧が減少したラン・フラット・タイヤは、サイズおよび整備詳細(積荷指数および速度記号)が同じ新品のラン・フラット・タイヤとすぐに交換する必要があります。再使用できるようには設計されていないため、タイヤ空気圧センサは交換してください。

ラン・フラット・タイヤ - タイプ別装備

ラン・フラット・タイヤを使用すると、空気圧が急速に減少した後でも、80km/h(50mph)の速度で 80km(50 マイル)の距離を走行することができます。この空気圧の急速な減少は、ラン・フラット・モードと呼ばれます。ラン・フラット・モードは、タイヤ空気圧が 96kPa(14psi)以下の場合に発生します。ラン・フラット・タイヤがラン・フラット・モードに達すると、その運転性能が制限されるため、直ちに交換する必要があります。ラン・フラット・タイヤは修理できません。ラン・フラット・モード(96kPa(14psi))で走行した後ラン・フラット・タイヤを交換する場合、TPMS センサは再利用を目的としていないため、交換してください。

メモ:

タイヤがパンクした状態で車両を走行した場合は、その後 TPMS センサを交換する必要があります。

タイヤがラン・フラット・モードのときに、フル容量で積載された車両を運転したり、トレーラをけん引することはお勧めできません。

詳細情報 ⇨ ページ 167。

タイヤの空転

ぬかるみ、砂地、雪道、凍結路で立ち往生したとき、タイヤを 30 mph (48 km/h)を超える速度で、または 30 秒以上連続して空転させないでください。

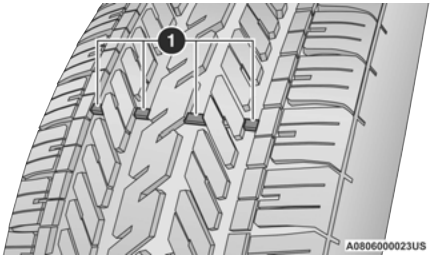
詳細情報 ⇨ ページ 210。

警告!

タイヤの高速空転は危険です。過度のホイール回転速度によって生じる力でタイヤが破損または故障する恐れがあります。タイヤが破裂し、人にけがを負わせる場合もあります。ぬかるみなどで動かなくなった場合は、車のタイヤを 48km/h（30mph）を超える速度で 30 秒以上連続して空転させないでください。また、回転速度に関係なく、空転しているタイヤ付近に人が近づかないようにしてください。

トレッド・ウエア・インジケータ

トレッド・ウエア・インジケータは、純正タイヤに備えられており、タイヤの交換時期を判断するのに役立ちます。



タイヤ・トレッド

1 - トレッド・ウエア・インジケータ

インジケータは、トレッド溝の底の部分に成形加工されており、トレッドの深さが 1.6mm（1/16 インチ）になると、帯状のものが表面に現れます。トレッドが摩耗してトレッド・ウエア・インジケータが見えたら、タイヤを交換する必要があります。

詳細情報 ⇨ ページ 240。

タイヤの寿命

タイヤの寿命は以下のさまざまな要因に左右されます。

- ドライビング・スタイル。
- タイヤ空気圧 - 冷間時のタイヤ空気圧が適切でないと、タイヤ・トレッドが不均一に摩耗する原因になります。こういった、正常ではない摩耗によってトレッドの寿命が縮まり、早目のタイヤ交換が必要になります。
- 走行距離。
- 一般に、パフォーマンス・タイヤ、V 以上の速度記号が表記されているタイヤ、夏用タイヤのトレッド寿命は短いです。車のメンテナンス・ノートに合わせて、これらのタイヤのローテーションを行うことを強くお勧めします。

警告!

タイヤとスペア・タイヤは、トレッド残溝の有無に関わらず 6 年毎に交換してください。この警告に従わないと、突然タイヤが損傷することがあります。車を制御できなくなり、重傷または死亡につながる衝突事故が発生する恐れがあります。

メモ :

既存のタイヤの摩耗や損傷のために新品のタイヤを取り付ける場合、ホイール・バルブ・ステムも交換する必要があります。

取り外したタイヤは可能な限り光が当たらない涼しく乾いた場所に保管してください。タイヤにオイルやグリース、ガソリンを付着させないでください。

交換用タイヤ

新車に装着されているタイヤは、さまざまな特性のバランスが取れています。定期的に、摩耗の有無や冷間時の適正タイヤ空気圧を点検してください。当社では、タイヤの交換が必要な時は、サイズ、品質、性能が純正品と同等のタイヤを使用することを強く推奨しています ⇨ ページ 240。タイヤのサイズ指定については、「タイヤと積載情報」のラベルまたは車両識別ラベルを参照してください。タイヤの積荷指標と速度記号は、純正タイヤのサイドウォール（側面）に表示されています。

フロント・タイヤ 2 本またはリヤ・タイヤ 2 本はペアで交換することをお勧めします。1 本のタイヤのみを交換した場合、車の操作に重大な影響が出る恐れがあります。ホイールを交換する場合は、ホイールの仕様が元のホイールの仕様と一致していることを確認してください。

タイヤの仕様や特性に関しては、認定タイヤ販売店または純正品取扱店にお尋ねください。同等の交換タイヤを使用しないと、車の安全性、操作性および乗り心地に悪影響を及ぼす恐れがあります。

警告!

- 車両に指定されている以外のタイヤ、ホイール・サイズ、定格荷重、または定格速度のものは使用しないでください。車両仕様に適合しないタイヤおよびホイールを組み合わせると、サスペンション寸法および性能特性が変わり、操縦性、操作性および制動性が変わってしまいます。これにより予期せぬステアリング・ホイール操作が生じたり、ステアリングおよびサスペンション構成部品に応力がかかったりすることがあります。車を制御できなくなり、重傷または死亡につながる衝突事故が発生する恐れがあります。この車には、認可された定格荷重のタイヤおよびホイール・サイズを必ず使用してください。
- 純正タイヤより少ない荷重指標または荷重量のタイヤは決して使用しないでください。荷重指標が小さいタイヤを使用すると、タイヤに過剰な負担がかかり損傷する恐れがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。
- 車の速度に十分耐えるタイヤを装着していないと突然タイヤが損傷し、車を制御できなくなることがあります。

注意!

標準装備のタイヤを異なるサイズのタイヤに交換すると、スピードメータやオドメータの値が不正確になる恐れがあります。

タイヤの種類

オールシーズン・タイヤ - タイプ別装備

オールシーズン・タイヤは季節（春、夏、秋、冬）に関係なくトラクションを与えます。トラクションのレベルは、オールシーズン・タイヤの種類に応じて異なる場合があります。オールシーズン・タイヤには、タイヤのサイドウォールに M+S、M&S、M/S、または MS の表記があります。オールシーズン・タイヤは、4 本をセットで使用してください。4 本セットで装着しない場合は、安全性や操作性に悪影響を及ぼすことがあります。

夏用タイヤまたは 3 シーズン・タイヤ - タイプ別装備

夏用タイヤは、ウェットとドライの両方の条件でトラクションを与えますが、雪道や氷上での運転用ではありません。車両に夏用タイヤが装着されている場合、これらのタイヤは冬季または寒冷時の走行条件のために設計されていないことに注意してください。外気温が 5°C（40°F）以下、または道路が氷や雪で覆われている場合は、車両に冬用タイヤを装着してください。詳細については、正規ディーラーにお問い合わせください。

夏用タイヤのタイヤのサイドウォールには、オールシーズン表示や山／スノーフレーク記号表示がありません。夏用タイヤは、4 本をセットで使用してください。4 本セットで装着しない場合は、安全性や操作性に悪影響を及ぼすことがあります。

警告!

夏用タイヤは、雪道／凍結路では使用しないでください。車を制御できなくなり、重傷を負ったり死亡にいたる恐れがあります。また、道路状態を考慮せずに速度を上げ過ぎると、車を制御できなくなる恐れがあります。

(続き)

スノー・タイヤ



地域によっては、冬季にスノー・タイヤを使用しなければならない場合があります。スノー・タイヤは、タイヤのサイドウォールに表示されている「山／スノーフレーク」記号により識別できます。

スノー・タイヤが必要な場合は、純正タイヤとサイズおよび種類が同じタイヤを使用してください。スノー・タイヤは 4 本すべてに使用してください。4 本セットで装着しない場合は、安全性や操作性に悪影響を及ぼす恐れがあります。

一般にスノー・タイヤは純正タイヤに比べて低速での走行を想定しているので、120km/h（75mph）を超える速度で巡航走行しないでください。120km/h（75mph）を超える速度の場合は、推奨される安全走行速度、積載量、および冷間時のタイヤ空気圧について、純正または認定タイヤ販売店に問い合わせてください。

スタッド・タイヤを使用すると、氷上での性能が改善しますが、ウェットまたはドライ路面上でのスキッドおよびトラクション能力がスタッドレス・タイヤよりも劣る場合があります。一部の国では、スタッド・タイヤの使用が禁止されているため、スタッド・タイヤを使用する前に国の法規を確認してください。

スペア・タイヤ - タイプ別装備

メモ:
スペア・タイヤの代わりにタイヤ・サービス・キットを備えた車両の場合、詳細については「緊急時」の「タイヤ・サービス・キット」を参照してください。

注意!

車高が下がるため、コンパクトまたはリミテッド・ユーズのスペア・タイヤの使用時は、決して自動洗車機を使用しないでください。車両に損傷を与える恐れがあります。

純正タイヤ／ホイールと同一のスペア・タイヤ - タイプ別装備

車両には、車両のフロント・アクスルまたはリヤ・アクスルの純正タイヤと同じ外観と機能を備えたスペア・タイヤを装備することができます。このスペア・タイヤは、車両のタイヤのローテーションに使用することができます。車両にこのオプションが装備されている場合は、推奨されるタイヤ・ローテーション・パターンについて、認定されたタイヤ販売店に問い合わせてください。

コンパクト・スペア・タイヤ - タイプ別装備

コンパクト・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。車両にコンパクト・スペア・タイヤが装備されているかどうかは、運転席のドア開口部にあるタイヤと積載情報のプラカード、またはタイヤのサイドウォールにあるスペアタイヤの説明で確認できます。コンパクト・スペア・タイヤの説明は、「T」または「S」の文字で始まり、サイズ指定が続きます。例: T145/80D18 103M。

T、S = テンポラリー・スペア・タイヤ

このスペア・タイヤのトレッド寿命は限られているため、できるだけ早急に純正タイヤを修理（または交換）し、車両に再取り付けしてください。

ホイールはコンパクト・スペア・タイヤ専用であるため、ホイール・カバーまたは従来のタイヤをコンパクト・スペア・ホイールに取り付けないでください。いかなる場合も、車両にコンパクト・スペア・タイヤとホイールを 2 つ以上取り付けないでください。

警告!

コンパクトおよびコラプシブル・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。スペア・タイヤを使用するときは、80km/h（50mph）を超える速度では運転しないでください。スペア・タイヤの寿命は限られています。トレッドが摩耗してトレッド・ウエア・インジケータ（摩耗限度表示）が見えたら、スペア・タイヤを交換する必要があります。スペア・タイヤに貼り付けられている警告に必ず従ってください。警告に従わない場合、スペア・タイヤが破損し、車の制御を失う恐れがあります。

フル・サイズ・スペア・タイヤ - タイプ別装備

フル・サイズ・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。フロントまたはリヤ・アクスルにこのタイヤを装着すると、標準装備のタイヤと似ているように見えるかもしれませんが、別のものです。このスペア・タイヤの寿命は限られています。トレッドが摩耗してトレッド・ウエア・インジケータ（摩耗限度表示）が見えたら、フル・サイズ・スペア・タイヤを交換する必要があります。純正タイヤとは異なるので、できるだけ早急に純正のタイヤを交換（または修理）し、車両に再取り付けしてください。

リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤ – タイプ別装備

リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。このタイヤは、リミテッド・ユーズ・スペア・ホイールにあるラベルで識別できます。このラベルには、このスペア・タイヤに関する走行制限が記載されています。フロントまたはリヤ・アクスルにこのタイヤを装着すると、標準装備のタイヤと似ているように見えるかもしれませんが、別のものです。リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤを取り付けると、車の操作性に影響を与えます。純正タイヤとは異なるので、できるだけ早急に純正のタイヤを交換（または修理）し、車両に再取り付けしてください。

警告!

リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤは、応急用にのみ使用してください。リミテッド・ユーズ・スペア・タイヤを取り付けると、車の操作性に影響を与えます。このタイヤを使用しているときは、リミテッド・ユーズ・スペア・ホイールに記載されている速度を超える速度で運転しないでください。運転席側の Ｂピラーまたは運転席ドアの後端にあるタイヤおよび積載情報のプラカードに記載されている冷間時のタイヤの空気圧を保つようにします。できるだけ早急に純正のタイヤを交換（または修理）し、車両に再取り付けしてください。そうしないと、車がコントロールできなくなる恐れがあります。

スノー・トラクション装置

トラクション装置を使用するには、タイヤとボディ間に十分なクリアランスが必要です。クリアランスが制限されているため、次のスノー・トラクション装置の使用をお勧めします。次の推奨事項に従って、車両を損傷しないようにしてください。

- スノー・トラクション装置は、スノー・トラクション装置メーカが推奨するように、タイヤに適したサイズを使用する必要があります。
- タイヤ・チェーンまたはスノー・トラクション装置を使用する場合、他のタイヤ・サイズはお勧めしません。
- 推奨タイヤ・サイズ、アクスル、スノー・トラクション装置ついては、次の表に従ってください。

FWD トリム・レベル	アクスル	タイヤ／ホイール・サイズ	スノー・トラクション装置（タイヤ断面または同等部からの最大突出）
Limited	フロント	235/55R18 18 x 7.5J	タイヤ断面からの突出が 7mm 以下のスノー・トラクション装置の使用を推奨します。

AWD トリム・レベル	アクスル	タイヤ／ホイール・サイズ	スノー・トラクション装置（タイヤ断面または同等部からの最大突出）
Limited	フロント	235/55R18 18 x 7.5J	タイヤ断面からの突出が 7mm 以下のスノー・トラクション装置の使用を推奨します。

メモ：
タイヤ・チェーンなど、市販のタイヤに装着する器具は、タイヤ・プレッシャ・モニタリング・システム（TPMS）機能の性能に影響することがあります。

警告!

フロントとリヤに異なるサイズまたはタイプ（マッド＆スノー、スノー）のタイヤを使用すると、予期せぬステアリング・ホイール操作が生じることがあります。車を制御できなくなり、衝突事故につながる恐れがあります。

注意!

車やタイヤの損傷を防ぐために、次の注意事項に従ってください。

- タイヤとその他のサスペンション構成部品間のトラクション装置のクリアランスが限られているため、必ず状態の良いトラクション装置のみを使用してください。破損した装置は、重大な損傷を与える原因になります。装置が切れたようなノイズが発生した場合、直ちに停車してください。再使用する前に、装置の破損した部分を取り外してください。
- 装置をできるだけきつく取り付け、約 0.8km（0.5 マイル）走行後に再び締め付け直してください。

（続き）

注意!

- 決して 48km/h（30mph）を超える速度で運転しないでください。
- 慎重に運転し、特に積載時には急カーブおよび凸凹道は避けてください。
- 乾いた路面で長時間走行しないでください。
- 装置の取り付け方法、走行速度および使用条件については、装置製造メーカの取扱説明書を参照してください。装置製造メーカの推奨する走行速度が 48km/h（30mph）未満の場合は、その走行速度に従ってください。
- コンパクト・スペア・タイヤにはトラクション装置を装着しないでください。

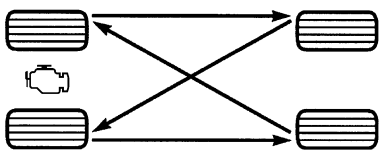
タイヤのローテーションの推奨

フロント・タイヤとリヤ・タイヤでは、タイヤにかかる荷重、ステアリング操作の影響、走行時および制動時の役割が異なります。このため、タイヤは不均一に摩耗します。

これらの影響は、定期的にタイヤをローテーションすることで減らすことができます。特にオン／オフ・ロード・タイヤなどの適応範囲の広いトレッド・デザインのタイヤの場合は、ローテーションすることでのメリットが大きくなります。ローテーションによって、トレッド寿命が延び、ぬかるみ、雪道および濡れた路面でのトラクション・レベルの維持に役立ち、スムーズで静かな走行を実現します。

適切な交換間隔については、「メンテナンス・ノート」を参照してください。急激または異常な摩耗を起こす原因がある場合は、タイヤのローテーションを行う前に修正してください。

推奨されるタイヤ・ローテーション方法は、図に示すように前輪をクロス・パターンで後ろ持ってくる方法です。このローテーション・パターンは、逆に取り付けてはいけない一部の方向性タイヤには適用されません。



055707139

タイヤのローテーション（後輪をクロス・パターンで前へ持ってくる方法）

注意!

4WD 車を適切に作動させるには、各ホイールのタイヤのサイズ、タイプおよび円周が均一でなければなりません。タイヤ・サイズに違いがあると、パワー・トランスファ・ユニットを損傷させる恐れがあります。タイヤのローテーション・スケジュールに従って、それぞれのタイヤが均一に摩耗するようにしてください。

車両の保管

車両を 1 ヶ月以上動かさないで保管する際は、以下の注意事項に従ってください。

- エレクトロニック・パーキング・ブレーキが掛かっていないことを確認してください。
- バッテリ・ポストからマイナス(-)端子の接続を外し、バッテリが完全に充電されていることを確認してください。収納時、バッテリ充電が十分であることを確認してください。
- バッテリの接続を電気系統から外さない場合は、30 日ごとにバッテリの充電状態を確認してください。
- 車両を 2 週間以上静止した状態にする場合は、必ず最大風量でエアコン・システムをオンにし、約 5 分間エンジンをアイドリングさせてください。これでシステムの潤滑状態が良好になり、車両を再度作動状態に戻したときにコンプレッサへの損傷の可能性を最小限に抑えることができます。

メモ：

車両を 30 日間以上始動または走行させなかった場合、車両始動時に「長期のパーキング状態でのエンジンの始動」が必要です ⇨ ページ 82。

注意!

イグニッション・スイッチを「OFF（オフ）」位置にしてキーを外し、運転席ドアを閉めた状態で 1 分以上待ってから、バッテリのプラス／マイナス端子を取り外してください。バッテリのプラス／マイナス端子を再度接続するときは、イグニッション・スイッチを「OFF」位置にして、運転席ドアが閉まっていることを確認してください。

ボディワーク

大気中の作用物質からの保護

ボディは、車両の使用状況や地理的条件により手入れの方法が異なります。寒冷地での凍結防止剤、およびそれ以外の季節で木や路面に散布される化学薬品は、車体の金属部分に腐食を起こさせます。車両が空気中の汚れにさらされる屋外駐車、車が走行する路面、極度に暑いまたは寒い天候、その他の著しく厳しい条件が、塗装、金属トリムおよびアンダボディの保護に悪影響を及ぼすことがあります。

この車両には腐食防止が施されていますが、次に推奨するメンテナンスによりその効果が最大限発揮されます。

腐食の原因は？

腐食は塗装および保護コーティングの劣化または剥離が原因となって発生します。

一般的な腐食の原因

- 路面の塩分、埃および湿気の蓄積
- 飛び石および砂利
- 虫、樹液およびタール

- 鳥の糞
- 海岸地域の空気中の塩分
- 大気中の塵や工業汚染物質

ボディおよびボディ下部のメンテナンス

ホイールおよびホイール・トリムのお手入れ

すべてのホイールおよびホイール・トリム、特にアルミニウム製およびクロム・メッキ・ホイールは、中性（中性 Ph）洗剤と水を使用して定期的に洗浄し、その光沢を維持し、腐食を防止する必要があります。車両のボディに推奨されているものと同じ洗剤溶液を使用してホイールを洗浄します。表面が触っても熱くないときにのみ洗浄することを忘れないでください。

ご使用のホイールは、塩分、塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウムなど、また解氷や未舗装道路の埃を抑えるために使用されるその他の道路用化学薬品により劣化しやすくなっています。柔らかい布またはスポンジと中性洗剤を使用して、素早く拭き取ります。刺激の強い化学薬品または硬いブラシは使用しないでください。ホイールを腐食や変色から保護している保護コーティングが損なわれるおそれがあります。

注意!

酸性溶液または強アルカリ性添加物または堅いブラシを使用する製品や自動洗車機は避けてください。多くの市販のホイール・クリーナや自動洗車機は、ホイールの保護仕上げを損なう恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。洗車洗剤、Mopar®ホイール・クリーナまたは同等品のみを推奨します。

(続き)

ブレーキ・ダストが著しいなど、汚れが激しいホイールを洗浄する場合、ホイールを傷めないように、タイヤおよびホイールの化学洗浄剤および機器は注意して選択する必要があります。Mopar®ホイール・トリートメントまたはMopar®クロム・クリーナまたは同等品をお勧めします。またはアルミニウム製またはクロム・メッキ・ホイールには、研磨剤の入っていない非酸性クリーナを選んでください。

注意!

研磨パッド、スチール・ウール、硬いブラシ、金属研磨剤またはオーブン・クリーナを使用しないでください。これらの製品は、ホイールの保護仕上げを損なう恐れがあります。このような損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。洗車洗剤、Mopar®ホイール・クリーナまたは同等品のみを推奨します。

メモ :

ホイール・クリーナでホイールを洗浄した後に、車両を長期間駐車または保管する場合、車両を運転してからブレーキをかけ、ブレーキ部品の水滴を取り除くようにしてください。この作業により、ブレーキ・ロータの酸化をなくし、ブレーキ時の振動を防ぐことができます。

ダーク蒸着クロム、ブラック・サテン・クロム、または低光沢クリア・コート・ホイール

注意!

車両にこれらの特殊ホイールが装着されている場合、ホイール・クリーナ、研磨剤または艶出しコンパウンドは使用しないでください。それらを使用すると、この仕上げに回復不可能な損傷が生じ、そうした損傷は、新車限定保証の対象とはなりません。中性洗剤と水だけを使用し、柔らかい布で手洗いしてください。この仕上げを維持するには、定期的にこれらを使用するだけで十分です。

ヘッドライトの清掃

この車には、ガラス製ライトよりも軽量で、飛び石による衝撃にも強いプラスチック製のヘッドライトとフォグ・ランプが装備されています。

プラスチックはガラスほど傷に強くないため、レンズの洗浄手順はガラスと異なります。

レンズを傷から守り、ライト輝度の低下を避けるためにも、乾いた布で拭かないでください。路面からの汚れを取る際は、中性洗剤溶液で洗い、水ですすいでください。

研磨剤入りのコンパウンド、溶剤、スチール・ウール、またはその他の硬い材質のものでレンズを清掃しないでください。

塗装状態の維持

洗車

- 定期的に洗車をしてください。車は日陰においてMopar®製カー・ウォッシュまたは中性洗剤で洗い、水でよく洗い流してください。
- 車両の洗浄に汚れた硬水を使用すると、塗装面、クロム、ガラスに水垢や水しみが残るおそれがあります。そのような損傷は欠陥とは見なされず、新車保証の対象とはなりません。洗浄後は、必ず柔らかいマイクロファイバー製の布で車両を拭いて乾燥させてください。
- 虫、タール、その他の異物が車に付着したときは、Mopar®製スーパー・クリーン・バグ／タール・リムーバを使用して取り除いてください。
- 路上で付着した膜やしみを取り除いたり、塗装面を保護するには、Mopar®製クリーナ・ワックスなどの高品質のクリーナ・ワックスを使用してください。塗装を傷つけないように注意してください。
- 塗装の仕上がりにムラができたり、つやをなくしてしまうような研磨剤入りのコンパウンドおよび電動バフ類は使用しないでください。

注意!

- スチール・ウールまたはクレンザのような研磨剤や強力な洗剤は使用しないでください。車体や塗装表面に傷をつけます。
- 水圧が 8,274kPa（1,200psi）を超えるパワー・ウォッシャを使用すると、塗装およびステッカが損傷したり剥げたりすることがあります。

特別なお手入れ

- 塩分や埃の多い道路あるいは海辺を走行する場合は、少なくとも月に一度は車体の下回りを水で洗ってください。
- ドア、ロッカ・パネル、トランクの下部にある排水口はきれいにし、詰まりのないように保ってください。
- 塗装の中に石の破片や傷などを見つけたら、直ちに補修してください。
- 衝突事故などで、塗装および保護コーティングがはがれた場合は、すぐに補修してください。
- 車で化学物質や肥料、凍結防止剤などの特殊な物品を運ぶ時には、荷物が完全に梱包し、密封されていることを確認してください。
- 砂利道を頻繁に走行する場合、泥除けや石除けを各車輪の後ろに付けるようにしてください。
- 車両を木の下に駐車する場合、サンルーフ・ガラスのゴム製ウェザーストリップを必ず頻繁に清掃してください。これによりサンルーフの排水路が詰まらなくなります。
- 引っかき傷には、Mopar®製タッチアップ・ペイントを使用し、すぐに補修してください。正規ディーラーではお客様の車両に合うタッチアップ・ペイントを各種取り揃えています。

インテリア

シートおよびファブリック部品

ファブリック製の内装、カーペットの清掃には Mopar®トータル・クリーンをお使いください。

警告!

揮発性の洗浄液は使用しないでください。多くのものは可燃性であり、閉めきった場所で使用すると呼吸器障害を引き起こす恐れがあります。

防汚性ファブリック清掃手順–タイプ別装備

防汚性シートは、次の手順で清掃できます。

- 清潔な乾いたタオルで拭き取り、可能な限りしみを取り除きます。
- 清潔な濡れたタオルで、残りのしみを拭き取ります。
- がんこなしみには、Mopar®トータル・クリーンや中性洗剤溶液を清潔な濡れた布に付けて、しみを取り除きます。新しい濡れたタオルで、残っている洗剤を取り除きます。
- グリースのしみには、Mopar®マルチ・パーパス・クリーナを清潔な濡れた布に付けて、しみを取り除きます。新しい濡れたタオルで、残っている洗剤を取り除きます。
- 防汚性製品には、粒子の粗い洗浄剤や他の種類の保護剤を使用しないでください。

シートベルトのメンテナンス

シートベルトを化学溶剤または研磨クリーナで漂白、染色または洗浄しないでください。繊維質がもろくなります。

ベルトを洗浄する必要がある場合は、中性洗剤溶液またはぬるま湯を使用してください。洗浄するために、ベルトを車から取り外さないでください。柔らかい布で水分を取り除きます。

日光も繊維質をもろくします。ベルトに擦り切れや摩耗が見られた場合、またはバックルが適切に作動しない場合、ベルトを交換してください。

警告!

磨耗したり、切れかかったりしているシートベルトは衝突の際に破断し、乗員を保護できません。シートベルトは定期的に点検し、切れや磨耗、緩んだ部品などがないことを確認してください。損傷している部品は、直ちに交換してください。シートベルト・システムを分解したり、改造したりしないでください。車両が衝突事故に遭った場合、またはシートベルトやリトラクタの状態に疑問がある場合は、正規ディーラーまたは認定衝突ケアプログラム施設で車両の検査を受けてください。

プラスチック製およびコーティング部品

ビニール製の内装の清掃には、Mopar®トータル・クリーンを使用してください。

注意!

- 芳香剤、虫除け剤、日焼けローション、または手の消毒液をインテリアのプラスチック製、塗装または装飾された表面に直接接触させると、後に残る損傷が発生することがあります。すぐに拭きとってください。
- この種の製品により発生した損傷は、新車限定保証の対象とはならない場合があります。

プラスチック・メータ・パネル・レンズの洗浄

メータ・パネルのレンズは、透明プラスチックで成形されています。レンズを洗浄する際に、プラスチックに傷を付けないように注意してください。

濡れた柔らかい布で洗浄します。中性洗剤溶液は使用できますが、アルコール含有量の高いクリーナまたは研磨クリーナは使用しないでください。洗剤を使用する場合は、清潔な濡れた布で拭きます。柔らかい布で水分を取り除きます。

革製表面

特に革製の内装には、Mopar®トータル・クリーンを使用することを推奨します。

革部分は、湿らせた柔らかい布で定期的に清掃することで保つことができます。小さな粒子や汚れは研磨材として作用してしまい、革部分を損傷させる恐れがあります。これらは湿らせた布で取り除いてください。こびりついている汚れは、柔らかい布と Mopar®トータル・クリーンを使用すると簡単に落とすことができます。革部分には、どのような液体もかからないように注意してください。研磨剤、油分、洗浄用フルード、溶剤、界面活性剤、またはアンモニアを成分に含んだ洗剤を使用して、革製の内装を清掃しないでください。

メモ:

明るいカラーの革が使用されている場合、暗いカラーのものよりも異物、汚れ、布の染料の移りが目立ちやすくなります。この革は楽に清掃ができるように設計されており、FCA では、革製シートの清掃に必要に応じて Mopar®トータル・ケア・レザー・クリーナを布につけて塗布することを推奨します。

注意!

革製の内装の清掃には、アルコールおよびアルコール系やケトン系のクリーニング製品を使用しないでください。内装が損傷するおそれがあります。

ガラスの表面

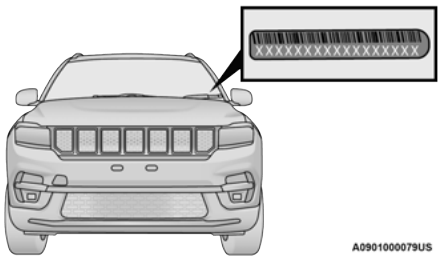
ガラス表面は、すべて Mopar®ガラス・クリーナや市販の家庭用ガラス・クリーナで定期的に掃除してください。研磨剤入りのクリーナは、絶対に使用しないでください。デフロスタが付いたリヤ・ウインドウの内側や、ラジオ・アンテナが付いたウインドウを清掃をする際には注意が必要です。傷つきの原因となる、スクレーパや先のとがったものを使用しないでください。

ルーム・ミラーの清掃は、タオルまたは布にクリーナを付けて行ってください。ミラーに直接洗剤を吹き付けないでください。

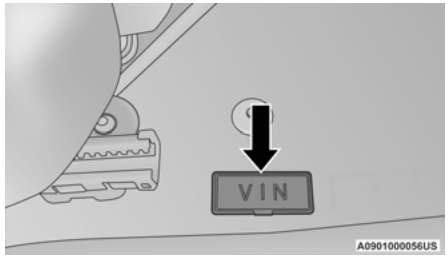
技術仕様

車両識別番号(VIN)

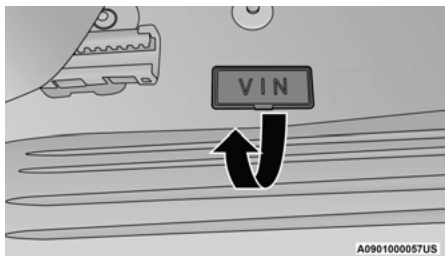
VIN は、フロントウィンドウの左前端にあり、車両の外から見ることができます。VIN 番号は、右フロント・ボディのフロント・フロアにも刻印されています。右側フロント・シートを後方にいっぱいまで下げると、カーペットのカバーを開いて VIN を見ることができます。VIN 番号は、車両ウインドウに添付された車両情報開示ラベルおよび車検証にも記載されています。



車両識別番号



右フロント・ボディの VIN の位置



VIN ドアを開く

メモ :
VIN を外したり、変更したりすることは法律で禁じられています。

ブレーキ・システム

この車にはパワー・アシスト・ブレーキが標準装備されています。何らかの理由(例えばエンジンを切った状態でブレーキを何回も踏む)でパワー・アシストが作用しない場合も、ブレーキをかけることはできます。ただし、パワー・アシストが作用している時よりもブレーキをかける操作負荷は増大します。

2 本の油圧系の内のどちらかが通常機能を失っても、残りの油圧系が作動し、全体の制動効果はいくらか落ちるもののブレーキは正常に作動します。その場合、制動時のペダル・ストロークが増え、減速や停止に必要なペダル力も大きくなります。さらに、内部の漏れから起こる不具合の場合、マスタ・シリンダ内のブレーキ・フルード量が減少すると、ブレーキ警告灯が点灯します。

警告!
ブレーキ警告灯が点灯したままの状態で走行することは危険です。制動時に、ブレーキ性能または車両の安定性がいちじるしく低下する場合があります。制動距離が伸びたり、車両の操作が困難になったりすることがあります。衝突事故につながります。直ちに点検を受けてください。

ホイールとタイヤの規定トルク

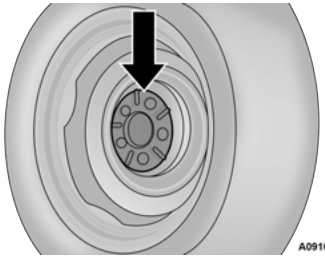
適正なホイール・ナット／ボルトのトルクは、ホイールを車両に確実に正しく装着するのに非常に重要です。ホイールを取り外して再び車両に取り付けるときには必ず、正しく較正されたトルク・レンチで、6 角ディープ・ソケットを使用してホイール・ナット／ボルトをトルク締めします。

規定トルク

ホイール・ナット／ボルトのトルク	**ホイール・ナット／ボルトのサイズ	ホイール・ナット／ボルトのソケット・サイズ
100 ft-lb (135 N-m)	M12 x 1.25	17mm

**担当の正規ディーラーが推奨するホイール・ナット／ボルトのみを使用し、汚れやオイルが付着しているときはきれいに取り除いてから締め付けてください。

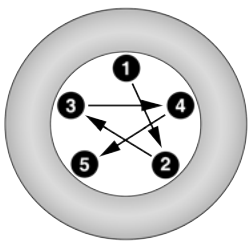
タイヤ取り付け前にはホイール取り付け面を点検し、腐食や浮いた小片があれば取り除いてください。



ホイール取り付け面

ホイール・ナット／ボルトを対角順に 2 回に分けて締め付けます。ソケットがホイール・ナット／ボルトにしっかりとはまっていることを確認します（不完全な挿入は行わないでください）。

メモ：
トルク値が正しいかどうか不安な場合は、正規ディーラーまたはガソリン・スタンドで、トルク・レンチを使用して点検してください。



トルク・パターン

40km（25 マイル）走行後に、ホイール・ナット／ボルトのトルクを点検し、すべてのホイール・ナット／ボルトが正しく締め付けられていることを確認してください。

警告!

力を加えると車がジャッキから滑り落ちる恐れがあるため、車を降ろすまでホイール・ナット／ボルトは完全に締め付けないでください。この警告に従わない場合は、けがをする恐れがあります。

注意!

空圧式レンチを使用して、ホイール・ボルトを締め付けないでください。こうするとホイール・ボルトが締め付けられすぎて、ホイール・ボルトのクロム・キャップが損傷するおそれがあります。

燃料要件

2.0L ディーゼル・エンジン

信頼できるサプライヤの良質のディーゼル燃料を使用してください。外気温が非常に低い場合、ディーゼル燃料はパラフィンの凝固によって粘度が高くなり、燃料供給システムの作動不良を発生させます。

ディーゼル燃料は、外気温度が下がると凍結し、燃料パイプが詰まるなどのトラブルを引き起こします。寒冷地を走行する場合は、現地に到着する前に燃料の残量が半分以下になっていることを確認し、現地に到着してから寒冷地の燃料を補給してください。

こうした問題を避けるため、次のように季節に応じて異なる種類の燃料が流通しています。夏タイプ、冬タイプ、および極寒タイプ（寒冷地帯や山岳地帯）。使用温度に適

していない性状のディーゼル燃料を使用する場合、適切な添加剤を燃料に混合することをお勧めします。給油前に、容器に表示されている比率で添加剤をタンクに注入します。

山岳地帯または寒冷地域で長時間車両を使用または駐車する場合は、現地で入手可能な燃料を給油することを推奨します。この場合、タンクを常に半分以上に保っておくことをお勧めします。

この車両には、EN 590 の要件を満たすディーゼル燃料のみを使用してください。

警告!

燃料混合剤としてアルコールまたはガソリンを使用しないでください。これらは特定の条件下で不安定で、ディーゼル燃料に混合すると有害であるとともに爆発する恐れがあります。

ディーゼル燃料にまったく水分が含まれていないことは、ほとんどありません。燃料システムのトラブルを防止するため、搭載されている燃料／ウォータ・セパレータ・ドレンを使用して、溜まった水分を燃料／ウォータ・セパレータから排出してください。良質の燃料を購入して上記の寒冷時の推奨事項に従えば、車両に燃料コンディショナは必要ありません。高セタンのプレミアム・ディーゼル燃料が地域で入手できる場合、それにより寒冷時の始動性および暖機性能を向上できます。

フルード容量

	US（米国）	Metric（メートル単位）
燃料（およその数値）		
全エンジン	15.9 gal	60 L
AdBlue®（UREA）フルード・タンク – タイプ別装備	3.4gal	13L
エンジン・オイル（オイル・フィルタ交換時）		
2.0L ディーゼル・エンジン	4.43qt	4.2L
冷却装置*		
2.0L ディーゼル・エンジン	6.8qt	6.5L
* ヒータおよびクーラント・リカバリ・ボトルの最大レベルまで注入した場合		

エンジン・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
エンジン・クーラント	メーカの材料規格 MS.90032 の要件に適合した Mopar®不凍液／クーラント、10 年／240,000km（150,000 マイル）フォーミュラ OAT（Organic Additive Technology）の使用をお勧めします。
エンジン・オイル - 2.0L ディーゼル・エンジン（AdBlue®（UREA：尿素）非装備車）	（API 認定 SAE 5W-30 ACEA C2 - FCA 9.55535-S1 合成エンジン・オイル）の使用をお勧めします。
エンジン・オイル - 2.0L ディーゼル・エンジン（AdBlue®（UREA：尿素）装備車）	（API 認定 SAE 0W-20 ACEA C2 - FCA 9.55535–DSX 合成エンジン・オイル）の使用をお勧めします。
燃料の選択	仕様 EN590。
ディーゼル排気液添加剤 AdBlue®（UREA）	AdBlue®（UREA（尿素）水溶液）、DIN 70 070 および ISO 22241-1 準拠。

シャーシ・フルードおよび潤滑剤

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
オートマチック・トランスミッション（6 速）(FWD モデル） - タイプ別装備	Mopar® AW-1 オートマチック・トランスミッション・フルードまたは同等品を必ず使用してください。適切なフルードを使用しない場合、トランスミッションの機能や性能に影響を与える恐れがあります。

部品	フルード、潤滑剤、純正部品
オートマチック・トランスミッション（9 速）(AWD モデル）- タイプ別装備	Mopar® ZF 8/9 速 ATF オートマチック・トランスミッション・フルードまたは同等品を使用してください。適切なフルードを使用しない場合、トランスミッションの機能や性能に影響を与える恐れがあります。
パワー・トランスファ・ユニット（PTU）（タイプ別装備）	Mopar®フロント・アクスル／PTU 合成アクスル潤滑油 SAE 75W-90（API GL-5）の使用をお勧めします。
リヤ・ディファレンシャル（RDM）— タイプ別装備	Mopar®リヤ・アクスル／RDM 合成アクスル潤滑油 SAE 75W-90（API GL-5）の使用をお勧めします。
ブレーキ・マスタ・シリンダ	Mopar® DOT 4 の使用をお勧めします。 DOT 4 ブレーキ・フルードを使用している場合は、走行距離に関わらず、24 ヵ月毎にフルードを交換する必要があります。

カスタマ・サポート

アシスタンスが必要な場合

FCAIO のディーラーでは、製品およびサービスがお客様にご満足いただけるものであるよう常に心がけています。整備その他に関する問題がありましたら、次のようにお願いします。

- 問題を正規ディーラーの担当者または責任者にご相談ください。問題を早期に解決するためには、正規ディーラーの販売責任者が最もふさわしい立場にあると考えます。
- **日本**

  それでも問題が解決しない場合は、FCAIO までご連絡ください。

  Jeep®フリー・ダイヤル

  地域の無料電話サービス番号

  電話：0120-712-812

販売店にご連絡の際は、下記の内容をお伝えください。

- お客様のお名前、ご住所、お電話番号
- 車両識別番号（VIN）（この 17 桁の番号は、運転席側のインストルメント・パネルの上隅にある、フロント・ウインドウ越しに見えるプレートに記載されています。また、この番号は車検証にも記載されています）
- 車両を購入し、整備を担当している正規ディーラー名
- 車両の納車日およびオドメータが示す現在の走行距離
- 車両の整備記録
- 発生した問題とその状況に関する詳しい説明

さくいん

記号

安全、排気ガス 198
安全のヒント 196
安全情報、タイヤ 237
一酸化炭素警告 198
雨感知ワイパ・システム 40
運転上の注意 81
運転席シート・バックの傾き調整 26
液漏れ 198
横転についての警告 8
温度コントロール、自動（ATC） 44
音声認識システム（VR） 24
改造／変更
　車両 9
外部照明 36
急ブレーキ 167
給油 128
緊急
　装置 214
緊急時のケース
　けん引 210
　ジャッキ・アップ 200
　ジャンプ・スタート 206
　非常点滅表示灯 200
緊急用ガソリン缶での給油 208
空気圧 238
　タイヤ 238
携帯電話 155
警告、シートベルト 171
警告、横転 8
警告、照明消し忘れ 36, 37
故障診断システム、オンボード 81
交換用タイヤ 240
光度、室内灯 38, 39
高速道路アシスト・システム 108
高度事故時反応機能 185, 214
合成エンジン・オイル 217
仕様
　オイル 217, 251
　燃料（ガソリン） 251
始動 82
　オートマチック・トランスミッション 83
　ボタン 17
始動と運転 82
始動の手順 82
指示器、方向 36, 38, 79, 198
自動ホールド 87
自動温度コントロール（ATC） 44
自動防眩式ルーム・ミラー 33
室内灯 38
車の安全性の点検 196
車外の安全点検 198
車外灯 36, 198
車線変更と方向指示器 36, 38
車線変更補助 36, 38
車内のお手入れ 246
車内のヒューズ 230
車内の安全点検 197
車両セキュリティ・アラーム 18
車両のメンテナンス 217
車両の改造／変更 9
車両の保管 44
車両識別番号（VIN） 248
車両積載量 131, 238
　タイヤ 237
重量ラベル 131
潤滑、ボディ系 218
助手席側エアバッグ無効 OFF 178
助手席側エアバッグ無効 ON 178
消灯遅延
　ヘッドライト 36, 37
乗員シートベルト 170
新車の慣らし運転期間 84
整備アシスタンス 253
清掃
　フロントガラス・ワイパ・ブレード 218
　ホイール 245
折りたたみ式シート 26
折りたたみ式リヤ・シート 29
洗車 246

前方衝突警告 165
走行 133
走行が不可能な車両のけん引 210
低タイヤ空気圧モニタ・システム 167
点検、安全 196
点滅表示灯
　非常点滅灯 200
　方向指示灯 36, 38, 79, 198
電球 198
電球（バルブ）、ランプ 198
電球（バルブ）の交換 234
電源コンセント 47
電動
　インバータ 48
　ウィンドウ 50
　コンセント（補助電源コンセント） 47
　サンルーフ 51
　ドア・ロック 20
　リフトゲート 54
塗装面のお手入れ 244
妊娠中の方とシートベルト 175
燃料 249
　オクタン価 249, 251
　タンク容量 250
　ライト 75
　仕様 251
燃料の補給 128
粘度、エンジン・オイル 217
廃棄
　不凍液（エンジン・クーラント） 222
排気ガスに関する注意 198
排気装置 198, 220
半ドア 73
半ドア警告灯 73
非常点滅表示灯 200
不凍液（エンジン・クーラント） 221, 250
　廃棄 222
腐食防止 244
負荷低減バッテリ・セーバ・オン 71
負荷低減電力負荷低減機能 71
補助拘束装置 - エアバッグ 177
補助電源コンセント（電源コンセント） 47
方向指示灯 36, 38, 79
無線充電パッド 49
油圧警告灯 73
容量、フルード 250
冷却装置 221
　クーラント（不凍液）の選択 221, 250, 251
　クーラント（不凍液）の補充 221
　クーラントの量 221, 222
　ご留意いただきたいこと 222
　プレッシャ・キャップ 222
　ラジエータ・キャップ 222
　使用済みクーラントの廃棄 222
　点検 222
　抜き取り、洗浄、注入 221
　冷却容量 250
冷媒 218
漏れ、フルード 198

B

B ピラーの位置 237

G

GVWR 131

I

iPod/USB/MP3 コントロール 46

K

Keyless Enter-N-Go™ 15, 20

L

LaneSense 79
Lights（警告灯） 198
　4WD Low 77
　4WD ロック 77
　4WD 整備 76
　AdBlue（UREA：尿素）インジェクション・
　システム故障 76
　LaneSense 75, 79, 80
　LaneSense 整備 75
　Oil Pressure（油圧） 73

Oil Temperature（オイル温度）.....74
アクティブ・スピード・リミッタ SET 79, 80
アクティブ・スピード・リミッタ故障 77
アクティブ・スピード・リミッタ作動可能 80
アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）整備 76
アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC）設定 79
アンチロック・ブレーキ・システム（ABS） 74
イモビライザ故障／VPS 電気アラーム 78
イルミネーション・スイッチ、ヘッドライト 36
インストルメント・パネル 36
ウォッシャ液不足 75
エアバッグ 72, 176, 197
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC）オフ 75
エレクトロニック・スロットル・コントロール（ETC） 73
エレクトロニック・パーキング・ブレーキ 74
エンジン温度 73
エンジン警告灯（Check Engine） 75
オート・ヘッドライト 37
オートマチック・ハイ・ビーム 79
クーラント・レベル低下 75
クルーズ 79, 80
けん引フック破損 77
シートベルト警告灯 74
タイヤ空気圧モニタ（TPMS） 76, 167
ディーゼル・エミッション添加剤 AdBlue（UREA：尿素）低レベル 78
ディーゼル排出微粒子フィルタ（DPF）クリーニング中 78
デイタイム・ランニング 36
ドアが開いています 73
トラクション・コントロール 160
ハイビーム 36, 80
ハイビーム／ロー・ビーム切替スイッチ 36
パッシング 36, 37
バッテリ・セーバ 38
バッテリ充電 72
バニティ・ミラー 34
フォグ 37, 78, 79
ブレーキ・アシスト警告灯 160
ブレーキ警告灯 72
ヘッドライト 36
ヘッドライト・スイッチ 36
ヘッドライト消し忘れ警告アラーム 37
ボンネット・オープン 73
ライト消し忘れ警告アラーム 36, 37
リフトゲートが開いています 73
下り坂コントロール（HDC） 80
下り坂コントロール表示灯 160
外部 198
輝度コントロール 38, 39
始動待機 78
室内灯 38
整備 234
前方衝突警告（FCW）オフ 77
前方衝突警告（FCW）整備 76
速度 74, 80
駐車 79
停止／始動が有効 79
停止／始動システム整備 76
電球（バルブ）の交換 234
電動パワー・ステアリング（EPS）故障 73
燃料カットオフ 75
燃料低下 75
燃料内水混入 78
方向指示灯 36, 38, 79, 198
眠気を検出 73

P

ParkSense アクティブ・パーク・アシスト 118
ParkSense システム 111

S

Sentry Key（イモビライザ） 17

U

UCI（Universal Consumer Interface）コネクタ ... 46

あ

アクスルの潤滑 251
アクティブ・スピード・リミッタ 95
アクティブ・レーン・マネジメント 122
アシスト、ヒル・スタート 161

アダプティブ・クルーズ・コントロール（ACC） 98
アラーム
　システムのセット 18
　システムの解除 19
　セキュリティ・アラーム 18
アラーム・システム
　セキュリティ・アラーム 18
アンチロック・ブレーキ・システム（ABS） 156
アンチロック警告灯 74

い

イグニッション 17
　スイッチ 17
イルミネーション・スイッチ
　ヘッドライト 36
イルミネーテッド・エントリ 39
インストルメント・パネル 62
　「Home（ホーム）」画面 63
　Audio（オーディオ） 66
　Driver Assist（運転者アシスト） 65
　Gear Shift Indicator (GSI)（ギヤ・シフト・インジケータ（GSI）） 63
　Messages（メッセージ） 62, 66
　Screen Setup（画面設定） 66
　StopStart 66
　Trip Info（トリップ情報） 65
　Vehicle Info（車両情報） 64
　オフロード 66
　スクリーン表示 60
　スピードメータ 64
　ドライブ 64
　ナビゲーション 66
　メニュー項目 63
　設定 67
　説明 60
　燃費 65
インストルメント・パネル・レンズの清掃 247
インテリジェント・スピード・アシスト・システム 97
インバータ
　電動 48

う

ウインド・バフェッティング 51
ウィンドウ 50
　下 50
　開く 50
　上 50
　電動 50
　閉じる 50
ウィンドウ・ガラスの曇り 44
ウォッシャ、フロントガラス 39, 216

え

エア・クリーナ（エンジン・エアクリーナ・フィルタ） 218
エア・フィルタ 218
エアコン 41
　リヤ 43
エアコン・システム 218
エアコン・フィルタ 45, 218
エアコン、操作のヒント 44
エアコンのお手入れ 218
エアコン冷媒 218
エアバッグ 177
　エアバッグ・システムのメンテナンス 187
　エアバッグが作動したとき 184
　エアバッグの作動 178
　エアバッグ警告灯 176
　エアバッグ予備警告灯 177
　お手入れ 187
　サイド・エアバッグ 182
　ニー・インパクト・ボルスタ 182
　高度事故時反応 185, 214
　事象データ・レコーダ（EDR） 214
エアバッグ警告灯 176, 197
エレクトリック・ブレーキ・コントロール・システム 157
　アンチロック・ブレーキ・システム 156
　トラクション・コントロール・システム 162
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール（ESC） 159
エレクトロニック・スロットル・コントロール警告灯 73
エレクトロニック・パーキング・ブレーキ 85
エンジン 215
　エア・クリーナ 218
　オイル 250, 251
　オイル・フィラ・キャップ 215
　オイル・フィルタ 217

オイル・レベルの点検 216
オイル、選択 217, 250
オーバーヒート 208
クーラント（不凍液） 251
ジャンプ・スタート 206
慣らし運転について 84
合成オイル 217
始動 82
排気ガスに関する注意 198
冷却 221
エンジン・オイル粘度 217
エンジン・クーラント（不凍液）の補充 221
エンジン警告灯（Check Engine） 75

お

オイル、エンジン 251
ディーゼル 217
ディップスティック 216
フィルタ 217
フィルタの廃棄 217
圧力警告灯 73
合成 217
識別ロゴ 217
推奨 217, 250
添加剤 217
点検 216
粘度 217, 250
廃棄 217
容量 250
オイルフィルタ、交換 217
オイルフィルタ、選択 217
オイル交換表示灯 62
オーディオ・システム（ラジオ） 136
オート・ダウン・パワー・ウインドウ 50
オート・ドア・ロック 22
オート・ヘッドライト 37
オートマチック・トランスアクスル 87
オートマチック・トランスミッション 89
フルードおよびフィルタの交換 224
フルードの交換 224
フルードの種類 224, 251
フルードの補充 224, 251
フルード量の点検 223, 224
特別添加剤 223
オートマチック・トランスミッション・リンプ・ホーム・モード 22
オートマチック・ハイ・ビーム 37
オーバーヒート、エンジン 208
オクタン価、ガソリン（燃料） 251
オンボード故障診断システム 81
お手入れ 53

か

カーゴ・エリア・カバー 57
カーゴ・タイダウン 57
カーゴ・ロード・フロア 57
カスタマ・サポート 253
カメラ、サラウンド・ビュー 126
カメラ、リヤ 125
ガラスの清掃 247

き

キー 15
キー・フォブ
アラームのセット 18
アラームの解除 19
リモート・キーレス・エントリ 15
追加キー・フォブのプログラム 16
キー・フォブのプログラム（リモート・キーレス・エントリ） 16
キー・フォブの電池のメンテナンス（リモート・キーレス・エントリ） 15
ギヤ・セレクタ・オーバーライド 209
ギヤ・レンジ 89
キャップ、フィラ
オイル（エンジン） 215
ラジエータ（クーラントの圧力） 222
キャンピング・カーなどのけん引 131, 132

く

クーラント（不凍液）の選択 251
クルーズ・コントロール（スピード・コントロール） 98
クルーズ・コントロール表示灯 79, 80

け

けん引
キャンピング・カーなど 131, 132

走行が不可能な車両 210
けん引 モータホームの後ろ 131
けん引フック 212

こ

コネクタ
ユニバーサル・コンシューマ・インターフェース（UCI） 46
コンセント
電動 47
コンソール 46
コンパクト・スペア・タイヤ 242

さ

サイバーセキュリティ 136
サンバイザ 34
サンルーフ 51, 53

し

シート 26
シート・バック・リリース 27, 29
チルト 26
ヒータ 31
ヘッド・レスト 31
メモリ 24
リヤ折りたたみ式 26, 29
調整 26
シート・ヒータ 31
シートベルト 171, 197
アジャスタブル・ショルダ・ベルト 174
アジャスタブル上部ショルダ・アンカ 174
アジャスタブル上部ショルダ・ベルト・アンカ 174
シートベルト・プリテンショナ 175
シートベルト警告灯 171
ねじれ修正手順 173
プリテンショナ 175
フロント・シート 171–173
ラップ／ショルダ・ベルト 172
ラップ／ショルダ・ベルトのねじれ修正 173
ラップ／ショルダ・ベルト操作 173
リヤ・シート 172
警告灯 171
衝突エネルギー低減機能 176
操作説明書 173
点検 197
妊婦 175
シートベルト お手入れ 246
シートベルト警告灯 74
システムの作動
セキュリティ・アラーム 18
シフティング
オートマチック・トランスミッション 89
シフト・レバー・オーバーライド 209
ジャッキ・アップ位置 201
ジャッキの操作 200, 203
ジャッキ作業の手順 203
ジャッキ作業の準備 200
ジャンプ・スタート 206
ショルダ・ベルト 172

す

スタック、脱出 210
スタックからの脱出 210
ステアリング
チルト・コラム 23
ホイール・ロック 18
ホイール、チルト 23
ホイール、ヒータ式 23
ステアリング・ホイール・オーディオ・コントロール 155
ステアリング・ホイール・ヒータ 23
ステアリング・ホイールのサウンド・システム・コントロール 155
ストレージ 45, 46
ストレージ（収納）、車両 44
スノー・タイヤ 241
スノー・チェーン（タイヤ・チェーン） 242
スピード・リミッタ、有効 95
スペア・タイヤ 202, 242

せ

セキュリティ・アラーム 18
システムのセット 18
システムの解除 19

た

タイダウン・フック、カーゴ 57
タイヤ 198, 238, 242
　コンパクト・スペア 242
　ジャッキ・アップ 200
　スノー・タイヤ 241
　スペア・タイヤ 242
　タイヤの寿命 240
　チェーン 242
　トレッド・ウエア・インジケータ 240
　ホイール・ナットの締め付けトルク 249
　ラジアル 239
　ローテーション 244
　安全性 237, 238
　一般情報 238, 242
　空気圧 238
　空気圧モニタ・システム（TPMS） 76, 167
　空転 240
　交換 200
　交換用 240
　高速 239
　負荷性能 237, 238
　劣化（タイヤの寿命） 240
タイヤと積載情報のプラカード 237
タイヤの安全情報 237
タイヤの寿命 240
タイヤ上のマーク 237

ち

チェーン、タイヤ 242
チャイルド・セーフティ・リヤ・ドア・ロック 22
チルト・ステアリング・コラム 23

て

ディーゼル
　ディスプレイ・メッセージ 69, 70
ディーゼル燃料 249
ディーゼル燃料の要件 249
デイタイム・ランニング・ライト 36
ディップスティック
　オイル（エンジン） 216
デッド・ロック装置 22
デフロスタ、フロントガラス 197
テレスコピック・ステアリング・コラム 23

と

ドア・ミラー 33, 34
ドア・ミラー調節 33, 34
トラクション・コントロール 162
トラフィック・サイン・アシスト・システム 106
トランスアクスル
　オートマチック 87
　操作 87
トランスミッション 89
　オートマチック 89, 223
　お手入れ 223
トレッド・ウエア・インジケータ 240

ね

ねじれ修正手順、シートベルト 173

は

パーキング・ブレーキ 85
ハイビーム／ロー・ビーム切替（イルミネーション・コントロール）スイッチ 36
パッシング 36, 37
バッテリ 72, 216
　キーレス・キー・フォブの交換 15
　充電装置警告灯 72
パドル・シフタ 91
バニティ・ミラー 34
パンクしたタイヤの交換 200
ハンズ・フリー・リフトゲート 56

ひ

ヒータ／エアコン 41
ヒーテッド・ミラー 33, 36
ヒューズ 224
ヒル・スタート・アシスト 161
ヒル・ディセント・コントロール 160
ヒル・ディセント・コントロール表示灯 160

ふ

フィルタ
エア・クリーナ 218
エアコン 45, 218
エンジン オイルの廃棄 217
エンジン・オイル 217
フォグ・ライト 36, 37, 78
フォグ・ライト、リヤ 37
ブラインド・スポット・モニタ 162
プリテンショナ
シートベルト 175
フルード、ブレーキ 251
フルード容量 250
フルード量の点検
エンジン・オイル 216
ブレーキ 223
ブレーキ 248
ブレーキ・アシスト・システム 158, 165
ブレーキ・コントロール・システム、エレクトロニック 157
ブレーキ・システム 223, 248
フルードの点検 223, 251
マスタ・シリンダ 223
警告灯 72
ブレーキ・フルード 251
ブレーキ／トランスミッション・インターロック 88
フロントガラス・ウォッシャ 39, 216
フルード 216
フロントガラス・デフロスタ 197
フロントガラス・ワイパ 39
フロントガラス・ワイパ・ブレード 218

へ

ヘッド・レスト 31
ヘッドライト 36
オートマチック 37
スイッチ 36
ハイビーム／ロー・ビーム切替スイッチ 36
パッシング 36, 37
ライト消し忘れ警告アラーム 36, 37
レベリング 38
消灯遅延 36, 37
清掃 245
遅延 37
ヘッドレスト 31
ベルト、シート 197

ほ

ホイール・ナット／ボルト 249
ホイールおよびホイール・タイヤのお手入れ . 245
ホイールとホイール・タイヤ・トリム 245
ボイス・コマンド 24
ボディ・メカニズムの潤滑 218
ボンネット・リリース 53
ボンネットを開ける 53

ま

マルチファンクション・コントロール・レバー 36

み

ミラー 33
ドア 33, 34
バニティ 34
ヒータ 33, 36
ルーム 33
自動折りたたみ 35
自動防眩式 33
折りたたみ式 35
電動折りたたみ式 35
電動調整 35

め

メモリ・シート 24
メモリ機能（メモリ・シート） 24
メモリ設定 24
メンテナンス・フリー・バッテリ 216

も

モニタ、タイヤ空気圧システム 167

ら

ラゲージ・キャリア 58
ラジアル・タイヤ 239
ラジエータ・キャップ 222
ラジエータ・キャップ（クーラント・プレッシャ・キャップ） 222
ラジオ・リモート・コントロール 155
ラジオの操作 155
ラッチ 198
　ボンネット 53
ラップ／ショルダ・ベルト 172
ラベル、タイヤと積載情報 237

り

リフトゲート 54
　ハンズ・フリー 56
リフトゲート・ウインドウ・ワイパ／ウォッシャ 41
リモート・キーレス・エントリ 15
　アラームのセット 18
　アラームの解除 19
　追加キー・フォブのプログラム 16
リモート・サウンド・システム（ラジオ）コントロール 155
リヤ・カメラ 125
リヤ・クロス・パス 164
リヤ・シート、折りたたみ式 29
リヤ・シート警告アラーム 156
リヤ・ワイパ／ウォッシャ 41
リリース、ボンネット 53

る

ルーフ・タイプ・キャリア 58
ルーム・ミラー 33

れ

レーン管理システム 122

ろ

ローテーション、タイヤ 244
ロード・フロア、カーゴ 57
ロック
　オート・ロック解除 22
　ステアリング・ホイール 18
　チャイルド・プロテクション 22
　パワー・ドア 20
　手動 19

わ

ワイパ・ブレードの交換 218
ワイパ、雨感知 40


Jeep

©2025 FCA US LLC. All Rights Reserved. JeepはFCA US LLCの登録商標です。 App StoreはApple Incの登録商す。
Google Play StoreはGoogleの登録商標です。

第1版
25_H6_OM_JA_JA